

新世代デジタル赤外線ワイヤレス会議システム

5ncsllsnt confsrnsncinq volutionv



設置および操作マニュアル

備考

- 翻訳、転載、複製を禁じます。
- 内容は予告なく変更する場合があります。
- すべての技術仕様はガイドラインデータであり、機能を保証するものではありません。
- 本取扱説明書の不適切な使用によって生じたいかなる損害についても、弊社は責任を負いかねます。
- 機器は必ずアースに接続してください。
- 本製品は欧州指令 2014/30/EU の規則に適合しています。
- 聴力を保護するため、イヤホンの音圧レベルを高くしないでください。
- イヤホンの音圧を低く、使いやすいレベルに調節してください。
- 詳細な情報が必要な場合は、最寄りの代理店またはタイデンサービスセンターにお問い合わせください。
- システム全体の寿命を延ばすために、会議システムを使用しないときは、毎日夕方にシャットダウンするようにスケジュールすることを強くお勧めします。
- TAIDENは太電産業株式会社の登録商標です。

重要な安全上のご注意

- 以下の事項を必ずお読みください。
- これらの指示を遵守してください。
- すべての警告をお読みください。
- すべての事項を遵守してください。
- 花瓶のような液体の入ったものを装置の上に置かないでください。
- 切り離し装置となる主電源プラグは、操作しやすいものでなければなりません。
- 本装置は、保護アースを備えたMAINSソケットコンセントに接続する必要があります。
- 掃除の際は乾いた布を使ってください。
- 換気口をふさがないようにください。メーカーの指示に従って設置してください。
- ラジエーター、ヒートレジスター、ストーブ、その他の熱を発生する機器（アンプを含む）などの近くに設置しないでください。
- 極性プラグや接地型プラグの安全目的を回避しないでください。極性プラグには2つのブレードがあり、一方が他方より幅広になっています。接地型プラグには2つのブレードと3番目の接地ブロングがあります。幅の広いブレードと第3の突起は安全のために設けられています。付属のプラグがコンセントに合わない場合は、電気技術者に相談し、古くなったコンセントを交換してください。
- 電源コードは、特にプラグや便利なレセプタクル、機器から出る部分で、歩いたり挟まれたりしないように保護してください。
- メーカー指定のアタッチメント/アクセサリのみを使用してください。
- バッテリーを火のそばや60 °Cを超える環境下（車内の直射日光下など）に放置しないでください。バッテリーの保護回路が損傷し、火災、爆発、液漏れ、発熱の原因となります。
- 落雷時や長時間使用しない場合は、電源プラグを抜いてください。
- 本機の修理は、資格を持ったサービススタッフにご依頼ください。電源コードやプラグが損傷している、液体をこぼした、物を落させた、雨や湿気にさらされた、正常に動作しない、落下させたなど、本機に何らかの損傷がある場合は、修理が必要です。
- 輸送中の強い衝撃による損傷を避けるため、元の製品パッケージまたは適切なパッケージを使用してください。

- 電源コード：
AC 100 V-120 V 60 Hz または AC 220 V-240 V 50 Hz
- 1システムに接続するトランスシーバーの台数は、規定台数を超えないようにしてください。サービスについては、最寄りのタイデンサービスセンターにお問い合わせください。
- すべてのTAIDEN製品は、次の場合を除き、一定期間保証されます（詳しくは保証書をご覧ください）：
 - 人為的な過失に起因するすべての損害または故障
 - 使用者の不適切な操作に起因する損傷または故障
 - 正規の担当者以外による製品の分解によって生じた部品の損傷または損失
- システム機器の接続には、指定の接続ケーブルのみを使用してください。
- 商品到着後、同封の保証書に必要事項をご記入の上、お近くのTAIDENサービスセンターまでご郵送ください。



TO REDUCE THE RISK OF ELECTRIC SHOCK, DO NOT EXPOSE THIS EQUIPMENT TO RAIN OR MOISTURE.

注意：感電の危険を避けるため、カバーを開けないでください。有資格のサービス担当者の方に修理を依頼してください。

このラベルは、スペースの都合上、本体背面に貼られています。



正三角形の矢印付き稲妻マークは、製品の筐体内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在することを警告するためのものであり、感電の危険性があります。



正三角形の中にある感嘆符は、本機器に添付されている文献に重要な操作と保守（整備）の指示があることを警告するためのものです。

警告：本装置は水滴や飛沫がかかるような場所に設置してはならず、花瓶のような液体が入ったものを本装置の上に置いてはならない。

重要な安全上のご注意

警告：感電の危険を避けるため、ユニットを雨や湿気にさらさないでください。



注意設置は、国家電気工事規定または該当する地域の規定に従って、資格を有するサービス担当者のみが行ってください。



電源の切断：ON - OFF スイッチの有無にかかわらず、電源コードを電源に差し込むと電源が供給されますが、ON - OFF スイッチが ON の位置にあるときのみ動作します。電源コードは、すべてのユニットの主電源です。

警告：本機は、保護接地接続された主電源コンセントに接続してください。

リチウム電池の安全に関する注意事項

- バッテリーを交換する場合は、すぐに電源を切り、バッテリーを取り外してください。
- 火災や爆発を防ぐため、バッテリーを熱源から遠ざけてください。
- 液漏れ、変形、変色、過熱しているバッテリーは使用しないでください。
- 漏液したバッテリーを火に近づけないようにしてください。
- 臭いや煙の出るバッテリーは使用しないでください。
- はんだ付け、分解、穴をあけたり、変形させたりしないでください。バッテリーの保護回路を損傷し、火災、漏電、爆発の原因となることがあります。
- 正極と負極を針金などのショートさせないでください。火災、爆発、漏電、発熱の原因となります。
- 金属類（ネックレス、ヘアグリップなど）と一緒に保管、運搬ください。火災、爆発、液漏れ、発熱の原因となります。
- バッテリーを加熱したり、火中に投げたりしないでください。バッテリーの安全弁や保護損傷し、火災や爆発の原因となることがあります。
- 電池を水につけたり、電池の電極を湿らせたりしないでください。電池を腐食させ、火災、爆発、漏液、発熱の原因となります。
- 正しい電極位置で充電ケースに入れないと、発火、破裂、液漏れ、発熱の原因となります。
- バッテリーを火のそばや60 °Cを超える環境下（直射日光の当たる車内など）に放置しないでください。バッテリーの保護回路が損傷し、火災、爆発、液漏れ、発熱の原因となります。
- 他の充電器を使用すると、火災、爆発、液漏れ、発熱の原因となることがあります。
- バッテリーを使用しない場合、火災、爆発、液漏れ、発熱の原因となります。
- バッテリーを落としたり衝撃を与えたりしないでください。バッテリーの保護回路が損傷し、火災、爆発、液漏れ、発熱の原因となります。
- 電池の内容物が目に入ると、目がかすむことがあります。こすらないでください。すぐにきれいな水で洗い流し、医師にご相談ください。
- バッテリーが皮膚や衣服に漏れた場合は、皮膚への傷害や布地への損傷を避けるため、直ちにきれいな水で洗い流してください。
- 使用しないとバッテリー残量が少なくなり、バッテリーが破損する恐れがあります。バッテリーを外し、3ヶ月ごとにフル充電してください。

内容

設置 & ユーザーガイド	IX
1 システム紹介	1
1.1 概要	1
1.2 機能と特徴	2
1.3 システム技術	3
1.3.1 システムの基本コンセプト	3
1.3.2 赤外線	3
1.3.3 キャリアとチャンネル	4
1.4 赤外線信号伝送	5
1.4.1 アンビエント照明	5
1.4.2 物体、表面、反射	6
1.4.3 デジタル赤外線無線会議ユニットの赤外線サービスエリア	6
1.4.4 デジタル赤外線トランシーバーの赤外線サービスエリア	7
1.4.5 オーバーラップとマルチパス効果	8
1.5 システム仕様	9
1.6 接続の詳細	10
2 HCS-5300M/80Aシリーズ デジタルIRワイヤレス会議システム メインユニット	11
2.1 概要	11
2.2 機能と表示	12
2.3 インストール	14
2.4 接続	15
2.4.1 通訳デバイスへ	15
2.4.2 他の補助装置へ	15
2.4.3 HCS-8300MIシリーズへ	17
2.4.4 オーディオ入出力を実現するHCS-8600MIOシリーズへ	18
2.4.5 HCS-8600MIOシリーズ、HCS-8685BMのプースポロー機能実現へ	19
2.4.6 システム1	20
2.4.7 システム2	22
2.4.8 システム3	24
2.4.9 負荷容量	26
2.5 設定と操作	27
2.5.1 オーディオ・モード設定	28
2.5.2 オペレーション	32
2.5.3 アクティブ・マイクロ	32
2.5.4 システム状況	32
2.5.5 SIセッティング	33
2.5.6 ライン・イン1セッティング	35
2.5.7 ライン・イン2セッティング	35
2.5.8 ヘッドホン自動装着	36
2.5.9 リングセッティング	36
2.5.10 会長の優先順位	36
2.5.11 マイクパラメータ	36

2.5.12	マイクオートオフ	38
2.5.13	言語	38
2.5.14	ネットワーク設定	38
2.5.15	時間設定	39
2.5.16	ビデオトラッキング	39
2.5.17	ミュート・スピーカー	41
2.5.18	アラーム設定	41
2.5.19	バックアップ/リストア	41
2.5.20	音声モード設定	42
2.5.21	ワイヤードマイク機能	42
2.5.22	番号	43
2.5.23	マイクIR強度	43
2.5.24	マイクLED設定	44
2.5.25	USBオーディオ設定	44
2.5.26	ライセンス	45
2.5.27	ダンテ・オーディオ・モード	45
2.5.28	RS-232ボーレート	45
2.5.29	ノイズ除去	45
2.5.30	ラインアウト1 ノイズゲート	46
2.5.31	リトラクタブルマイク (機能予約、HCS-4851/50シリーズのアレイマイクのみ)	46
2.5.32	インターブ発信	47
2.5.33	インター単位 LED	47
2.5.34	神の声セッティング	47
2.5.35	ワンタッチ・ターンオン	47
2.5.36	フロア MI SIより	48
2.5.37	スクリーンセーバー	48
2.5.38	IRトランシーバー電源	48
2.5.39	ダンテ・ブースト	48
2.5.40	エクステンド・モード	49
2.5.41	トランシーバー電源	49
2.5.42	サンプリングレート設定	50
2.5.43	キャリアシーケンス	50
2.5.44	について	50
2.5.45	Danteについて	51
2.5.46	電源管理	51
2.6	USBオーディオ	52
2.6.1	USBオーディオのインストール	52
2.6.2	デジタル音声入力	53
2.6.3	デジタル音声出力	54
2.7	ウェブ制御ソフトウェア	55
2.7.1	ログインと終了	55
2.7.2	会議運営	57
2.8	技術データ	65
3	デジタル赤外線トランシーバー	66
3.1	概要	66

3.2	機能と表示	67
3.2.1	デジタル赤外線トランシーバー	67
3.2.2	デジタル赤外線ケーブル分配器	68
3.3	赤外線サービスエリア	69
3.4	ポジションプランニング	70
3.4.1	デジタル赤外線送受信機を設置する際の注意事項	70
3.4.2	デジタル赤外線トランシーバーの設置	73
3.4.3	メインユニットからトランシーバーまでの経路計画	79
3.5	インストール	81
3.5.1	HCS-5300TD/80の設置	81
3.5.2	HCS-5300TDS/80のインストール	86
3.5.3	HCS-5300TH/80の設置	88
3.5.4	HCS-5300TWN/80のインストール	91
3.6	メインユニットへの接続	95
3.7	技術データ	96
4	デジタル赤外線ワイヤレス会議ユニット	98
4.1	HCS-5300/80シリーズ	98
4.1.1	概要	98
4.1.2	機能と表示	99
4.1.3	赤外線サービスエリア	102
4.1.4	使用上の注意	103
4.1.5	オペレーション	104
4.1.6	技術データ	107
4.2	HCS-5380シリーズ	109
4.2.1	概要	109
4.2.2	機能と表示	110
4.2.3	赤外線サービスエリア	113
4.2.4	使用上の注意	114
4.2.5	オペレーション	115
4.2.6	技術データ	118
4.3	HCS-5381シリーズ	119
4.3.1	概要	119
4.3.2	機能と表示	120
4.3.3	赤外線サービスエリア	122
4.3.4	使用上の注意	123
4.3.5	オペレーション	124
4.3.6	技術データ	126
4.4	HCS-5390シリーズ	128
4.4.1	概要	128
4.4.2	機能と表示	129
4.4.3	赤外線サービスエリア	133
4.4.4	使用上の注意	134
4.4.5	オペレーション	135
4.4.6	技術データ	138
5	通訳ユニット	140

5.1	機能と表示	141
5.2	接続	145
5.2.1	CMUへの接続	145
5.2.2	通話ユニット間の接続	145
5.2.3	外部イヤホン	146
5.2.4	外部マイク	146
5.3	セットアップ	147
5.3.1	直接通話、リレー通話、自動リレー通話	147
5.3.2	LCD設定メニュー	149
5.3.3	その他の構成	153
5.4	オペレーション	154
5.4.1	試聴エリアの運営	154
5.4.2	スピーキングエリアの運営	155
5.5	技術データ	156
6	アクセサリ	157
6.1	デジタルIR会議室スイッチャー	157
6.1.1	HCS-5300MX	157
6.1.2	HCS-5300MX/20	162
6.2	リチウム電池	167
6.3	充電装置	169
6.3.1	HCS-5300CHG/08充電ユニット	169
6.3.2	HCS-5300CHG/06充電ユニット	171
6.3.3	HCS-5300CHG/06A充電ユニット	172
6.3.4	HCS-5390CHG充電ユニット	173
6.4	デジタル赤外線トランシーバー専用延長ケーブル	175
6.5	電源アダプター	176
6.6	HCS-5300TZJ2トランシーバースタンド	178
6.7	MS**E型およびMS5*型ステムマイクロホン	179
6.8	イヤホン	180
第7章	故障診断	182
7.1	デジタル赤外線ワイヤレス会議ユニット	182
7.2	デジタル赤外線ワイヤレス本体	183
7.3	充電ユニット	183
付録		184
	表示言語リスト	184
	専用6 PIN 延長ケーブル	186
	マイクシステムの注意事項	188

設置&ユーザーガイド

このマニュアルについて

本書は、TAIDEN HCS-5300/80新世代デジタル赤外線ワイヤレス会議システムの設置および操作に関する包括的なガイドです。本書には、HCS-5300/80システムコンポーネントの機能とインターフェイス、システムの接続と設置、システムのセットアップと操作に関する詳細な説明が含まれています。

第1章 はじめに

HCS-5300/80システムの紹介、構造、技術原理、システムプランニングを紹介します。

第2章 HCS-5300M/80Aシリーズ デジタル赤外線ワイヤレス会議メインユニット

HCS-5300M/80Aシリーズデジタル赤外線ワイヤレス会議メインユニットの機能、接続、構成、操作、機械・電気技術データ、ウェブ制御の詳細説明。

第3章 デジタル赤外線トランシーバー

デジタル赤外線トランシーバーの機能、位置計画、設置、接続、機械的・電気的技術データの詳細説明。

第4章 デジタル赤外線ワイヤレスユニット

HCS-5300/80シリーズ、HCS-5380シリーズ、HCS-5381シリーズ、HCS-5390シリーズデジタル赤外線ワイヤレス会議機能、操作、機械的および電気的技術データの詳細な説明。

第5章 通訳ユニット

HCS-8385N/50 新世代完全デジタル会議システム通訳ユニットの機能、接続、構成、操作、機械・電気技術データの詳細説明

第6章 周辺機器とアクセサリ

デジタルIR会議室スイッチャー、バッテリー、充電装置、電源アダプター、イヤホンなどの周辺機器やアクセサリの詳細説明と機械的・電気的技術データ。

第7章 故障診断

簡単なトラブルシューティングガイド。

設置&ユーザーガイド

■ デジタルIRワイヤレス会議システム メインユニット

HCS-5300MA/80A

デジタルIRワイヤレス会議システムメインユニット（ディスカッション、投票、1+7CH、HCS-4100/50シリーズ有線会議ユニット・通訳ユニット用インターフェース、Danteインターフェース付）

HCS-5300MB/80A

デジタルIR無線会議システムメインユニット（ディスカッション、1+7CH、HCS-4100/50シリーズ有線会議ユニット・通訳ユニット用インターフェース付）

HCS-5300MC/80A

デジタルIRワイヤレス会議システム メインユニット（ディスカッション）

HCS-5300WS

ウェブコントロールソフトウェア（CMU設定、マイクコントロール、ビデオマトリックス、S.I.設定）

■ デジタル赤外線送受信機 HCS-5300TD/80

デジタル赤外線トランスシーバー（天吊り、壁掛け、三脚取り付け、高さ6m以下に対応）

HCS-5300TDS/80

デジタル赤外線トランスシーバー（サスペンション）

HCS-5300TH/80

デジタル赤外線トランスシーバー天吊り、壁掛け、三脚取り付け、HCS-5300Mまたは電源アダプターから給電、6m以上の高さに対応）

HCS-5300TWN/80

デジタル赤外線トランスシーバー（天井、壁、三脚取付型）

■ デジタルIRワイヤレス会議ユニット HCS-5300CE/80

デジタルIRワイヤレス議長ユニット（ディスカッション、投票、1+7CH、HCS-5100Plusシリーズとの使用で8CHの同時音声を実現することができます）

HCS-5300DE/80

デジタルIRワイヤレス代議員ユニット（ディスカッション、投票、1+7CH、HCS-5100Plusシリーズとの使用で、8CHの同時音声を実現可能）

HCS-5301D/80

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット（ディスカッション、1+7CH、2チャンネルセレクタ、デュアルプリセットポジション、HCS-5100Plusシリーズと連携し、8CH同時音声を実現）

HCS-5302C/80

デジタルIRワイヤレス・議長ユニット（ディスカッション）

HCS-5302D/80

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット（ディスカッション）

HCS-5380CVS

デジタルIRワイヤレス議長ユニット（ディスカッション、投票、1+7CHは、HCS-5100Plusシリーズと連携し、8CHの同時音声を実現）

HCS-5380C

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット（ディスカッション）

HCS-5380DVS

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット（ディスカッション、投票、1+7CH、HCS-5100Plusシリーズと連携し、8CHの同時音声を実現可能）

HCS-5380D

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット（ディスカッション）

HCS-5380DDS

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット（ディスカッション、1+7CH、2チャンネルセレクター、デュアルプリセットポジション、HCS-5100Plusシリーズと連携し、8CH同時音声を実現）

HCS-5380DS

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット（ディスカッション、1+7CH、HCS-5100Plusシリーズと協力し、8CHの同時音声を実現）

HCS-5381RC

デジタルIRワイヤレス議長ユニット（角柱メタルマイク、ディスカッション）

HCS-5381RD

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット（角柱メタルマイク、ディスカッション）

HCS-5381C

デジタルIRワイヤレス議長ユニット（ディスカッション）

HCS-5381D

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット（ディスカッション）

HCS-5390CE

デジタルIRワイヤレス議長ユニット（ディスカッション、投票、1+7CH、点字、モダングレー、電池別、ステムマイクは別途注文）

HCS-5390DE

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット（ディスカッション、投票、1+7CH、点字、モダングレー、電池含まず、ステムマイクは別途注文）

設置&ユーザーガイド

HCS-5390RCAE

デジタルIRワイヤレス議長ユニット（ディスカッション、投票、1+7CH、角柱メタルマイク、Ø16mm金メッキ大口径高性能エレクトレットコンデンサーマイク、点字、モダングレー、電池含まず）

HCS-5390RDAE

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット（ディスカッション、投票、1+7CH、角柱型金属マイク、Ø16mm金メッキ大口径高性能エレクトレットコンデンサーマイク、点字、モダングレー、電池含まず）

HCS-5391CE

デジタルIRワイヤレス議長ユニット（ディスカッション、点字、モダングレー、電池含まず、ステムマイクは別途注文）

HCS-5391DE

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット（ディスカッション、点字、モダングレー、バッテリーを除く、ステムマイクは別途注文）

HCS-5391DDS

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット（ディスカッション、1+7CH、2チャンネルセレクター、デュアルプリセットポジション、モダングレー、電池含まず、ステムマイクは別途注文）

HCS-5391RCAE

デジタルIRワイヤレス議長ユニット（ディスカッション、角柱型メタルマイク、Ø16mm金メッキ大口径高性能エレクトレットコンデンサーマイク、点字、モダングレー、電池含まず）

HCS-5391RDAE

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット（ディスカッション、角柱型メタルマイク、Ø16mm金メッキ大口径高性能エレクトレットコンデンサーマイク、点字、モダングレー、電池含まず）

■ 通訳ユニット HCS-

8385N/50

新世代フルデジタルコングレスシステム通訳ユニット（64CH、6.8インチTFT LCD、マイク、スピーカー、ステムマイクは別途注文）

■ マウントサスペンション HCS-

5300TDP-05

デジタル赤外線トランシーバー用取付サスペンション (0.5m)

HCS-5300TDP-10

デジタル赤外線トランシーバー用取付サスペンション(1.0m)

HCS-5300TDP-20

デジタル赤外線トランシーバー用取付サスペンション(2.0m)

■ デジタルIR会議室スイッチャー

HCS-5300MX

デジタルIR会議室スイッチャー

■ ディストリビューター

HCS-5352

ケーブル分配器（1入力4出力）

■ リチウム充電電池パック HCS-5300BAT

リチウム充電電池パック（DC10.95V、HCS-5300/01/02シリーズ、HCS-5390シリーズ会議ユニット用）

■ 充電機器HCS-5300CHG/08

充電ユニット（8個/ケース、HCS-5300BAT用）

HCS-5300CHG/06

充電ユニット（6個/ケース、HCS-5380/5381シリーズ会議ユニット用）

HCS-5300CHG/06A

充電ユニット（6個/ケース、HCS-5380シリーズ会議ユニット用）

HCS-5390CHG

充電ユニット（6個/ケース、HCS-5390/ HCS-5391シリーズ用 会議用 ユニット 2 個/ケース + HCS-5300BAT用 ）

■ 電源アダプター

HCS-ADP15V

電源アダプタ（DC 15 V、2.4 A）

HCS-ADP24V

電源アダプター（DC24V、1.5A、

HCS-5300TWデジタル赤外線トランシーバー用）

HCS-ADP24V2

電源アダプター（DC 24 V、1.5 A、5300TWNデジタル赤外線トランシーバー用）

設置&ユーザーガイド

TES-ADP5V

電源アダプター (DC 5 V, 2 A)

■ 専用ケーブル

CBL5300-05

5m 専用トランシーバケーブル **CBL5300-10**

10m 専用トランシーバケーブル **CBL5300-20**

20m 専用トランシーバケーブル **CBL5300-30**

30 m 専用トランシーバケーブル **CBL5300-40**

40 m 専用トランシーバケーブル **CBL5300-50**

50m 専用トランシーバケーブル **CBL5300-05CMP**

CBL5300-10CMP

5 m 専用トランシーバ ケーブル (CMP)

10m専用トランシーバ ケーブル (CMP)

CBL5300-20CMP

20m専用トランシーバ ケーブル (CMP)

CBL5300-30CMP

30m専用トランシーバ ケーブル (CMP)

CBL5300-40CMP

40m専用トランシーバ ケーブル (CMP)

CBL5300-50CMP

50m専用トランシーバ ケーブル (CMP)

■ 三脚

HCS-5300TZJ2

トランシーバースタンド

■ イヤホン EP-

820AS

シングルイヤホン (TRSコネクタ、リング: NC)

EP-829

シングルイヤホン (TRSコネクタ、リング: NC)

EP-830

シングルイヤホン (TRSコネクタ、リング: NC)

EP-960BH

ヘッドフォン (ステレオ、着脱式イヤシェル付き、スポンジイヤパッドなし)

HCS-5100PA

ヘッドホン (180°プラグ)

第1章 システム紹介

1.1 概要

システムは、1台のデジタル赤外線ワイヤレス会議メインユニット、1台以上のデジタル赤外線トランシーバー、最大1000台のデジタル赤外線ワイヤレス会議ユニットで構成されます。

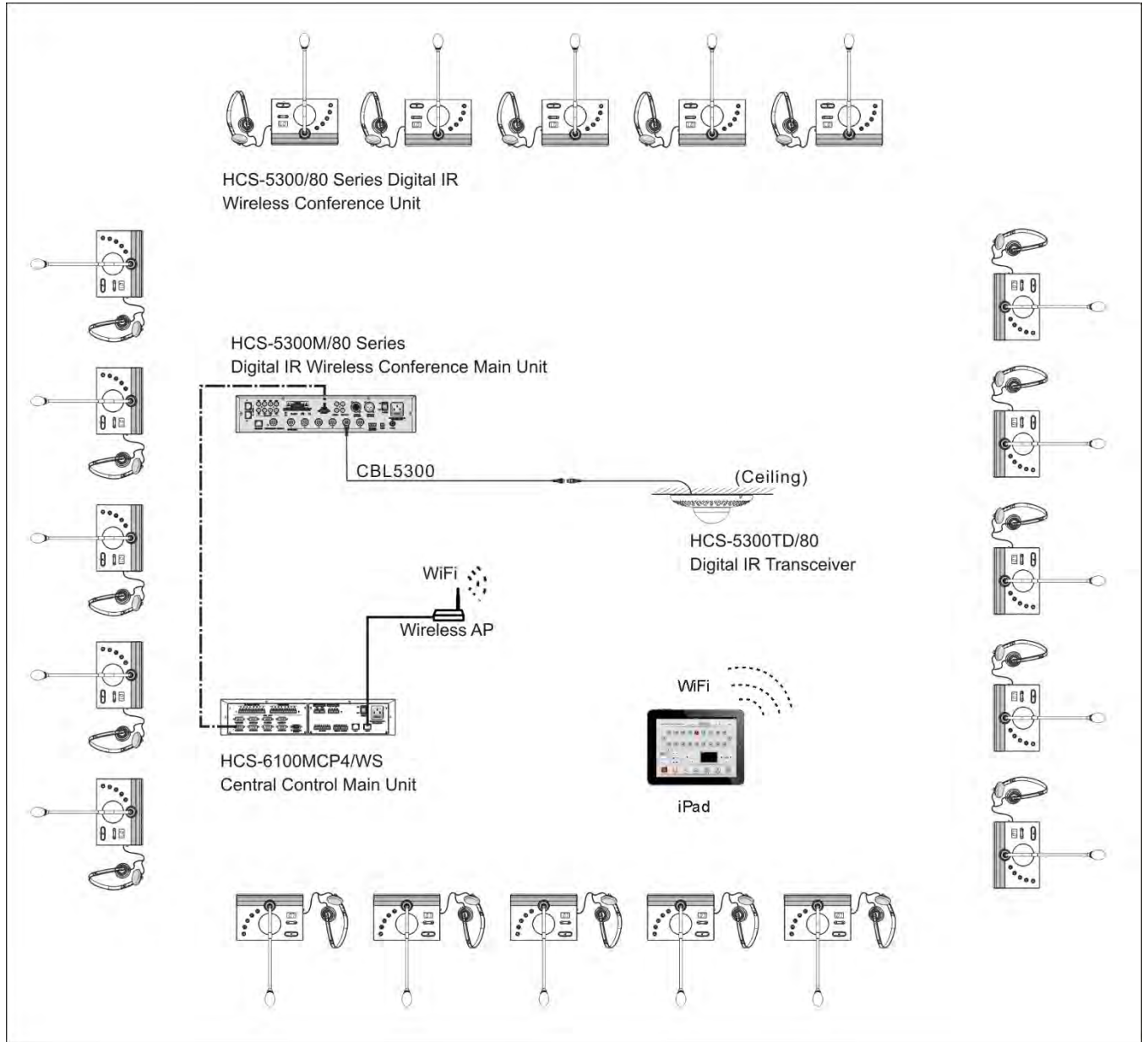


図 1.1 システム概要

1.2 機能と特徴

1. TAIDEN dirATC技術を採用したデジタル赤外線ワイヤレス会議システム - デジタル赤外線オーディオ伝送制御技術

2. ワイヤレス会議システム

ケーブルの断線や劣化によるトラブルから解放され、
家具、内装設備、建物構造への影響はありません。

3. 赤外線伝送技術

赤外線信号が不透明な壁や天井を通らないため、会議のプライバシーが保証されます。会議室間の仕切りが不透明の時、すべての部屋で独立してシステムを操作できます。

赤外線ワイヤレス会議システムは建物内に何台でも設置可能です。

赤外線通信により、電波を使った無線通信特有の盗聴や電波干渉の心配がありません。

放射線なし。

世界中で赤外線システムの運用に無線周波数免許は不要です。

1~8MHzの伝送周波数に対応、高周波駆動の光源や携帯電話にも影響されません。明るい太陽光の下でもエラーなく動作します。

4. デジタル赤外線オーディオ伝送技術

デジタル赤外線オーディオ処理と伝送技術が音質を保証します：

周波数特性50 Hz-20 kHz

SNR：≥90 dB

全高調波歪み：≤ 0.05 %

5. フル機能

ディスカッション

投票（3キーまたは5キー）

同時通訳（1+7チャンネル）

同時通訳用独立音声録音機能（1+7チャンネル）

自動ビデオトラッキング機能

PCへの高音質ロスレス録音、ストリーミングオーディオのシステムインプットを実現するUSBインターフェース

Webコントロール機能

新世代デジタル赤外線言語配信システムHCS-5100Plusに対応

強力なアプリケーション・ソフトウェア・モジュール

1.3 システム技術

1.3.1 システムの基本コンセプト

HCS-5300/80デジタル赤外線無線会議システムのシステム構成を図1.2に示す。構成は以下の通り：

- 参加者用デジタル赤外線ワイヤレス会議ユニット
- システム制御用デジタル赤外線ワイヤレス会議メインユニット
- メインユニット接続用デジタル赤外線トランシーバー

デジタル赤外線ワイヤレス会議メインユニットは、音声および/または制御信号をキャリア出力に変換し、デジタル赤外線トランシーバーに送信します。デジタル赤外線トランシーバーでは、キャリアが変調された赤外線に変換され、すべてのデジタル赤外線無線会議ユニットに送信されます。デジタル赤外線トランシーバーはまた、すべてのデジタル赤外線無線会議ユニットから赤外線信号を受信し、その信号を音声信号または制御信号に変換してメインユニットに送信します。

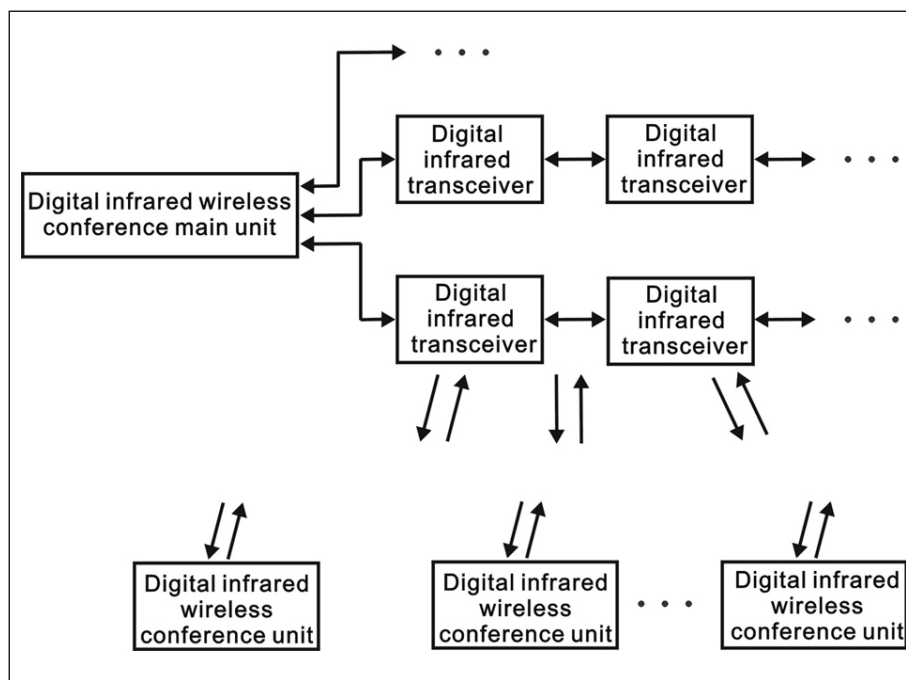


図1.2 システムの基本コンセプト

1.3.2 赤外線

HCS-5300/80の音声信号と制御信号は、変調された赤外線として伝送されます。赤外線は可視光線や電波などのスペクトルの一部です。可視光線の波長に比べ長いです。

赤外線は不透明な壁や天井を通過することができないため、傍受されたり妨害されたりすることがなく、会議のプライバシーを保証します。また、赤外線は電波を発生しないため、赤外線システムの操作に免許は必要ありません。

1.3.3 キャリアとチャンネル

TAIDEN HCS-5300/80デジタル赤外線ワイヤレス会議システムは、図1.3に示されるように、1~8MHzの波帯 (IEC 61603 BAND III、IV、V) を使用します。この波帯は、広帯域のオーディオやそれに対応する信号の伝送に適しています。

表1.1を参照のこと。

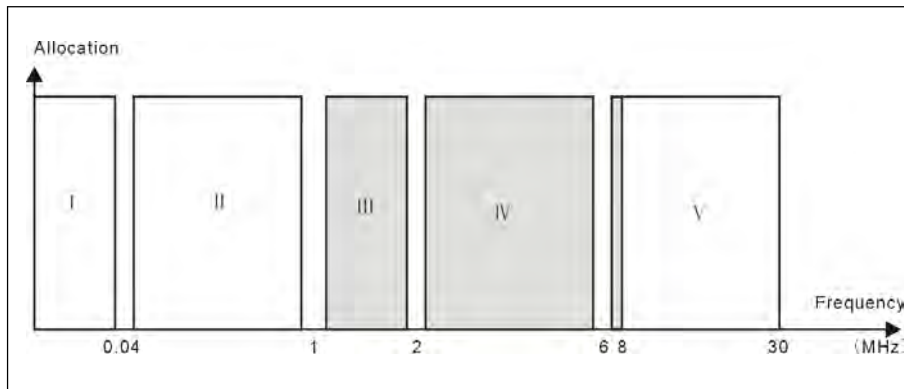


図1.3 HCS-5300/80システムの標準電波帯域

ルート	チャンネル	頻度
会議ユニットからトランシーバー経由でメインユニットへ	オーディオ・チャンネル1	4.3 MHz
	オーディオ・チャンネル2	4.8 MHz
	オーディオ・チャンネル3	5.8 MHz
	オーディオ・チャンネル4	6.3 MHz
	制御チャンネル	3.8 MHz
メインユニットからトランシーバー経由で会議ユニットへ	フロア音声+ 通訳音声 (0-3) + 制御信号	2.333 MHz
	フロア音声+ 通訳音声 (4-7)+ 制御信号	1.666 MHz

表1.1 HCS-5300/80システムのチャンネルと対応周波数

1.4 赤外線信号伝送

デジタル赤外線ワイヤレス会議システムの利点を享受するには、信号が妨害されずに伝送される必要があります。これは、すべての会議ユニットに均一かつ十分な赤外線放射を確保するために、十分な位置と十分な量のデジタル赤外線トランスミッターを使用することによって達成されます。

デジタル赤外線ワイヤレス会議システムを計画する場合、赤外線信号の均一性と品質に影響するいくつかの側面を考慮する必要があります。これらについては次のセクションで説明する。

1.4.1 アンビエント照明

HCS-5300/80システムは1-8MHzの波帯を採用し、非常に優れた干渉防止性能を持っています（図1.4、図1.5参照）。

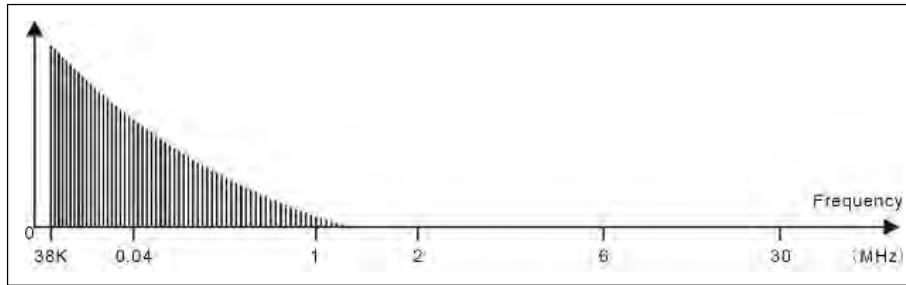


図 1.4 高周波駆動光源（省エネランプ）による高周波点灯障害

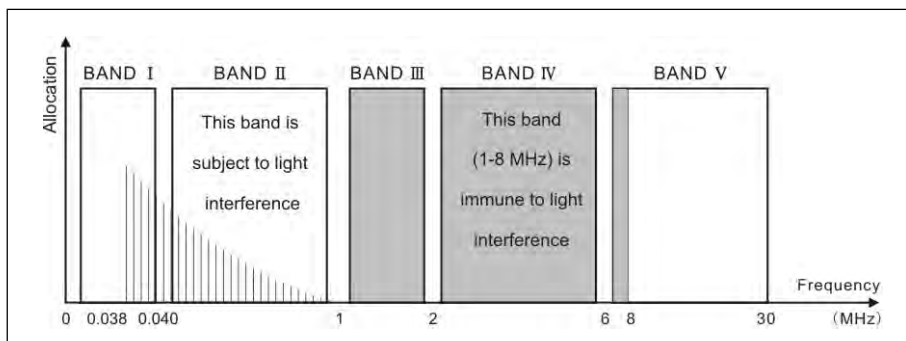


図1.5 波長帯域1-8MHzの新世代デジタル赤外線会議システムは、高周波の照明障害を回避できます

遮蔽物のない大きな窓のある会議室では、マルチトランスミッター運用を検討する必要があります。屋外で使用する場合は、必要なトランスミッターの数を決定するためにサイトテストが必要です。十分なトランスミッターがあれば、明るい日差しの下でも問題無く信号伝送が可能です。

1.4.2 物体、表面、反射

可視光線と同様に、赤外線は硬い表面で反射し、ヒアロイド（ガラス質または透明な外見）の物体で屈折します。壁や天井の構造だけでなく、会議場内の物も赤外線の分布に影響を与えます。

赤外線はほぼすべての硬い表面に反射し、滑らかな面、明るい面、光沢のある面にはよく反射します。暗い表面やざらざらした表面は、赤外線エネルギーの大部分を吸収します。一般的に、可視光線に対して不透明な表面は、赤外線に対しても不透明です。

壁や家具の影は赤外線の透過に影響を与えます。これは、十分な数のトランシーバーを使用することで解決でき、トランシーバーは、会議エリア全体をカバーするのに十分な強度の赤外線フィールドを提供するように配置する必要があります。

安定した十分な赤外線信号伝送を保证するために、各赤外線ワイヤレス会議ユニットが少なくとも2台のトランシーバーと同時に通信できることを確認してください。

1.4.3 デジタル赤外線無線会議ユニットの赤外線有効エリア

赤外線は指向性のある目に見えない光です。赤外線ワイヤレス会議ユニットは、トランシーバーに正対したときに最高の感度を得ます。すべてのHCS-5300/80、HCS-5380、HCS-5390シリーズデジタル赤外線ワイヤレス会議ユニットは、最大受信角度を保证するために、その前面に赤外線ガラスが装備されています。

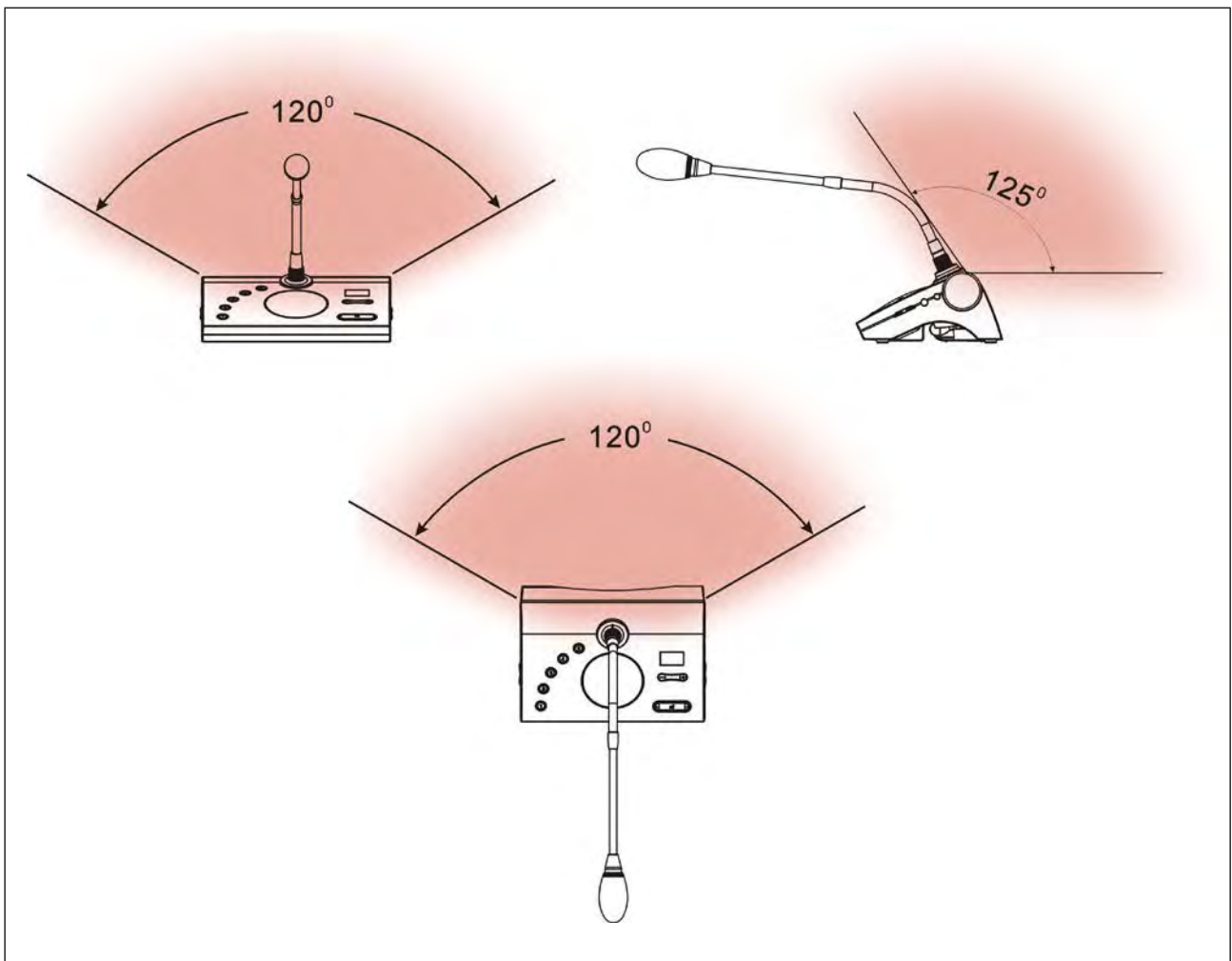


図 1.6 デジタル赤外線無線会議ユニットのカバーエリア

1.4.4 デジタル赤外線トランシーバーの赤外線サービスエリア

デジタル赤外線トランシーバーの種類によってカバーエリアが変化します。トランシーバーの数が多いほどカバーエリアが広がります。

カバーエリアは、デジタル赤外線トランシーバーの赤外線有効エリアと、赤外線ワイヤレス会議ユニットの位置によって決定される受信平面との交点によって決定されます。カバーエリアの広さと位置は、トランシーバーの取り付け高さに関係します。

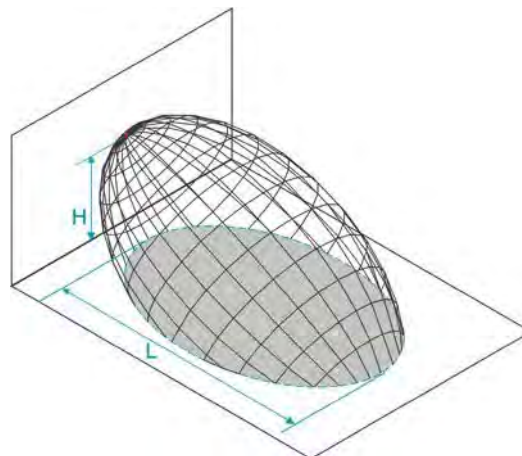
トランシーバーと会議ユニットの間の赤外線信号が互いに直接届くなら、その強度は正常な通信を保証します。



HCS-5300TD/80のカバーエリアの切断面図



HCS-5300TH/80のカバーエリアの切断面図



HCS-5300TWN/80

図 1.7 デジタル赤外線トランシーバーのカバーエリア

1.4.5 オーバーラップとマルチパス効果

2つのトランシーバのカバーエリアが重なる場合、その総カバーエリアは2つの個別のカバーエリアの合計よりも大きくなる場合があります。オーバーラップ効果のあるエリアでは、2つのトランシーバの個々の放射信号が加算され、その結果、必要な強度よりも大きな放射強度を生みます。

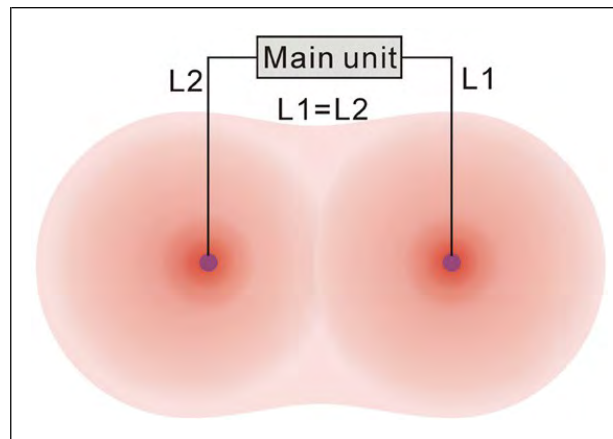


図1.8 放射電力増加によるカバーエリアの拡大

しかし、2台以上のトランシーバからの信号の遅延の違いにより、信号が打ち消し合います（マルチパス効果）。最悪の場合、いくつかの位置で受信ができなくなる（ブラック・スポット）ことがあります。

マルチパス効果を避けるため、本体と各トランシーバ間の距離は同等である必要があります。

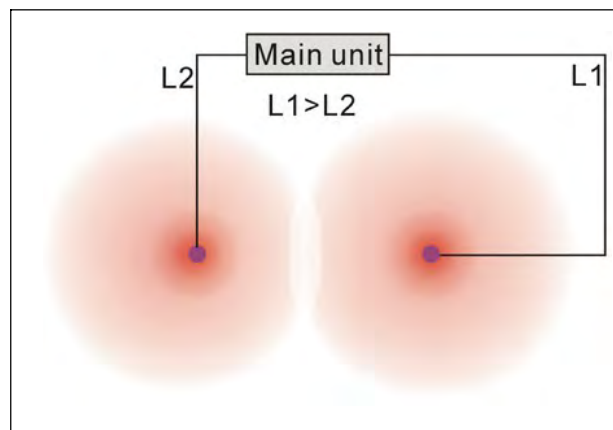


図1.9 ケーブル信号の遅延の違いによるカバーエリアの減少

1.5 システム仕様

システム性能

国際規格ISO22259に準拠

メインユニットから送信される搬送波周波数（0～3）は、会議用などの音声信号のデジタル赤外線伝送の国際規格であるIEC 61603-7に準拠

伝送特性

赤外線透過波長：870 nm

変調周波数：

1～8 MHz、IEC 61603-7 に準拠し、本体から送信されるキャリア周波数（0～3）

プロトコルと変調：

DQPSK、キャリア周波数（0～3）IEC 61603-7 に準拠し、メインユニットから送信

ケーブル配線とシステムの制限

トランシーバークーブルのタイプ

専用6PINケーブル（HCS-5352はオプション）

トランシーバの最大数：

HCS-5300MA/MB/80A：各出力4つ

最大10台のHCS-5300TD/80またはHCS-5300TH/80（HCS-5352経由）

最大8台のHCS-5300TWN/80（HCS-5352経由）

HCS-5300MC/80A：各出力4つ

最大10台のHCS-5300TD/80またはHCS-5300TH/80（HCS-5352経由）

最大6台のHCS-5300TWN/80（HCS-5352経由）

最大通訳ユニット数：合計16ユニット

最大ケーブル長：各出力80m

システム環境条件

作業条件 固定/定置/移動可能 温度範囲：

- 輸送-40 °C ～ +70 °C

- 動作時0 °C～+45 °C

最大相対湿度：< 95%（結露しないこと）

安全性：EN 62368-1に準拠

EMC エミッション：EN 50032 準拠

EMCイミュニティ：EN 50035

準拠：CE、FCC

電源高調波：EN 61000-3-2に準拠

電圧変動とフリッカー：EN 61000-3-3に準拠

1.6 接続の詳細

■ メインケーブル

青 …ニュートラル

茶 …ライブ

グリーン/イエロー …アース/グラウンド

■ オーディオケーブル テンチコネクター (オス)

PIN① 信号+

PIN② GND



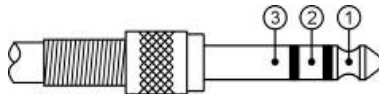
■ イヤホン

3.5 mmジャックプラグ

先端① 信号左

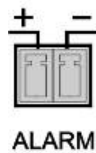
Ring② 信号右

スリーブ③アース/スクリーン



■ 非常スイッチ 端子台

非常スイッチを+、-に接続する。



第2章 HCS-5300M/80Aシリーズ デジタルIRワイヤレス会議システム メインユニット

2.1 概要

HCS-5300M/80Aデジタル赤外線ワイヤレス会議システムメインユニットは、HCS-5300/80ワイヤレス会議システムの心臓部です。メインユニットは、デジタル赤外線トランシーバーや録音機器と接続することができます。

- ◇ システム機能構成の表示
- ◇ システムステータスの表示
- ◇ 会議の自動制御

デジタル赤外線言語配信システムHCS-5100Plusに直結可能で、PCソフトを操作すれば、さらに強力な機能が利用できます。

HCS-5300MA/80AまたはHCS-5300MB/80Aは1台あたり最大10台のHCS-5300TD/80、10台のHCS-5300TH/80または8台のHCS-5300TWN/80トランシーバーに接続でき、HCS-5300MC/80Aは1台あたり最大8台のHCS-5300TD/80、8台のHCS-5300TH/80または6台のHCS-5300TWN/80トランシーバーに接続できます。無線会議ユニットの最大接続台数は1000台です。拡張ユニットHCS-8300MESを接続した場合、最大有線会議ユニット数は200台となります。4本のマイクを同時にONにすることができます。

有線会議ユニットと通訳ユニットを接続して1+3CHの有線同時通訳システムを実現し、通訳ユニットを接続して1+7CHの無線同時通訳システムを実現できる。

HCS-5300M/80Aは、卓上または19インチラックいます。

種類:

HCS-5300MA/80A

デジタルIRワイヤレス会議システムメインユニット（ディスカッション、投票、1+7CH、HCS-4100/50有線会議ユニットおよびHCS-8385N/50通訳ユニット用インターフェース、Danteインターフェース付）

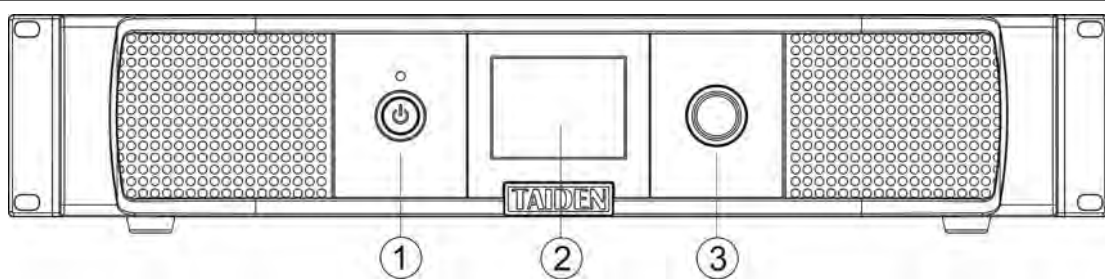
HCS-5300MB/80A

デジタルIR無線会議システムメインユニット（ディスカッション、1+7CH、HCS-4100/50有線会議ユニットおよびHCS-8385N/50通訳ユニット用インターフェース付）

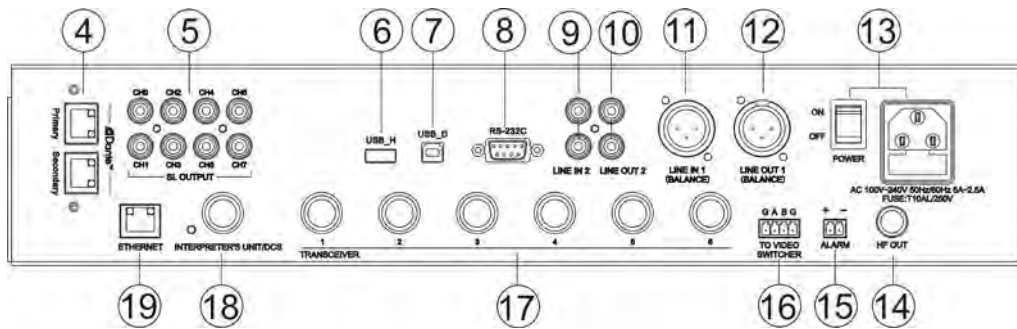
HCS-5300MC/80A

デジタルIRワイヤレス会議システム メインユニット（ディスカッション）

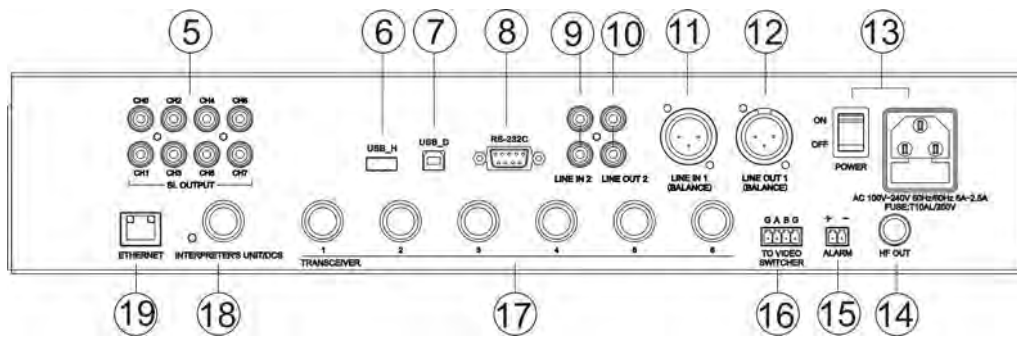
2.2 機能と表示



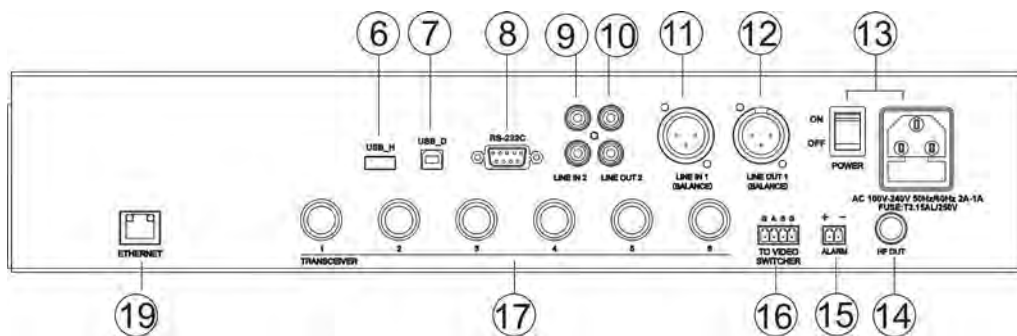
HCS-5300M/80Aメインユニットフロントパネル



HCS-5300MA/80Aメインユニットリアパネル



HCS-5300MB/80Aメインユニットリアパネル



HCS-5300MC/80Aメインユニットリアパネル

図 2.1 デジタル赤外線ワイヤレス会議システムメインユニット

図2.1:

1. スタンバイキー
2. メニュー表示
 - 2.8"LCD、メインユニットステータスおよび設定メニューを表示します。
3. 操作ノブ
 - LCDメニュー操作用;
4. Danteインターフェイス
 - 会議本体をDanteネットワークに接続し、音声信号を伝送する。
5. 同時通訳出力 (0~7)
6. AタイプUSBインターフェイス
 - USB差し込み用。
7. ミニUSBインターフェイス
 - PC接続用。
8. RS-232Cポート
 - 中央制御システムに接続して中央制御やシステム診断に使用。
9. 「Line IN 2」 (RCA)
10. 「Line OUT 2」 (RCA)
11. 「Line IN 1」 (3コードXLRバランス入力)
12. 「LINE OUT 1」 (3コードXLRバランス出力)
13. 電源インターフェイスとボタン
14. HFアウト (BNCソケット)
 - HCS-5100Tシリーズデジタル赤外線ラジエーター接続用。

15. 火災報知器連動トリガーインターフェイス

メインメニューのアラーム設定がオンの場合:

- **接続中:** すべての会議ユニットの電源がオフになり、「ALARM」と表示されま
- す;
- **未接続:** 会議ユニットは「ALARM」の前のステータスに戻ります。

16. ビデオ・スイッチ・インターフェイス

- ビデオスイッチおよびドームカメラと連携するとき、自動ビデオ追跡可能
- HCS-3316HDNドームカメラに接続します。

注:

HCS-3316HDNドームカメラに接続する場合: 「A」はカメラのRS485インターフェイスの「+」に接続し、「B」は「-」インターフェイスに接続し

ず。SW1: 1; ボーレート: 9600; イーサネットプロトコル: イーサネット・プロ

トコル: PELCO-D)。

17. トランシーバー・インターフェイス (1-6)

18. インタープリター・ユニット・インターフェイス

- 通訳ユニットHCS-8385N/50との接続用;
- HCS-4100/50シリーズ有線コングレスユニット接続用。

19. イーサネット

- TCP/IPプロトコルで会議本体とPC間の通信を行い、遠隔制御を実現。さらに、中央制御システムを通じてワイヤレスタッチパネルによる遠隔制御も可能。

2.3 設置

HCS-5300M/80Aシリーズデジタル赤外線ワイヤレス会議システムメインユニットは、標準的な19インチキャビネットに固定することができます。メインユニットをキャビネットに入れ、4つの穴をネジ (①) で固定します。

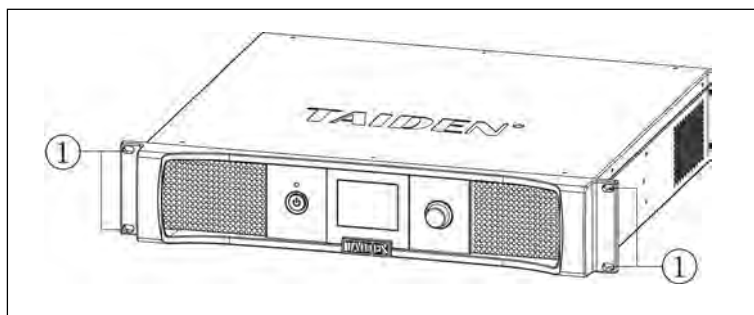


図 2.2 デジタル赤外線ワイヤレス会議システムメインユニットの設置

さらに、キャビネットのメインユニットの間に設置する装飾として、1Uのメタルストライプが付属しています。換気や冷却にも効果的です。5つの穴③をネジで固定します。

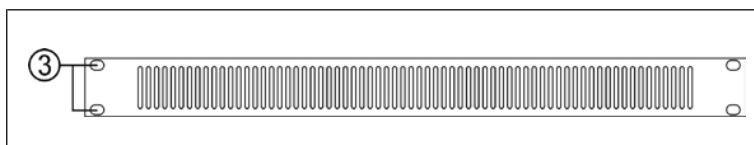


図 2.3 キャビネットの装飾

注：

☞キャビネット上の2台のホストの間には、少なくとも0.5Uの放熱スペースが必要で、重ならないように配置してください。

2.4 接続

ここでは、HCS-5300M/80A シリーズメインユニットの代表的なシステム接続を紹介します：

- 他の補助装置へ
- 通訳ユニットへ
- HCS-8300MIシリーズへ
- システム接続 [有線/無線ディスカッション+ デジタル同時通訳+ 投票+ ビデオトラッキング]。
- システム接続 [有線/無線ディスカッション+ デジタル同時通訳+ ビデオトラッキング+ セントラルコントロール]。
- システム接続 [ワイヤレスディスカッション+ ビデオトラッキング+ 中央制御]

2.4.1 通訳ユニットへ

HCS-5300MA/80A、HCS-5300MB/80Aメインユニットは1+7チャンネル同時通訳機能を内蔵しており、通訳装置と接続することができます (2.5.5参照)。

HCS-8385N/50通訳ユニットは、通訳ユニットインターフェースからHCS-5300M/80Aに直接接続し、8チャンネル同時通訳 (フロア音声を含む) が可能です。

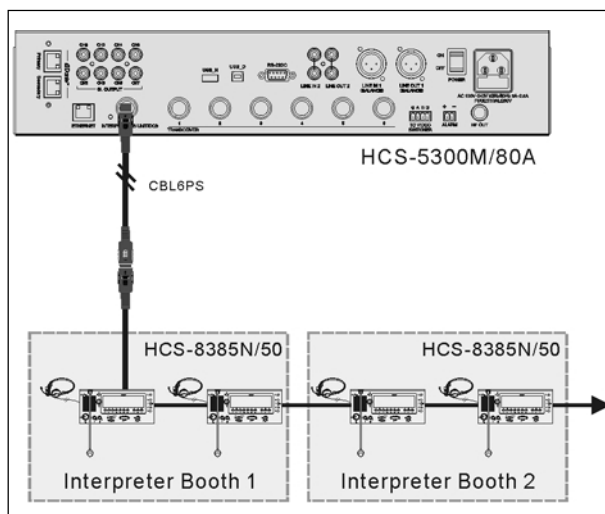


図 2.4 HCS-8385N/50 への接続

2.4.2 他の補助装置へ

2.4.2.1 外部オーディオ機器へ

デジタル赤外線ワイヤレス会議メインユニットは、LINE IN 1またはLINE IN 2インターフェースを介して外部オーディオ機器と接続することができます。

外部オーディオ信号はフロアオーディオチャンネルで利用可能になります。

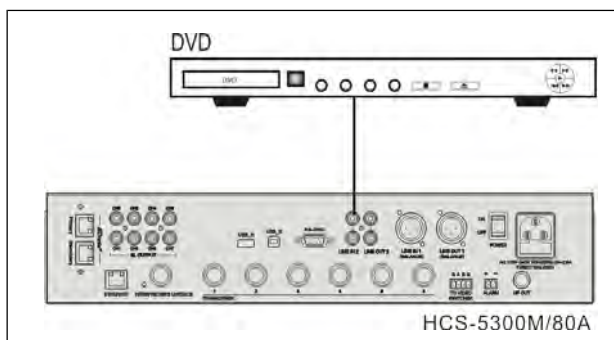


図 2.5 "LINE IN"インターフェースで外部オーディオ機器と接続するメインユニット

2.4.2.2 録音機器へ

HCS-5300M/80Aシリーズデジタル赤外線ワイヤレス会議メインユニットは、2系統の音声出力と8系統の個別音声同時通訳出力を備えており、録音機器に接続することができます。同時通訳信号を録音したり、全音声信号の合計として会議を録音することができます。

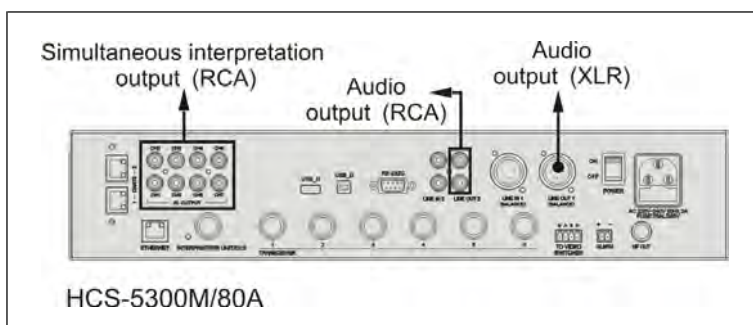


図 2.6 録音機器と接続するメインユニット

2.4.2.3 PAへ

デジタル赤外線ワイヤレス会議システムHCS-5300M/80Aシリーズメインユニットには、PA接続可能な音声出力インターフェースがあります。

HCS-5300M/80Aの「LINE OUT 1」または「LINE OUT 2」とPAの入力インターフェースをオーディオケーブルで接続してください。

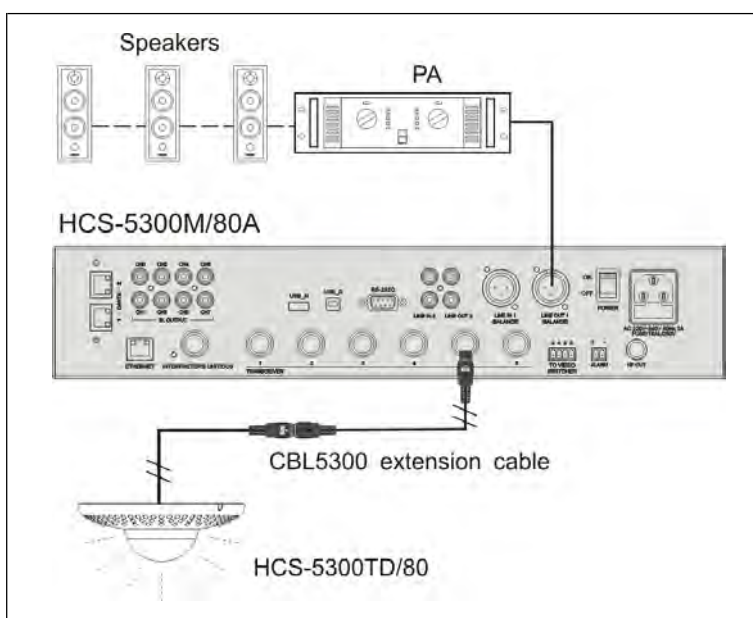


図 2.7 PAに接続するデジタル赤外線ワイヤレス会議メインユニット

2.4.3 HCS-8300MIシリーズへ

HCS-5300M/AIは、HCS-8300MIシリーズ8chオーディオ入力インターフェースと接続することにより、以下の機能を実現します：

- a) 7つのデジタル (AES/EBU) /アナログ・オーディオ・チャンネルを通訳チャンネルに送信。
- b) すべての入力を任意の比率でミックスし、任意のチャンネルに出力

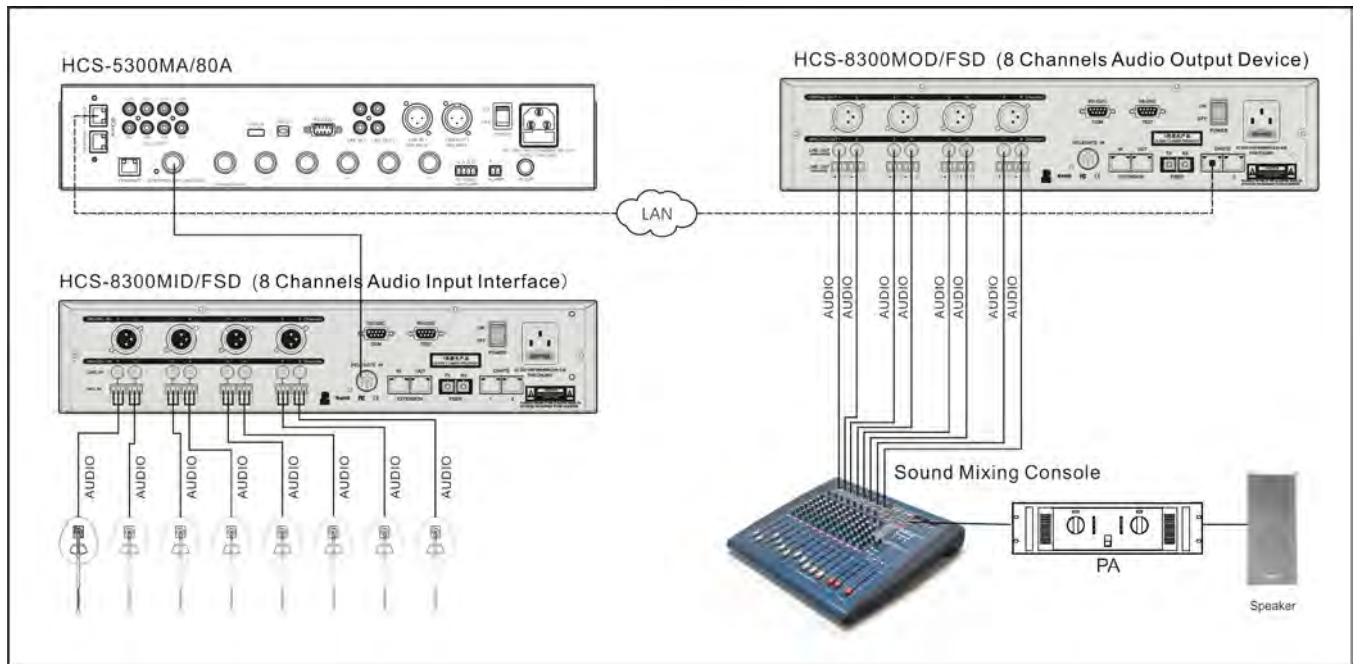


図 2.8 HCS-5300M+HCS-8300MI+HCS-8300MO マルチチャンネルデジタルオーディオ伝送ソリューション

2.4.4 オーディオ入出力デバイスHCS-8600MIOシリーズへ

HCS-5300M/A本体は、HCS-8600MIOシリーズの音声入出力機器と接続し、以下の機能を実現します：

- デジタル（AES/EBU）/アナログ音声信号を会議システムの翻訳チャンネルに入力し、オフサイト同時通訳を実現
- 録音機器やスピーカーなどの音声出力機器に接続して音声を出力

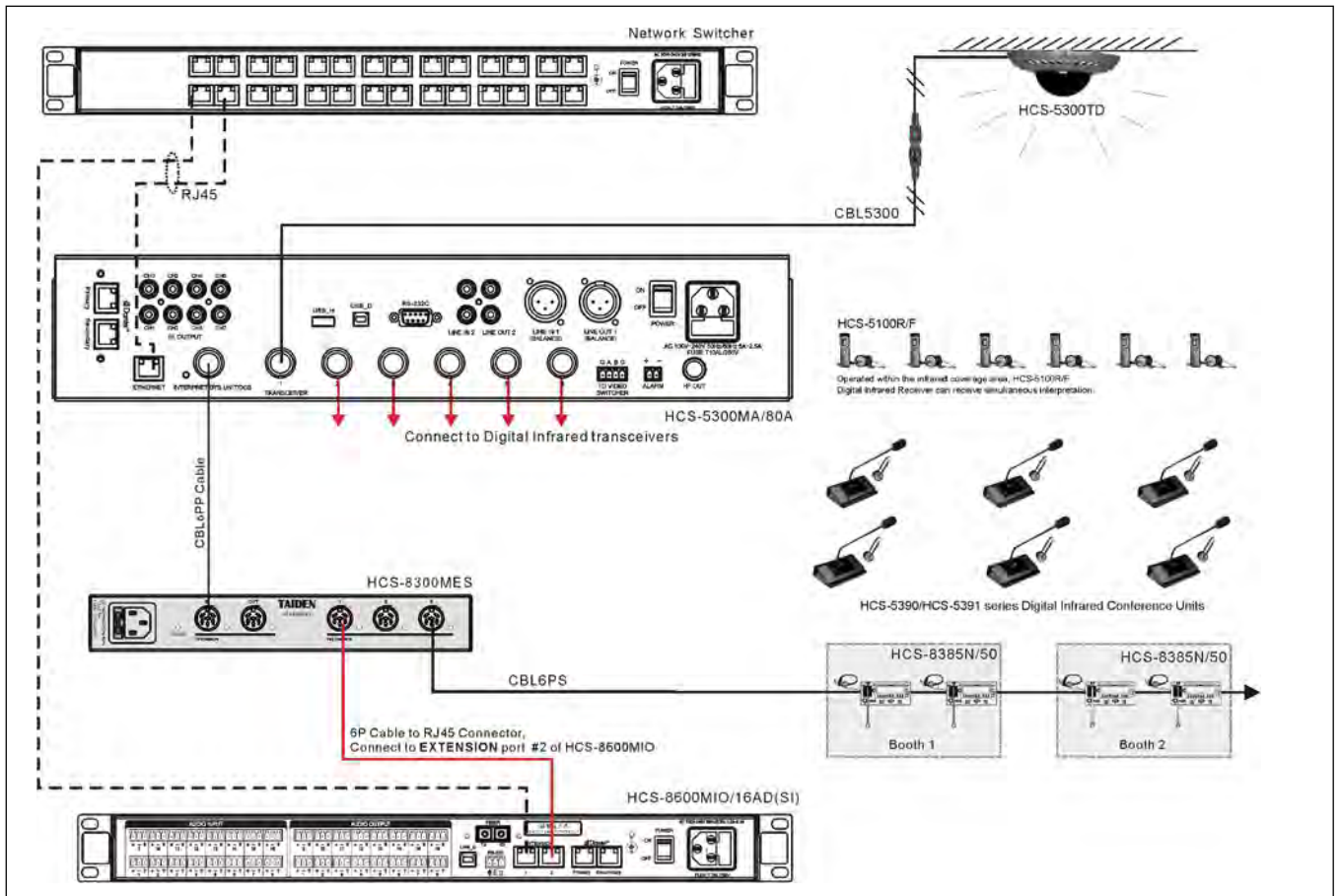


図 2.9 HCS-5300M+HCS-8600MIO 音声入出力ソリューション

*RJ45コネクタへの6Pケーブルはカスタマイズケーブルです。詳細は本書の付録をご参照ください。

2.4.5 HCS-8600MIOシリーズ、HCS-8685BMのブース貸し出し機能

HCS-5300M/Aメインユニットは、HCS-8600MIOシリーズ音声入出力装置、HCS-8685BMブースマネージャーと接続し、ネットワーク経由でTAIDENブース管理システムによるブース貸出機能を実現します。

HCS-8685はHCS-5300M/Aメインユニットメインユニットに直接接続するのではなく、HCS-8685BMブースマネージャーに接続します。

HCS-8685BMブースマネージャー、HCS-5300M/Aメインユニット、音声入出力装置HCS-8600MIOシリーズが同一ネットワーク内にあれば、TAIDENブース管理システムで回線接続を変更することなく、会議室に通訳ブースを割り当てることができます。

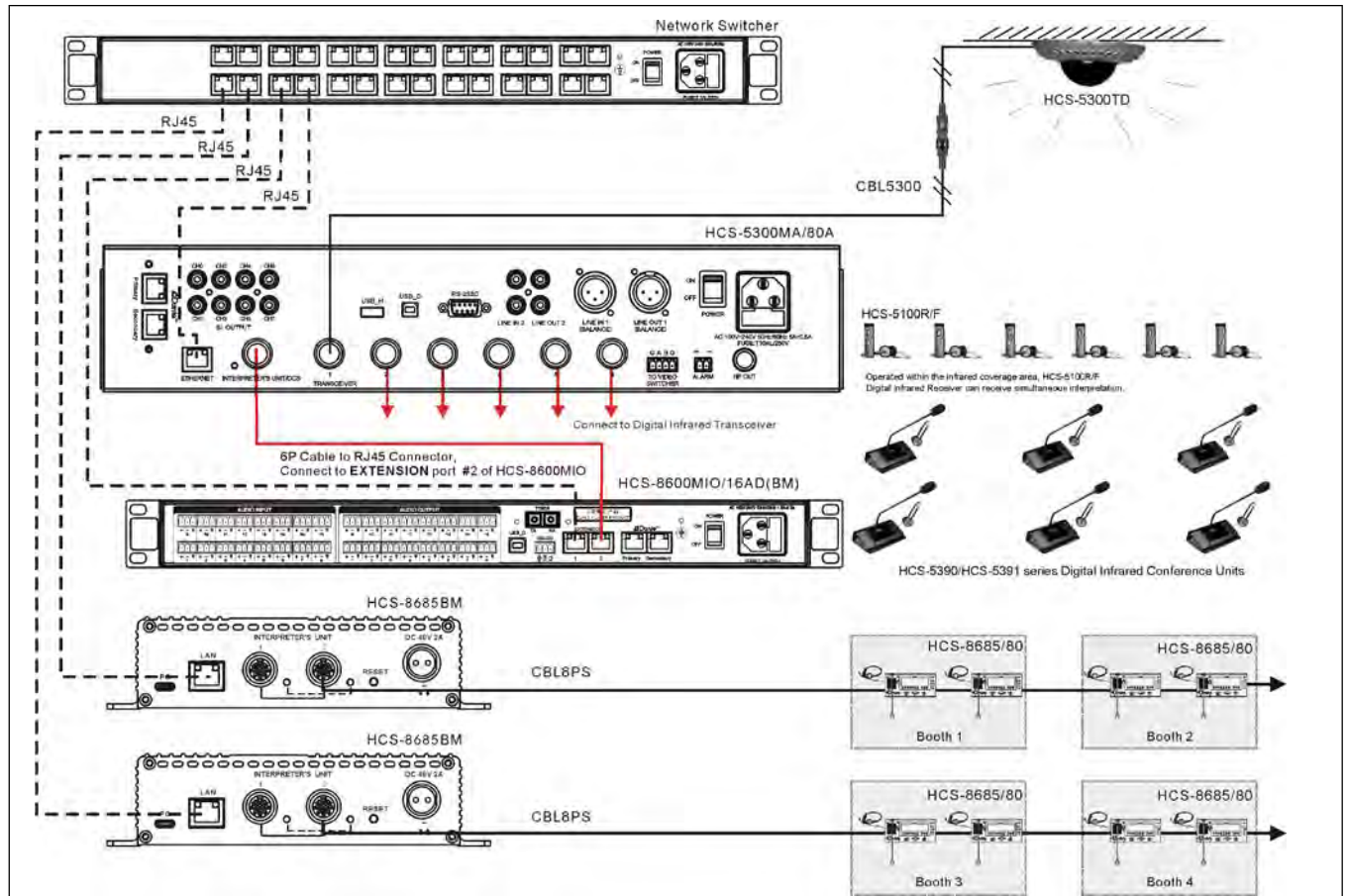


図 2.10 ブース借用機能を実現する HCS-5300M+ HCS-8600MIO+ HCS-8685BM

* HCS-5300M/A本体のサンプリングレートは48K Hzに設定してください (2.5.42項参照)。

* RJ45コネクタへの6Pケーブルはカスタマイズされたケーブルです。詳細は本書の付録をご参照ください。

* HCS-8685BMのネットワーク設定については、**TAIDENブース管理システムユーザーズマニュアル**を参照してください。

2.4.6 システム接続 1

● [有線/無線ディスカッション+ デジタル同時通訳+ 投票+ ビデオトラッキング]。

HCS-5300MA/80Aは、ディスカッション・投票・デジタル同時通訳機能を搭載しています。自動ビデオトラッキングシステムとの接続が可能です。ビデオトラッキングのために、アプリケーションソフトウェアを使用して、各会議ユニットのカメラプリセットを作成します。会議ユニットの電源を入れると、ビデオ・トラッキング・システムが自動的に適切なプリセットを見つけ、発言者に焦点を合わせます。発言者の映像は大型スクリーンやその他の表示装置に表示されます。自動ビデオトラッキングシステムは数種類のビデオ信号に対応し、自動ビデオスイッチングを行います。ビデオ追跡システムはビデオ切換器、カメラ制御板および高速ドームのカメラから構成されます。

RS-485ケーブルを使用し、HCS-5300M/80Aメインユニット（ポート「TO VIDEO SWITCHER」）とビデオスイッチャ背面の対応するポート（ポート「TAINET」）を接続します。

以下のようなシステム構成で多機能を実現可能です：

- ◆ デジタル赤外線ワイヤレス会議
- ◆ 有線/無線ディスカッション
- ◆ デジタル赤外線言語配信システム
- ◆ 投票
- ◆ ビデオトラッキング

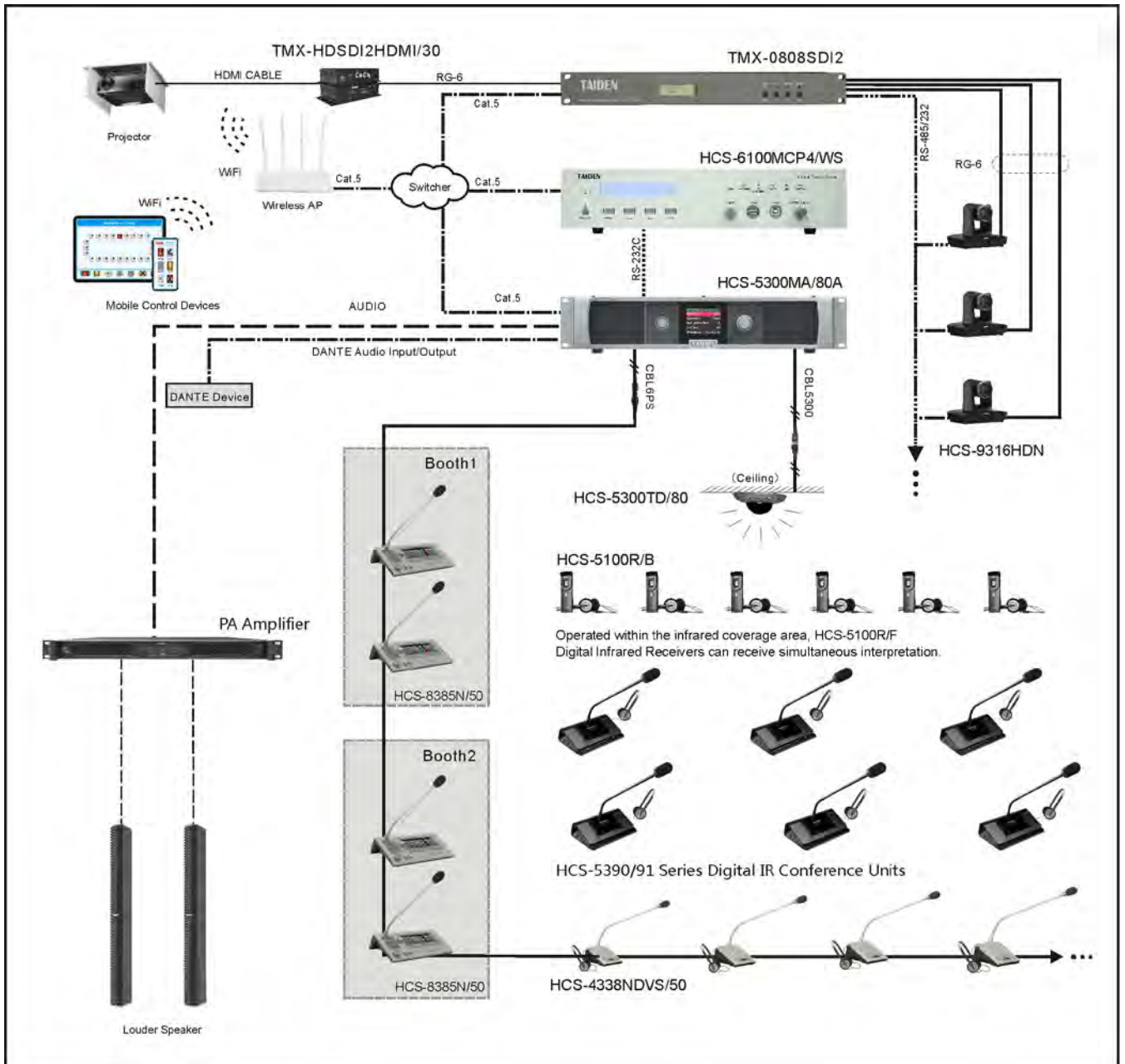


図2.11 システム接続 [有線/無線ディスカッション+ デジタル同時通訳+ 投票+ ビデオトラッキング]

2.4.7 システム接続 2

● [有線/無線ディスカッション+ デジタル同時通訳+ ビデオトラッキング+ セントラル・コントロール]。

HCS-5300MB/80AIは、ディスカッション機能とデジタル同時通訳機能を搭載。自動ビデオトラッキングシステムとの接続が可能です。ビデオトラッキングのために、アプリケーションソフトウェアを使用して、会議ユニットごとにカメラのプリセットを作成します。会議ユニットの電源を入れると、ビデオ・トラッキング・システムが自動的に適切なプリセットを見つけ、発言者に焦点を合わせます。発言者の映像は大型スクリーンやその他の表示装置に表示されます。自動ビデオトラッキングシステムは数種類のビデオ信号に対応し、自動ビデオスイッチングを行います。ビデオ追跡システムはビデオ切換器、カメラ制御板および高速ドームのカメラから構成されます。

RS-485ケーブルを使用し、HCS-5300M/80メインユニット（ポート「TO VIDEO SWITCHER」）とビデオスイッチャ背面の対応するポート（ポート「TAINET」）を接続します。

また、TAIDEN HCS-5300デジタル赤外線ワイヤレス会議システムとTAIDEN HCS-6100ネットワーク中央制御システムはシームレスに結合することができます。異なるメーカーの様々なデバイス、ハードウェア、環境機器を連携させることができます。中央制御システムは、モバイル制御デバイス（PAD/電話）またはウェブサイトによる無線双方向通信を介して会議デバイスを操作することができます。機能としては、電源制御、環境照明の調整とオンオフ、電動カーテンやプロジェクタースクリーンの開閉とオンオフ、システムPAの音量制御、DVD、VCR、TV、各種電気機器の制御などがあります。RS-232CまたはRS-485インターフェイスが利用可能です。LANやインターネットを利用した遠隔操作も可能です。

TAIDENネットワーク中央制御システムを使用して会議ユニットを制御する場合、各会議ユニットのIDを知っている必要があります（工場出荷前に設定済み、IDは起動時にLCDに表示されます）。

以下のようなシステム構成で多機能を実現できます：

- ◆ デジタル赤外線ワイヤレス会議
- ◆ 会議マイクのオン/オフ
- ◆ 有線/無線ディスカッション
- ◆ デジタル赤外線言語配信システム
- ◆ ビデオトラッキング、カメラは遠隔操作可能
- ◆ 現在接続されているデバイスの集中制御

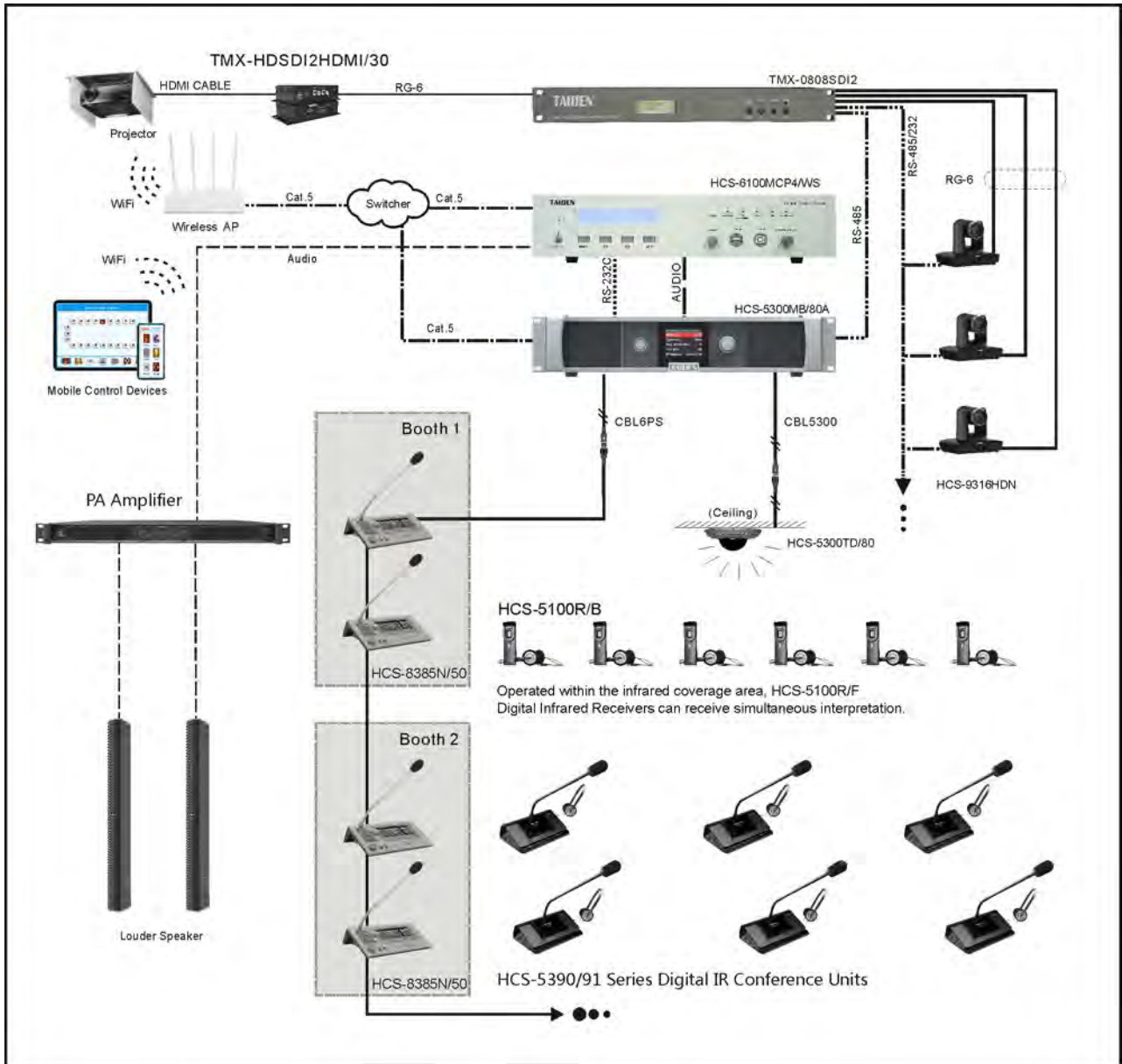


図2.12 システム接続 [有線/無線ディスカッション+ デジタル同時通訳+ ビデオトラッキング+ 中央制御]

2.4.8 システム接続 3

● [ワイヤレス・ディスカッション+ビデオ・トラッキング+セントラル・コントロール]。

HCS-5300MC/80Aはディスカッション機能を搭載しており、自動接続が可能です。ビデオ・トラッキングのために、アプリケーション・ソフトウェアを使用して、会議ユニットごとにカメラのプリセットを作成します。会議ユニットの電源を入れると、ビデオ・トラッキング・システムは自動的に適切なプリセットを見つけ、発言者に焦点を合わせます。発言者の映像は大型スクリーンやその他の表示表示されます。自動ビデオトラッキングシステムは数種類のビデオ信号に対応し、自動ビデオスイッチングを行います。ビデオ追跡システムはビデオスイッチャー、カメラ制御板および高速ドームのカメラから構成されます。

RS-485ケーブルを使用し、HCS-5300M/80メインユニット（ポート「TO VIDEO SWITCHER」）とビデオスイッチャー背面の対応するポート（ポート「TAINET」）を接続します。

また、TAIDEN HCS-5300/80新世代デジタル赤外線ワイヤレス会議システムとTAIDEN HCS-6100ネットワーク中央制御システムはシームレスに結合することができます。異なる様々なデバイス、ハードウェア、環境機器を連携させることができます。中央制御システムは、有線イーサネットまたは無線双方向通信により、有線/無線タッチパネルで会議デバイス进行操作することができます。電源制御、環境照明の調整とオンオフ、電動カーテンやプロジェクタースクリーンの開閉とオンオフ、システムPAの音量制御、DVD、ビデオデッキ、テレビ、各種電気機器の制御などの機能を備えています。RS-232CまたはRS-485インターフェイスが利用可能です。LANやインターネットを利用した遠隔操作も可能です。

TAIDENインテリジェント中央制御システムタッチパネルを使用して会議ユニットを制御する場合は、各会議ユニットのIDを知っている必要があります（工場出荷前に設定されている、IDは起動時にLCDに表示されます）。

以下のようなシステム構成で多機能を実現できます：

- ◆ デジタル赤外線ワイヤレス会議
- ◆ 会議マイクのオン/オフ
- ◆ ビデオトラッキング、カメラは遠隔操作可能
- ◆ 現在接続されているデバイスの中央制御

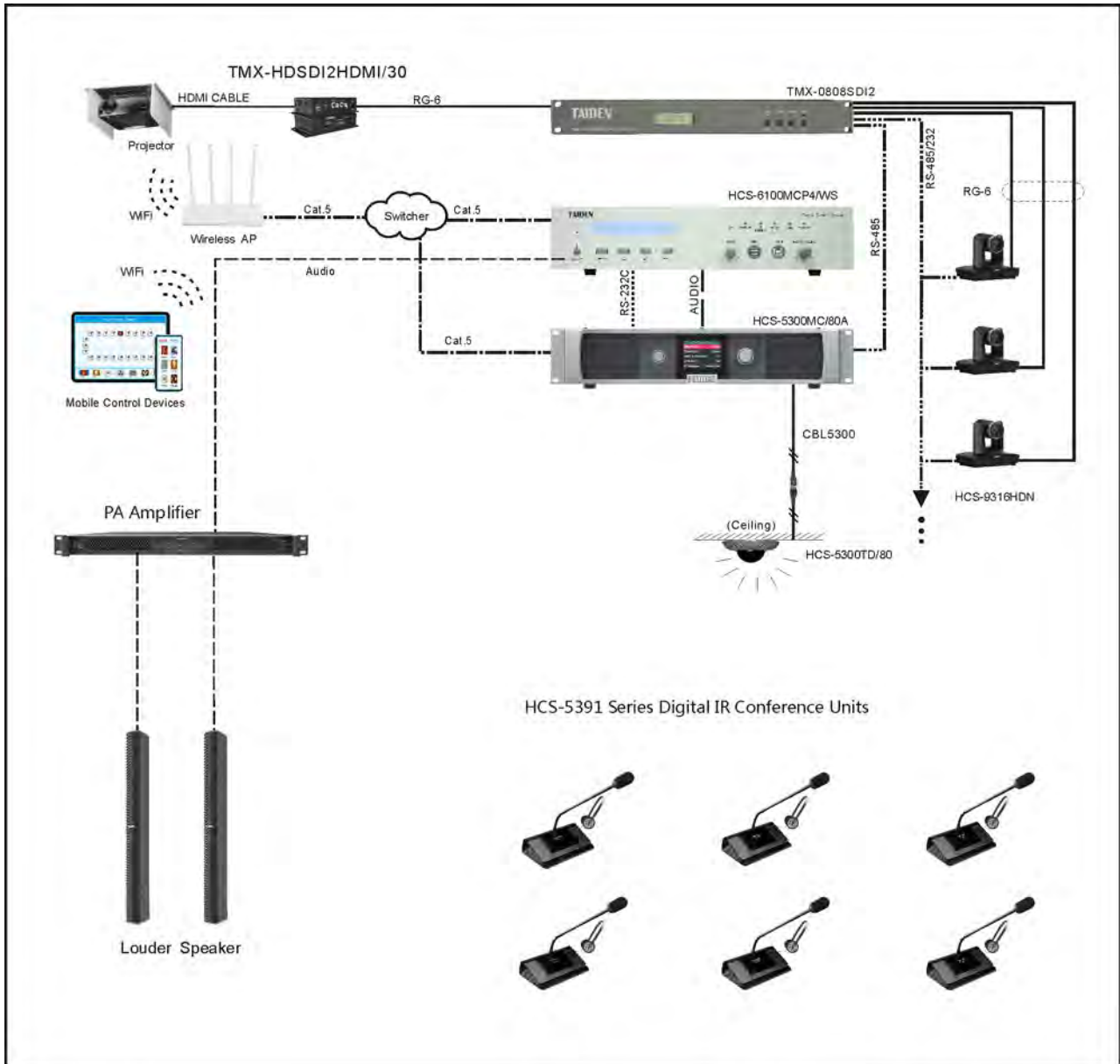


図2.13 システム接続 [ワイヤレスディスカッション+ ビデオトラッキング+ 中央制御]

2.4.9 負荷容量

HCS-5300MA/MB/80Aメインユニットは、デジタル赤外線無線トランシーバー、有線会議ユニット、通訳ユニットに接続し、電源を供給することができます。

システム設計の際には、デバイスの種類と数量を総合的に考慮する必要があります（表2.1）。

◆HCS-5300MA/80AまたはHCS-5300MB/80Aメインユニットには、HCS-5300TD/80またはHCS-5300TH/80を10台、HCS-5300TWN/80を最大8台接続できます。

◆HCS-5300MC/80、HCS-5300TD/80またはHCS-5300TH/80を8台、HCS-5300TWN/80を最大6台接続できます。

HCS-5300MA/80Aにトランシーバ10台で接続できる有線ユニット（HCS-4338N/50またはHCS-8385N/50）の最大台数をシステム構成の参考として表2.2に示します。拡張メインユニットを使用することで、最大200台の会議ユニットを接続することができます。

表 2.1 最大トランシーバ接続台数早見表（単位：台）

モデル	HCS-5300TD/80	HCS-5300TH/80	HCS-5300TWN/80
HCS-5300MA/80A	10	10	8
HCS-5300MB/80A	10	10	8
HCS-5300MC/80A	8	8	6

表 2.2 最大有線ユニット接続台数早見表（単位：個）

システムの状態	モデル	CMUとソケットに接続された最初の有線ユニット間の延長ケーブル長			
		20 m	40 m	60 m	80 m
HCS-5300MA/80A+ HCS-5300TD/80× 10本 (HCS-5352により拡張)。	HCS-4338N/50	30	28	26	20
	HCS-8385N/50	21	17	13	10

2.5 設定と操作

デジタル赤外線ワイヤレス会議システムメインユニットは、4つのボタンによるメニュー操作で設定・設定を行うことができます。この章では、すべてのメニュー項目の操作を一つずつ紹介します。

A) 初期化の開始

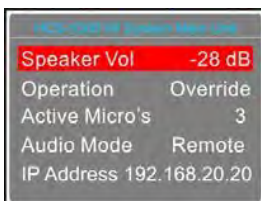


電源を入れてスタンバイキーを押すと、HCS-5300M/80Aデジタル赤外線ワイヤレス会議システムメインユニットが初期化を開始します。

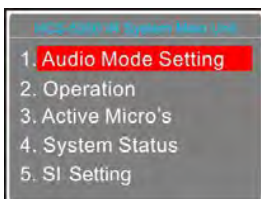
B) メインメニューにアクセス

初期状態で操作ノブを押すと、メインメニューが表示されます：

オーディオ・モード設定	オペレーションシ	最大アクティブマイク
ステムの状態	SIセッティングライ	ライン・イン1設定
ン・イン2設定	ヘッドホン自動装着	リングセッティング
議長の優先順位	マイクパラメータ	マイクオートオフ
言語	ネットワーク設定	時間設定
ビデオトラッキングバック	ミュート・スピーカー	アラーム設定
アップ/リストア	音声モード設定	有線マイク機能
番号	マイクIR強度	マイクLED設定
USBオーディオ設定	ライセンス	Danteオーディオ・モード
RS-232ボーレート	ノイズ除去	ラインアウト1 ノイズゲート
格納可能マイク	通訳発信	通訳ユニットLED
天の声設定	ワンタッチ起動	MI SIより
スクリーンセーバー	IRトランシーバー電源	Danteブースト
エクステンド・モード	トランシーバー電源	サンプリングレート設定
キャリアシーケンス		Danteに関して
電源管理		



初期インターフェースの下には、現在のメインユニットに関するスピーカーの音量、操作モード、アクティブなマイク口の番号、オーディオモード、IPアドレスなどのパラメータがあります。操作ノブを回すと、スピーカーの音量を調整することができます。

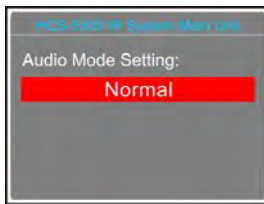


- 操作ノブを押すと、対応するサブメニューに移動します；
- 用語から操作ノブを回して切り替える。

2.5.1 オーディオ・モード設定

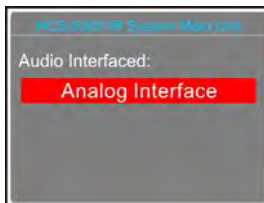
"オーディオモード"には3つのサブメニューがあります: 「通常」、"リモート会議"、"外部処理"です。

- **ノーマル:** LineOut1/2とフロアのオーディオ出力は、Dante In + LineIn1 + LineIn2 + アクティブマイクの合計信号を出力します (図2.14) ;
- **遠隔会議:**
ファアエンドにアナログインターフェースを選択した場合**A)** LineOut1出力はDante In + LineIn2 + アクティブマイクの合計信号、**B)** LineOut2とフロアオーディオ出力はそれぞれ Dante In + LineIn1 + LineIn2 + アクティブマイクの合計信号 (図2.15)。
ファアエンドにDanteインターフェースを選択した場合、**C)** LineOut1出力にはDante In2 + LineIn1 + LineIn2 + アクティブマイクの合計信号が出力されます。) **D)** LineOut2とフロアオーディオ出力には、それぞれDante In + LineIn1 + LineIn2 + アクティブマイクの合計信号が出力されます (図2.16) ;
- **外部プロセス:** 外部プロセッサにアナログインターフェースを選択した場合、LineOut1とLineOut2の出力はそれぞれフロア・オーディオ出力にはLineIn1のオーディオ信号が出力されます (図2.17)。
外部プロセッサにDanteインターフェースを選択した場合、LineOut1/2出力にはDante In2 + LineIn1 + LineIn2 + アクティブマイクの各合計信号が、フロアオーディオ出力には Dante In1のオーディオ信号が出力されます (図2.18)。



操作ノブを回してオーディオ選択します;

- 「Normal」モード選択時: ノブを押すと保存され、上位メニューに戻ります。
- 「リモート会議」モードまたは「外部処理」モードを選択した場合: ノブを押してオーディオインターフェース選択インターフェースに入ります:



1. 操作ノブを回してオーディオポートを選択します;
2. ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。

注:

☞ Danteモジュールを搭載したメインユニットのみ、Dante InとDanteインターフェースを装備しています。

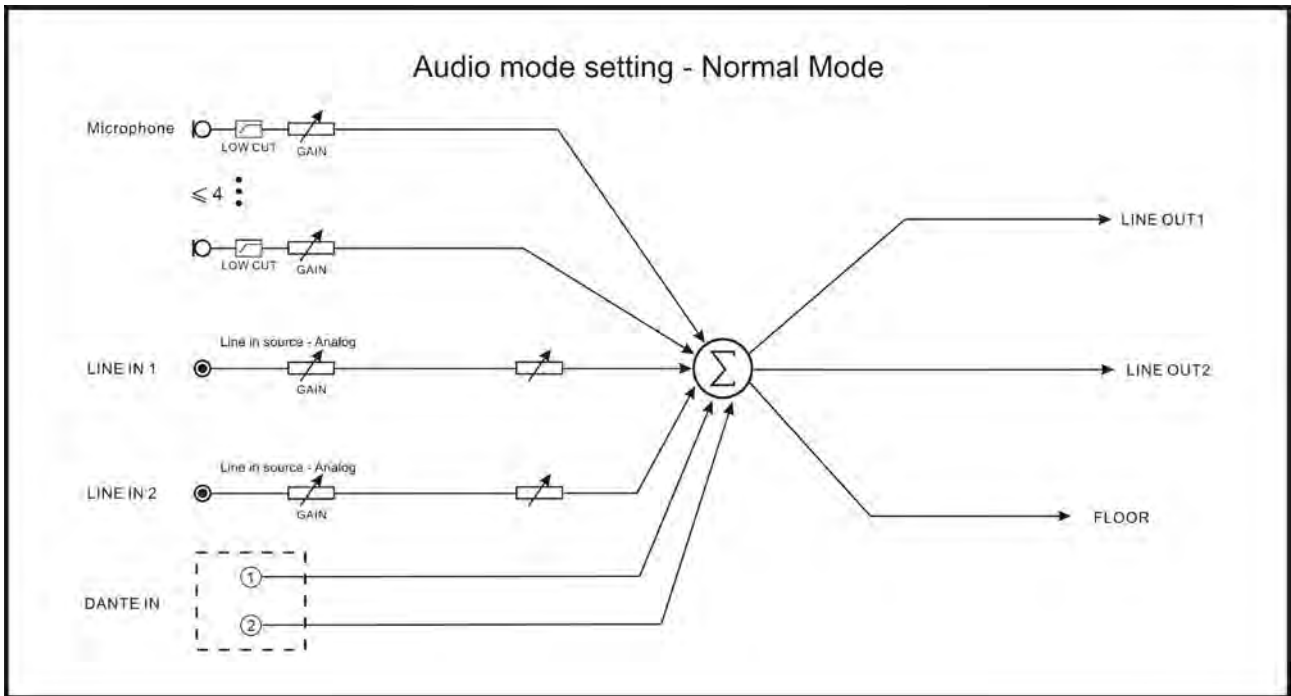


图 2.14 音声モード設定 -Normalモード

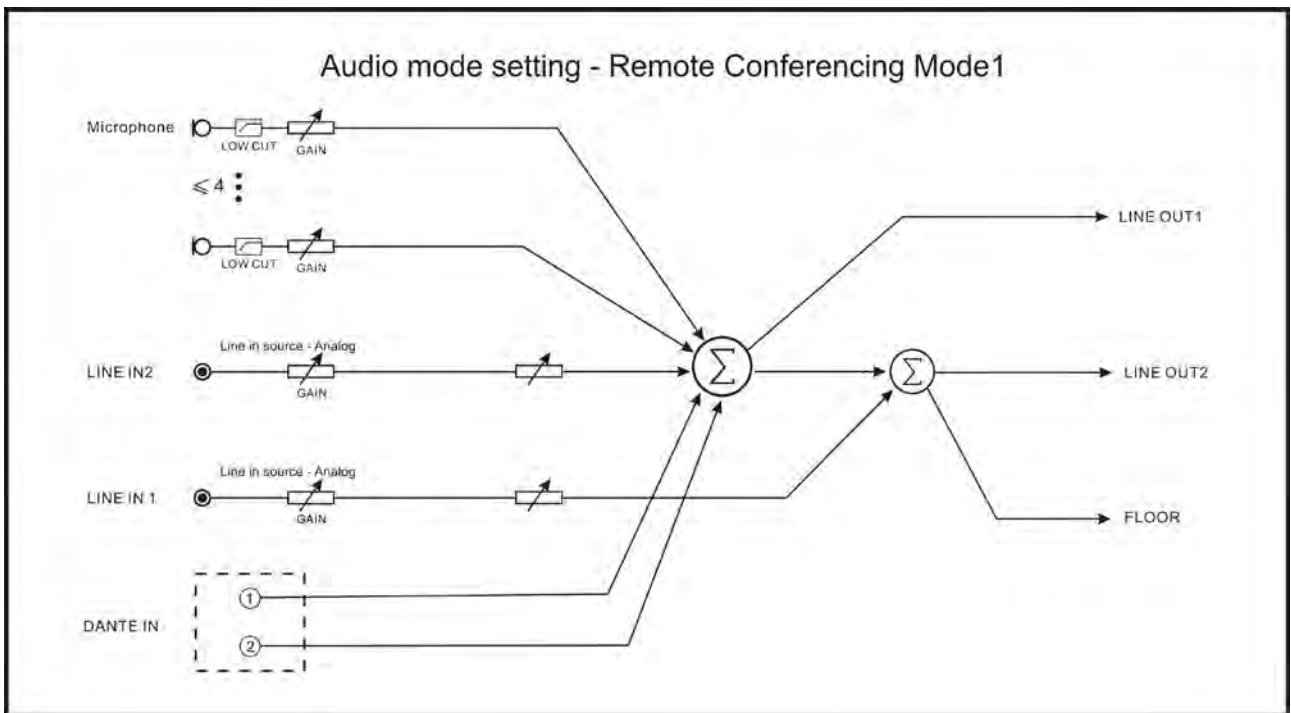


图 2.15 音声モード設定 - 遠隔会議モード1

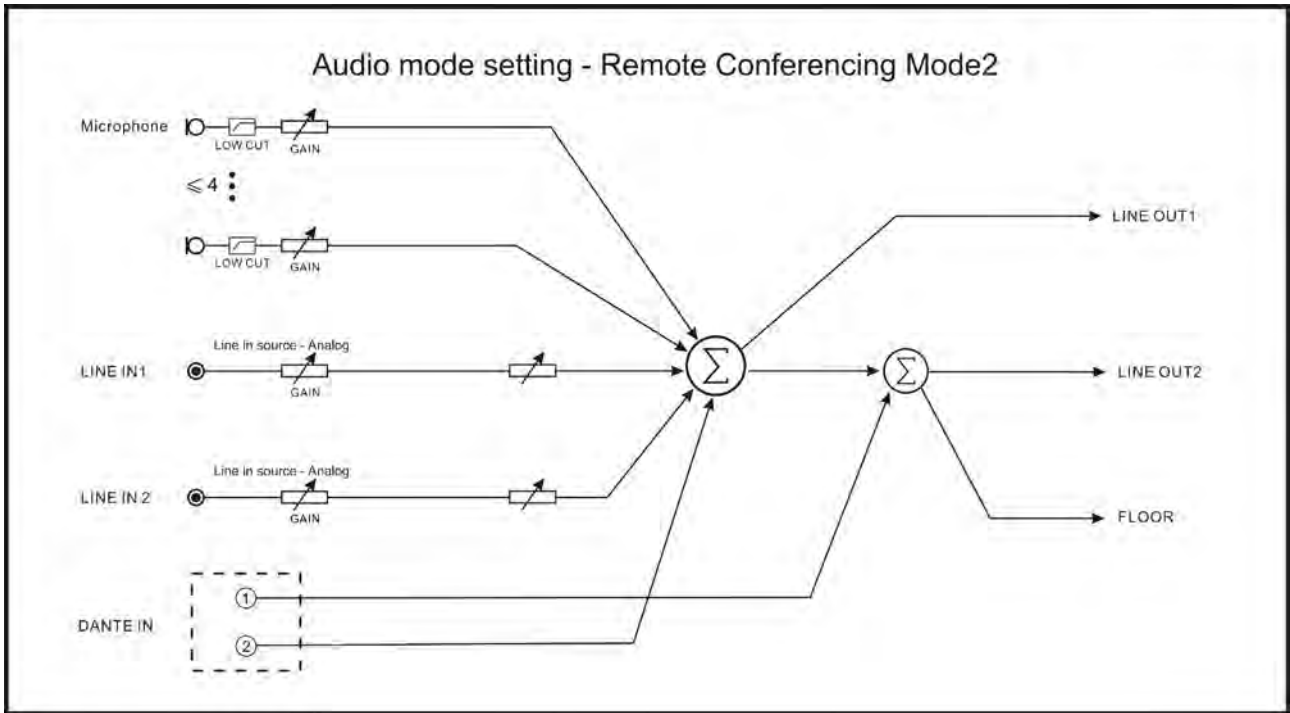


図 2.16 音声モード設定 - 遠隔会議モード2

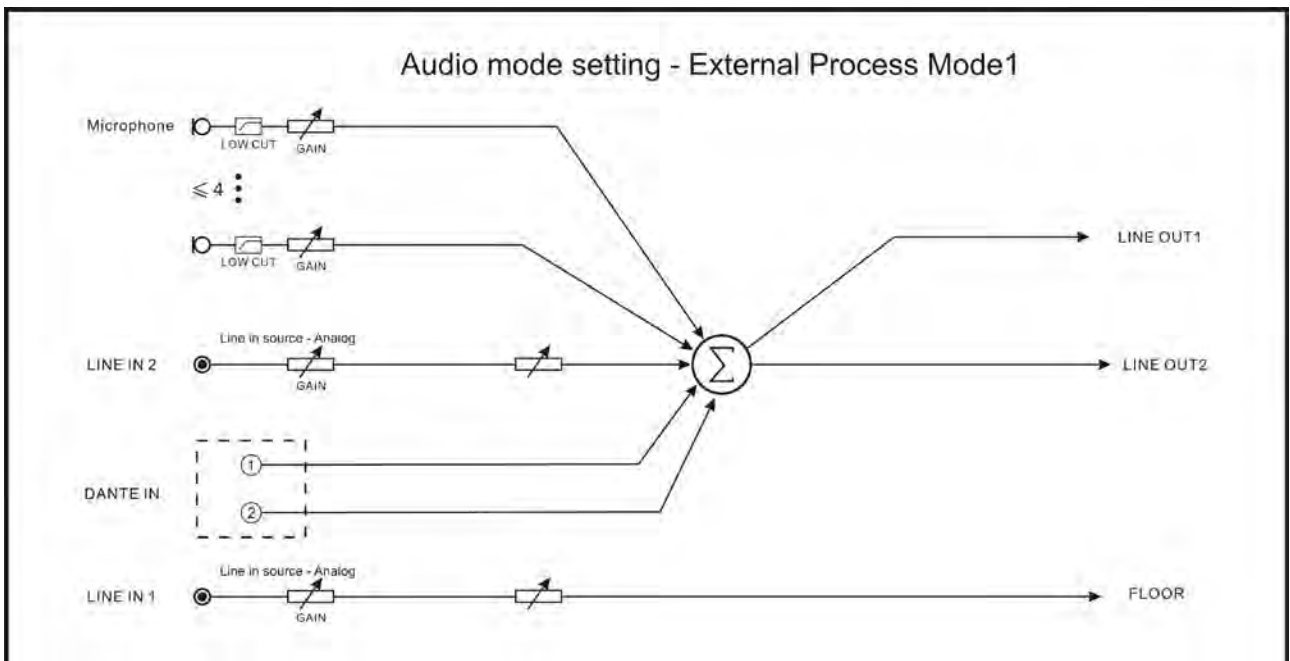


図 2.17 オーディオ・モード設定 - 外部処理・モード1

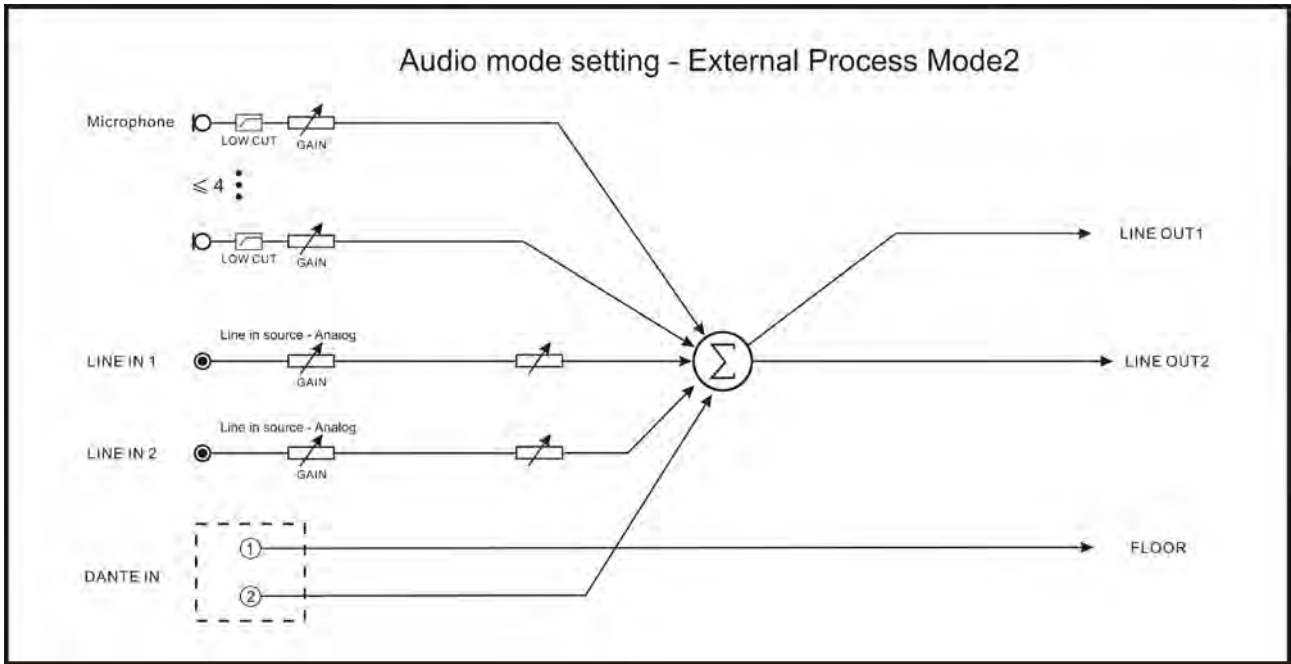
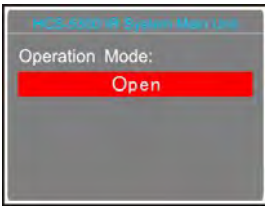


図 2.18 オーディオ・モード設定 - 外部プロセス・モード2

2.5.2 オペレーション

操作ノブを回して、マイクモードを「オープン」、「オーバーライド」、「ボイス」に切り替えます。



- 「オープン」：
VIP/議長ユニットを含む最大アクティブマイク数に達した場合、それ以上の参加者ユニットをアクティブにすることはできません。
- 「オーバーライド」
アクティブなマイクの最大数に達し、別の代表者ユニットがアクティブになった場合、先にスイッチされた代表者ユニットが自動的に先にオフになります（先入れ先出し）。アクティブなマイクの総数がシステム内で4つ未満の場合、VIP/議長ユニットを4つに達するまでアクティブにすることができ、その後、別の議長ユニットがアクティブになった場合、最初にオンになったユニットが自動的に最初にオフになります（主に参加者ユニットがオフになり、次にVIP/議長ユニットがオフになります）。
- 「ボイス」：
参加者が近距離でマイクに向かって話すと、マイクが作動します。あらかじめ設定されている最大アクティブ・マイク数に達した場合、他の参加者ユニットをアクティブにすることはできません。

2.5.3 アクティブ・マイク

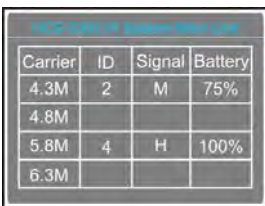
操作ノブを回して最大アクティブ数を選択し、操作ノブを押すと保存され、上位メニューに戻ります。



2.5.4 システム状況

操作ノブを回して "Carrier Using Status" を選択し、押して決定します。

各チャンネルの状態、アクティブなマイクとその電池の状態が表示されます。



Carrier	ID	Signal	Battery
4.3M	2	M	75%
4.8M			
5.8M	4	H	100%
6.3M			

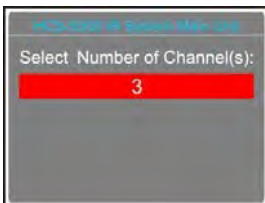
図の例では、ID「2」と「4」のIR無線会議ユニットが発言しており、そのキャリアは「4.3M」と「5.8M」（有線マイクのキャリアはWired）、信号強度は「M」（middle）と「H」（high）である。「L」は信号が弱く、「X」は信号を受信していないことを意味します。さらに2つのチャンネルが使用可能です。Mic.IR Strength "を "No "に設定すると、信号は0になります。

2.5.5 SI (同時通訳) 設定

SI Setting "サブメニューでは、以下のパラメータを設定する必要があります：

- ◆ チャンネル数
- ◆ チャンネルの言語
- ◆ ブース数
- ◆ ブース間のインターロック・モード
- ◆ ブースの言語
- ◆ フロアを使用中のSIチャンネルに分配
- ◆ 通訳ユニットのリアルタイム表示

a) チャンネル数の選択



操作ノブを回して0~7を切り替えます；

注：

☞ 有線会議ユニットが接続されている場合、最大チャンネル数は3です。

- ◆ 0 を選択した場合は、SI 機能がないことを表し、操作ノブを押して保存し、メインメニューに戻ります。
- ◆ 他の値が選択されている場合は、通訳チャンネル表しますので、操作ノブを押して手順 b)に進みます。

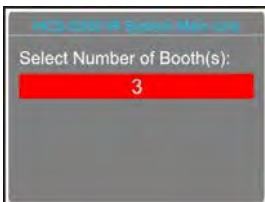
b) チャンネルの言語を選択



つまみを回して言語を選択しつまみを押して決定します。すべての言語を設定するには、この手順を繰り返します。

- ◆ メインメニューに戻るには "Exit" を選択
- ◆ Next を選択してステップc)に進みます

c) ブース数の選択



操作ノブを回して0~7を切り替えます。通常、1言語で1ブースとなります。

- ◆ ノブを押して保存し、メインメニューに戻ります；
- ◆ 他の値が選択されている場合は、通訳ブースの数量を表し、ノブを押して手順 d)に進みます。

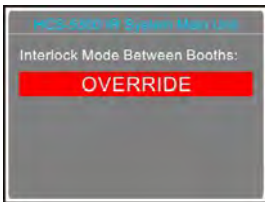
d). ブース間のインターロック・モード

ブース間のインターロック・モードを選択:

"**OVERRIDE**" (オーバーライド)

"**OVERRID-BC**" (オーバーライド-BC)

"**INTERLOCK**" (インターロック)



1). 操作ノブを回して、3つのインターロック切り替えます;

- 「INTERLOCK」モードは、2つのブースが同じチャンネルを使用することを防ぐモードです。他のブースの通訳ユニットが、他のブースの占有チャンネルをオーバーライドする場合、占有チャンネルの "マイクON"インジケータがコントロールパネル上で約5秒間点滅します。
- "OVERRIDE "モードは、他のブースの通訳ユニットが、同じチャンネルを供給しながら、他のブースの占有チャンネルをオーバーライドすることを可能にします。
- "OVERRIDE-BC "モードは、他のブースのA/B/Cチャンネルを他のブースのB/Cチャンネルにオーバーライドすることができるモードです。

2). 操作ノブを押して選択されたインターロックモードを確認し、手順 e)に進みます。

e) ブースの言語選択

通訳言語を分割して配信するため、各通訳ユニットにはA/B/Cチャンネルが用意されています。A/B/Cチャンネルの言語設定は、1ブース内の全通訳ユニットで統一されています。ブース番号の設定後、各ブースごとに出力チャンネルのA/B/C言語を設定するユーザーインターフェースが表示されます。



1). 操作ノブを回して b)で選択した言語の中から言語を選択し、押して決定します;

2). ブース 1 のチャンネル C 言語を「Enable (有効)」または「Disable (無効)」から選択します;

◆Cで "Enable "を選択した場合、操作ノブで B の言語を b)で選択した言語の中から選択し、押して決定します;

◆Cに "Disable "が選択されている場合、チャンネルBの言語を "Disable "または "Enable "から選択します;

- 「Disable "は、チャンネルBから言語を出力しないことを意味します;
- "Enable "はチャンネル B の表します。操作ノブを押して確定し、次のブースの設定に進みます;

3). 1)-2)を繰り返して、全ブースの出力チャンネルA/B/Cの言語を設定し、手順f)に進みます。

f) フロアを使用中のSIチャンネルに分配

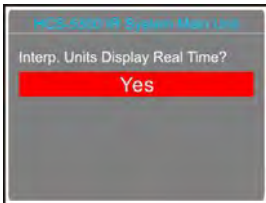
通訳チャンネルがない場合、自動的にフロアチャンネルに切り替わるようにするかどうかを設定します。



- 1). 操作ノブを回して "Yes" または "No" を選択します;
- 2). ノブを押して保存し、手順 g) に進みます。

g) 通訳ユニットリアルタイム表示

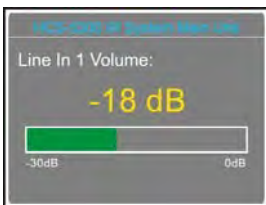
通訳ユニットのLCD画面にリアルタイムで表示するかどうかを選択します。



- 1). 操作ノブを回して "Yes" または "No" を選択します;
- 2). ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。

2.5.6 ライン・イン1設定

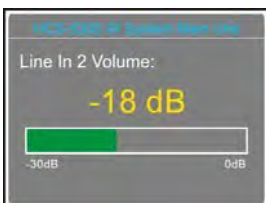
Line In 1の音量を調整: ミュート、-29 dB - 0 dB。



- a). 操作ノブを回して音量を調整します;
- b). ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。

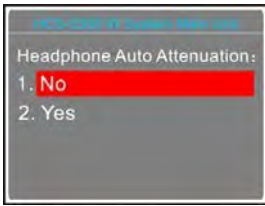
2.5.7 ライン・イン2設定

Line In 2の音量を調整: ミュート、-29 dB - 0 dB。



- a). 操作ノブを回して音量を調整します;
- b). ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。

2.5.8 ヘッドホン自動減衰

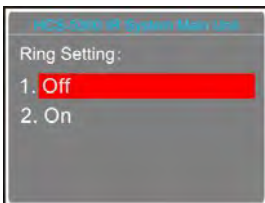


ヘッドホンが接続されている場合、マイク起動時にハウリングが発生することがあります。"Headphone Auto Att."機能は、フロア言語ハウリングを抑制するために使用します。有効にすると、ヘッドホンの音声信号は自動的に12dB減少します。

- a). 操作ノブを回して "Yes" または "No" を選択します;
- b). ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。

2.5.9 リング設定

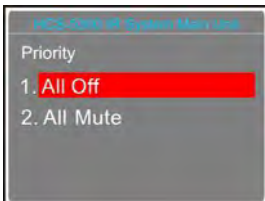
発話要求時、議長優先ボタン押下時、発話タイミング時に着信音のオン/オフを選択。



- a). 操作ノブを回して、リングのオン/オフを選択します;
- b). ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。

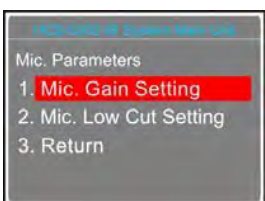
2.5.10 議長の優先

プライオリティには2つの優先モードがあります：「All Mute (全ミュート)」と「All Off (全停止)」です。



- a). 操作ノブを回して、"All Mute" と "All Off" の優先モードを選択します;
- b). ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。
 - 「All Mute」：議長が「Priority (優先)」ボタンを長押しすると、全てのアクティブなマイクが一時的にミュートされ、議長が「Priority」ボタンを離すと、一時的にミュートされていたマイクが再開されます。
 - 「All Off」：議長が "Priority" ボタンを押すと、全てのアクティブなマイクが停止します。

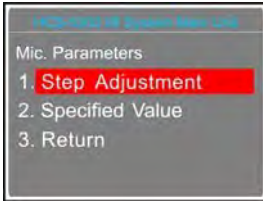
2.5.11 マイクパラメータ



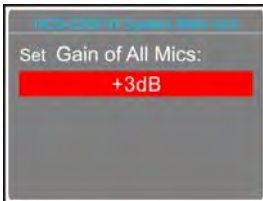
1. マイクゲイン設定



- a). 操作ノブを回して、"Set All Mic"または Set Active Mic(s) "を選択します；
- b). ノブを押して次のステップに進みます。

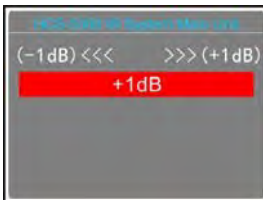


■ 指定された値



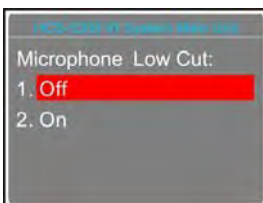
- a). 操作ノブを回して、全/アクティブマイクのゲインを調整します；
- b). ノブを押して保存します。

■ ステップ調整 (有線ユニット不可)



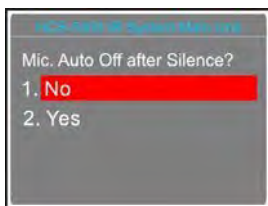
- a). 操作ノブを回すと、ゲインを1dB増減させることができます；
- b). ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。

2. マイクローカット設定



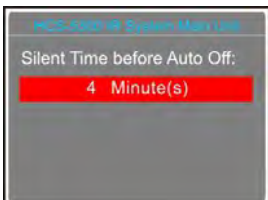
- a). 操作ノブを回して "On"または Off "を選択します；
- b). ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。

2.5.12 マイクオートオフ



操作ノブで、無音時間が続くと自動的にマイクを OFF にする機能の有効/無効を設定します。

- 「Yes」: 無音時間が経過すると自動的にマイクの電源が切れます:



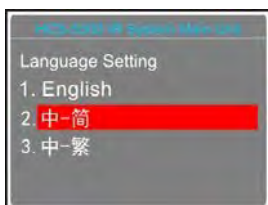
- 操作ノブで期間を分単位で設定します (範囲は1~59分) ;
- ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。

- 「No」: 無音時間が続いてもマイクのスイッチは切れず、上位メニューに戻る。

注:

🔊マイクオートオフ設定は有線マイクでは無効です。

2.5.13 言語



- 操作ノブを回して、言語を "中_簡"、"中_繁"、"英語" から切り替えます;
- ノブを押して確定し、上位メニューに戻ります。

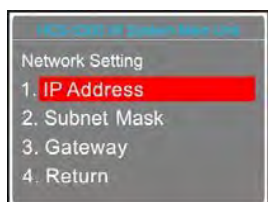
2.5.14 ネットワーク設定

「ネットワーク設定」には3つのサブメニューがあります:

→IPアドレス

→サブネットマスク

→ゲートウェイ



a) メインユニット固有の「IPアドレス」を設定する:

- 1) IPアドレスを選択し、操作ノブを押してIPアドレスインターフェイスの設定に進みます:



- 2) ノブを回して4つの切り替える;
- 3) ノブを押して選択した番号を編集します;
- 4) ノブを回して数値を調整します;
- 5) ノブを押して保存します;
- 6) Return (戻る) を選択し、上位メニューに戻る。

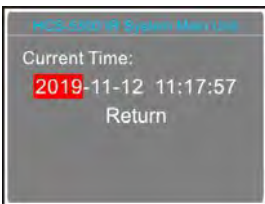
b) サブネットマスクとゲートウェイの設定

IPアドレスの設定と同じ。

注:

☞システムソフトウェアの「IPアドレス」「サブネットマスク」「ゲートウェイ」が上記メインユニット設定と一致していないと接続エラーとなります。

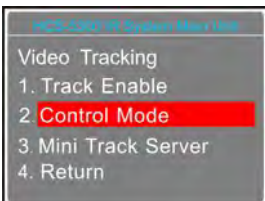
2.5.15 時間設定



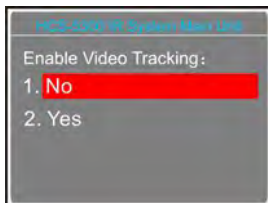
- a) ノブを回して4つの切り替える;
- b) ノブを押して選択した番号を編集します;
- c) ノブを回して数値を調整します;
- d) ノブを押して保存します;
- e) Return を選択し、上位メニューに戻る。

2.5.16 ビデオトラッキング

ビデオトラッキング設定には以下のメニューがあります: Track Enable (トラッキング有効化)、Control Mode (制御モード)、Mini Track Server (ミニトラックサーバー)。

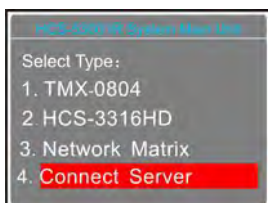


- 1) **トラッキング有効化**



- ・ ノブを回して "Yes"または "No"を選択します；
 - No "を選択すると、ビデオトラッキング機能は無効になります；
 - Yes "を選択すると、ビデオ・トラッキング機能が有効になり、さらなる設定が可能になります；

・ 制御モード



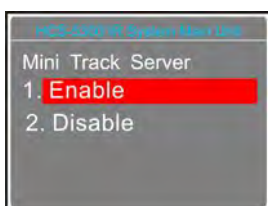
操作ノブを回して、現在のシステムに合わせて接続タイプ（TMX-0804、HCS-3316HD、Network Matrix、Connect Server）を選択します。制御モード変更後、操作ノブを押して設定を保存し、メインユニットを再起動すると有効になります。

- ネットワーク・マトリックス：「ネットワーク・マトリックス」モードを選択する場合、メインユニットとネットワーク・マトリックス間の通信を確立するために、ネットワーク・マトリックスのホストIPを現在のメインユニットのIPアドレスに設定する必要があります。
- サーバーを接続：「サーバーを接続」モードを選択した場合、さらにビデオ追跡サーバーのIPアドレスを設定する必要があります。

注:

- ☞HCS-5300Mシリーズのメインユニット（MVer: Ver.5.00.06.01以上）には、**ミニトラックサーバー**が内蔵されています。トラッキングサーバーとして使用する場合、サーバーIPアドレスは現在のメインユニットと同じになります；
- ☞ サーバーIPアドレスは、**ミニトラックサーバー**を搭載した別のデバイスのIPアドレスにすることもできます；
- ☞対応するビデオ・トラッキング・マトリックスも、本体と同じサーバーIPアドレスに設定する必要があります；
- ☞会議管理システムソフトウェア（DCS）で、デバイス管理インターフェイス：同じサーバーのIPアドレスを追加する必要があり、メインユニット、マトリックス、事前定義された位置の設定などは、統一された管理です。
詳細は「TAIDEN Conference Management System User's Manual」を参照してください。

3) ミニトラックサーバー

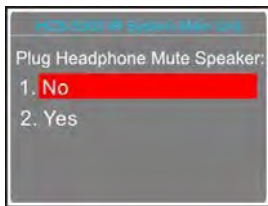


操作ノブを回して "Enable"または "Disable"を選択し、設定変更後にメインユニットを再起動すると有効になります。

- Enableを選択すると、内蔵の**Mini Track Server**（MVer: バージョン5.00.06.01以上）が有効になります。
現行のHCS-5300Mシリーズをメインユニットとし、**ミニトラックサーバー**として使用します；
- HCS-5300Mシリーズ内蔵されている**Mini Track Server**を無効にする場合はDisableを選択します。

2.5.17 スピーカーのミュート

ラウドスピーカーとヘッドホン間の作業モードを設定します。



a) 操作ノブを回して "Yes" または "No" を選択します;

•Yes を選択した場合、ヘッドホンを接続するとラウドスピーカーはミュートされます

•No を選択した場合、ラウドスピーカーとヘッドフォンは動作し、ラウドスピーカーはフロアチャンネルのみを、ヘッドフォンはフロアチャンネルとSIチャンネルを出力します

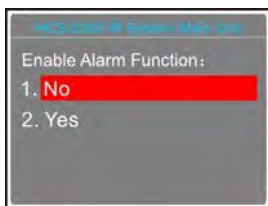
注:

☞No を選択しても、HCS-5301/80、HCS-5380DDS、HCS-5391DDS、HCS-4338NDDS/50の2台のヘッドホンを接続すると、スピーカはミュートされます。

b) ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。

2.5.18 アラーム設定

アラーム有効/無効。

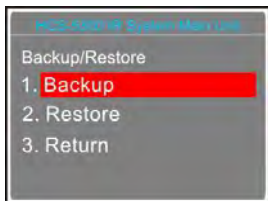


a) 操作ノブを回して "Yes" または "No" を選択します;

b) ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。

2.5.19 バックアップ/リストア

システムパラメータは、フロントパネルのUSBポートからバックアップまたはリストアできます。USBディスクが正しく接続されていることを確認してください。そうしないと、"Please insert the USB disk" (USBディスクを挿入してください) と表示されます。



a). 操作ノブを回して "Backup" または "Restore" を選択します;

•Backup を選択すると、システムパラメータをバックアップすることができます

•Restore を選択すると、システムパラメータを復元することができます

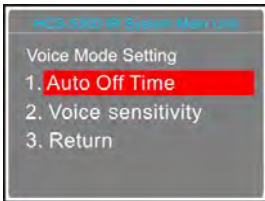
b). ノブを押して確定し、選択したメニュー移動します;

c). バックアップ後に上位メニューに戻るか、復元後にメインユニットを再起動してパラメータを保存する。

2.5.20 音声モード設定

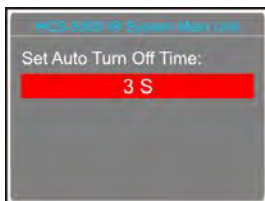
「音声モード設定」には2つのサブメニューがあります:

「Auto Off Time (オートオフ時間設定)」 「Voice sensitivity (音声感度)」



■ オートオフ時間設定

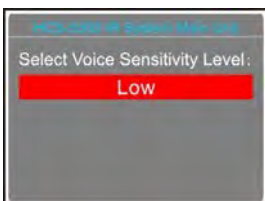
a). "3s", "5s", "10s" のいずれかを選択します:



b). ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。

■ 声の感度

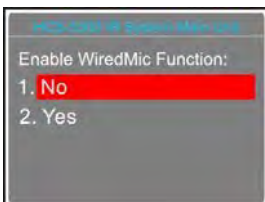
a). 操作ノブを回して "Voice Sensitivity" を選択し、ノブを押して設定画面に入ります。ノブを回して "High", "Middle", "Low" を選択します:



b). ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。

2.5.21 有線マイク機能

有線マイク有効/無効。



a) 操作ノブを回して "Yes" または "No" を選択します;

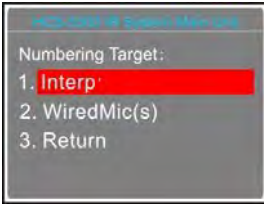
b) ノブを押して保存し、メインユニットを再起動して有効にします。

注:

☞有線マイクに接続する場合、システムは1+3 S.I.チャンネルのみをサポートします。

2.5.22 番号

システムを初めて使用する場合、または有線会議ユニットを追加または交換する場合は、すべての有線ユニットに番号を付ける必要があります。



■ 有線マイク

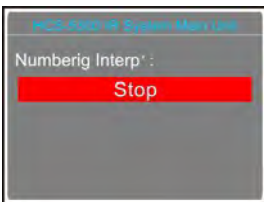
- a). WiredMic(s)と入力すると、接続されている有線ユニットのLEDインジケータが点滅します；



- b). 配線されたキーを1つずつ押して番号を付けると、ボタン指示ランプが消灯します；
c). すべてのユニットに番号が付けられたら、CMUを再起動して番号情報を更新します。

■ 通訳ユニット（機能予約、HCS-4385U/50のみ）

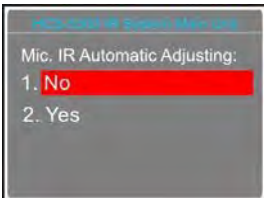
- a). Interp'を入力すると、すべてのナンバリング・ステータスに入り、「B」インジケータ・ライトが点灯し、メイン・ユニットのLCDは以下のように表示される：



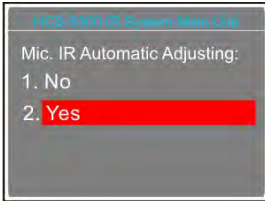
- b). プライマリ・ノブを回して番号（1～6）を選択し、'B'ボタンを押して確定します；
c). ノブを押すとナンバリングが停止し、上位メニューに戻ります。

2.5.23 マイクIR強度

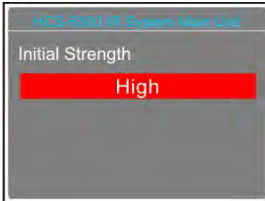
複数の発言者が同時にスピーチを行う場合、マイクとトランシーバー間の距離が異なるため、メインユニットが受信する音声信号が断続的になり、チャンネル間の干渉が発生することがあります。そこで、「Mic.IR Automatic adjusting」を有効にすると、干渉が大幅に減少します。



- a) 操作ノブを回して "Yes" または "No" を選択します；
- Noを選択すると、マイクの自動調整機能が無効になります。IR信号の強さを設定します。次にステップb)に入り、初期強度を設定します。このモードでは、信号強度は設定レベルに固定され、環境の変化には適応しません。
 - Yesを選択すると、マイクの自動調整機能が有効になります。IR信号の強さを設定します。次にステップb)に入り、初期強度を設定します。このモードでは、システムは初期強度を基準として、環境条件に応じて送信信号強度を動的に調整します。



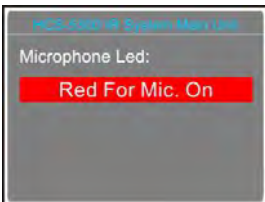
b) ツマミを回すと、下図のように「弱」、「中」、「強」、「強」の4段階から、実際の会議室の環境に合わせて適切な初期強度を選択できます；



c) ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。

2.5.24 マイクLED設定

マイクの電源を入れた時のインジケータランプの色と、「ON/OFF」ボタンの色を設定します。



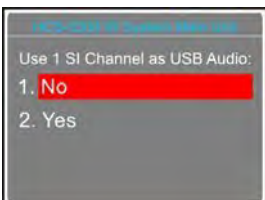
a) 操作ノブを回して、Green For Mic.またはRed For Mic.オンを選択します；

オプション	状態	マイク	ボタン
マイクオン時：グリーン	発言中	グリーン	グリーン
	発言申請	レッド	レッド
	声 (喋らない)	オフ	レッド
マイクオン時：レッド	発言中	レッド	レッド
	発言申請	グリーン	グリーン
	声 (喋らない)	オフ	グリーン

b) ノブを押して保存します。

2.5.25 USBオーディオ設定

USBオーディオ機能の有効/無効。USBオーディオは同時通訳チャンネルを1つ使用します。



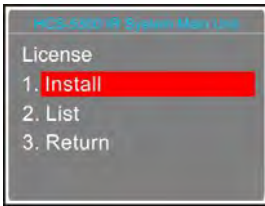
a) 操作ノブを回して "Yes"または "No"を選択します；

b) ノブを押して保存します。

c) メインユニットを再起動して有効にする。

2.5.26 ライセンス

Web Server プロセスをインストールし、メインユニットのライセンス一覧を表示します。



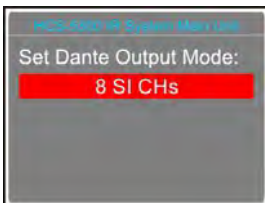
■ 「インストール」を選択する:



- U-disk を挿入すると、Web Server プロセスが自動的にインストールされます。インストールに成功するとLCDに "Success "と表示されます。
 - メインユニットを再起動し、Web サーバーを有効にします。
- 「リスト」を選択した場合: ライセンスのリストが表示されます。

2.5.27 Danteオーディオ・モード

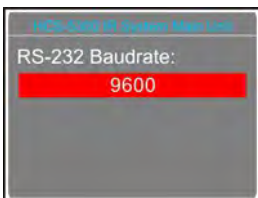
Danteの出力モードを設定する。



- 操作ノブを回して出力選択します;
 - **8 SI CHs**: Danteは0~7つのSI CHの信号を出力します;
 - **LINE OUT+ 6 SI CHs**: Dante は LINE OUT1+LINE OUT2+0 の信号を 5 つの SI チャンネルに出力します;
- ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。

2.5.28 RS-232ボーレート

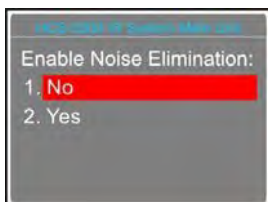
RS-232のボーレートを設定する。



- 操作ノブを回して "9600 "または "115200 "を選択します;
- ノブを押して保存し、戻ります。

2.5.29 ノイズ除去

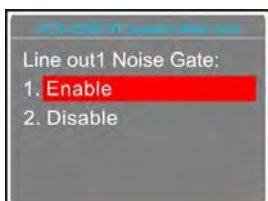
現在のマイクのノイズ除去機能の有効/無効設定。



- a). 操作ノブを回して "No" または "Yes" を選択します;
- b). ノブを押して確定し、上位メニューに戻ります。

2.5.30 ラインアウト1ノイズゲート

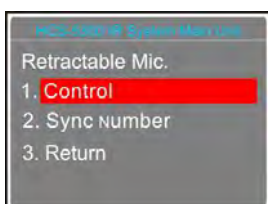
ラインアウト1ノイズゲートの有効/無効。



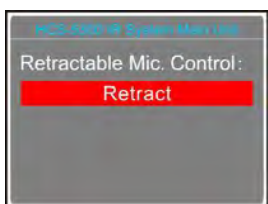
- a) 操作ノブを回して Enable または Disable を選択します;
- b) ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。

2.5.31 格納式マイク（機能予約、HCS-4851/50シリーズのアレイマイクのみ）

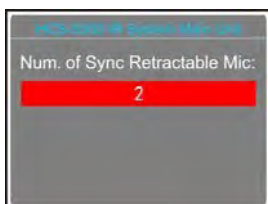
HCS-4851/50アレイマイクを制御（下降/上昇）します。



- a). 操作ノブを回して、"Control" または "Sync Number" を選択します;
 - "Control" を選択した場合は、"MENU" ボタンでステップb)に進みます;
 - "Sync Number" を選択した場合は、"MENU" ボタンで手順c)に進みます;



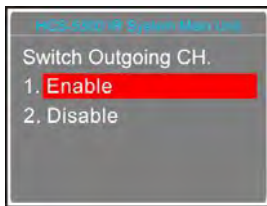
- b). 操作ノブを回して「下降」または「上昇」を選択します;



- c). 操作ノブを回してシンク番号を 1~4 の間で設定します;
- d). ノブを押して確定し、上位メニューに戻ります。

2.5.32 通訳出力

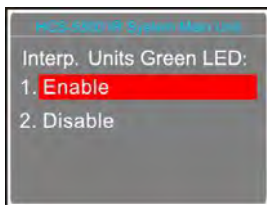
通訳ユニット HCS-8385N/50 のマイクが使用可能な場合に、出力チャンネルを切り替えるかどうかを設定します。



- a). 操作ノブを回して "Enable "または Disable "を選択します；
- b). ノブを押して確定し、上位メニューに戻ります。

2.5.33 通訳ユニット LED

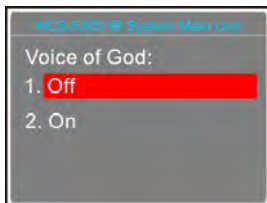
通訳ユニットの緑色 LED の有効/無効を切り替えます。



- a). 操作ノブを回して "Enable "または Disable "を選択します；
- b). ノブを押して確定し、上位メニューに戻ります。

2.5.34 天の声設定

C ボタンで通訳者が話したときに、通訳の音声を07 S.I.チャンネルに出力するかしないかを設定できます。



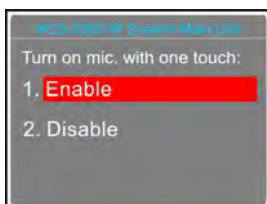
- a). 操作ノブを回して「ON」また「OFF」を選択します。ONの設定ではチャンネル C は出力されません；
- b). ノブを押して確定し、上位メニューに戻ります。

注:

☎ USB入力と04キャリアの有線ユニットはミュートになります。

2.5.35 ワンタッチ起動

HCS-5380C/D会議ユニットの電源オンと同時にマイクをオンにするかどうかを設定します。

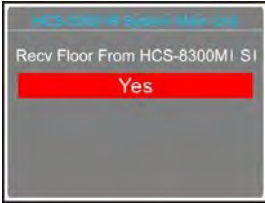


- a). 操作ノブを回して "Enable "または Disable "を選択します；

- b). ノブを押して確定し、上位メニューに戻ります;
- c). 本機を再起動して設定を有効にします。

2.5.36 MI S1からのフロア受信

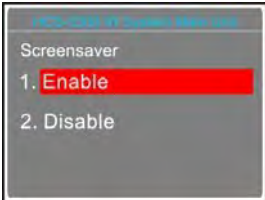
HCS-8300MIと接続した際、HCS-8300MIのS.1からフロア受信するかしないかを設定します。



- a) 操作ノブを回して "Yes"または "No"を選択します;
- b) ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。

2.5.37 スクリーンセーバー

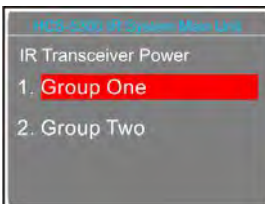
スクリーンセーバーを設定すると、3分間操作がない場合、メインユニットはスクリーンセーバー状態になります。



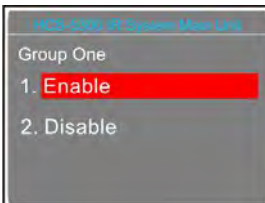
- a) 操作ノブを回して "Enable"または "Disable"を選択します;
- b) ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。

2.5.38 IRトランシーバー電源

グループごとに高周波ポートの電源を切り替える（グループ1：高周波1～3、グループ2：高周波4～6）：



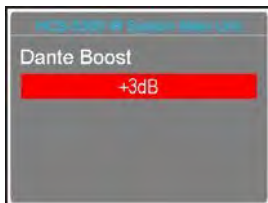
- a) 操作ノブを回して、"Group One"または "Group Two"を選択します;



- b) 操作ノブを回して "Enable"または "Disable"を選択します。設定はすぐに有効になります。
- c) ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。

2.5.39 Dante Boost

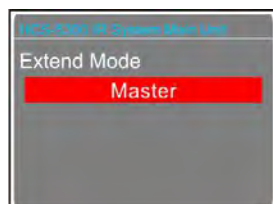
Dante Boostを調整： 0 dB - +20 dB。



- a). 操作ノブを回してダンテ・ブーストを調整する;
- b). ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。

2.5.40 エクステンド・モード

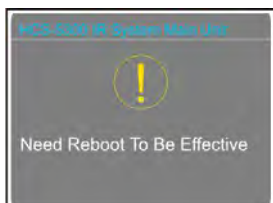
2~4つの会議室を1つの会議室として使用する場合は、HCS-5300M/80Aをマスター（親）モード、他のメインユニットをスレーブ（子）モードとして設定します。




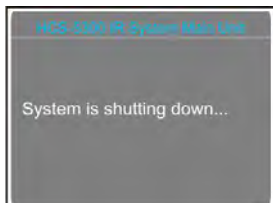
- a). 操作ノブを回して、エクステンドモードを "マスター" とスレーブ "から選択します:
 - "Master" を選択した場合は、操作ノブを押して保存し、手順 b)に進みます;
 - "Slave" を選択した場合は、操作ノブを押して保存し、手順 c)に進みます;
- b). 全 HCS-5300M/80A の ID、IP アドレス情報を表示します;

ID	IP Address
1	192.168.20.181
2	192.168.20.182
3	192.168.20.183

- c). マスターHCS-5300M/80AのIPアドレスを設定します:
 - 1). ノブを回して4つの切り替える;
 - 2). ノブを押して選択した番号を編集します;
 - 3). ノブを回して数値を調整します;
 - 4). ノブを押して保存します;
- d). Return "を選択してつまみを押し、再度つまみを押しして本再起動を決定します;



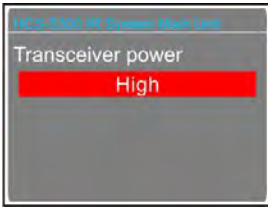
- e). System is shutting ... "と表示され、スタンバイキー" "を押して電源を再投入する。



2.5.41 トランシーバー設定

IR信号が会場カバーするように、トランシーバーのパワーを調整してください:

- a). 操作ノブを回して "Transceiver power "を選択し、操作ノブを押して設定インターフェイスに入り、操作ノブを回してLow、Middle、High、Strongの4段階の中からパワーを調整します:

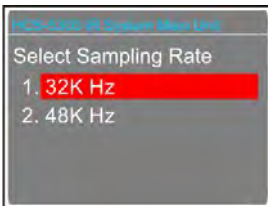


- b). ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。

2.5.42 サンプリングレート設定

サンプリングレートを設定する:

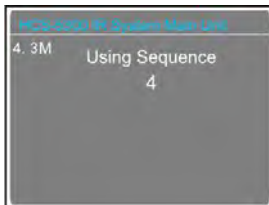
- a). 操作ノブを回して "32K Hz "または 48K Hz "を選択します;



- b). ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。

2.5.43 キャリアシーケンス

4キャリアのシーケンス順で設定: 4.3 MHz、4.8 MHz、5.8 MHz、6.3 MHz:



- a). 最初に4.3MHzのシーケンスを設定します。操作ノブを回して "1"、"2"、"3"、"4"を選択します;
- b). 操作ノブを押すと、現在のキャリアシーケンスが確定し、次のキャリアシーケンス設定インターフェイスにジャンプします;
- c). ステップa)とb)を繰り返し、4.3MHz/4.8MHz/5.8MHz/6.3MHzの使用シーケンスを順番に設定します;
- d). ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。

2.5.44 情報

CMUの情報には、下図のようにファームウェアのバージョン、会社情報、シリーズ番号が含まれます。



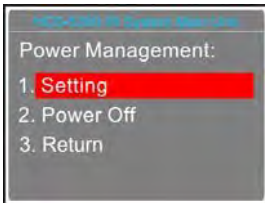
2.5.45 Dante情報

Danteの情報は以下の通りです：下図のように、Danteバージョン、デバイスバージョン、デバイス名が表示されます。



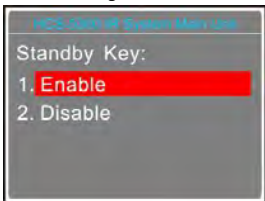
2.5.46 電源管理

スタンバイボタンを長押しすると、ような電源管理インターフェイスに入ります：



a). 操作ノブを回して、"Setting"、"Power Off"、"Return"を選択します；

- ◆ **Power Off** を選択すると、メインユニットがスタンバイモードに切り替わります
- ◆ **Return** を選択すると、メインユニットは初期インターフェースに戻ります
- ◆ **Setting** を選択した場合は、スタンバイキーを有効にするか選択します



b). 操作ノブを回して "Disable" または "Enable" を選択します；

- ◆ **Enable** "を選択した場合は、"POWER"スイッチとスタンバイ・キーから電源を入れる；
- ◆ **Disable** "を選択した場合は、"POWER"スイッチから直接電源を入れます；

c). 操作ノブを押して保存し、上位メニューに戻ります。

注：

- ☞ メインユニットの電源を切るときは、スタンバイキーを長押しして電源管理インターフェイスに入り、「電源オフ」を選択し、操作ノブを押して確定してください。背面のスイッチボタンで直接シャットダウンしないでください。

2.6 USBオーディオ

HCS-5300M/AはUSB Audio (1ch, 16bit, 32kHz) を内蔵しており、本体の "USB Audio Setting" を有効にすると、USBケーブル (必要ソフトウェア: WindowsXP以上) でパソコンと接続し、デジタルオーディオの入出力が可能です。ここではWin7を例に、USBオーディオの機能と動作を紹介します。

2.6.1 USBオーディオのインストール

HCS-5300M/Aメインユニットをコンピュータに接続すると、デフォルトのオーディオデバイスの代わりにHCS-5300M USB Audioが自動的に検出され、起動します。HCS-5300M USB Audioの情報は、下図のように「デバイスマネージャー-サウンド、ビデオおよびゲームコントローラー」から確認できます:

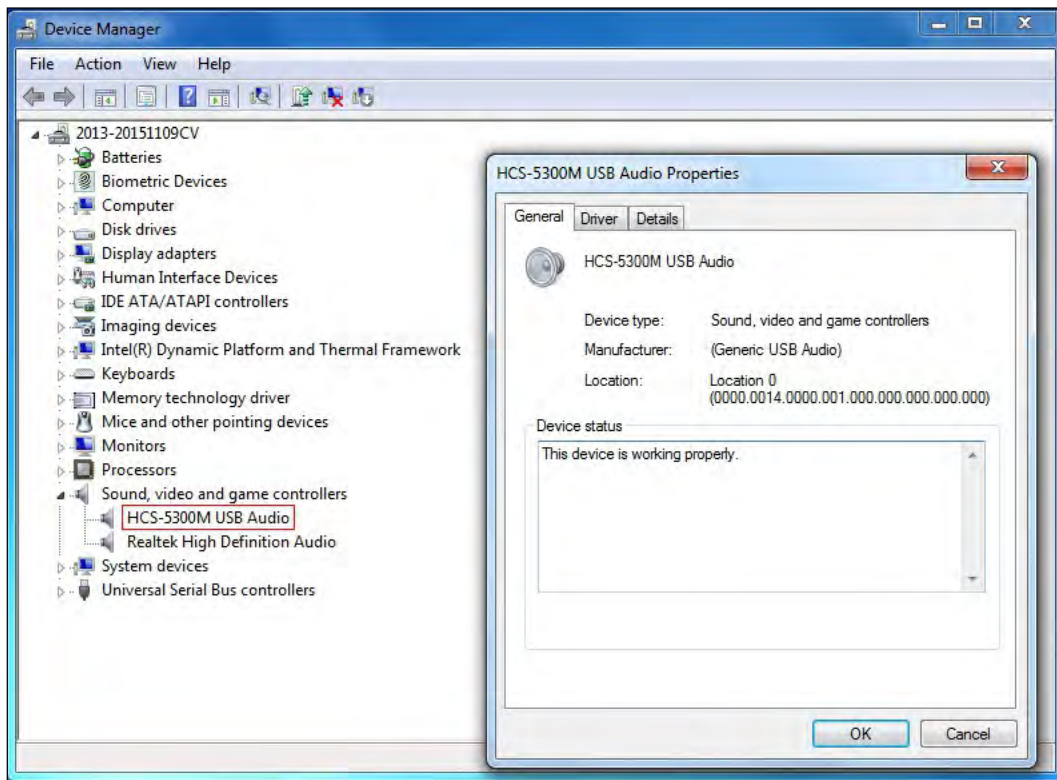


図 2.19 USB サウンドカードの情報

2.6.2 デジタル音声入力

HCS-5300M/Aメインユニットをパソコンに接続すると、システム内に接続された会議ユニットがデジタル音声入力用のマイクとなります。録音ソフトやレコーダー、Skype、QQなどのサードパーティ製通信ソフトを使用することで、録音、遠隔指示、遠隔通信などの機能を実現できます。

HCS-5300M USB Audioを初めて使用する際は、適切な音量に調整し、テストしてください。調整方法：コントロールパネル-サウンド（またはタスクバーの音量アイコンを右クリックし、サウンドを選択）を開き、マイク（HCS-5300M USB）を選択し、録音ダイアログボックスで設定を変更します。下図のようになります：

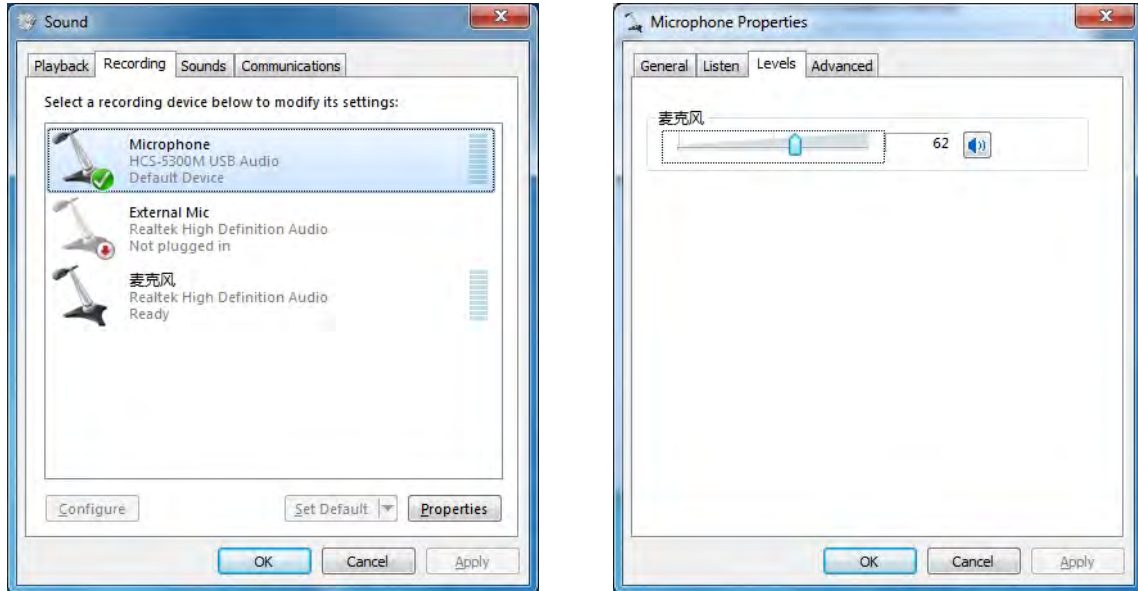


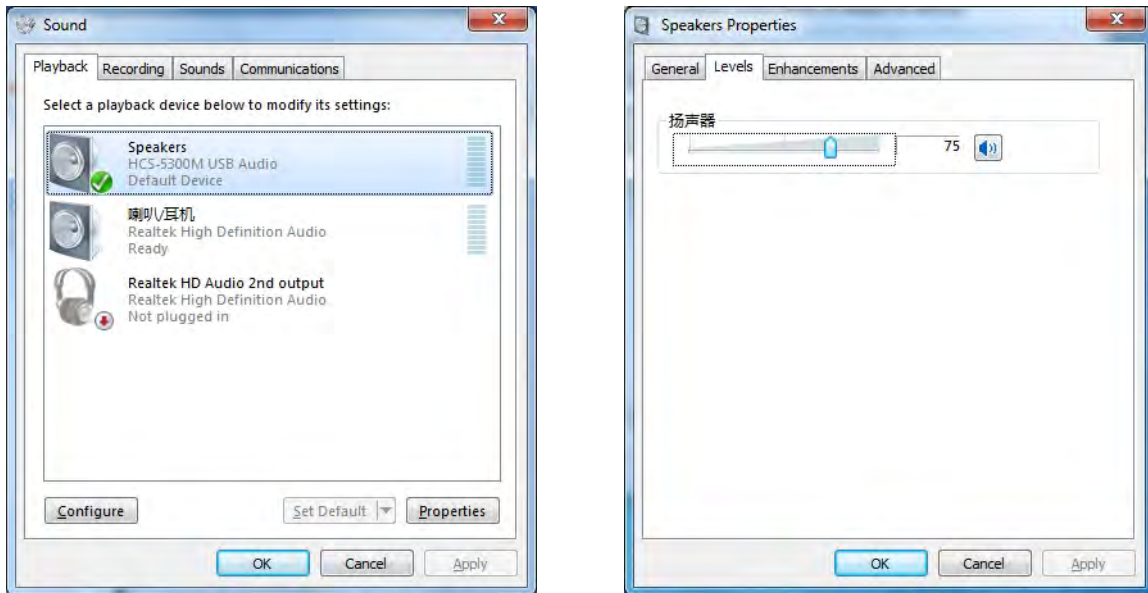
図 2.20 マイクの音量を調整する

注:

- ☞ ハウリングを避けるため、メインユニットの出力フロア音声（PCの音声を除く）のみが録音されます；
- ☞ 音量が大きすぎると歪みが発生する可能性があるため、必要に応じて録音・再生で適切な音量を確認する；
- ☞ MP3のような圧縮フォーマットで録音する場合、適切でないサンプリングレートや解像度を選択すると音質に影響が出ることがありますので、サンプリングレートは32kHzまたはその倍数、解像度は16ビットを選択することをお勧めします；
- ☞ HCS-5300M USB Audioを現在の録音または通信デバイスとして設定してください。通常、HCS-5300M USB Audioはコンピューターに接続すると自動的に起動し、デフォルトのオーディオ・デバイスに置き換わります。ただし、録音時に問題が発生する場合はオーディオ・デバイスの選択が正しくない可能性があります。ような場合は、HCS-5300M USB Audioを優先デバイスとして手動で選択してください。

2.6.3 デジタル音声出力

HCS-5300M/Aメインユニットをパソコンに接続してデジタル音声出力が可能です。HCS-5300M UBS Audioを初めて使用する際は、適切な音量に調整し、テストしてください。調整方法：コントロールパネル-サウンド（またはタスクバーの音量アイコンを右クリックしてサウンドを選択）を開き、スピーカー（HCS-5300M UBS Audio）を選択し、下図のように再生ダイアログボックスで設定を変更します：



注： 図 2.21 再生音量の調整

☞HCS-5300M USB Audioを現在の再生デバイスとして設定してください。通常、HCS-5300M USB Audioはコンピューターに接続されると自動的に起動し、デフォルトのオーディオ・デバイスに置き換わります。ただし、再生に問題がある場合は、オーディオ・デバイスの選択が正しくない可能性があります。このような場合は、手動でHCS-5300M USB Audioを優先デバイスとして選択してください。例えば、Media Playerでサウンドカードの選択を設定するには、以下の手順に従ってください：

- ステップ1. メディアプレーヤーを開く。
- ステップ2. 「オプション」メニューに移動する。
- ステップ3. 「デバイス」を選択し、HCS-5300M USB Audioをアクティブスピーカーとして設定します。

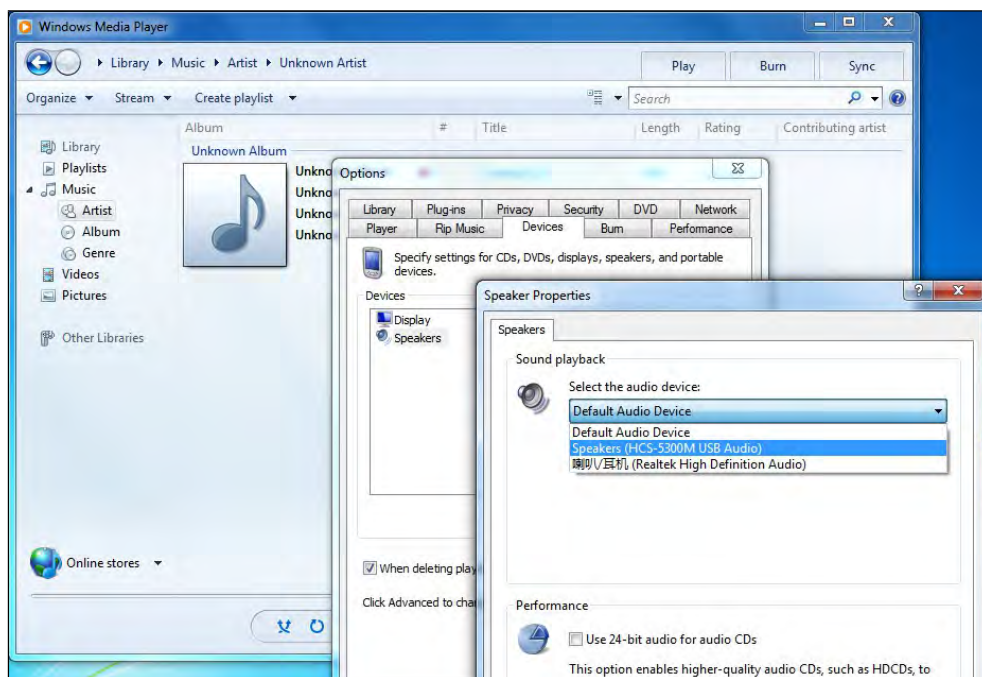


図 2.22 オーディオ・デバイスの選択

2.7 ウェブ制御ソフトウェア

対応機種：HCS-5300MA/80A、HCS-5300MB/80A、HCS-5300MC/80A、動作環境：Firefox29.0、Google25.0、IE10以上のブラウザ。

2.7.1 ログインと終了

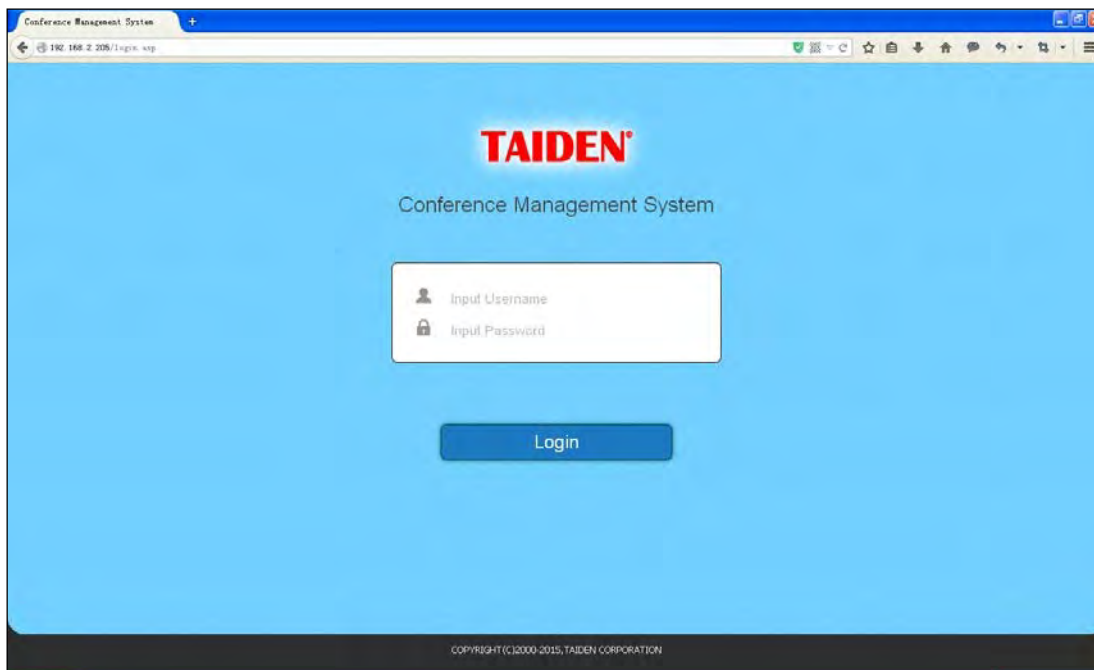


図 2.23 ログイン

注:

メインユニットに Web サーバーへのアクセス権限があることを確認してください。アクセス権限が無い場合、下図のような注釈インターフェイスが表示され、"Demo"ボタンを押すと Web サーバーの会議管理機能が表示されます:

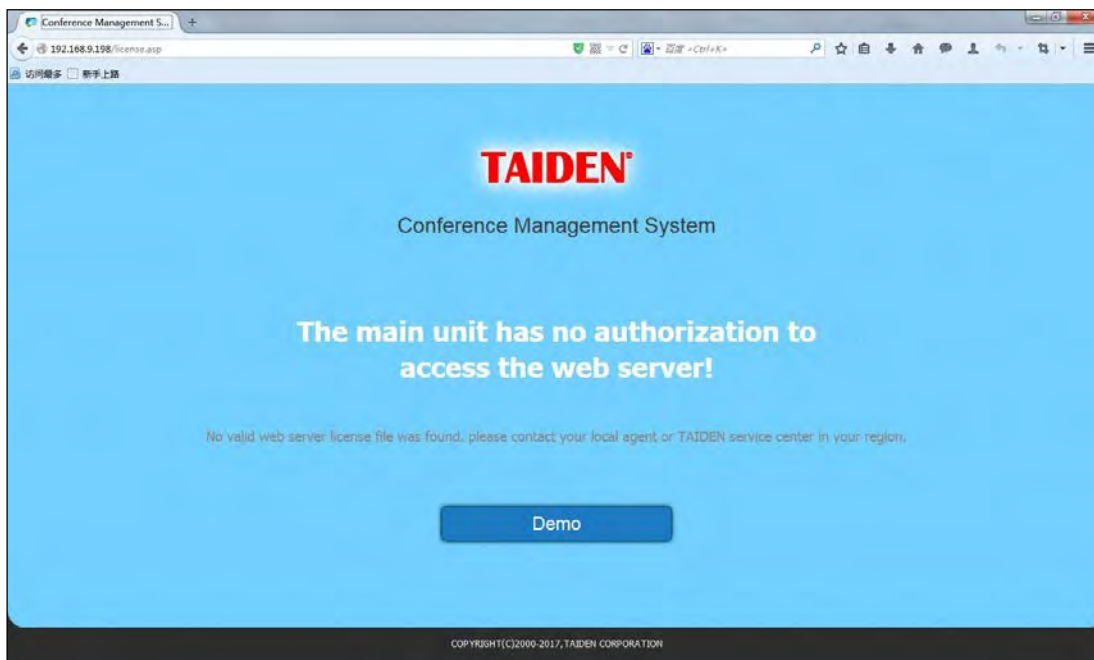


図 2.24 認証がない

ユーザー名とパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックすると自動的に会議管理システムのインターフェイスに入ります。

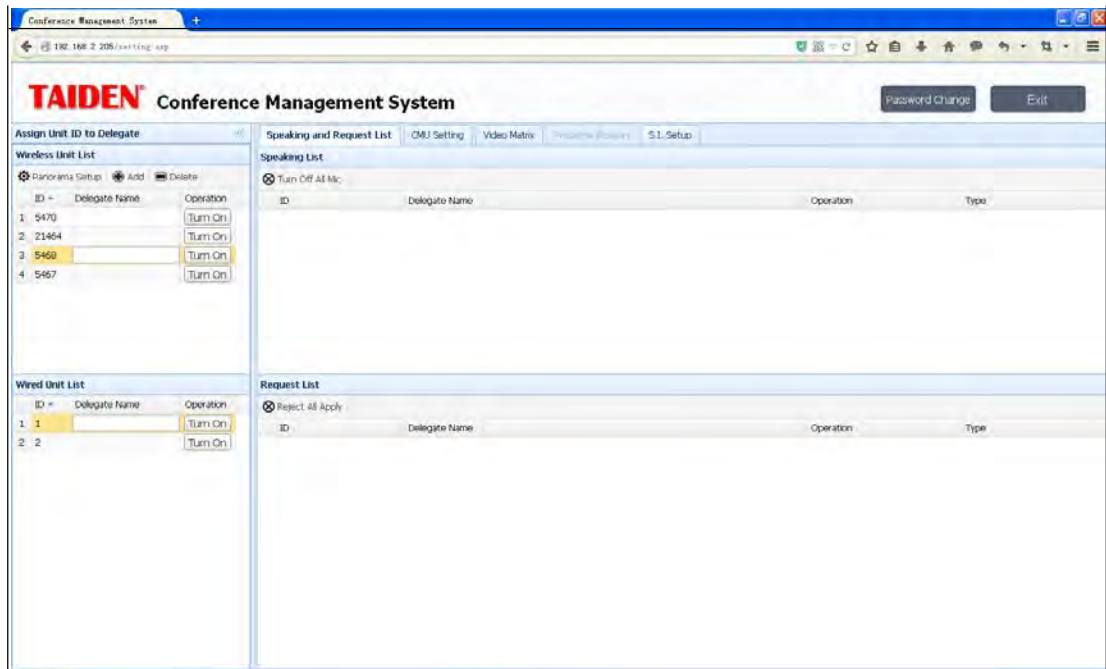


図2.25 会議管理システム インターフェースの右上に2つのボタンがある：

- **パスワード変更:** このボタンをクリックすると、以下のダイアログボックスが表示されます：

Password Change	
Old Password:	<input type="text"/>
New Password:	<input type="text"/>
Password Confirm:	<input type="text"/>
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="Cancel"/>	

図 2.26 パスワードの変更

「旧パスワード」「新パスワード」「パスワード確認」を入力し、「OK」ボタンをクリックするとパスワードが変更されます。

注:

パスワードは、最大20数字またはアルファベット（大文字と小文字を区別します）のシーケンスにのみ対応しています。

- **終了:** 会議管理を終了します。

2.7.2 会議運営

2.7.2.1 参加者にユニットIDを割り当てる

システム内の全接続ユニットのIDを一覧表示します。ユーザーはそれらを参加者に割り当てたり、マイクを開いたり、カメラのプリセットポジションを設定したりすることができます。

インターフェースは下図の通りです：

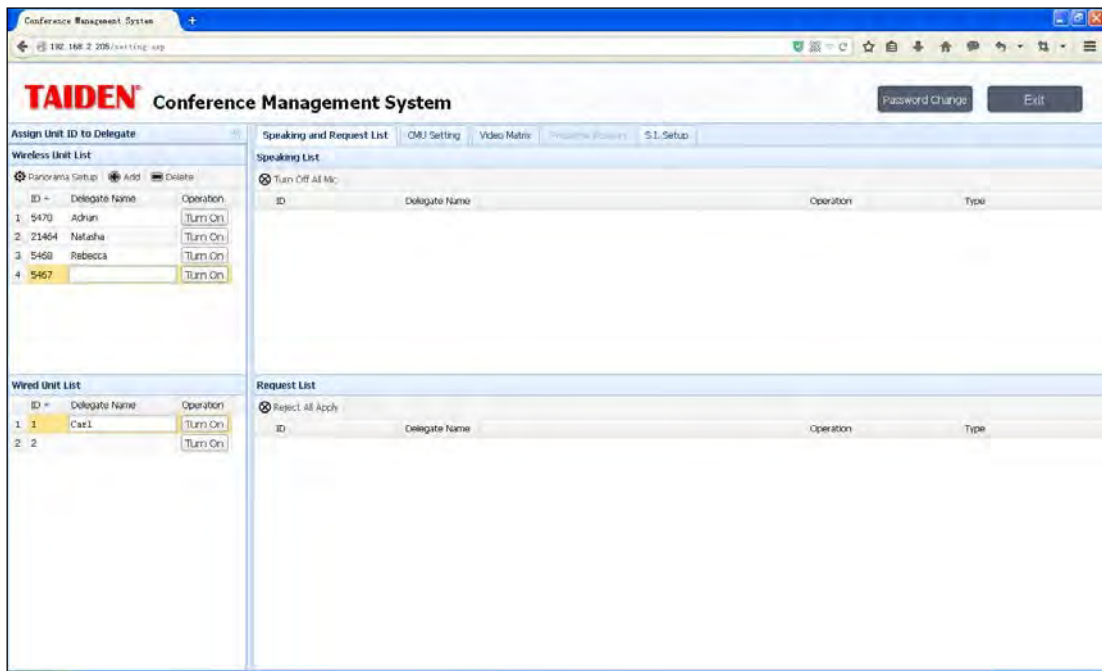


図 2.27 参加者にユニット ID を割り当てる

- ID: 全てのマイクのID。三角形のアイコンをクリックすると、昇順または降順でリストアップできます；
- 参加者名: ダブルクリックし、参加者にユニットを割り当てるための名前（最大128文字）を入力します；
- 操作: マイクをオンにする：
「Turn On」ボタンをクリックするとマイクが開きます；
- パノラマ設定: パノラマを設定します（2.7.2.5参照）；
- 追加: 無線会議ユニットは、最初にシステムに接続されたとき、または削除された後、手動で「無線ユニットリスト」に追加する必要があります。このボタンをクリックすると、以下のダイアログボックスが表示されます：



図 2.28 会議ユニットの追加

シングル "または "From...To..." を選択し、ID番号を入力し、ユニットタイプ（シングルマイクまたはダブルマイク）を選択し、最後に "Add" ボタンをクリックします。最大200台の会議ユニットを追加でき、その情報は自動的にリストに表示されます。

"Delete All": リスト内の全てのワイヤレスユニットを削除します。

注:

有線会議ユニットは、接続されると自動的にリストに追加されます。

- 削除: 選択した無線会議ユニットを削除します。

注:

メインユニットメニューの「ワイヤードマイク機能設定」が「いいえ」の場合、有線会議ユニットは自動的に削除されます。

2.7.2.2 発言・リクエストリスト

発言・リクエストリストには、有効なマイクとリクエストされた情報が表示されます。ID、参加者名、カメラコントロール、ユニットタイプが含まれます。

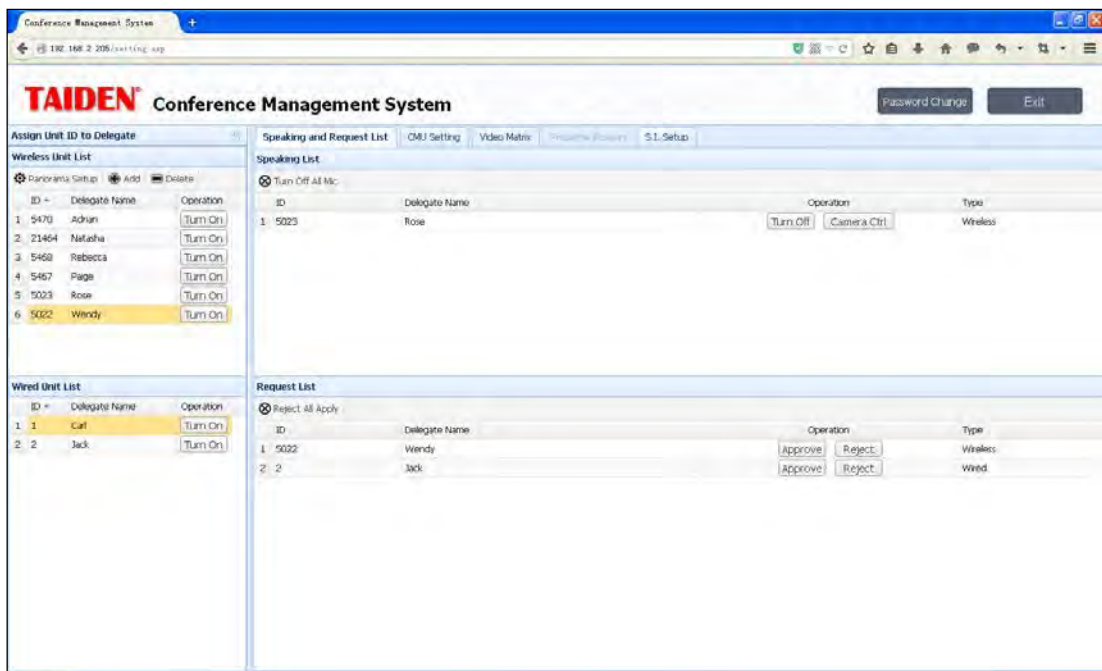


図 2.29 発言とリクエスト・リスト

- **Turn Off All Mic.:** 発言リストにある全てのマイクをオフにする
- **Turn Off:** 選択したマイクをオフにします
- **Camera Ctrl:** このボタンをクリックし、右側でカメラのプリセットポジションを設定します (2.7.2.5参照)
- **Type:** 会議ユニットのタイプを表示します (有線会議ユニット、無線会議ユニットを含む)
- **Reject All Apply:** リストにあるすべてのリクエストを拒否する
- **Approve:** クリックすると、そのマイクがアクティブになり、その情報が発言リストに表示されます
- **Reject:** 選択されたユニットの要求を拒否します

2.7.2.3 CMU設定

CMU設定には、オペレーションモード、アクティブマイク、ラウドスピーカーボリュームが含まれます。CMU設定のインターフェースは下図の通りです：

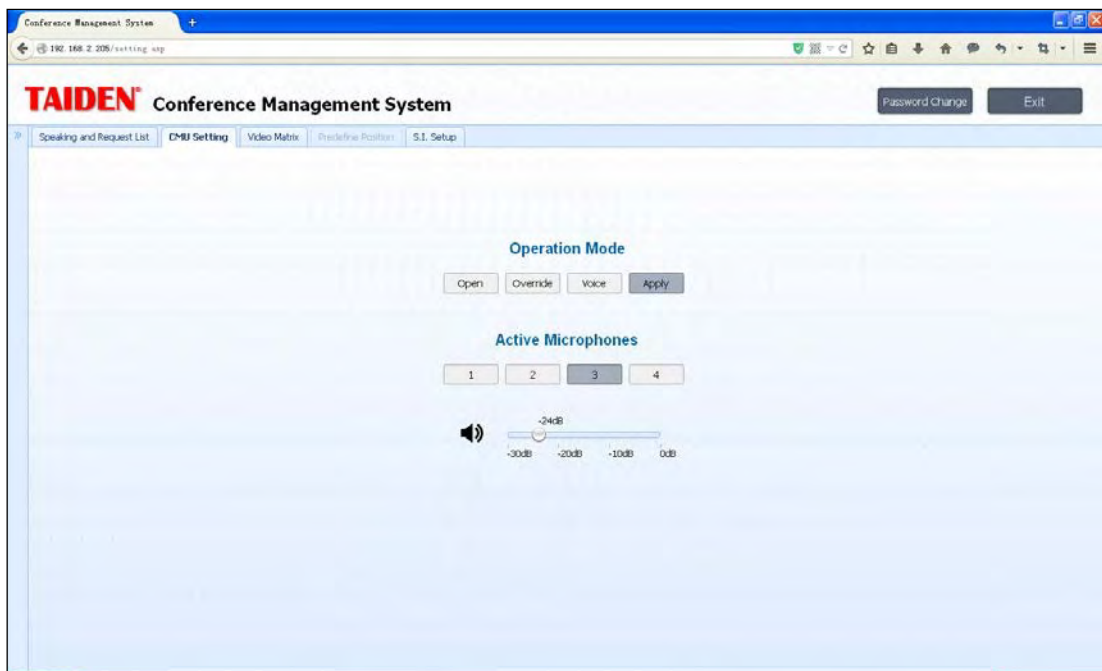


図 2.30 CMU 設定

- **操作モード**：「開く」/「上書き」/「音声」/「適用」を含む発話モードを設定する；
 - ◆ 「開放 (Open)」：アクティブなマイクの数に上限に達した場合、残りの参加者マイクをアクティブにすることはできない；
 - ◆ 「オーバーライド(Override)」：有効な参加者マイクの数に限り(1/2/3/4)に達した場合、別の参加者マイクを ON にすると、最初に ON にした代表マイクのスイッチが OFF になります。システム内でアクティブなマイクの総数が 4 本未満である場合、議長マイクは 4 本に達するまでアクティブにすることができ、別の議長マイクをオンにすると、最初にオンになったユニットのスイッチが自動的にオフになります（先に参加者ユニットがオフになり、次に議長ユニットがオフになります）；
 - ◆ 「音声 (Voice)」参加者がマイクに向かって話すと、マイクが ON になります。発言が一時停止した場合、マイクは自動的に OFF になります。アクティブなマイクの数に上限に達した場合、残りの参加者のマイクはアクティブにできなくなります；
 - ◆ 「申請 (Apply)」：申請モード。参加者は発言を申請する必要があり、議長はマイクの ON/OFF キーを押して直接発言することができます。参加者が発言できるのは、オペレーターがその申請を承認した場合のみです。アクティブなマイクの数に上限に達した場合、他の全ての発言は承認されなくなります。議長ユニットは、システム内のアクティブマイクの総数が 4 本未満であれば、起動可能です。

- **アクティブマイク**：最大アクティブマイク数 (1/2/3/4本)；
- **Volume**：ラウドスピーカーの音量 (-30 dB~0 dB) を調整します。

2.7.2.4 ビデオマトリックス

ビデオマトリックスとビデオスイッチが含まれています。マトリックス (TMX-0804) は高解像度ビデオマトリックスで、8x4ビデオマトリックスが1つ含まれています。

ビデオマトリックス

Video Matrixインターフェースのセットアップを下图に示す：

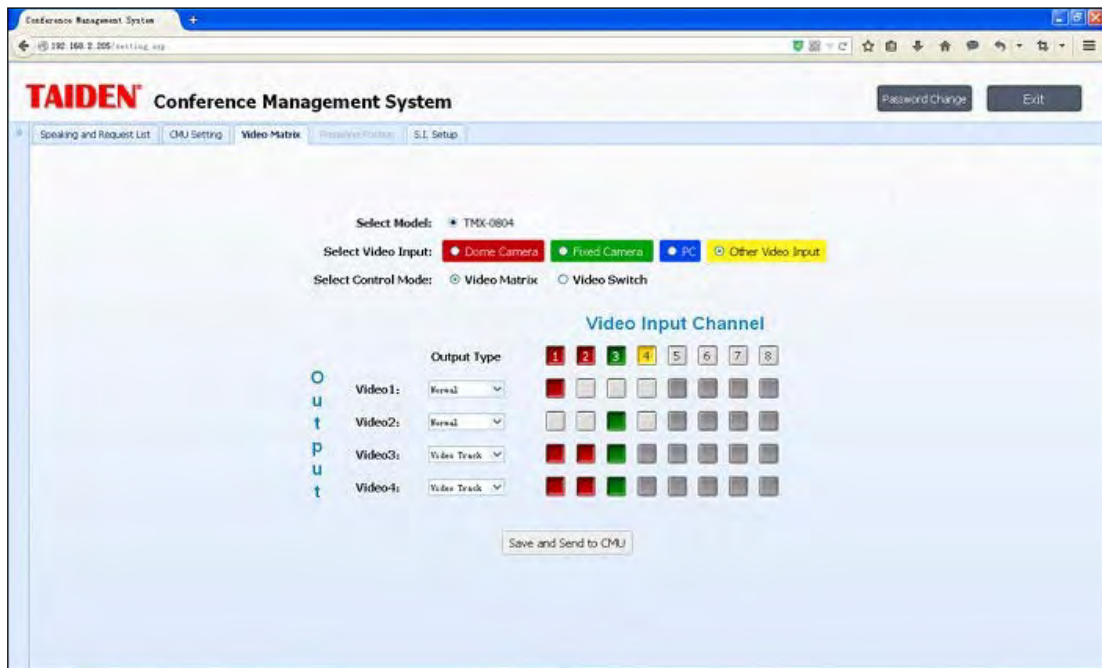


図 2.31 ビデオマトリックス

- **機種選択:** システムの接続状況に応じて自動的に機種を選択します。HCS-3316HDを選択した場合、入出力の設定はできません。
- **ビデオ入力の選択:** ドームカメラ、固定カメラ、PC、その他のビデオ入力を含む；
- **出力タイプ:** ノーマルとビデオ含む；
- **保存してCMUに送る**

マトリックスのセットアップ:

1. 実際の状況に応じてビデオ入力タイプを割り当てます；
2. ビデオ出力タイプを割り当てます；
3. 入力と出力のクロスポイントをクリックして、通常の "ビデオ出力の出力チャンネルを割り当てます；
4. Save and Send to CMU ボタンをクリックして、現在のビデオマトリックスを保存します。

ビデオ・スイッチ

ビデオスイッチのインターフェイスを下図に示す:

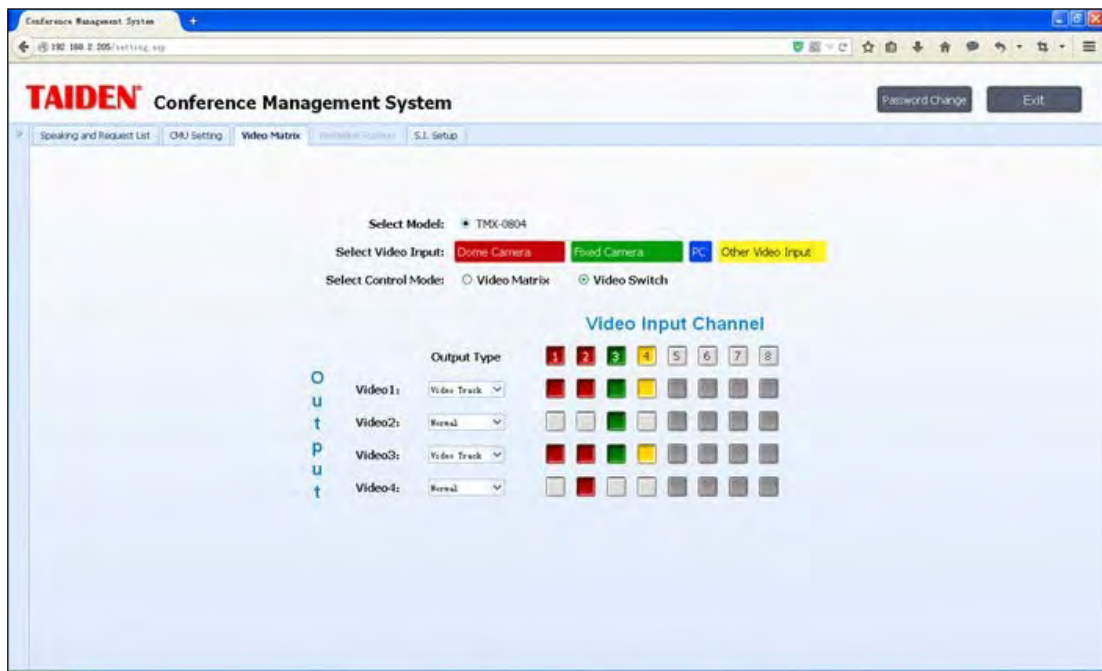


図 2.32 ビデオスイッチ

マトリックス・スイッチ:

1. ビデオマトリックスの設定に従って、ビデオ入力タイプが自動的に表示されます;
2. 入力と出力のクロスポイントをクリックして、対応する出力チャンネルを割り当てます;
3. ビデオ1~4出力ラインダブラーの "Video Track" を選択すると、選択された出力チャンネルがビデオトラックに切り替わります。

注:

ビデオスイッチはHCS-3316HDでは無効です。

2.7.2.5 プリセットポジション

会議システムにカメラが装備されている場合、システムは自動ビデオトラッキングを実行することができます。プリセット設定とは、各マイクのプリセットポジションを設定することです。



図 2.33 プリセット・ポジション

■ マイク位置の設定:

1. 発言リストでマイクを選択し、「Camera Ctrl」ボタンをクリックして「Predefine Position」インターフェイスを開く。
2. カメラ選択コンボボックスで適切なカメラを選択します（各会議には複数のカメラが搭載している場合があるため、オペレータは各参加者に最適な画像を提供するために適切なカメラを選択する必要があります）；
3. 定義済みのポジション番号を選択します（各カメラは64ポジションに対応）；
4. 4つの方向ボタンでカメラの角度を調整し、ズームイン/ズームアウトボタンをクリックして、画角を調整します。
5. Send to CMU ボタンをクリックすると、調整が行われた場合、現在のプリセットポジションがCMUに送信されます；
6. 他のシート/マイクのプリセットポジションを設定するには、上記の手順を繰り返します；

会議中、すべてのマイクがあらかじめ決められた位置に設定されている場合、カメラは自動的に発言者に照準を合わせます（メインユニットメニューのビデオトラッキング設定が「オン」になっている場合）。

注:

マトリックスなしでHCS-3316HDと接続する場合は、「カメラ選択」を1にしてください；

オートアイリス カメラにオートアイリス機能がある場合、「Auto Iris」を選択して、すべての定義済みポジションに適用することができます。オートアイリス オプションがチェックされている場合、すべてのプリセットポジションでオートアイリスが使用されます。チェックされていない場合、各プリセットポジションのアイリスをそれぞれ調整し、保存することができます。

■ **パノラマの設定:** 適切なカメラを選択し、位置番号を事前に定義し、4つの方向ボタンでカメラの角度を調整し、ズームイン/ズームアウトボタンをクリックしてビデオ画像のサイズを調整し、最後に「CMUに送信」をクリックします。

ボタンをクリックし、調整がしたらパノラマを保存します。

2.7.2.6 S.I. (同時通訳) セットアップ

チャンネル、ブース、言語含まれます。S.I.セットアップのインターフェースを下図に示します：

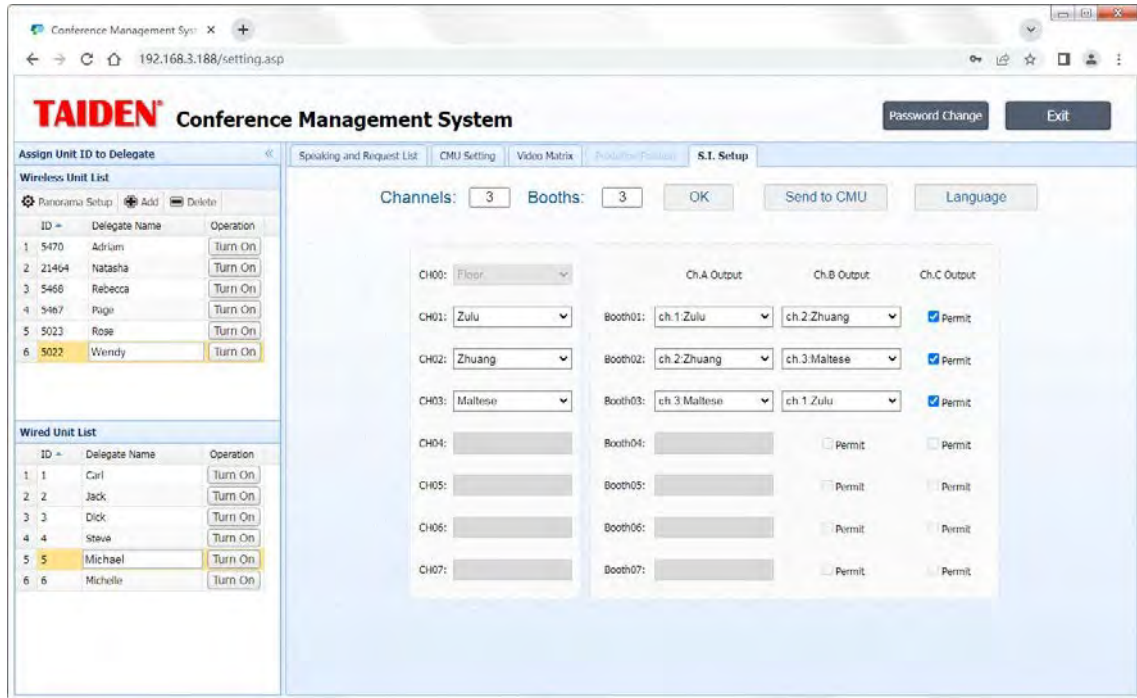


図2.34 S.I.のセットアップ

- **チャンネル:** 最大7 S.I.チャンネルをサポート。有線会議ユニットが接続されている場合は最大3チャンネル；

このシステムは7つのS.I.チャンネルをサポートし、各チャンネルに出力言語を分配します。S.I.チャンネルを設定するには、まず会議の要件に応じてチャンネル数を選択します。3つの異なる言語を使用する場合、オペレータはチャンネル数を3に設定し、「OK」ボタンをクリックして確認します。各チャンネルに特定の言語を割り当てます。完了後、「Send to CMU」ボタンをクリックして設定を保存し、会議メインユニットを更新します。

- **ブース:** 最大7ブースをサポート。

システムは7つの通訳ブースをサポートしています。各ブースでは、発信 A チャンネルを設定し、発信 B チャンネルと発信 C チャンネルを設定します。発信 C チャンネルをチェックする場合は、発信 B チャンネルの発信言語を設定します。すべての設定は、実際の会議の要件に応じて設定する必要があります。設定が完了したら、「Send to CMU」ボタンをクリックして設定を保存し、会議メインユニットを更新します。

- **言語:** 言語は追加または削除することができ、最大16のユーザー定義言語がサポートされています。ただし、下図に示すように、システムによってリストされた言語を変更または削除することはできません。



図 2.35 言語

注:

☞ ユーザー定義言語は、最大8文字の数字またはアルファベット（大文字と小文字は区別されず）のシーケンスのみをサポートし、略語は最大3文字をサポートしています。

2.8 仕様表

モデル	HCS-5300MA/80A	HCS-5300MB/80A	HCS-5300MC/80A
ディスカッション	√	√	√
同時通訳	最大(1+7)チャンネル	最大(1+7)チャンネル	-
投票	√	-	-
Dante	√	-	-
主電圧	AC 100V-240V 50Hz/60Hz		
消費電力	30 W		25 W
電力容量	最大500W		最大200W
オーディオ入力	LINE IN 1: +10 dBu、バランス、XLRソケット LINE IN 2: +15 dBu、アンバランス、RCAジャック		
オーディオ出力	LINE OUT 1: +20 dBu、バランス、XLRソケット LINE OUT 2: +20 dBu、アンバランス、RCAジャック SI入力 (ch 0-7): +10 dBu、アンバランス、RCAジャック		
最大会議ユニット数	≤1000台		
トランシーバー入出力端子	6P-DINソケット×6		
外部制御端子	RS-232C D-sub (9、メス)、USBインターフェース、RJ45 (ETHERNET、Dante)		
ディスプレイ	256×32 LCD		
通訳ユニット端末	1 6P-DINソケット		
HF OUT (ラジエーター端子)	1 BNCコネクタ		
アラーム端子	3.81 mmフェニックスコネクタ、2極		
ビデオスイッチャー端子	3.81 mmフェニックスコネクタ、4極		
加重S/N比	≥90dBA以上		
ダイナミック・レンジ	≥90 dB		
オーディオ周波数特性	50-20000 Hz		
1における全高調波歪み キロヘルツ	≤0.05 %		
1kHzでのクロストーク減衰量	≥80 dB以上		
寸法			
重量	11.8 kg	11.8 kg	9.3 kg
カラー	ダークグレー		

第3章 デジタル赤外線トランシーバー

3.1 概要

デジタル赤外線トランシーバーは、メインユニットと会議ユニット間の通信を管理します。天井や壁に取り付けて任意の範囲をカバーしたり、三脚に固定して任意の場所に設置することができます。

タイプ

HCS-5300TD/80

デジタル赤外線トランシーバー（天吊り、壁掛け、三脚取り付け、高さ6m以下に対応）

HCS-5300TDS/80

デジタル赤外線トランシーバー（サスペンション）

HCS-5300TH/80

デジタル赤外線トランシーバー（天吊り、壁掛け、三脚取り付け、HCS-5300Mまたは電源アダプターから給電、6m以上の高さに対応）

HCS-5300TWN/80

デジタル赤外線トランシーバー（天井、壁、三脚取付型）

3.2 機能と表示

3.2.1 デジタル赤外線トランシーバー

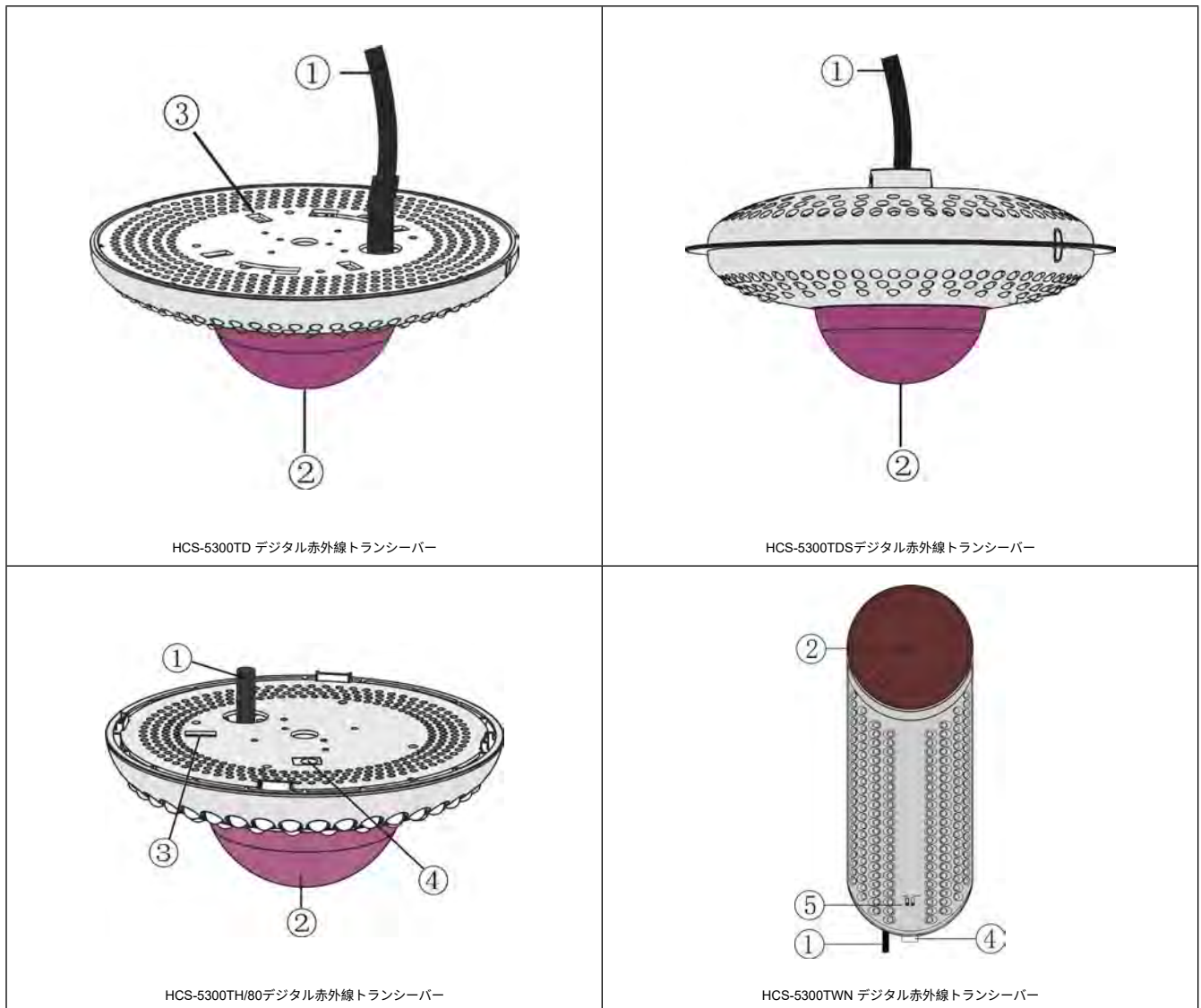


図 3.1 HCS-5300T デジタル赤外線トランシーバー

図3.1:

1. 2m6PINケーブル CBL-5300
2. 電源表示灯
3. 放射線エリア選択スイッチ
4. 電源アダプターポート
 - HCS-ADP24Vアダプタ接続用 (HCS-5300TH)
 - HCS-ADP24V2アダプタ接続用 (HCS-5300TWN)
5. ディップスイッチは、幅と深さの赤外線エミッターの強度を調整するためのもの

注:

☞ デジタル赤外線トランシーバーHCS-5300TDS/80には4つの切替器が、HCS-5300TH/80には1つの切替器が内蔵されています。必要に応じてトップカバーを外し、該当するスイッチャーを選択し、1つまたは複数の放射エリアをオフにしてください。

3.2.2 デジタル赤外線ケーブル分配器

HCS-5352デジタル赤外線ケーブルスプリッターは1入力4出力で、最大4台のトランシーバー/レシーバーを接続できます。

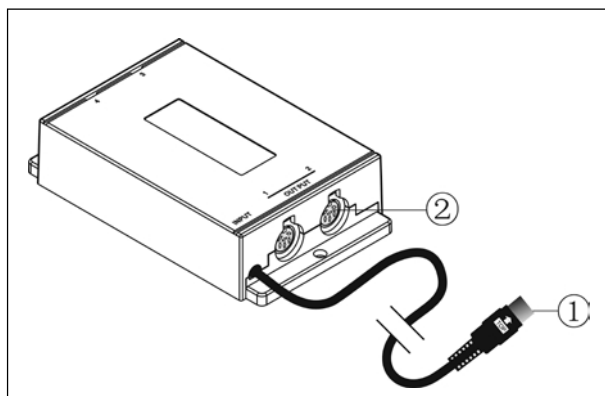


図 3.2 HCS-5352 ケーブル分配器

図3.2 :

1. メインユニットのトランシーバー・インターフェースへ
2. 4つのトランシーバー/レシーバー・インターフェース

3.3 赤外線サービスエリア

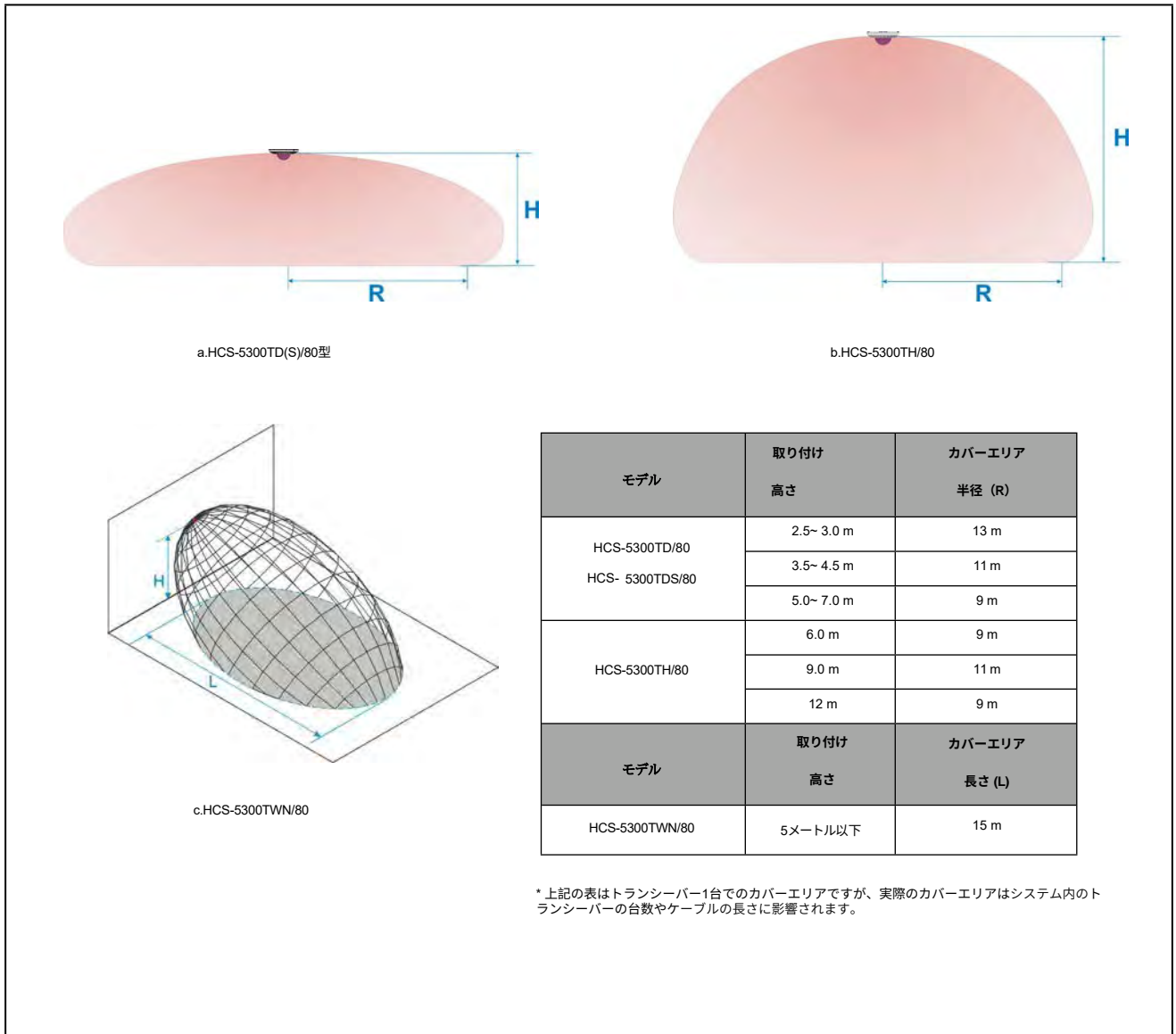


図 3.3 HCS-5300/80 デジタル赤外線トランスミッターおよびレシーバのサービスエリア

3.4 ポジショニング

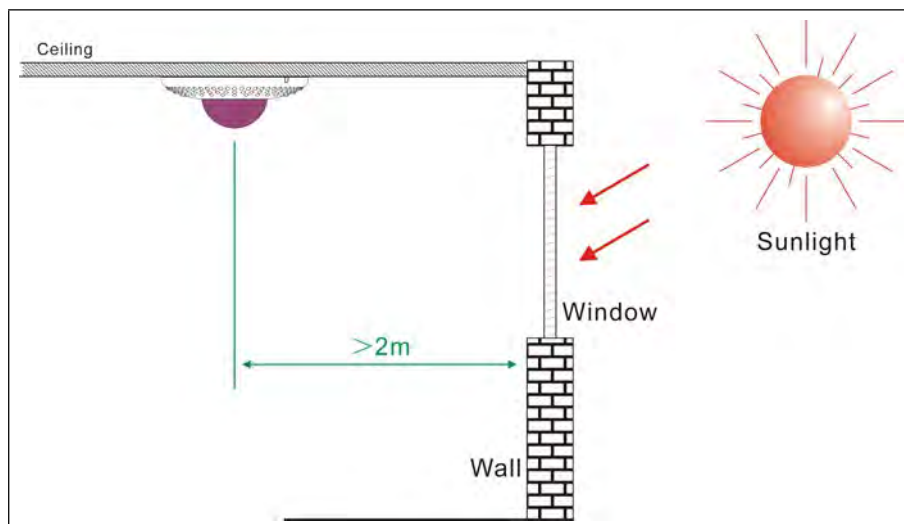
3.4.1 デジタル赤外線送受信機を使用する際の注意事項

赤外線ワイヤレス会議システムでは、赤外線信号の強度と安定性が厳しく要求されるため、[1.4](#)項を注意深く読み、赤外線信号の伝送に関するあらゆる側面を考慮した上で、取り付け位置を計画してください。

3.4.1.1 直射日光を避ける

トランシーバ/レシーバを太陽光や赤外線照明に当てると、システムの故障やノイズの原因となることがあります。赤外線信号の十分な強度と安定性を保証するために、トランシーバ/レシーバを下図のように赤外線照射器の近くに設置することは避けてください：

図3.4 デジタル赤外線トランシーバ/レシーバの位置窓の近く



- カーテンで窓を覆い、トランシーバ/レシーバに直射日光が当たらないようにしてください；
- トランシーバ/レシーバと近くの窓との距離は2メートル以上必要です。

3.4.1.2 照明器具から安全な距離を保つ

HCS-5300システムは周囲光の干渉に強く設計されていますが、トランシーバー/レーザーを照明源から50cm以上離すことをお勧めします。これにより、赤外線信号の最適な強度と安定性が確保されます。

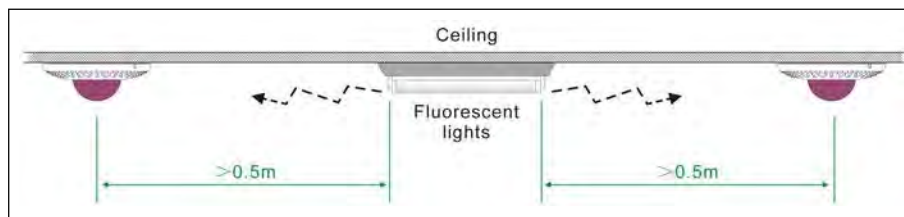


図 3.5 デジタル赤外線トランシーバー/レーザーの位置（照明器具の近く）

注:

☞ 照明器具の位置が送受信機の位置より高ければ、大きな問題とはなりません。

3.4.1.3 壁や柱などの障害物に近づかない

会議室内の物体は赤外線を反射することがあるため（1.4.2項参照）、壁や柱などの障害物の近くに設置しないでください。

トランシーバー/レーザーから障害物までの距離は、少なくとも30cmは必要です。

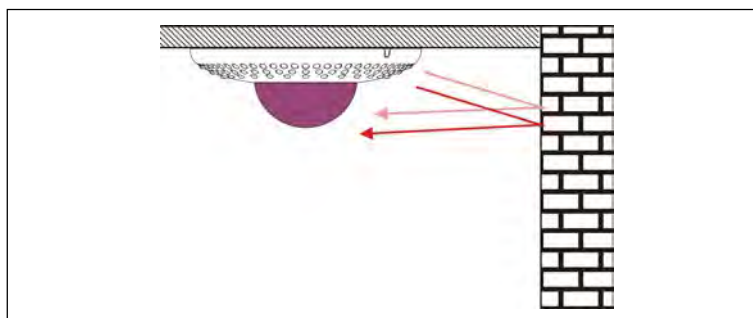


図3.6 トランシーバー/レーザーが受光した反射赤外線

注:

☞ トランシーバー/レーザーが影響を受けないためには、30cmの距離が適切です。ただし、会議室内に反射率の高い面（鏡など）がある場合は、妨害が発生します。

☞ 特に大きなホールでは柱による反射に注意してください。

3.4.1.4 各会議ユニットを複数のトランシーバーと通信させる

下図のように、最前列の発言者が直立して発言すると赤外線信号が遮断されます。会議ユニットが並んでいる会議室では、ブロッキングを避けるため、各会議ユニットは複数のトランシーバーと通信する必要があります。

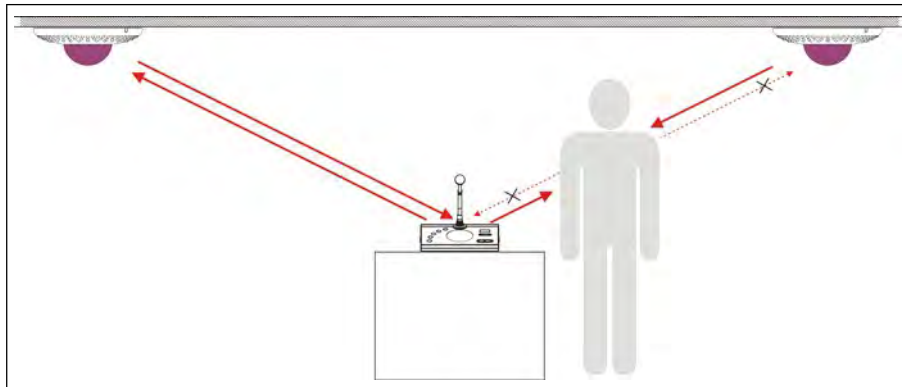


図 3.7 赤外線信号の遮断

そのため、各送信機はブロッキングを避けるために複数の受信機と通信する必要があります。

3.4.1.5 プラズマディスプレイには近づけない

赤外線ワイヤレス会議システムを計画する場合、会場内でプラズマディスプレイを使用することは適切ではありません。プラズマディスプレイを使用する場合は、赤外線ワイヤレス会議ユニットおよび赤外線ワイヤレス送受信機をプラズマディスプレイから3メートル以上離して使用するか、プラズマディスプレイに赤外線フィルターを装着してください。

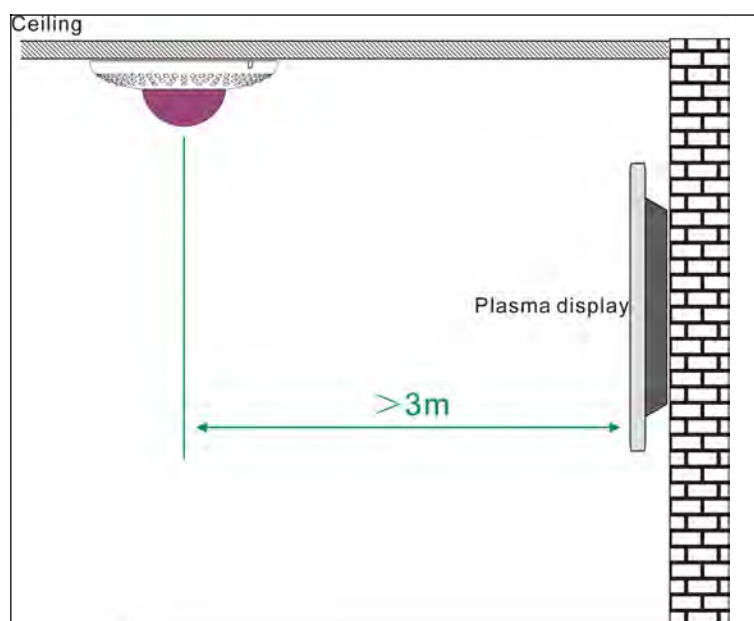


図3.8 デジタル赤外線トランシーバー/レシーバーの位置（プラズマディスプレイ付近）

3.4.2 デジタル赤外線トランシーバーの設置

デジタル赤外線トランシーバーのカバーエリアは、トランシーバーと会議ユニット間の距離で決まります。会議室の高さに応じて適切なトランシーバータイプを選択し、適切な位置に設置し、すべての会議ユニットをカバーエリア内に設置してください。

3.4.2.1 トランシーバーの設置手順

1. 現在の使用エリア（会議ユニットが使用されているエリアなど）を決定します。

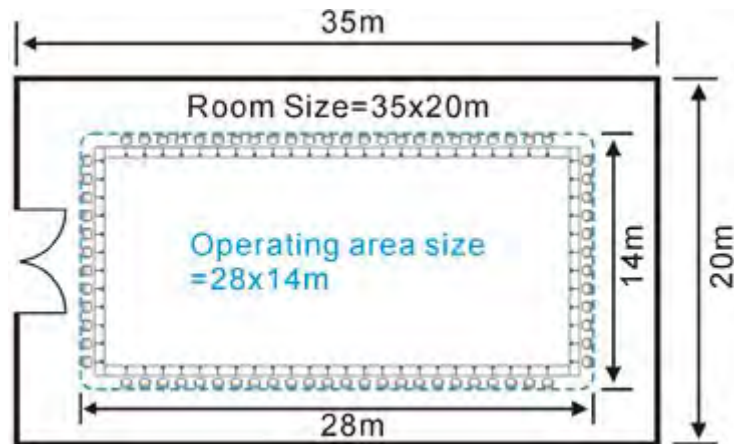


図3.9 部屋と現在の使用エリア

注:

☞ ほとんどのアプリケーションでは、赤外線信号のカバーエリアは会議室全体の面積よりも小さいため、最初に現在の使用エリアと会議ユニットの位置を決定してください。

2. 会議室の高さに応じて適切なトランシーバーのタイプを選択し、トランシーバー1台でカバーできる範囲を決めます（図3.3参照）。

注:

☞ HCS-5300TWN/80デジタルIRトランシーバーは、HCS-5300TD、HCS-5300TDS、HCS-5300THデジタルIRトランシーバーと同時に使用しないでください。

3. トランシーバー1台のカバーエリアに応じて適切なトランシーバーを設置し、システムの使用エリアをカバーできるようにする；

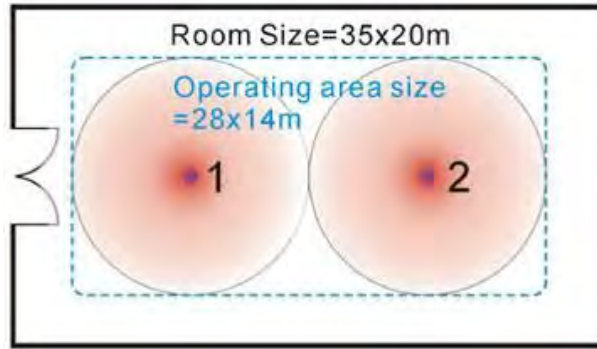


図3.10 2台のトランスミッターでは使用エリア全体をカバーできない

2台のトランスミッターだけではシステムの動作エリアを完全にカバーできない場合。4台のトランスミッターを使用し、会議室内に均等に配置します。各トランスミッターの境界のオーバーラップ効果により、すべてのエリアがカバーされます (1.4.5項参照)。

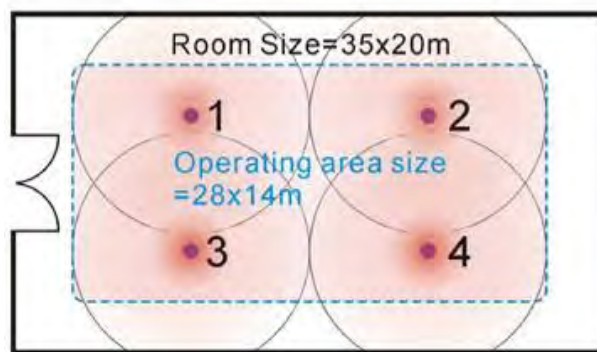


図3.11 4台のトランスミッターが使用エリア全体をカバー

注:

☞ マルチパス効果を避けるため、メインユニットと各トランスミッター間の距離は同等である必要があります。

4. メインユニットと分配器（使用する場合）の位置を決めます。3.4.3項に従って、トランスミッターとメインユニット間の経路を計画し、ケーブル接続に進みます。

3.4.2.2 トランシーバー配置例

正方形のテーブル配置

トランシーバーを下図のように配置すれば、赤外線信号のカバーエリアは会議室全体をカバーします。

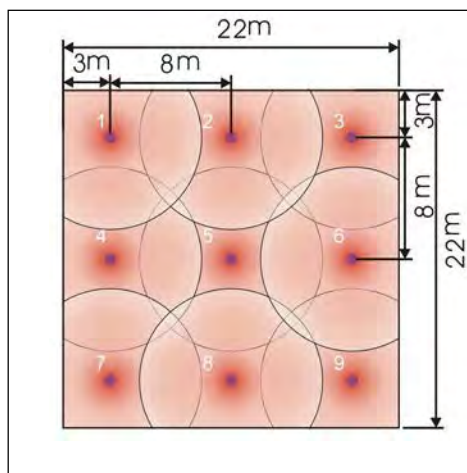


図3.12 トランシーバーの配置（正方形の会議室）

* 2台のトランシーバー間の推奨距離は6~8mです。

円卓の配置

1台のトランシーバーですべての会議ユニットをカバーできるのは、それらが円形カバーエリア内にある場合のみですが、通信の遮断を避けるため2台以上のトランシーバーが使用が推奨されます。

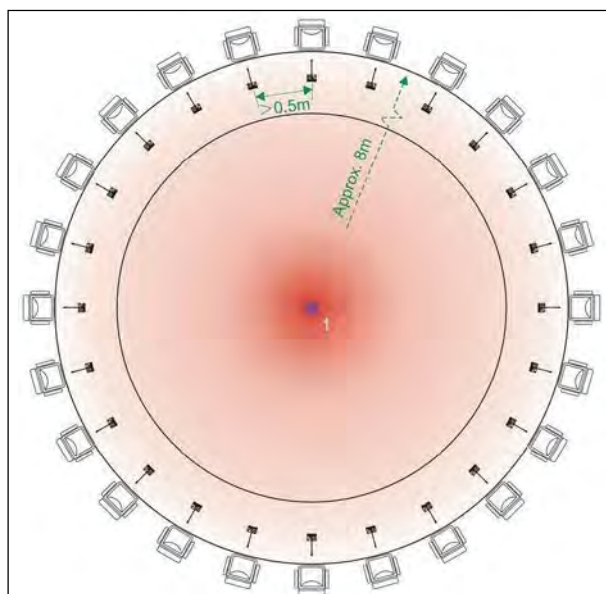


図3.13 トランシーバーの配置（円卓配置）

長方形のテーブル配置

一般的に同一寸法の会議室では、トランシーバーの位置は会議ユニットの配置によって決まります（図3.14～3.17）。

次の図は、トランシーバーの理想的な位置計画を示しています。

- A) 会議形式（円卓等）
- B) 議会形式

A) 会議形式の座席（円卓等）

トランシーバーは、会議ユニットの循環座席操作エリア内に、均等に配置する必要があります。すべての会議ユニットが少なくとも2台のトランシーバーで通信できるようにしてください。

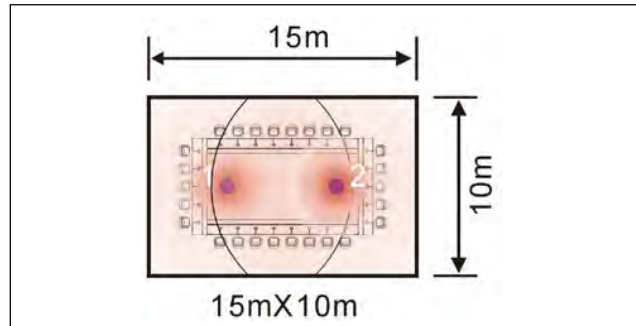


図3.14 座席スタイルによる配置（会議形式）

下図は、会議室に個別のエリアがある場合の設置方式を示しています。

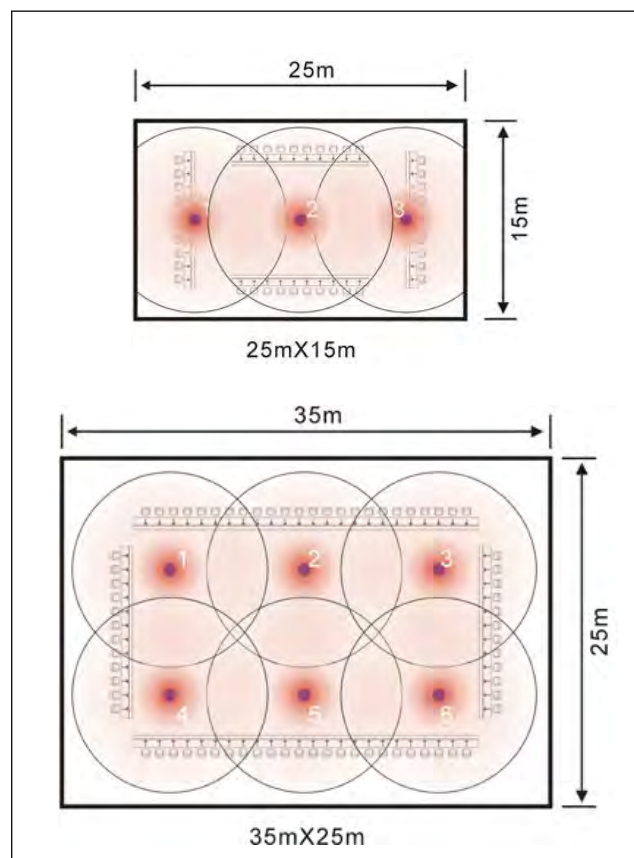


図 3.15 トランシーバーの配置（会議形式）

B) 議会形式

図3.14のように議会用にトランシーバーを均等に配置した場合、トランシーバーNo.1は一列目に配置されたトランシーバーに比べ、最後列（図3.16の左列）の数台の会議ユニットとしか通信できません。その理由は、赤外線受光ガラスが会議ユニットの間口にあり、演壇に向いているためです。

したがって、トランシーバーは図3.16のように配置し、トランシーバーNo.1を図3.14と比較して右に移動することで、最前列のトランシーバーはカバーエリアを効果的に拡大できます。

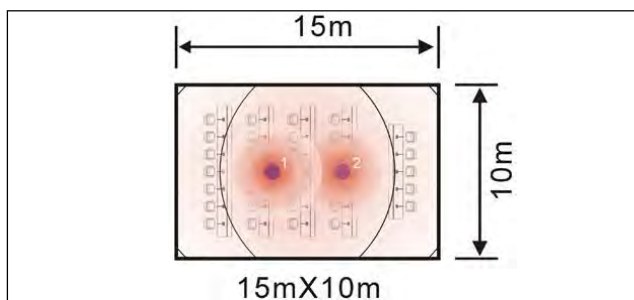


図3.16 座席スタイルによる配置（議員席）

下図は、会議室に個別のエリアがある場合の議会スタイルの座席位置を示しています。

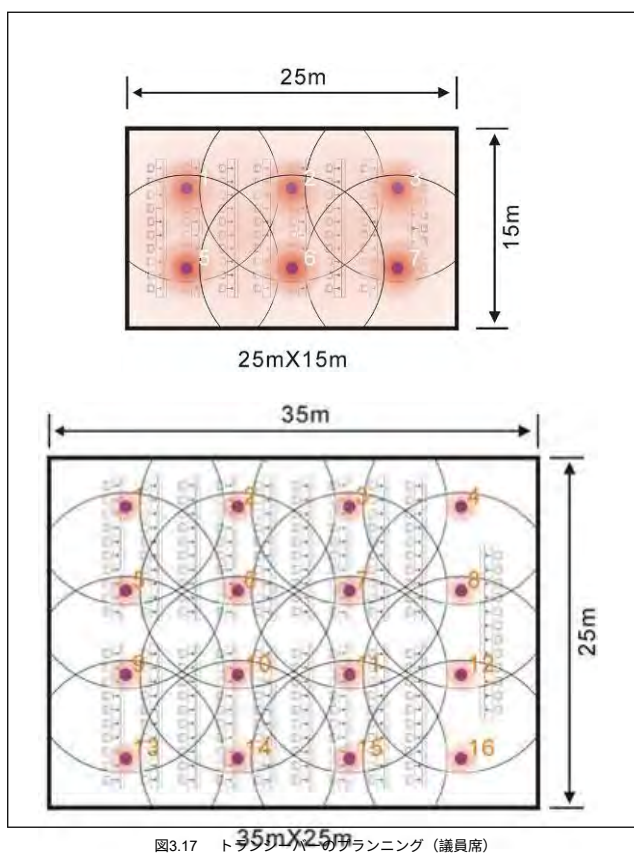


図3.17 トランシーバーのランニング（議員席）

* 2台のトランシーバー間の推奨距離は6~8mです。

バルコニー式会場

バルコニーのある会場では、天井が高く、遮蔽物があるため、天井の高さや客席のスタイルによってトランシーバーの配置を変える必要があります。

例えば、HCS-5300TH/80であれば、1階席のバルコニーの陰にならない部分や、議長台のユニットと通信することができます。

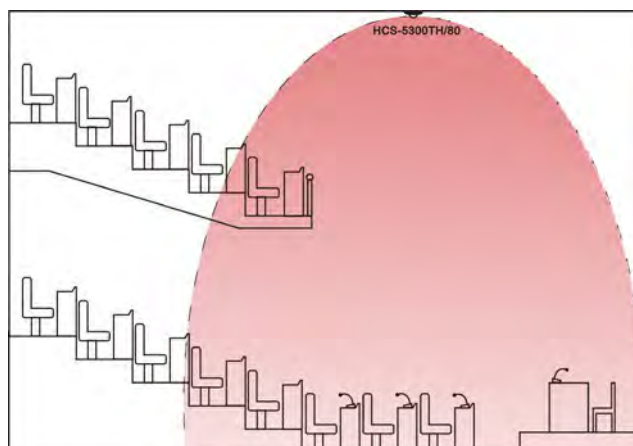


図 3.18 トランシーバーの配置 (バルコニー会場)

3.4.3 メインユニットからトランシーバーまでの経路設計

3.4.3.1 ケーブル接続時の注意

■ **メインユニットと各トランシーバー間の距離は等しくなければなりません。**

2つのトランシーバーのカバーエリアが重なると、会議ユニットは複数のトランシーバーから赤外線信号を受信できます。1.4.5で説明したように、オーバーラップ効果またはマルチパス効果が発生します。2つの信号の位相が同じであれば受信信号の強度は強まりますが、2つの信号の位相が逆であれば受信信号の強度は弱まってしまいます。

マルチパス効果を避けるため、メインユニットとすべてのトランシーバー間の距離は等しくなければなりません。下図のように、トランシーバーを同じスペースに設置する場合、「A」のケーブルはすべて同じ長さにする必要があります。

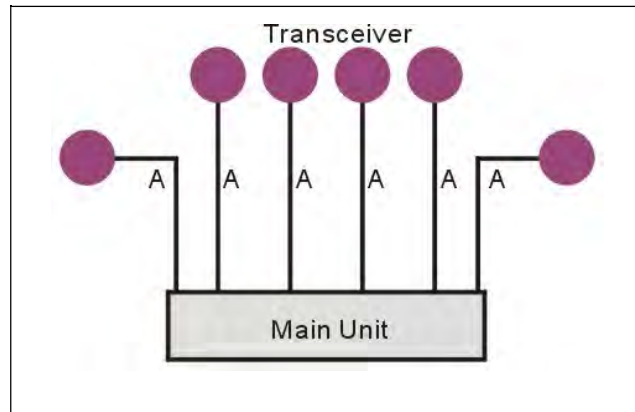


図3.19 ディストリビューターがない場合、ケーブルの長さはすべて等しくなければならない。

■ **メインユニットとトランシーバー間のケーブル長は80mを超えないこと**

ケーブル長Aは、80メートルを超えてはいけません

■ **高電圧（電源）ケーブルと赤外線トランシーバーとメインユニット間のケーブルの平行配線を避ける。**

赤外線トランシーバーとメインユニット間の通信は、高電圧によって妨害されることがあります。干渉のリスクを低減するため、高電圧ケーブル（主電源電圧を含む）との並行配線は避けてください。どうしても避けられない場合は、ケーブルを鉄パイプでシールドしてください。

3.4.3.2 分配器の利用

分配器を使用する場合、1つの分岐に2つ以上使用しないでください。

分配器のあるトランシーバと分配器のないトランシーバの接続は、1つのシステムで運動させることはできません。複数の部屋に設置する場合は、図3.20に示すように、ケーブル分配器を直接メインユニットに接続し、異なる部屋へのケーブル長を同じにする必要はありません。

- すべてのケーブル長B1は等しくなければならない；
- すべてのケーブル長B2は等しくなければならない；
- B1とB2は異なる部屋に使用され、同じである必要はない；

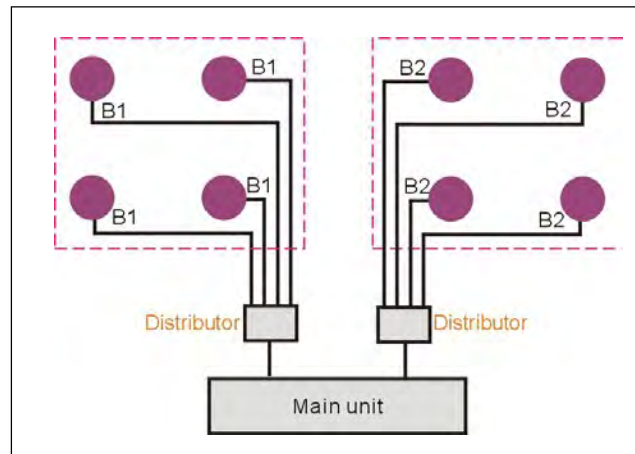


図 3.20 メインユニットからトランシーバまでの経路を、複数の部屋用に分配器を用いて設計する。

注:

☞1つの部屋に2つのシステムが設置されているが、互いに干渉しない十分な距離がある場合にも適用できます。

3.5 設置

3.5.1 HCS-5300TD/80の設置

3.5.1.1 天井取り付け 1

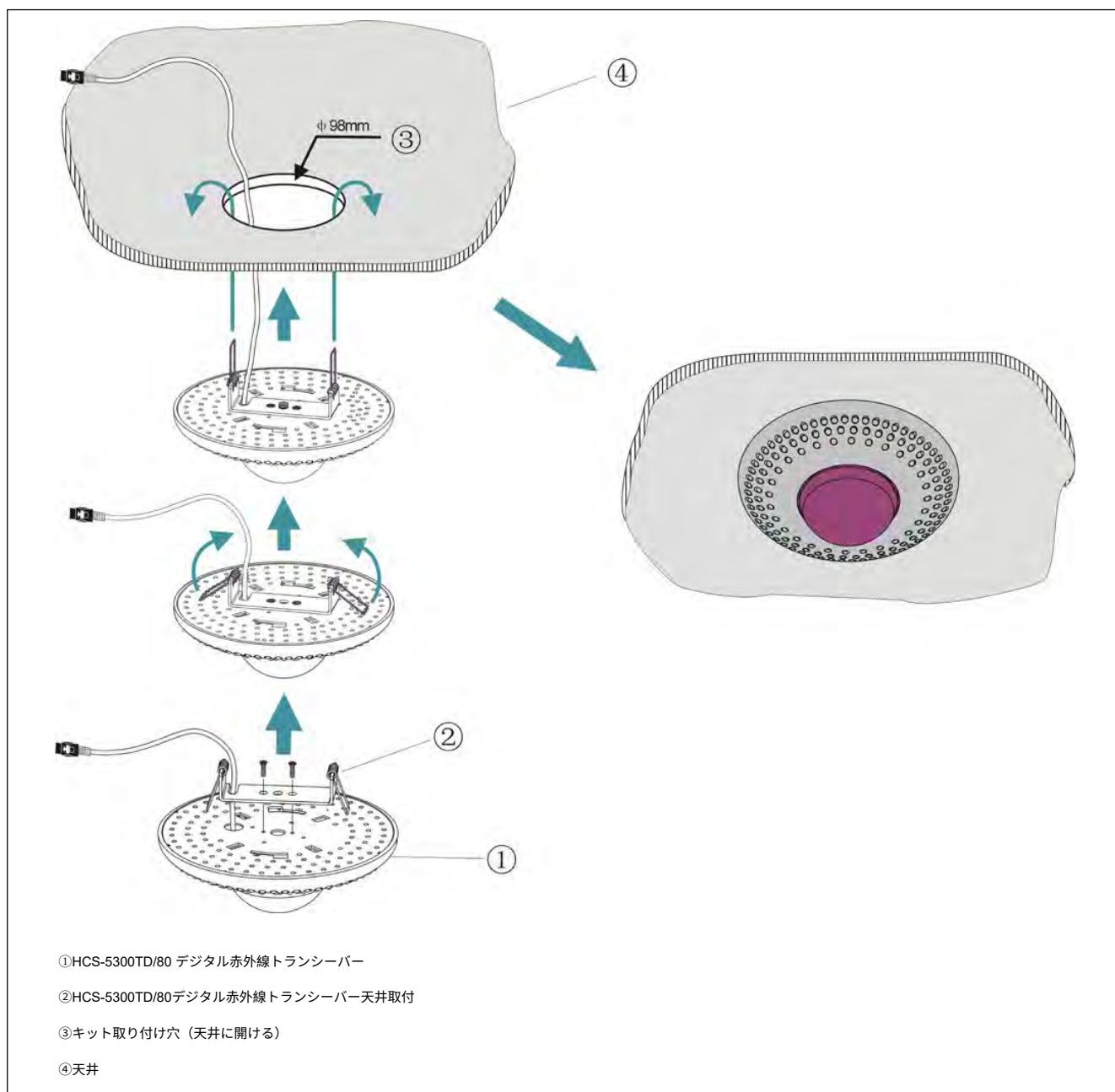


図 3.21 HCS-5300TD/80 デジタル赤外線トランスミッターの天井設置

取り付けの手順

ステップ1: 天井取り付けキットをHCS-5300TD/80トランスミッターの上部に取り付ける;

ステップ2: 天井に直径98mmの穴を開ける（取り付けと運転中の排熱のため）;

警告:

☞ 装置の換気を良くするため、通気孔を塞がないでください。

ステップ3: ケーブルを取り付け挿入します;

ステップ4: パネをまっすぐ垂直に持ち、HCS-5300TD/80トランスミッターの底面が天井に合うまで取り付け穴に挿入します。



3.5.1.2 天井取り付け 2

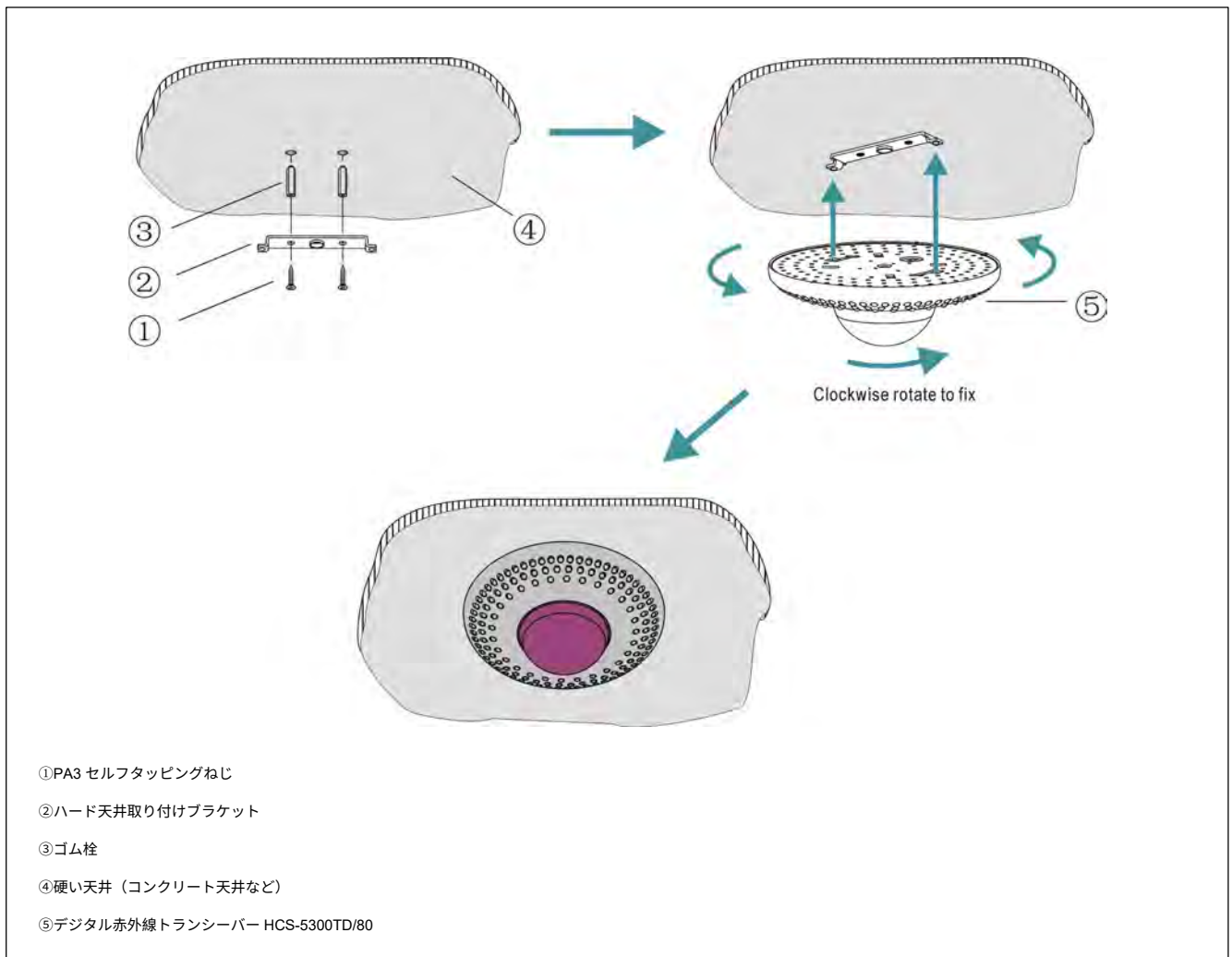


図 3.22 HCS-5300TD/80 デジタル赤外線トランスミッターの天井設置

取り付けの手順

ステップ1: HCS-5300TD/80の設置場所に合わせて取付金具を天井に設置し、穴あけ位置に印をつけます。天井に2つの穴（直径5mm、深さ30mm）を開けます。

ステップ2: 付属のゴム栓を天井の取り付け穴に差し込みます；

ステップ3: PA3セルフタッピングネジでブラケットを天井に固定します；

ステップ4: HCS-5300TD/80デジタル赤外線トランスミッターのスロットをハード天井取り付けブラケットに入れ、時計回りに回転させて固定します。



警告:

☞ この取り付け方法は、天井の厚さがゴム栓の長さより大きい場合に適用されます。

3.5.1.3 三脚設置 (角度調整可能)

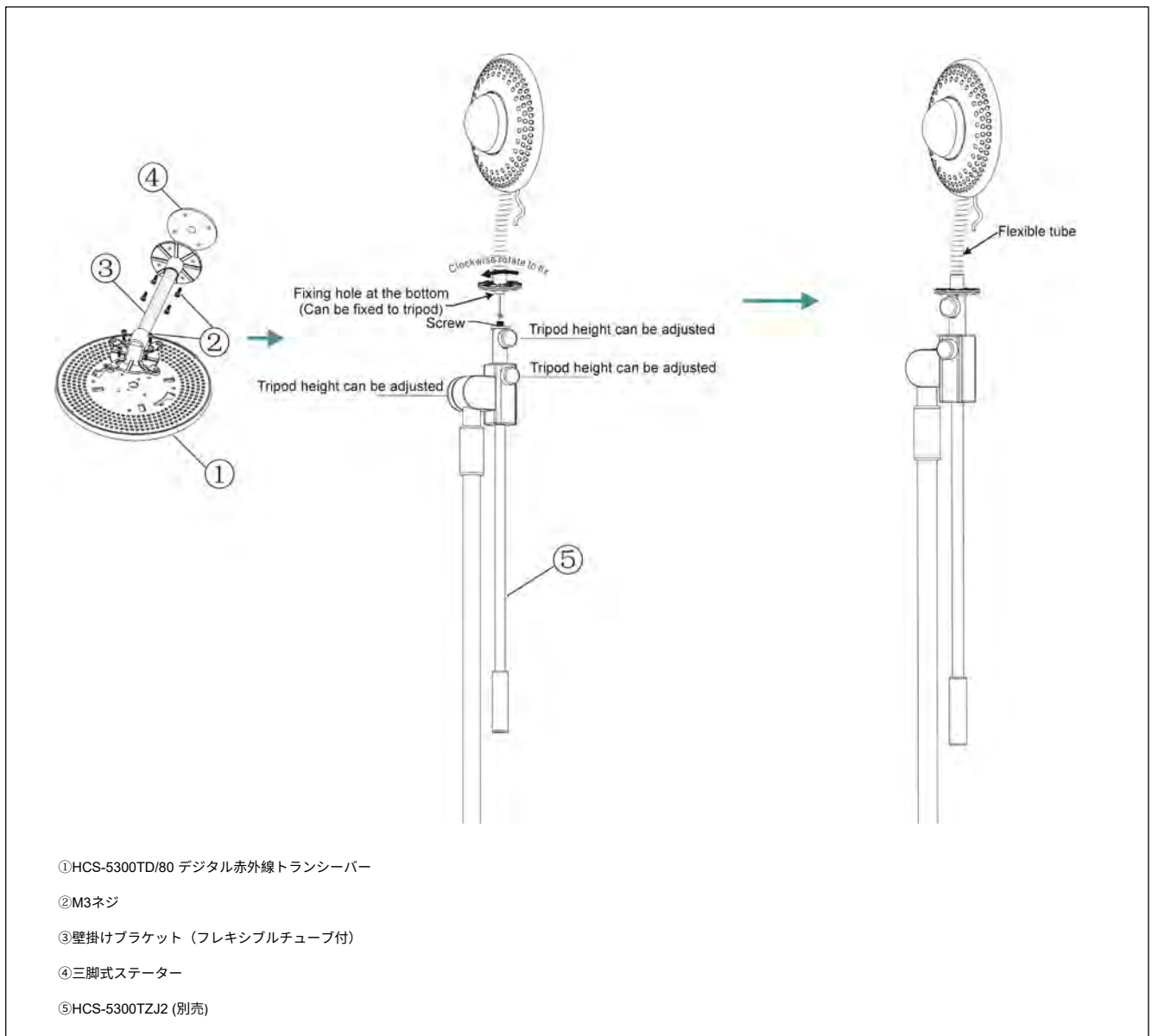


図 3.23 HCS-5300TD/80 デジタル赤外線トランスミッターの三脚取り付け

取り付けの手順

ステップ1: HCS-5300TD/80デジタル赤外線トランスミッターをM3ネジで壁掛けブラケットに固定します；

ステップ2: 三脚に取り付けたステーターを、壁掛けブラケットのもう一方の端にM3ネジで固定します；

ステップ3: 三脚に取り付けたステーターの底にある取り付け穴を、三脚のネジに合わせます；

ステップ4: 時計回りに回転させて固定する。



3.5.1.4 三脚設置

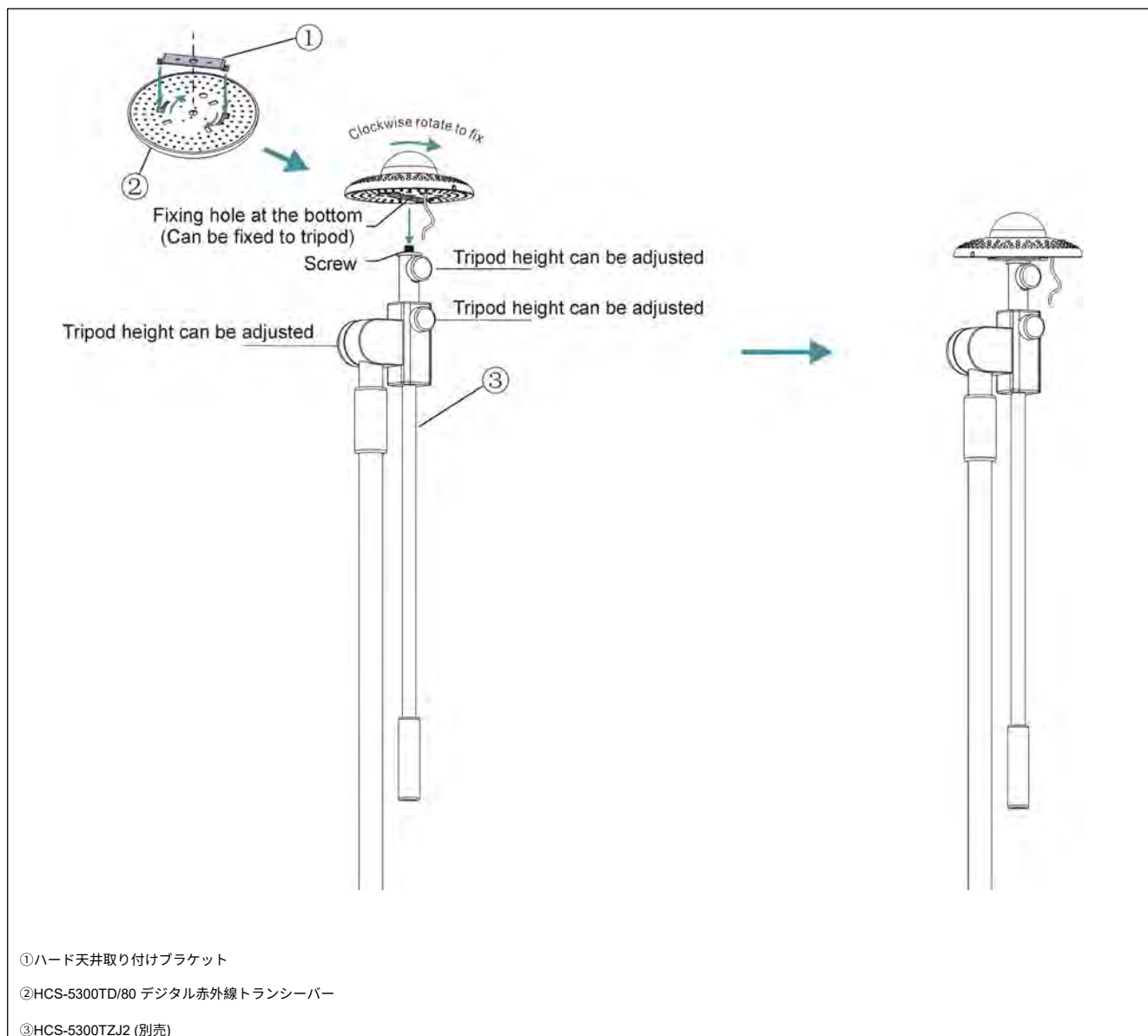


図 3.24 HCS-5300TD/80 デジタル赤外線トランシーバーの三脚取り付け

取り付けの手順

ステップ1: トランシーバーの底にブラケットを置き、回転させて固定します；

ステップ2: HCS-5300TD/80デジタル赤外線トランシーバーの底部にある取り付け穴を三脚のネジに合わせます；

ステップ3: 時計回りに回転させて固定する。

警告だ:

☞ この設置方法は、天井が白色で高さが4メートル以下の場合にのみ適用されます。

3.5.1.5 壁掛け式 (角度調整可能)

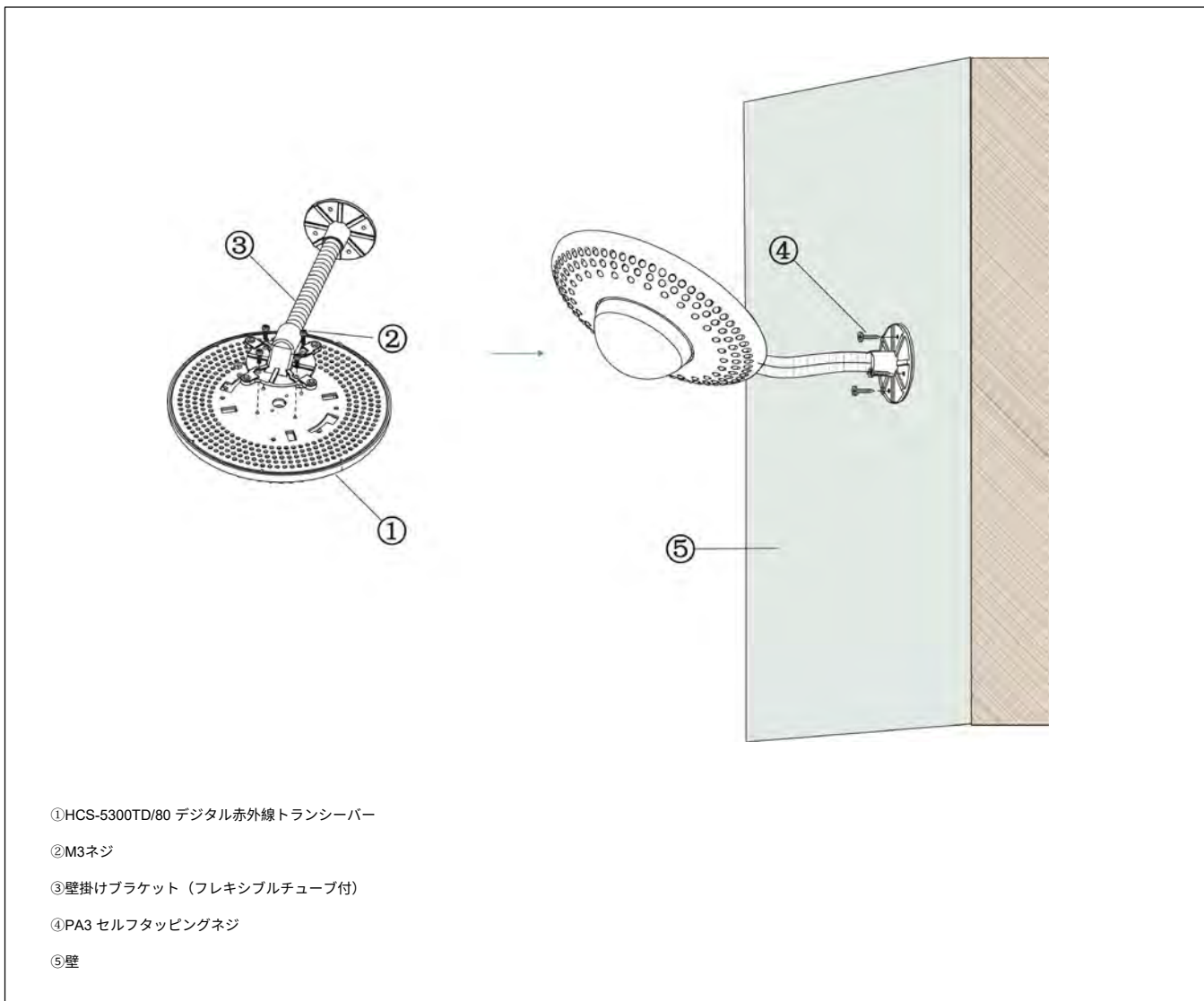


図 3.25 HCS-5300TD/80 デジタル赤外線トランシーバーの壁面取り付け

取り付けの手順

ステップ1: HCS-5300TD/80デジタル赤外線トランシーバーをM3ネジで壁掛けブラケットに固定します;

ステップ2: HCS-5300TD/80の設置場所に合わせて壁掛け金具を壁に設置し、穴あけ位置に印をつけます。壁に4つの穴 (直径5mm、深さ30mm) を開けます;

ステップ3: 付属のゴム栓を取り付け穴に差し込みます;

ステップ4: 壁掛けブラケットをM3ネジで壁に固定します。



警告だ:

☞ この取り付け方法は、壁の厚さがゴム栓の長さより大きい場合に適用されます。

3.5.2 HCS-5300TDS/80のインストール

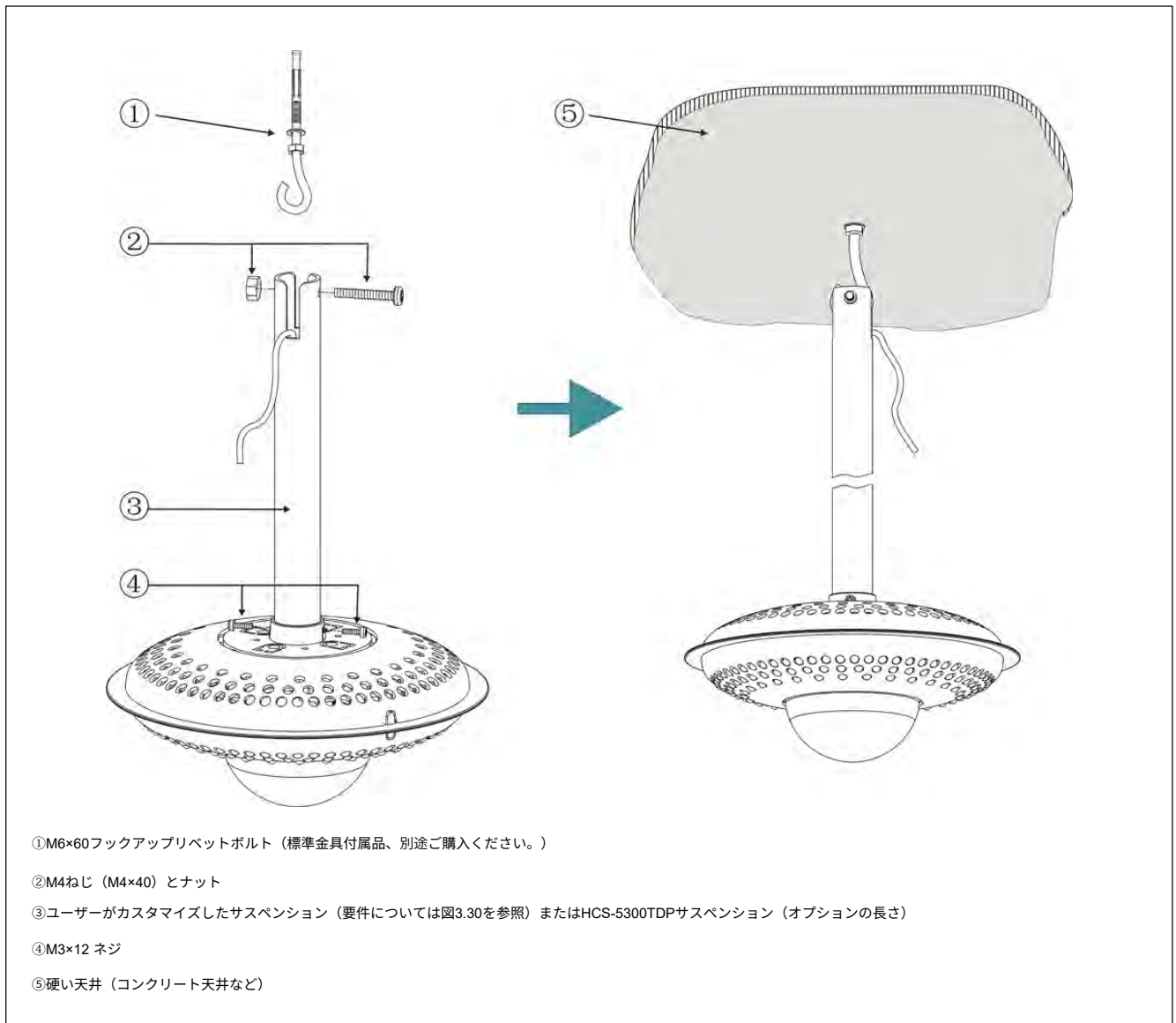


図 3.26 HCS-5300TDS/80 デジタル赤外線トランシーバーのサスペンション取り付け

取り付けの手順

- ステップ1:** M6×60フックアップリベットボルトを硬い天井（コンクリート天井など）に固定します；
- ステップ2:** HCS-5300TDS/80デジタル赤外線トランシーバーをM3×12ネジでサスペンションに固定します；
- ステップ3:** M4ネジをサスペンション上部の取り付け穴に引っ掛け、M4ナットで固定；
- ステップ4:** M6フックアップリベットボルトにサスペンションを掛ける。

警告だ:

☞この取り付け方法は、硬い天井（コンクリート天井など）で、天井の厚さがM6ネジの長さより大きい場合に適用されます。



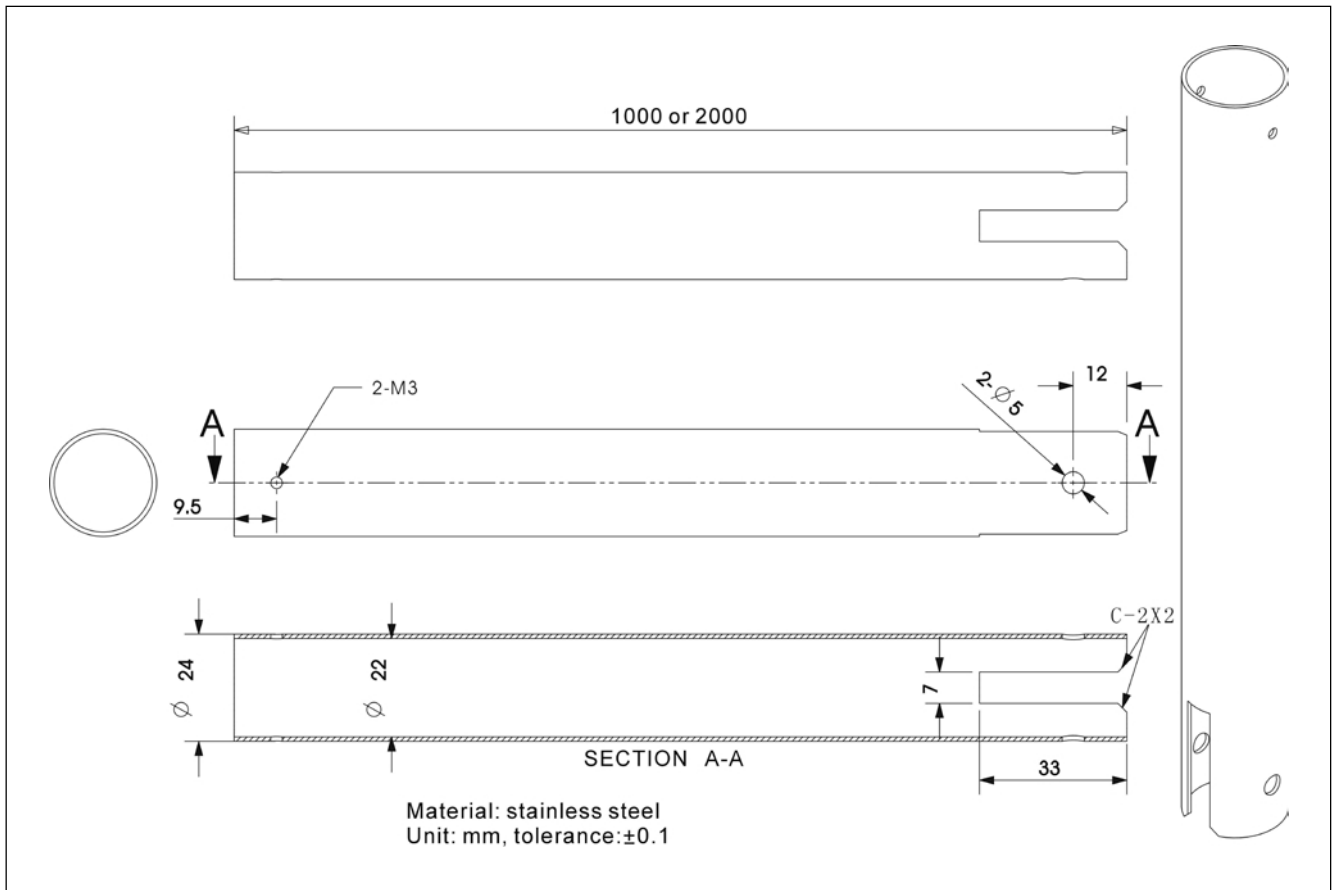


図 3.27 カスタマイズサスペンションの要件

3.5.3 HCS-5300TH/80の設置

3.5.3.1 天井取り付け

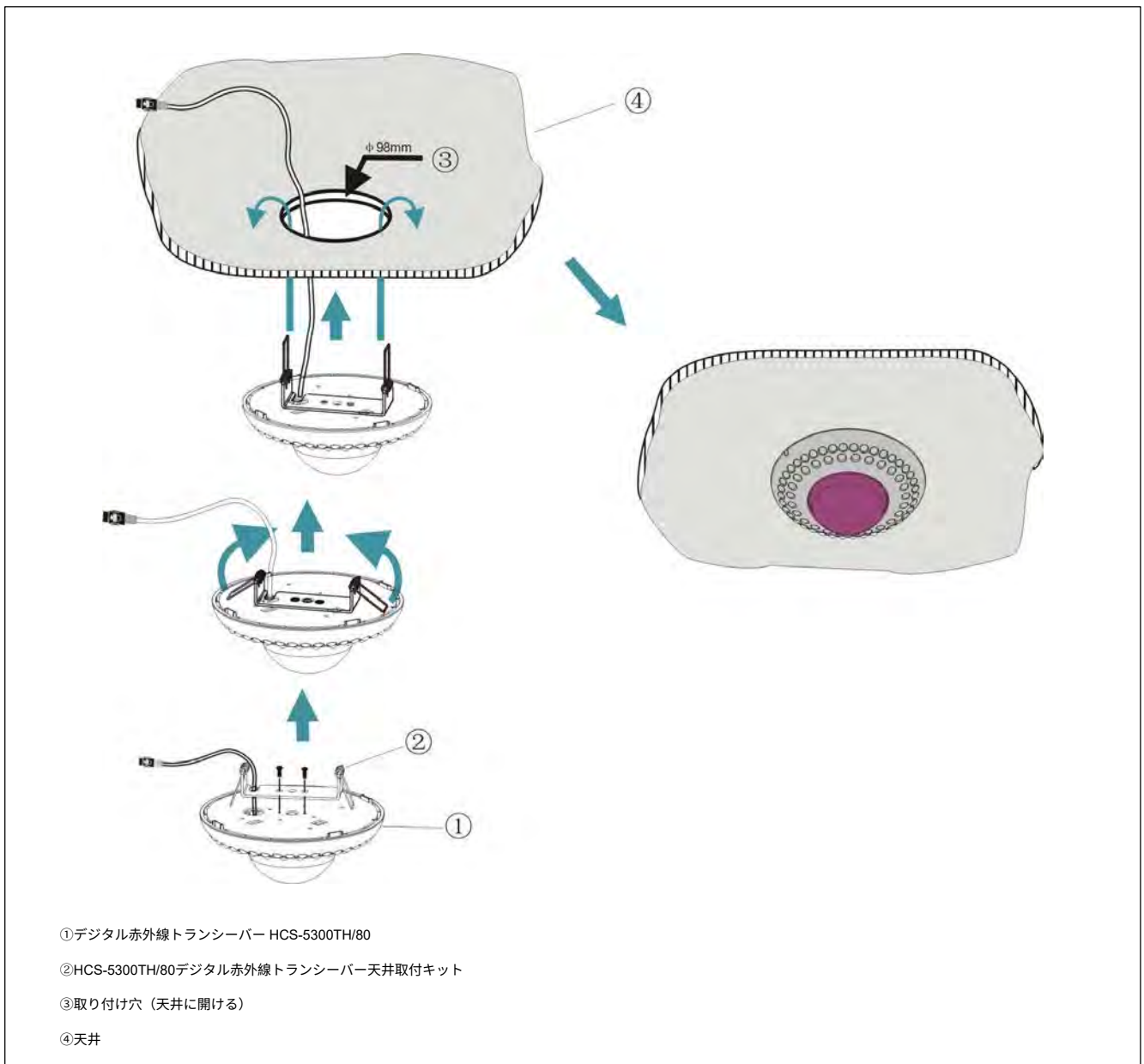


図 3.28 HCS-5300TH/80 デジタル赤外線トランスミッターの天井設置

取り付けの手順

ステップ1: 天井取り付けキットをHCS-5300TH/80トランスミッターの上部に取り付けます;

ステップ2: 天井に直径98mmの穴を開ける (取り付けと運転中の排熱のため);

警告だ:

☞ 装置の換気を良くするため、通気孔を塞がないでください。

ステップ3: ケーブルを取り付け挿入します;

ステップ4: パネをまっすぐ垂直に持ち、HCS-5300TH/80トランスミッターのベースが天井に合うまで取り付け穴に挿入します。



3.5.3.2 三脚設置 (角度調整可能)

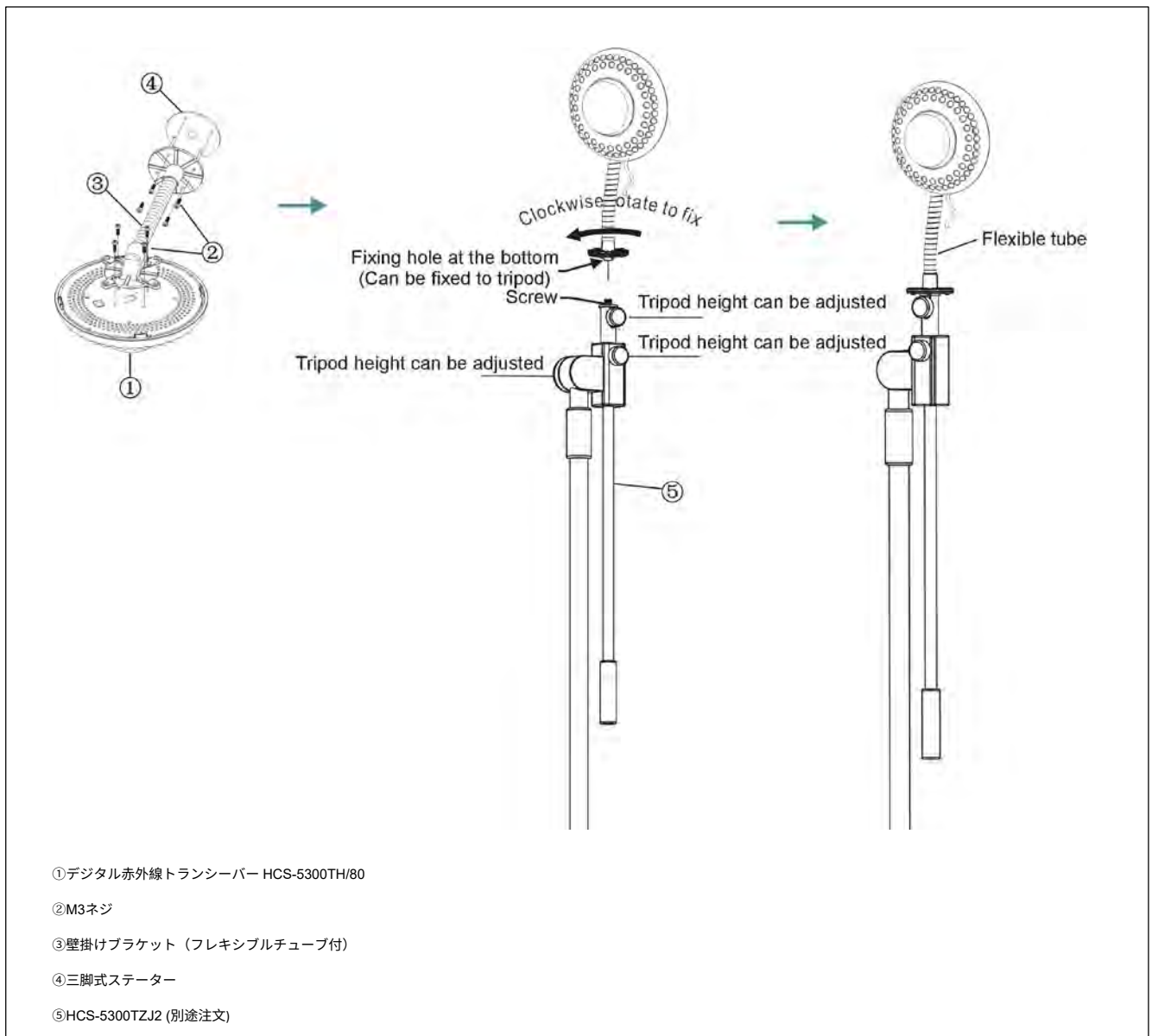


図 3.29 HCS-5300TH/80 デジタル赤外線トランシーバーの三脚取り付け

取り付けの手順

ステップ1: HCS-5300TH/80デジタル赤外線トランシーバーをM3ネジで壁に取り付けたブラケットに固定します。

ステップ2: 三脚に取り付けたステーターをM3ネジで壁に取り付けたブラケットのもう一方の端に固定します；

ステップ3: 三脚に取り付けたステーターの下部にある取り付け穴を、三脚のネジに合わせます；

ステップ4: 時計回りに回転させて固定する。

3.5.3.3 壁掛け式 (角度調整可能)

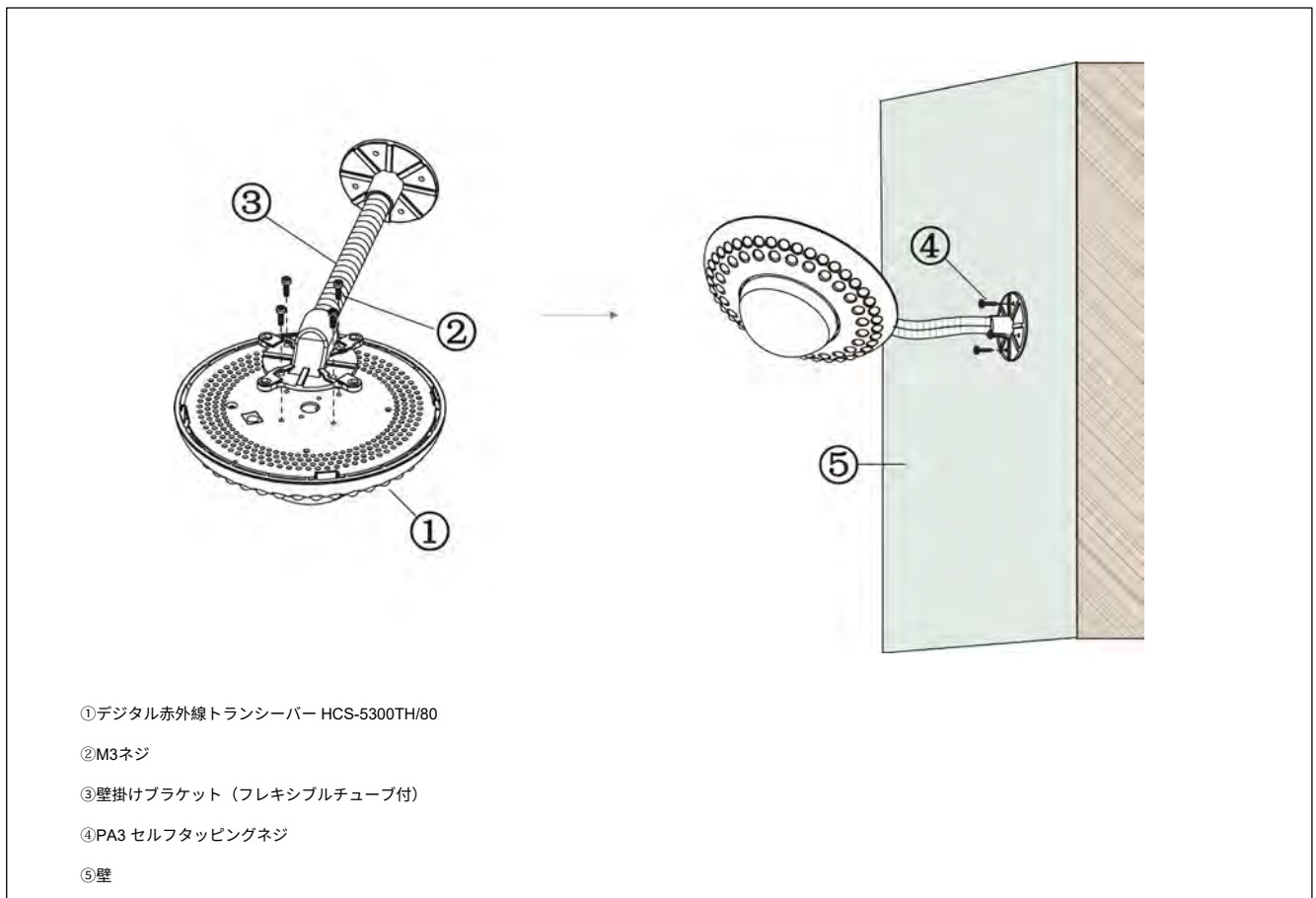


図 3.30 HCS-5300TH/80 デジタル赤外線トランスミッターの壁面取付け

取り付けの手順

ステップ1: HCS-5300TH/80デジタル赤外線トランスミッターをM3ネジで壁掛けブラケットに固定します;

ステップ2: HCS-5300TH/80の設置場所に合わせて壁掛け金具を壁に設置し、穴あけ位置に印をつけます。壁に4つの穴 (直径5mm、深さ30mm) を開けます;

ステップ3: 付属のゴム栓を取り付け穴に差し込みます;

ステップ4: 壁掛けブラケットをPA3セルフタッピングネジで壁に固定します。

警告だ:

☞ この取り付け方法は、肉厚がゴム栓の長さより大きい場合に適用されます。

3.5.4 HCS-5300TWN/80のインストール

3.5.4.1 天井取り付け

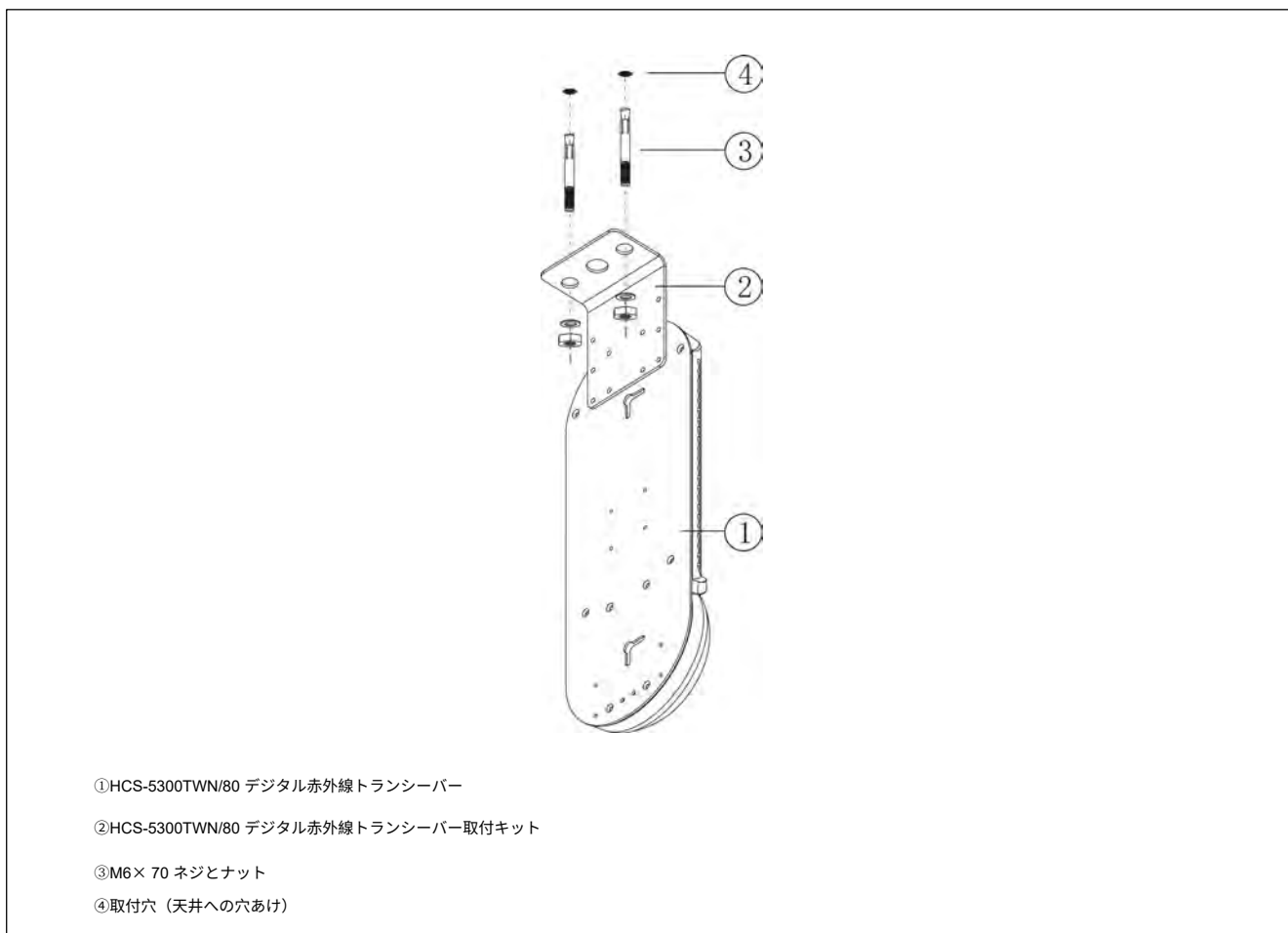


図 3.31 HCS-5300TWN/80 デジタル赤外線トランスミッターの天吊り取付け

取り付けの手順

ステップ1: HCS-5300TWN/80トランスミッターの上部にマウントキットを取り付けます;

ステップ2: HCS-5300TWN/80の設置場所に合わせて天井にマウントキットを配置し、ドリル穴の位置に印をつけます。天井に2つの穴 (直径6mm、深さ50mm) を開けます;

ステップ3: ネジを取り付け挿入します;

ステップ4: 取り付けキットをM6ナットで天井に固定します。

3.5.4.2 三脚搭載

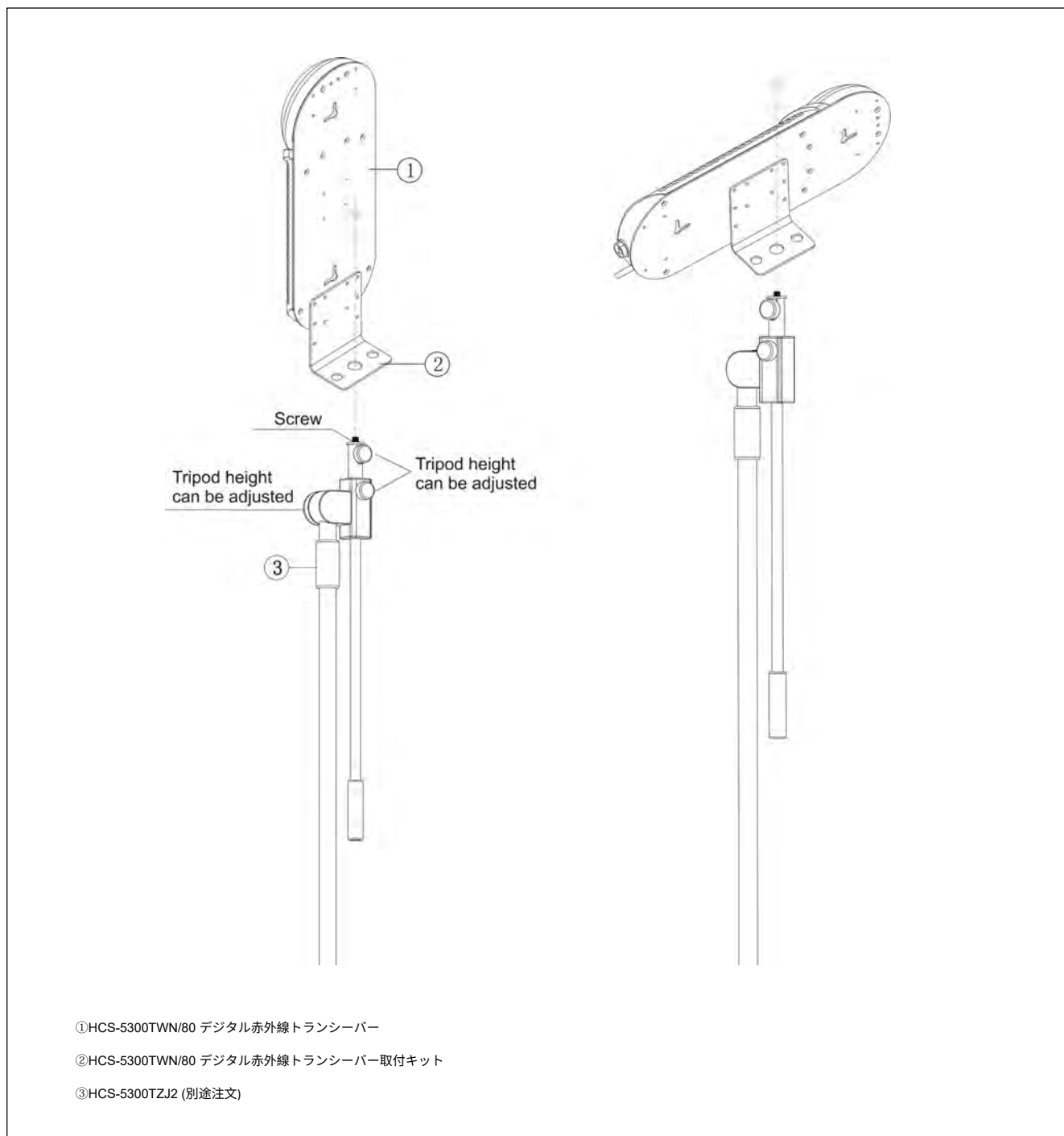


図 3.32 HCS-5300TWN/80 デジタル赤外線トランスシーバーの三脚取付け

取り付けの手順

ステップ1: HCS-5300TWN/80デジタル赤外線トランスシーバーを取付キットに固定します(横置きまたは縦置き);

ステップ2: 三脚のネジにマウントキットの固定穴を通し、ナットで固定します。

3.5.4.3 壁掛け1 (角度調整可能)

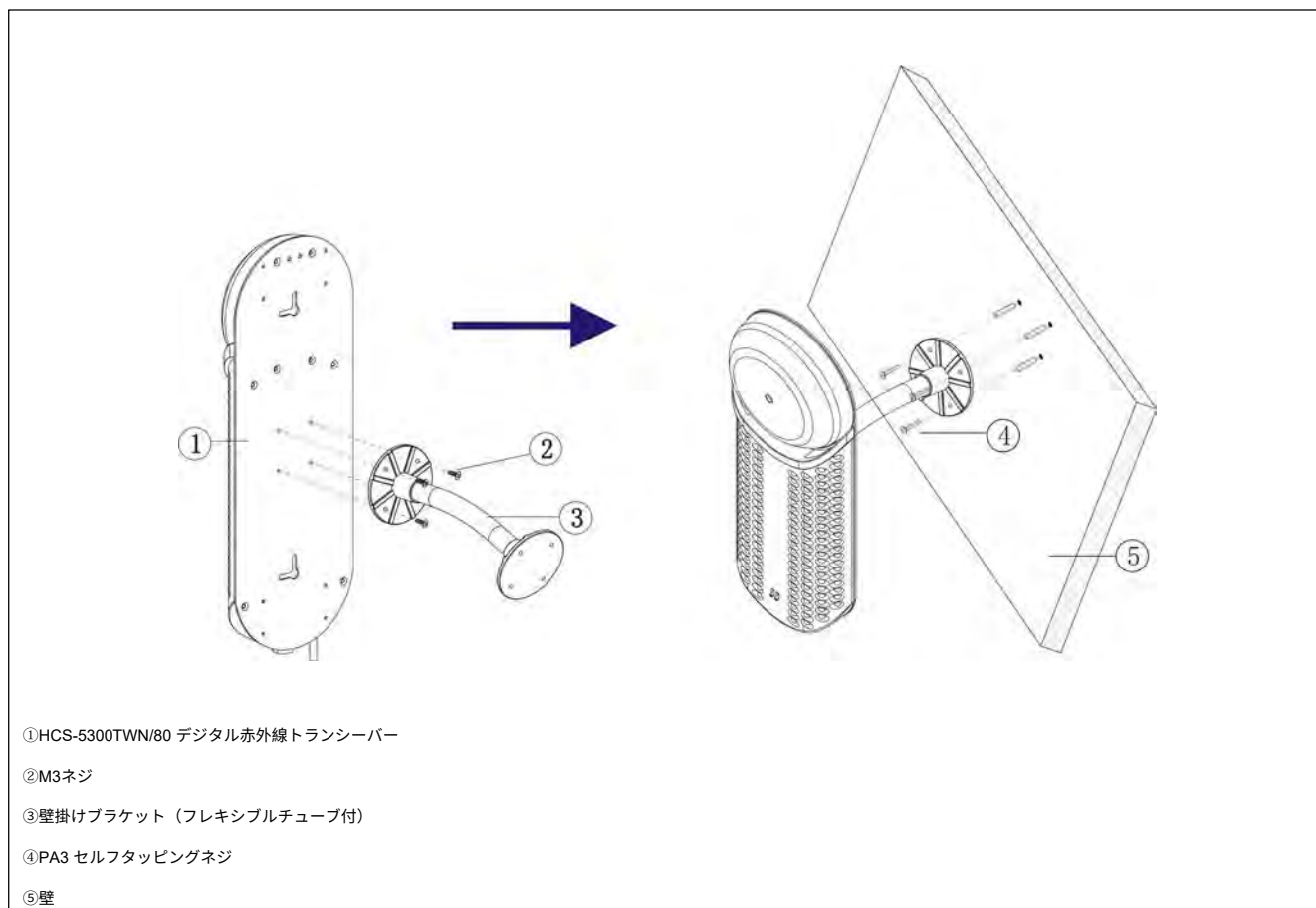


図 3.33 HCS-5300TWN/80 デジタル赤外線トランスミッターの壁取り付け1

取り付けの手順

ステップ1: HCS-5300TWN/80デジタル赤外線トランスミッターをM3ネジで壁掛けブラケットに固定します;

ステップ2: HCS-5300TWN/80の設置場所に合わせて壁掛けブラケットを壁に設置し、穴あけ位置に印をつけます。壁に4つの穴 (直径5mm、深さ30mm) を開けます;

ステップ3: 付属のゴム栓を取り付け穴に差し込みます;

ステップ4: 壁掛けブラケットをPA3セルフタッピングネジで壁に固定します。

警告だ:

☞ この取り付け方法は、壁の厚さがゴム栓の長さより大きい場合に適用されます。

3.5.4.4 壁掛け 2

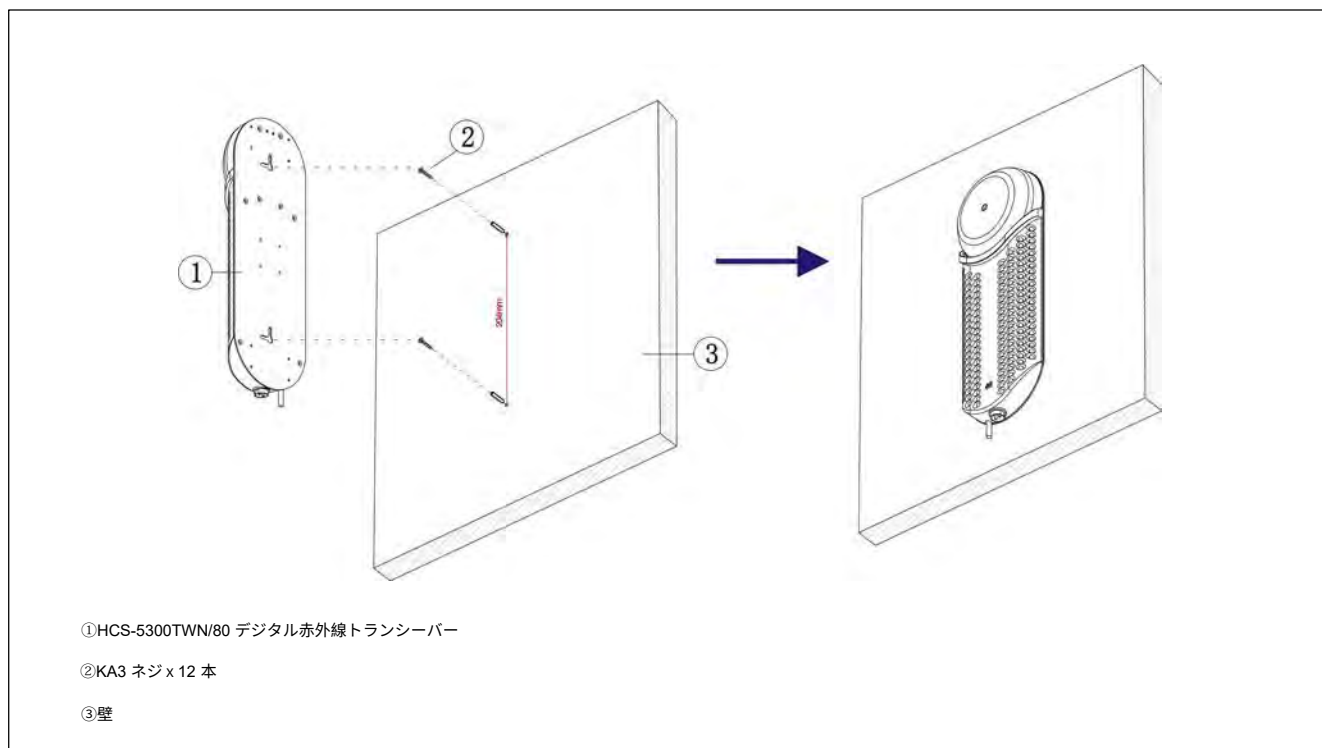


図 3.34 HCS-5300TWN/80 デジタル赤外線トランスミッターの壁取り付け2

取り付けの手順

ステップ1: HCS-5300TWN/80の設置場所に合わせて、壁に2つの穴（直径5mm、深さ30mm、垂直方向に204mm間隔）を開けます；

ステップ2: 付属のゴム栓を取り付け穴に差し込みます；

ステップ3: KA3ネジを付属のラバープラグに差し込みます；

ステップ4: HCS-5300TWN/80デジタル赤外線トランスミッターをKA3ネジに掛けます。

警告だ:

☞ この取り付け方法は、肉厚がゴム栓の長さより大きい場合に適用されます。

3.6 メインユニットへの接続

トランシーバーとメインユニットを指定の6ピン100Mbps高速ケーブルで接続します。

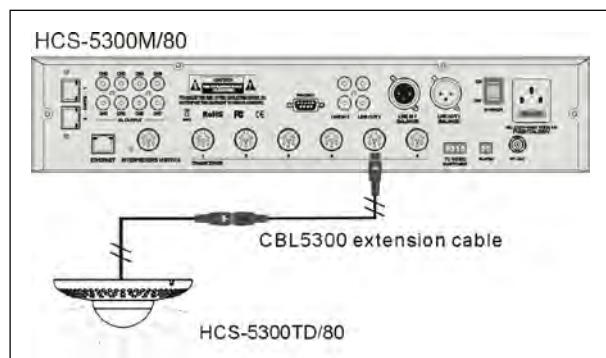
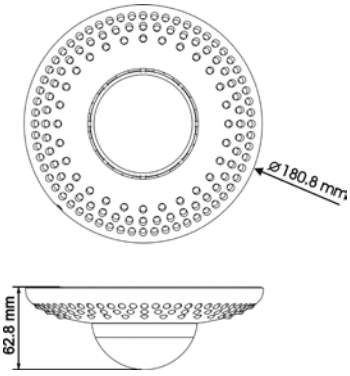
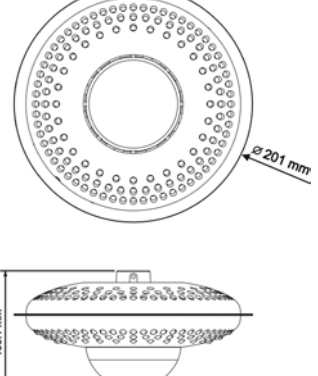


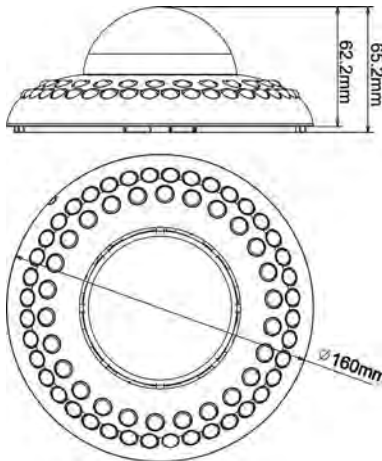
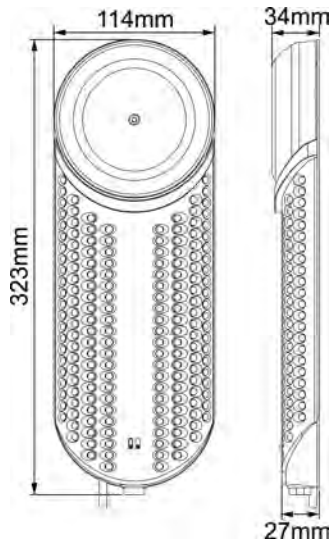
図 3.35 デジタル赤外線トランシーバーとデジタル赤外線無線会議メインユニットとの接続

注:

☞ケーブルが正しく接続されているかどうかは、トランシーバーの指示ランプが点灯していれば確認できます。指示ランプが点灯していない場合は、ケーブルの接続不良または短絡を考慮する必要があります。

3.7 仕様表

タイプ		HCS-5300TD/80	HCS-5300TDS/80
電圧		33VDC (HCS-5300から供給)	
消費電流		最大550 mA	
取り付け		三脚、壁掛け、天井取り付け	サスペンション
赤外線エミッター/ディテクター	波長	870 nm	
	変調方式	DQPSK	
	キャリア周波数	1~8 MHz	
	通信エリア	ユニット下からのエリア半径 半径約13m (天井高さ2.5~3m) 半径約11m (天井高さ3.5~4.5m) 半径約9m (天井高: 5~7m)	
接続端子		6P-DIN	
ケーブル		6P-DINオスプラグ付き2mケーブル	
寸法			
重量		0.5 kg	0.6 kg
カラー		シルバー/チャコールグレー/ホワイト	

タイプ		HCS-5300TH/80	HCS-5300TWN/80
電圧		33 V DC (HCS-5300Mより供給) DC24V (HCS-ADP24Vより供給)	33 V DC (HCS-5300Mより供給) DC24V (HCS-ADP24V2から供給)
消費電流		最大550 mA	最大650 mA (HCS-5300Mより供給) 最大650mA (アダプターから供給)
取り付け		三脚、壁掛け、天井取り付け	
赤外線エミッター 赤外線エミッター	波長	870 nm	
	変調方法	DQPSK	
	キャリア周波数	1~8 MHz	
	通信エリア	ユニット下からのエリア半径 半径約9m (天井高さ6m) 半径約11m (天井高さ9m) 半径約9m (天井高: 12m)	長さ約15m
接続端子		6P-DIN、DC電源アダプター・インターフェース	6P-DIN、電源アダプター・インターフェース 2P航空プラグ
ケーブル		6P-DINオスプラグ付き2m特定ケーブル	
寸法			
重量		0.6 kg	0.9 kg
カラー		シルバー/チャコールグレー/ホワイト	ブラック

タイプ	HCS-5352
電圧	33VDC (HCS-5300Mから供給)
I/O端子数	1イン/4アウト
コネクタ	4 x 6P-DIN ソケット+ 6P-DIN プラグ付き 2.1 m ケーブル
寸法 (h w × × d) (mm)	35 × 149 × 90
重量	0.3 kg
カラー	チャコールグレー

第4章 デジタル赤外線ワイヤレス会議ユニット

4.1 HCS-5300/80シリーズ

4.1.1 概要

HCS-5300/80シリーズデジタル赤外線ワイヤレス会議ユニットは、参加者の基本デバイスで、参加者ユニットと優先機能を持つ議長ユニットに分かれています。使用する会議ユニットのタイプによって、さまざまな機能が利用できます。機能としては、傍聴、発言、LCD表示、キープレスによるサインイン、投票、同時通訳などがあります。

モデル

HCS-5300CE/80

デジタルIRワイヤレス議長ユニット（ディスカッション、投票、1+7 CH、HCS-5100Plusシリーズと連携し、8 CHの同時音声を実現可能）

HCS-5300DE/80

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット（ディスカッション、投票、1+7CH、HCS-5100Plusシリーズと連携し、8 CHの同時音声を実現可能、バッテリーを除く、ステムマイクは別途ご注文ください。）

HCS-5301D/80

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット（ディスカッション、1+7CH、2チャンネルセレクター、デュアル事前定義ポジション、HCS-5100Plusシリーズと連携して8CHの同時音声を実現可能、バッテリーを除く、ステムマイクは別途注文）

HCS-5302C/80

デジタルIRワイヤレス議長ユニット（バッテリーを除く、ステムマイクは別途注文）

HCS-5302D/80

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット（ディスカッション、バッテリーを除く、ステムマイクは別途注文）

4.1.2 機能と表示

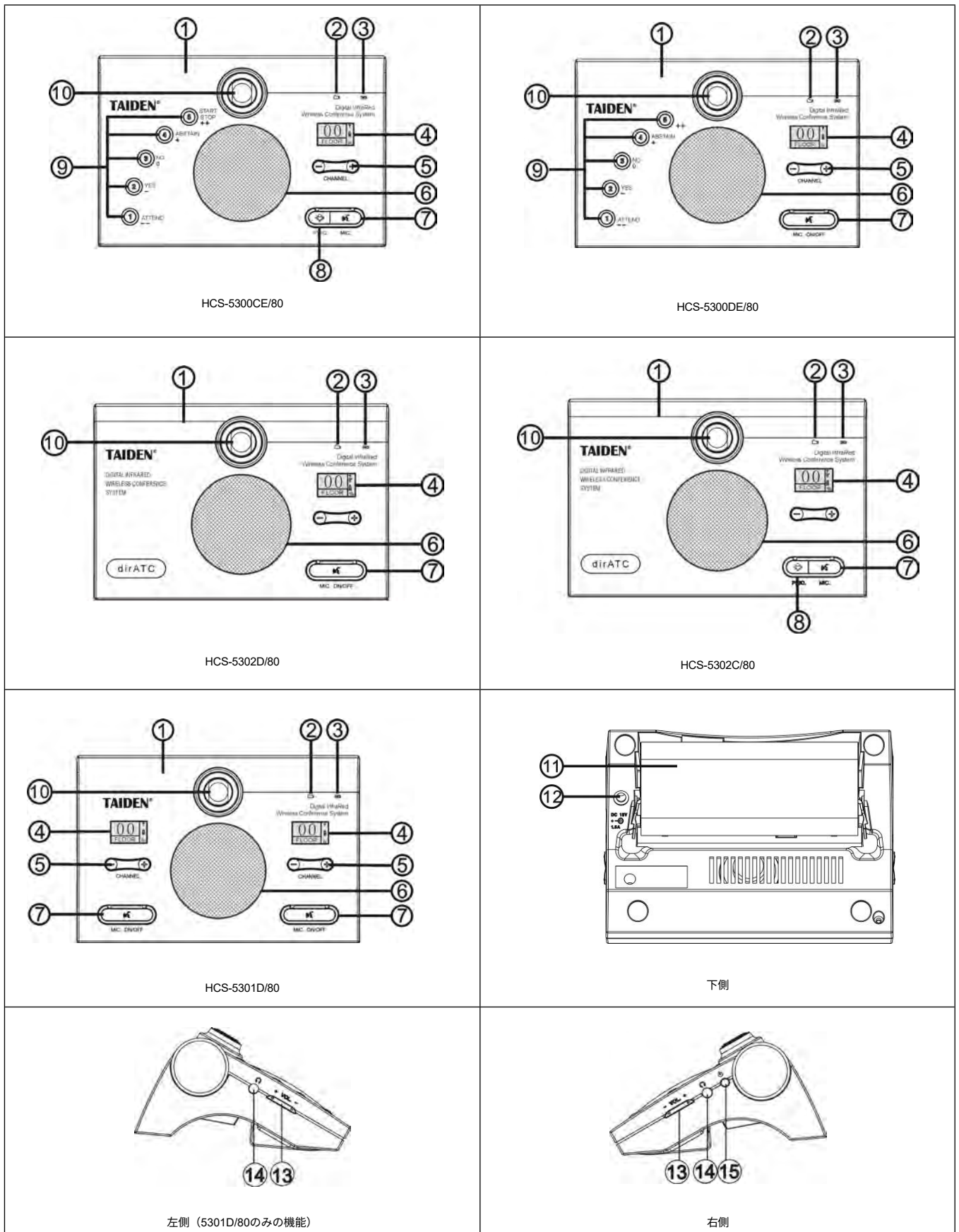


図 4.1 HCS-5300/80 シリーズ デジタル赤外線ワイヤレス会議ユニット

図4.1:

1.赤外線送受信ガラス - 赤外線信号を送受信するために会議ユニットの前面にあります。

注:

☞ 赤外線信号がガラスに届くのを遮るものがないようにしてください。

2.充電インジケータ

3.フル充電インジケータ

4. LCD - チャンネル番号、言語名、シグナル・アイコン、バッテリー容量、エミッション・アングルを表示。

5. チャンネルセレクター (注: イヤホンが接続されている場合のみ操作可能)

6. 内蔵スピーカー - フロア音声を出力。音量はメインユニットまたはPCアプリケーション・ソフトウェアで調整。マイクのスイッチを入れると自動的にミュート。

7. マイクオン/オフボタン (周囲に表示ランプ付き)

➤ **議長ユニット:** アクティブなマイクの数4本以下の場合、マイクのオン/オフを切り替える

➤ **参加者ユニット:**

- a. "Override" モードでマイクをオン/オフ;
- b. マイクのアクティブリミット数に達していない場合、"Open" モードでマイクをオン/オフします;
- c. "Voice" モードでマイクが作動している場合は、マイクをオフにします;
- d. "APPLY" モード(WEBでサポート)または "REQUEST" モード(DCSソフトウェアでサポート)で発言要求/マイクオフ。

➤ **表示灯 (メインユニットから設定):**

オプション	状態	マイク	ボタン
マイクオン時: グリーン	発言中	グリーン	グリーン
	発言権申請中	レッド	レッド
	Voice (発言なし)	オフ	レッド
マイクオン時: レッド	発言中	レッド	レッド
	発言権申請中	グリーン	グリーン
	Voice (発言なし)	オフ	グリーン

8. 優先ボタン (議長ユニットのみ)

- All mute に設定した場合、優先ボタンが押されると、すべてのアクティブなマイクは一時的にミュートされ、優先ボタンが離されるとミュートが解除されます;
- All off に設定すると、優先ボタンが押された時、アクティブなマイクは全て自動的にオフになります;
- 議長ユニットのマイクがアクティブでない場合、優先ボタンを押すことでアクティブになります;
- メインユニットで"Ring" モードが "On" に設定されている場合、ボタンを押すと着信音が鳴ります。

9. 5つの多機能ボタン (周囲にインジケータ付き)

➤ **サインイン/候補者1/応答-- (「ATTEND/1/-」):**

- a. サインイン・モードでは、サインイン指示ランプが点滅しますので、このボタンを押してサインインしてください;
- b. 投票時は、投票指示ランプが点滅し、候補者1に投票するには、このボタンを押してください;
- c. 投票時の聴衆の応答状態では、投票の指示ランプが点灯し、「100」の応答「0」を与えるために、このボタンを押します (「-」)。

➤ **はい/候補者2/応答- (「YES/2/-」):**

- a. 投票状態では、投票指示ランプが点滅し、承認するには、このボタンを押してください;
- b. 投票状態では、投票指示ランプが点滅し、候補者2に投票するには、このボタンを押してください;
- c. 投票時の聴衆の応答状態では、投票の指示ランプが点灯し、「100」の応答「25」を与えるために、このボタンを押します (「-」)。

➤ **いいえ/候補者3/回答0 ("NO/3/0") :**

- a. 投票態では、投票指示ランプが点滅し、反対するには、このボタンを押してください;
- b. 投票状態では、投票指示ランプが点滅し、候補者3に投票するには、このボタンを押してください;
- c. 投票時の聴衆の応答状態では、投票の指示ランプが点灯し、「100」の応答「50」を与えるために、このボタンを押します（「0」）。

➤ **棄権/候補者4/回答+（「棄権/4/+」）:**

- a. 投票状態では、投票指示ランプが点滅し、棄権するには、このボタンを押してください;
- b. 投票状態では、投票指示ランプが点滅し、候補者4に投票するには、このボタンを押してください;
- c. 投票時の聴衆の応答状態では、投票の指示ランプが点灯し、「100」の応答「75」を与えるために、このボタンを押します（「+」）。

➤ **スタート/ストップ/候補5/レスポンス++ ("START/STOP/5/++") :**

- a. 投票意見投票状態では、投票指示ランプが点滅し、候補者5に投票するには、このボタンを押してください;
- b. 投票時の聴衆の応答状態では、投票の指示ランプが点灯し、「100」の応答「100」を与えるために、このボタンを押します（「++」）;

10. 取り外し可能なマイク・ソケット

11. リチウム電池位置

12. 電源アダプター・インターフェース

13. イヤホン音量調節

14. イヤホンジャック - Ø 3.5 mmステレオイヤホンジャック

15. 電源スイッチ

4.1.3 赤外線受信エリア

赤外線は指向性のある目に見えない光です。赤外線ワイヤレス会議ユニットは、直接トランスミッターと向かい合ったときに最高の感度を得ます。すべてのHCS-5300/80シリーズデジタル赤外線ワイヤレス会議ユニットは、最大受信角度を保证するために、その間口に赤外線ガラスが装備されています。

垂直方向の発光角度は 125° 、水平方向の発光角度は 120° あります。

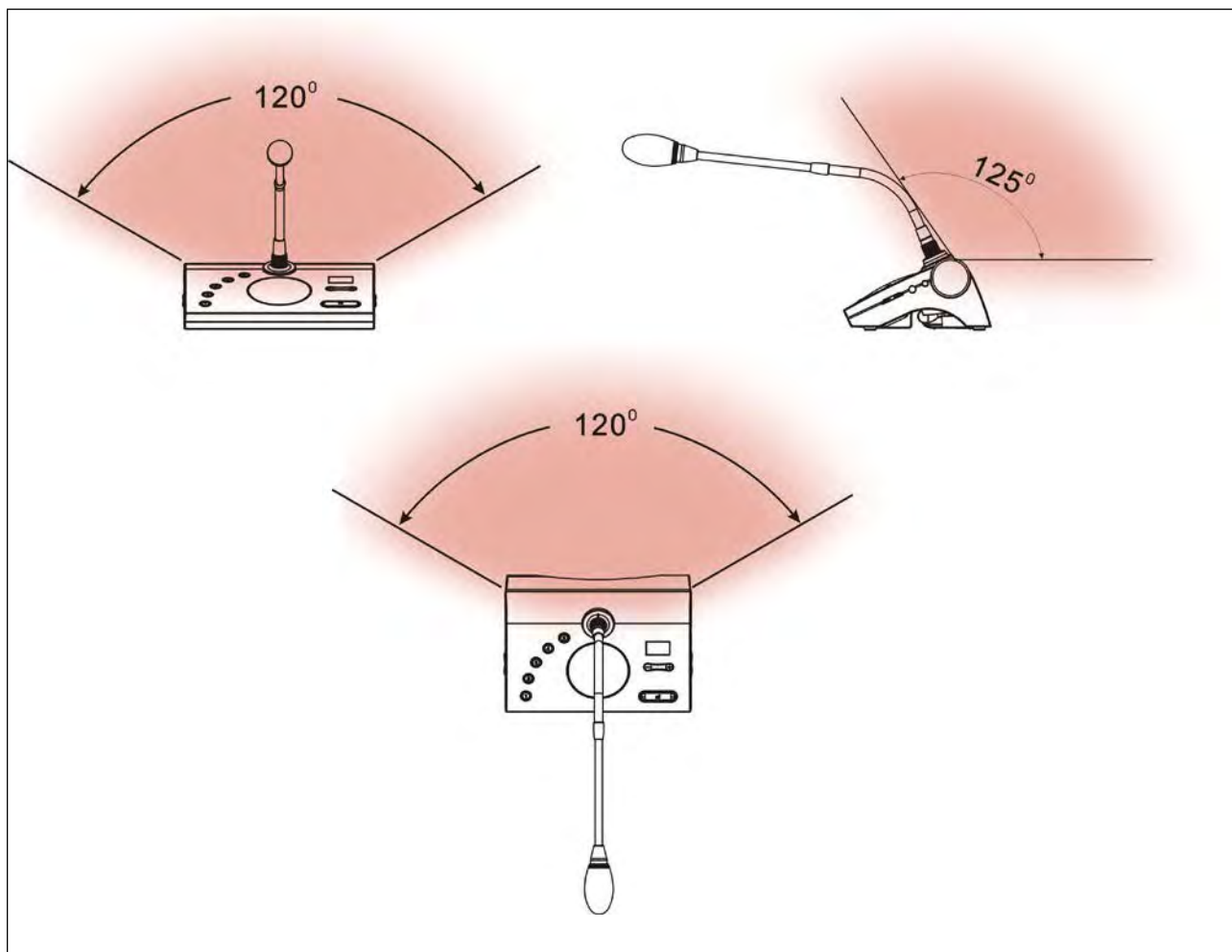


図 4.2 新世代デジタル赤外線無線会議ユニットのカバーエリア

4.1.4 使用上の注意

- 直射日光が当たると信号が遮断されることがあります。

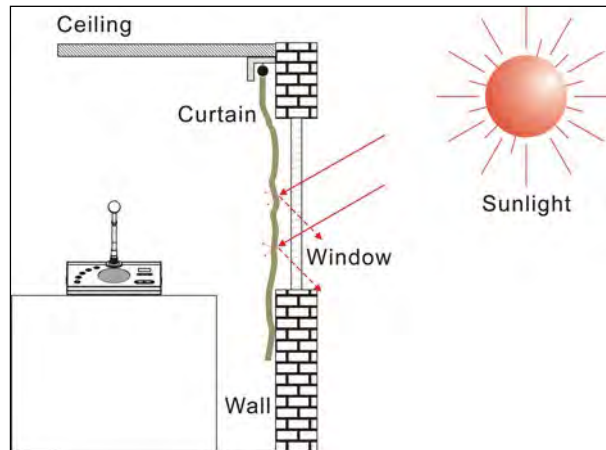


図 4.3 カーテンを開けて直射日光を避ける

- 隣接する会議ユニット間の距離は0.5メートル以上、対向する会議ユニット間の距離は0.8メートル以上でなければならない。

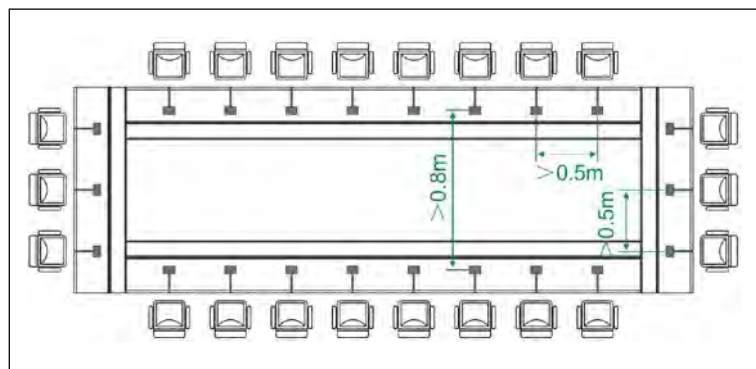


図 4.4 会議ユニット間の距離

- 会議ユニットと最寄りのトランシーバーとの距離は、少なくとも2メートル以上が必要です。

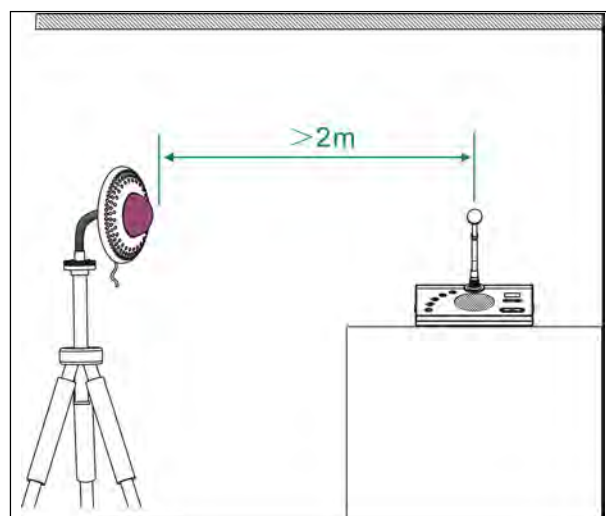


図 4.5 会議ユニットとトランシーバー間の距離

4.1.5 オペレーション

議長ユニットと参加者ユニットの操作については、このセクションで詳しく紹介する。

4.1.5.1 参加者ユニットの運用

HCS-5300D/80を参考に、デジタル赤外線ワイヤレスデリゲートユニットの操作を紹介します。HCS-5300D/80は、発言、投票、チャンネル選択、LEDチャンネル表示が一体となった参加者ユニットです。他のタイプの参加者ユニットは、全てまたは一部の機能を備えています。ソフトウェア（TAIDENデジタル会議システム）により、参加者ユニットをVIPユニットに設定することができます。



図 4.6 HCS-5300/80 シリーズ会議ユニット（マイク付）

1. マイク・アクティブ・モード

Mic.アクティブモードはメインユニットより設定可能。

■ 「オープン」

- ◇ マイクのアクティブ数が上限(1/2/3/4)に達していない場合、"Mic. On/Off" ボタンを押すとマイクがオンになります。On/Off ボタンを押すとマイクがオンになります
- ◇ マイクのアクティブ数が上限に達している場合、参加者のマイクをそれ以上アクティブにすることはできません。

■ 「オーバーライド」

- ◇ マイクのアクティブ数が上限(1/2/3/4)に達していない場合、Mic. On/Off ボタンを押すとマイクがオンになります。On/Off ボタンを押すとマイクがオンになります
- ◇ マイクのアクティブ数が上限に達した場合、最初にオンになった参加者のマイクは、別の参加者のマイクがアクティブになると、自動的にオフになります（ファーストイン/ファーストアウト）。システム内でアクティブなマイクの総数が4つ未満の場合、VIP/議長マイクは4つになるまでアクティブにすることができ、その後、別のVIP/議長マイクがアクティブになると、最初にオンになったユニットは自動的にオフになります（先に参加者ユニットがオフになり、次にVIP/議長ユニットがオフになります）。

■ 「ボイス」

- ◇ マイクのアクティブ数が上限(1/2/3/4)に達していない場合、参加者がマイクと近い距離で発言すると、マイクがアクティブになります。参加者が設定した時間内に発言が無かった場合、マイクは自動的に非アクティブになります。
- ◇ マイクのアクティブ数が上限に達した場合、アクティブなマイクの1つをOFFにしない限り、他のマイクをアクティブにすることはできません。VIP/議長マイクは、システム内のアクティブマイクの総数が4本未満であれば、アクティブにすることができます。

■ "APPLY"モード(WEBでサポート)または"REQUEST"モード(DCSソフトウェアでサポート)

- ◇ マイクのリクエスト上限(PCで設定)に達していない場合は、「Mic.On/Off」ボタンを押すことで、発言権を要求することができます;
- ◇ マイクのリクエスト数が上限(1/2/3/4)に達している場合、他のリクエストは承認できません。VIP/議長マイクは、システム内のアクティブなマイクの合計数が4未満である場合でもアクティブにすることができます。

起動したマイクにカメラが自動的にフォーカスを合わせることができます(アプリケーションソフトが必要)。スピーカーの大型スクリーンに出力可能。

2. 投票(アプリケーションソフトが必要)

HCS-5300アプリケーションソフトウェアは投票を開始することができます。

- 会議ユニットの投票ボタン指示ランプが点滅し始め、参加者は投票ボタンを押して投票することができる;
- 「最初に押したキーが有効」の場合、投票できるのは1回のみで、投票が終わると投票指示ランプは消灯する;
- 「最後に押したキーが有効」の場合、参加者は自分の投票を変更することができる。参加者が投票すると、投票したキーの指示ランプが点灯し、他のすべての指示ランプは消灯します。約1秒後、すべての指示ランプが再び点滅し、投票を変更することができます。最後に投票したキーが有効票になります。

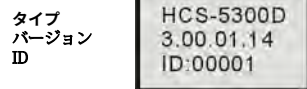
3. チャンネル選択

- メインユニットと通訳ユニットを接続した場合、または外部音声・同時通訳機能进行操作した場合、チャンネル選択機能が起動します。チャンネル選択機能を使用するには、イヤホンをする必要があります。イヤホンをする、チャンネルセレクターで通訳言語を選択することができます。
- イヤホンを抜くと、会議ユニットは自動的にフロアオーディオチャンネルに切り替わります。

4. LCDディスプレイ

■ スタートアップインターフェース

時にLCDに表示されるのは、以下のようなスタートアップインターフェースである:



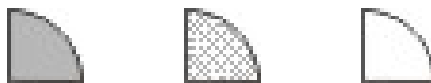
■ チャンネル番号と言語名の表示インターフェース

起動表示後、フロアオーディオチャンネルが表示されます:



同時通訳機能が動作していてイヤホンを接続すると、参加者ユニットのチャンネルセレクターで同時通訳チャンネルを選択できます。チャンネル番号と言語名が表示されます。

メインユニットでマイクIR強度自動調整が有効になっている場合、IR放射強度はリアルタイムで表示され、アイコンは次のように表示されます:



5. キーレスサインイン (アプリケーションソフトが必要)

サインインモードでは、サインイン指示ランプが点滅します。「Attend」ボタンを押してサインインすると、ランプは消灯します。

6. 音量調節

- a) 参加者ユニットの内蔵スピーカーは、メインユニットのスピーカーボリューム調整ノブで調整できます;
- b) イヤホンの音量は、参加者ユニットの音量調節ボタンで調節できます。

7. 充電

HCS-5300/80会議ユニットは、HCS-ADP15Vアダプタで充電することができます; または、会議ユニットからリチウム電池を取り外して、HCS-5300CHG/08充電ユニットで充電することができます。アダプターで充電する場合、充電インジケータと満充電インジケータは現在の電源状態とバッテリーの状態を表示します:

	充電中インジケータ	フル充電インジケータ
充電中	オン	-
フル充電	-	オン

4.1.5.1 議長ユニットの操作

議長ユニットは、参加者ユニットの機能に加え、優先機能があります:

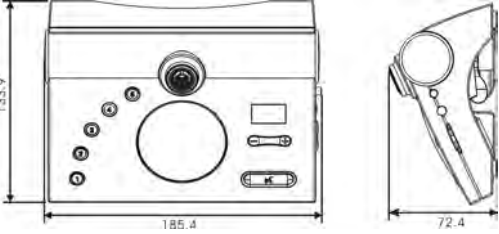
- メインユニットで優先モードが「All Mute (全ミュート)」に設定されている場合、議長ユニットの優先ボタンを押すとアクティブな会議ユニットはすべてミュートされ、優先ボタンを離すとアクティブに戻ります;
- メインユニットで優先モードが「All Off (全オフ)」に設定されている場合、議長ユニットの優先ボタンを押すとすべてのアクティブな会議ユニットの電源が自動的にオフになります。

注:

☞システム内に複数の議長ユニットがあり、1人の議長が優先キーを押している場合、残りの議長ユニットの優先キーは一時的に操作できなくなります。

4.1.6 仕様表

タイプ		HCS-5300CE/80	HCS-5300DE/80	HCS-5301D/80	HCS-5302D/80	HCS-5302C/80
ディスカッション		√	√	√	√	√
投票		5つの鍵		-	-	-
同時通訳		1+7チャンネル	1+7チャンネル	2× (1+7) チャンネル	-	-
優先キー		√	-	-	-	√
電圧		DC10.95V (HCS-5300BATバッテリー)、DC15V (HCS-ADP15V電源アダプター)				
消費電流		マイクオン時：320 mA マイクオフ時：65 mA				
赤外線エミッター/レシーバー	波長	870 nm (AM: 輝度変調)				
	変調方式	DQPSK				
	キャリア周波数	送信：制御チャンネル：3.8MHz オーディオチャンネル1：4.3 MHz オーディオチャンネル2：4.8 MHz オーディオチャンネル3：5.8 MHz オーディオチャンネル4：6.3 MHz 受信：フロア音声+ 通訳音声 (0-3) + 制御信号：2.333MHz フロア音声+ 通訳音声 (4-7) + 制御信号：1.666MHz				
	受信/放出角度	垂直：角度選択可能、範囲：125°; 水平：120				
出力		内蔵スピーカー：4ΩW イヤホンØ 3.5 mm				
ディスプレイ		64×48 LCDディスプレイ				
バッテリーの動作時間		マイクオン時：約14.4時間 マイクオフ時：約48時間				
バッテリーの充電時間		HCS-5300CHG/08経由で約4時間 HCS-ADP15V経由で約4時間				
SNR		≥90 dB(A)				
周波数特性		50 Hz～20 kHz				
ダイナミック・レンジ		≥90 dB				
1kHzにおける全高調波歪み		≤0.05 %				
1kHzでのクロストーク減衰		≥80 dB				
ステムマイクロフォン		MS5*およびMS**Eタイプのステムマイクロホンに適合します。				
イヤホン負荷		≥16 Ω				
イヤホン音量		10 mW				
マイクゲイン調整範囲		-12 dB - +12 dB				
マイク高音/低音調整範囲		-12 dB - +12 dB				

タイプ	HCS-5300CE/80	HCS-5300DE/80	HCS-5301D/80	HCS-5302D/80	HCS-5302C/80
寸法					
重量 (バッテリーを除く)	0.5 kg				
重量 (バッテリー含む)	0.8 kg				
カラー	シルバー/チャコールグレー				

4.2 HCS-5380シリーズ

4.2.1 概要

HCS-5380シリーズデジタル赤外線ワイヤレス会議ユニットは、参加者の基本ユニットで、参加者ユニットと優先機能を持つ議長ユニットに分かれています。使用する会議ユニットのタイプにより、さまざまな機能が利用できます。傍聴、発言、OLED表示、キープレスによるサインイン、投票、同時通訳などの機能があります。

モデル

HCS-5380CVS

デジタルIRワイヤレス議長ユニット（ディスカッション、投票、1+7 CHは、HCS-5100Plusシリーズと連携し、8 CHの同時音声を実現可能）

HCS-5380C

デジタルIRワイヤレス議長ユニット（ディスカッション）

HCS-5380DVS

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット（ディスカッション、投票、1+7CH、HCS-5100Plusシリーズと連携し、8CHの同時音声を実現可能）

HCS-5380DDS

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット（ディスカッション、1+7 CHs、2チャンネルセレクトタ、デュアルプリセットポジション、HCS-5100Plusシリーズと連携し、8 CHの同時音声を実現可能）

HCS-5380DS

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット(ディスカッション、1+7 CHsは、HCS-5100Plusシリーズと連携し、8 CHの同時音声を実現可能)

HCS-5380D

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット（ディスカッション）

4.2.2 機能と表示

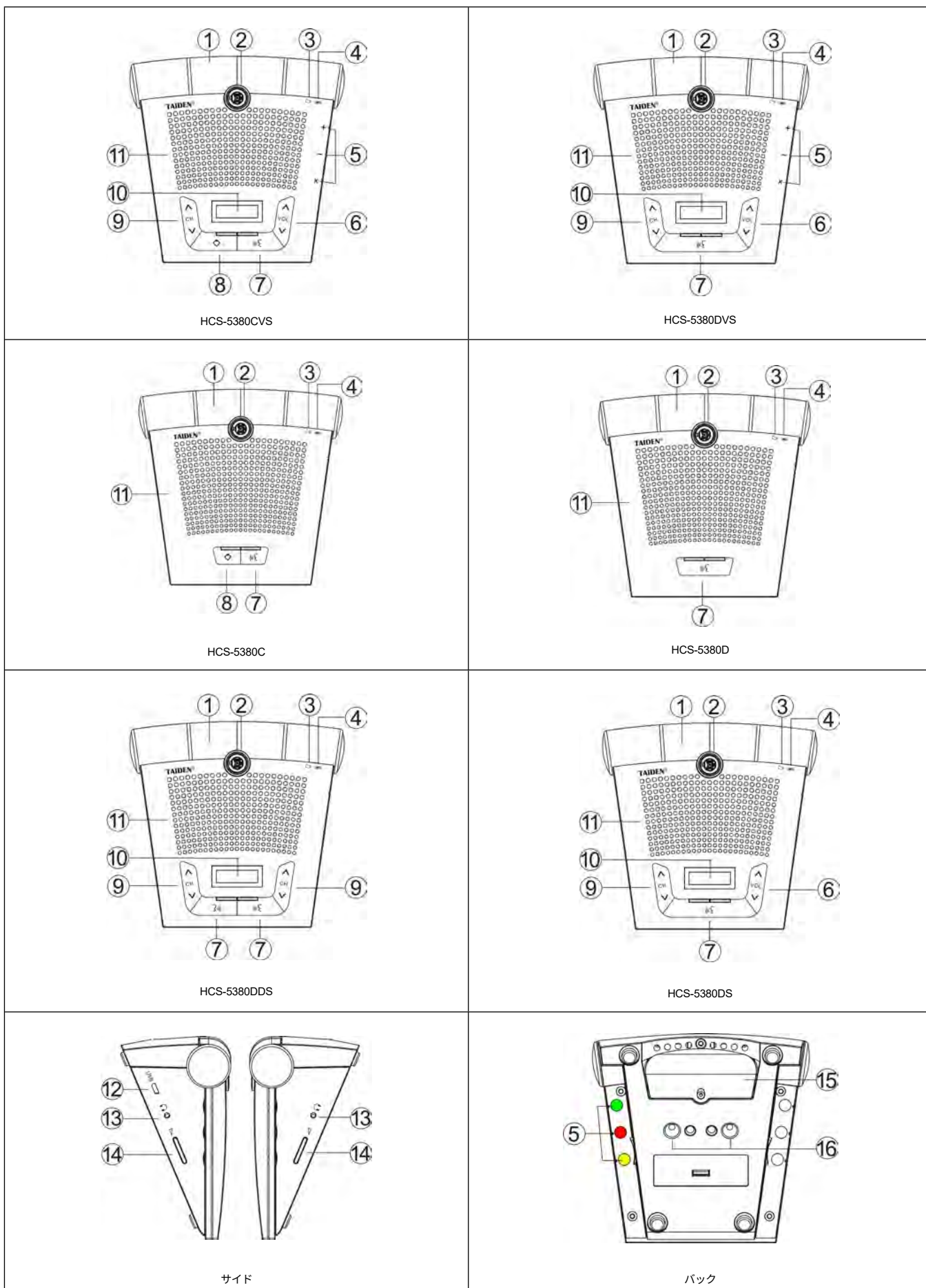


図 4.7 HCS-5380 シリーズ デジタル赤外線ワイヤレス会議ユニット

図4.7:

1. 赤外線送受信ガラス - 赤外線信号を送受信するために会議ユニットの前面にあります。

注:

☞ 赤外線信号がガラスに届くのを遮るものがないようにしてください。

2. 取り外し可能なマイク・ソケット

3. 充電インジケータ

4. バッテリーインジケータ

5. 3 機能ボタン (HCS-5380CVS/DVSのみ)

機能	+	-	×
サインイン	任意のボタン		
投票 1	はい	いいえ	棄権
投票 2	1	2	3

6. イヤホン音量調節

7. マイクオン/オフボタン (周囲に表示ランプ付き)

➤ ボタンを押すことで電源をオンにし、電源オフボタンを長押しして電源をオフにします。

➤ **議長ユニット:** アクティブなマイクの数4本以下の場合、マイクのオン/オフ

➤ **参加者ユニット:**

- a. 「Override」モード: マイクのオン/オフ
- b. 「Open」モード: マイクのアクティブリミット数に達していない場合のみ、マイクのオン/オフ
- c. 「Voice」モード: マイクが作動している場合は、マイクをオフ
- d. 「APPLY」モード(WEBでサポート)または「REQUEST」モード(DCSソフトウェアでサポート): 発言要求/マイクオフ。

➤ **表示灯 (メインユニットから設定):**

オプション	状態	マイク	ボタン
マイクオン時: グリーン	発言中	グリーン	グリーン
	発言権要求中	レッド	レッド
	Voice (発言なし)	オフ	レッド
マイクオン時: レッド	発言中	レッド	レッド
	発言権要求中	グリーン	グリーン
	Voice (発言なし)	オフ	グリーン

8. 優先ボタン (議長ユニットのみ)

- 「All mute」に設定すると、優先ボタンが押されたとき、すべてのアクティブなマイクが一時的にミュートされ、優先ボタンが離されるとミュートが解除されます;
- 「All off」に設定すると、優先ボタンが押された時、アクティブなマイクは全て自動的にオフになります;
- 議長ユニットのマイクがアクティブでない場合は、優先ボタンを押してアクティブにします;
- メインユニットで "Ring" モードが "On" に設定されている場合、このボタンを押すと着信音が鳴ります。

9. チャンネルセレクター (注: イヤホンが接続されている場合のみ操作可能)

10. スクリーンセーバー付き有機EL-チャンネル番号、言語名、バッテリー容量、イヤホン音量を表示。

11. 内蔵スピーカー - フロア音声を出力。音量はメインユニットまたはPCアプリケーション・ソフトウェアで調整。マイクのスイッチを入れると自動的にミュート。

12. USBインターフェース

- アップグレード用
- 充電用アダプター接続用

13. イヤホンジャック (HCS-5380DDSは2) - Ø 3.5 mmステレオイヤホンジャック

14. イヤホン音量ボタン (HCS-5380DDSは2ボタン式)

15. バッテリースロット

16. 充電接点

4.2.3 赤外線受信エリア

赤外線は指向性のある目に見えない光です。赤外線ワイヤレス会議ユニットは、直接トランシーバーと向かい合うとき、最高の感度を得ます。すべてのHCS-5380シリーズデジタル赤外線ワイヤレス会議ユニットは、最大受信角度を保证するために、その間口に赤外線ガラスが装備されています。

垂直方向の発光角度は125°、水平方向の発光角度は120°です。

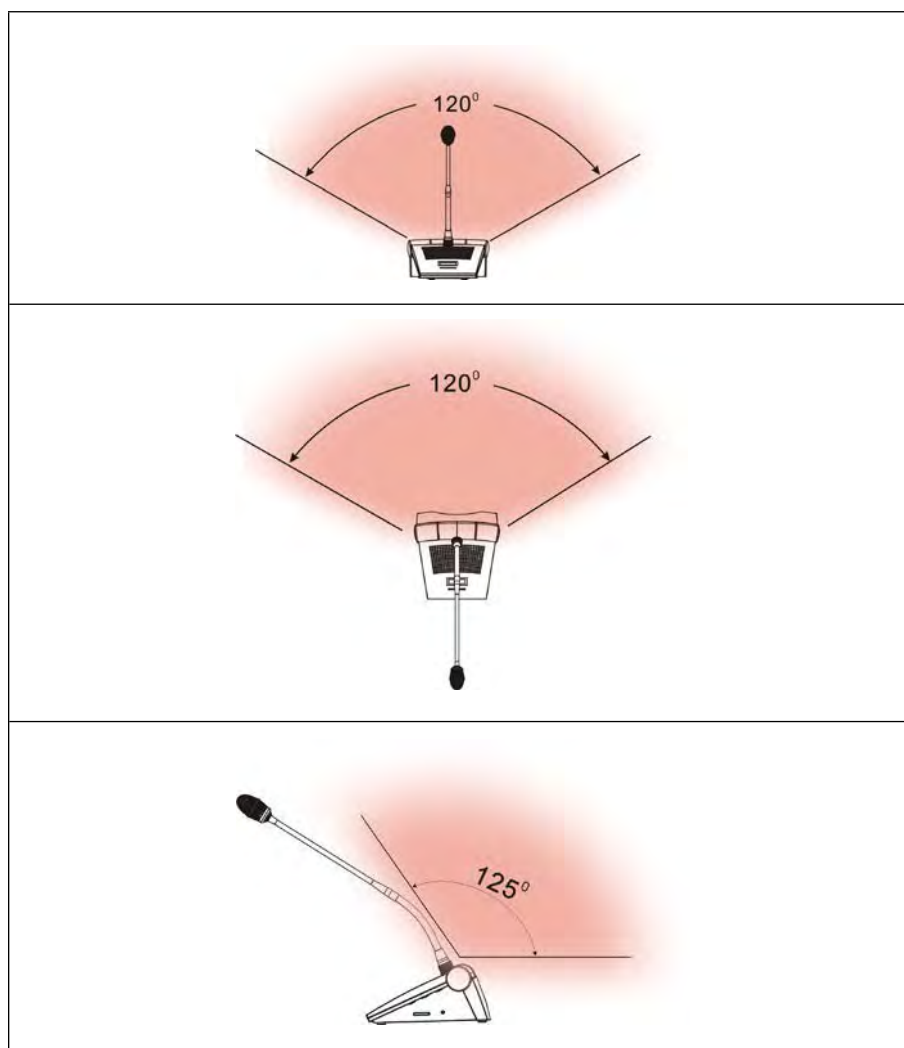


図 4.8 デジタル赤外線無線会議ユニットのカバーエリア

4.2.4 使用上の注意

- 直射日光が当たると信号が遮断されることがあります。

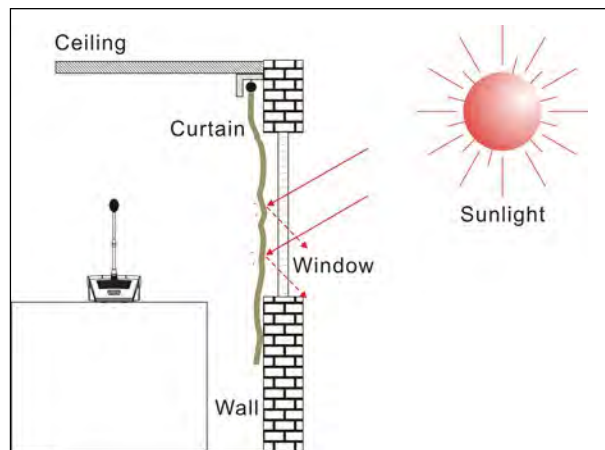


図4.9 直射日光を避けるためにカーテンを開ける

- 隣接する会議ユニット間の距離は0.5メートル以上、対向する会議ユニット間の距離は0.8メートル以上ある必要があります。

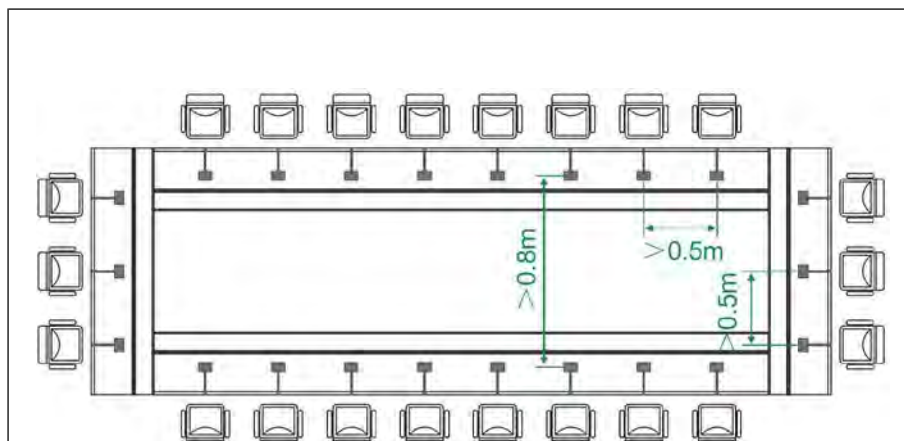


図 4.10 会議ユニット間の距離

- 会議ユニットと最寄りのトランシーバーとの距離は、少なくとも2メートル以上必要です。

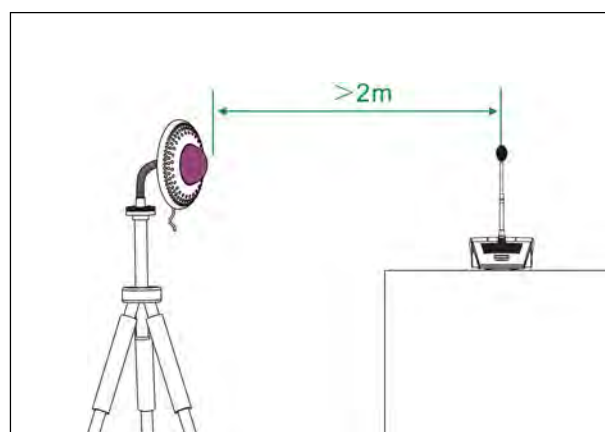


図 4.11 会議ユニットとトランシーバー間の距離

4.2.5 操作方法

会長ユニットと代表ユニットの操作については、このセクションで詳しく紹介する。

4.2.5.1 参加者ユニットの操作方法

HCS-5380DVSを参考に、デジタル赤外線ワイヤレス参加者ユニットの操作方法を紹介します。HCS-5380Dシリーズは、発言、投票、チャンネル選択、OLEDチャンネルディスプレイが一体となった参加者ユニットです。ソフトウェア (TAIDENデジタル会議システム) により、参加者ユニットをVIPユニットに設定することができます。



図 4.12 HCS-5380 シリーズ会議ユニット (マイク付)

1. 電源オン/オフ

マイクのオン/オフボタンを押して電源をオンにし、長押しで会議ユニットの電源をオフにします。

2. キーレスサインイン (アプリケーションソフトが必要)

サインインモードでは、OLEDに "PRESENTING" と表示されます。サインインに成功するとOLEDに "PRESENTED" と表示されます。

3. マイク・アクティブ・モード

Mic.アクティブモードはメインユニットから設定可能です。

■ 「オープン」

- ◇ マイクのアクティブ数が上限(1/2/3/4)に達していない場合、"Mic.On/Off" ボタンを押すとマイクがオンになります；
- ◇ マイクのアクティブ数が上限に達している場合、参加者のマイクをさらにアクティブにすることはできません。

■ 「オーバーライド」

- ◇ マイクのアクティブ数が上限(1/2/3/4)に達していない場合、"Mic. On/Off" ボタンを押すとマイクがオンになります。
- ◇ システム内でアクティブなマイクの総数が4つ未満の場合、VIP/チェアマンマイクは4つになるまでアクティブにすることができ、その後、別のVIP/チェアマンマイクがアクティブになると、最初にオンになったユニットが最初に自動的にオフになります (主に代表ユニットがオフになり、次にVIP/チェアマンユニットがオフになります)。

■ 「ボイス」

- ◇ マイクのアクティブ数が上限(1/2/3/4)に達していない場合、参加者がマイクに近い距離で発言すると、マイクがアクティブになります。参加者が設定した時間内に発言がなかった場合、マイクは自動的に非アクティブになります。
- ◇ マイクのアクティブ数が上限に達している場合、アクティブなマイクの1つをOFFにしない限り、他のマイクをすべてアクティブにすることはできません。VIP/議長マイクは、システム内のアクティブマイクの総数が4本未満であれば、まだアクティブにすることができます。

注:

HCS-5380C/Diは、メインユニットの「マイクワンタッチターンオン」設定が有効の場合、マイク上限に達していなければ、「マイクオン/オフ」ボタンでもオンできます。この場合、「マイクON/OFF」ボタンでOFFにする必要があります。

■ "APPLY"モード(WEBでサポート)または"REQUEST"モード(DCSソフトウェアでサポート)

- ◇ マイクリクエスト数が上限(PCで設定)に達していない場合は、「Mic.On/Off」ボタンを押すことで、発言を要求することができます；
- ◇ マイクのアクティブ数が上限(1/2/3/4)に達している場合、リクエストは承認できません。VIP/議長ユニットは、システム内でアクティブなマイクの合計数が4未満である場合でもアクティブにすることができます。

起動したマイクにカメラが自動的にフォーカスを合わせることができます(アプリケーションソフトが必要)。スピーカーの大型スクリーンに出力可能。

4. 投票(アプリケーションソフトが必要)

HCS-5380アプリケーションソフトウェアを使用して、投票を開始することができます。

- OLEDは選択肢を表示し、参加者は投票ボタンを押して投票することができます。

機能	+	-	×
投票1	はい	いいえ	棄権
投票2	1	2	3

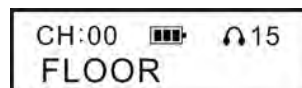
- 「最初に押したキーが有効」の場合、参加者は1回だけ投票でき、選択された選択肢はハイライト表示される；
- 「最後に押したキーが有効」の場合、参加者は自分の投票を変更することができます。最後に押したキーが有効票となります。

5. チャンネル選択

- メインユニットと通訳ユニットを接続した場合、または外部音声・同時通訳機能を操作した場合、チャンネル選択機能が起動します。チャンネル選択機能を使用するには、イヤホン接続する必要があります。イヤホンを接続すると、チャンネルセレクターで通訳言語を選択することができます。
- イヤホンを抜くと、会議ユニットは自動的にフロアオーディオチャンネルに切り替わります。

6. 有機ELディスプレイ

OLEDに表示される起動インターフェースには、チャンネル番号、バッテリー容量、イヤホン音量、言語名が含まれます。



同時通訳機能が作動し、イヤホンが接続されている場合、OLED左側のチャンネルセレクターで同時通訳チャンネルを選択できます。チャンネル番号と言語名が表示されます。



7. 音量調節

- a) 参加者ユニットの内蔵スピーカは、メインユニットのスピーカーボリューム調整ノブで調整できます。
- b) イヤホンの音量は、ユニット前面または側面にある音量調節ボタンで調節できます。

8. 充電

HCS-5380C/D会議ユニットはTES-ADP5Vアダプターで充電するか、HCS-5380CHG/06充電ユニットで充電することができます。アダプターで充電する場合、充電インジケータが点灯し、現在の電源状態とバッテリーの状態を表示します：

	バッテリーインジケータ
充電中	点滅
フル	点灯

電源オン後、バッテリーの状態はバッテリーインジケータで表示されます：

	バッテリーインジケータ
充電中	点灯
フル	高速で点滅

他の会議ユニットはOLEDに電源状態とバッテリー状態を表示します。

4.2.5.2 議長ユニットの操作方法

議長ユニットは、参加者ユニットの機能に加え、優先機能があります：

- メインユニットの設定で優先モードが「全ミュート」に設定されている場合、議長ユニットの優先ボタンを押すとアクティブな会議ユニットはすべてミュートされ、優先ボタンを離すとアクティブに戻ります；
- メインユニットの設定で優先モードが「全オフ」に設定されている場合、議長ユニットの優先ボタンが押されると、すべてのアクティブな会議ユニットの電源が自動的にオフになります。

注：

☞システム内に複数の議長ユニットがあり、1人の議長が優先キーを押している場合、残りの議長ユニットの優先キーは一時的に操作できなくなります。

4.2.6 仕様表

タイプ		HCS-5380Cシリーズ	HCS-5380Dシリーズ
電圧		内蔵3.7 V/5200 mAh充電電池; 5 V、2 A (TES-ADP5V電源アダプター)	
赤外線エミッターレシーバー	波長	870 nm (AM: 輝度変調)	
	変調方式	DQPSK	
	キャリア周波数	送信: コントロール・チャンネル3.8 MHz オーディオ・チャンネル1: 4.3 MHz オーディオ・チャンネル2: 4.8 MHz オーディオ・チャンネル3: 5.8 MHz オーディオ・チャンネル4: 6.3 MHz 受信: フロア音声+ 通訳音声 (0-3)+ 制御信号: 2.333 MHz フロア音声 + 通訳音声 (4-7) + 制御信号: 1.666 MHz	
	受信/放射 角度	垂直: 角度選択可能、範囲: 125°、水平: 120	
出力		内蔵スピーカー: 4 Ω、1 W; イヤホン: Ø 3.5 mm	
ディスプレイ		128×36有機ELディスプレイ	
バッテリーの動作時間		マイクオン時: 約12時間 マイクオフ時: 約40時間	
バッテリーの充電時間		約4時間	
SNR		≥90 dB(A)	
周波数特性		50 Hz~20 kHz	
ダイナミック・レンジ		≥90 dB	
1kHzにおける全高調波歪み		≤0.05 %	
1kHzでのクロストーク減衰量		≥80 dB	
ステムマイクロフォン		MS5*およびMS**Eタイプのステムマイクロホンに適合します。	
イヤホン負荷		≥16 Ω x 2	
イヤホン音量		10 mW	
マイクゲイン調整範囲		-12 dB - +12 dB	
マイク高音/低音調整範囲		-12 dB - +12 dB	
寸法			
重量		0.9kg (ステム含まず)	
カラー		シャンパン/チャコールグレー	

4.3 HCS-5381シリーズ

4.3.1 概要

HCS-5381シリーズデジタル赤外線ワイヤレス会議ユニットは、参加者のための基本的なデバイスであり、参加者ユニットと、優先機能を備えた議長ユニットに分かれています。

モデル:

HCS-5381RC

デジタルIRワイヤレス議長ユニット (角柱メタルマイク、ディスカッション)

HCS-5381RD

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット (角柱メタルマイク、ディスカッション)

HCS-5381C

デジタルIRワイヤレス議長ユニット (ディスカッション)

HCS-5381D

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット (ディスカッション)

4.3.2 機能と表示

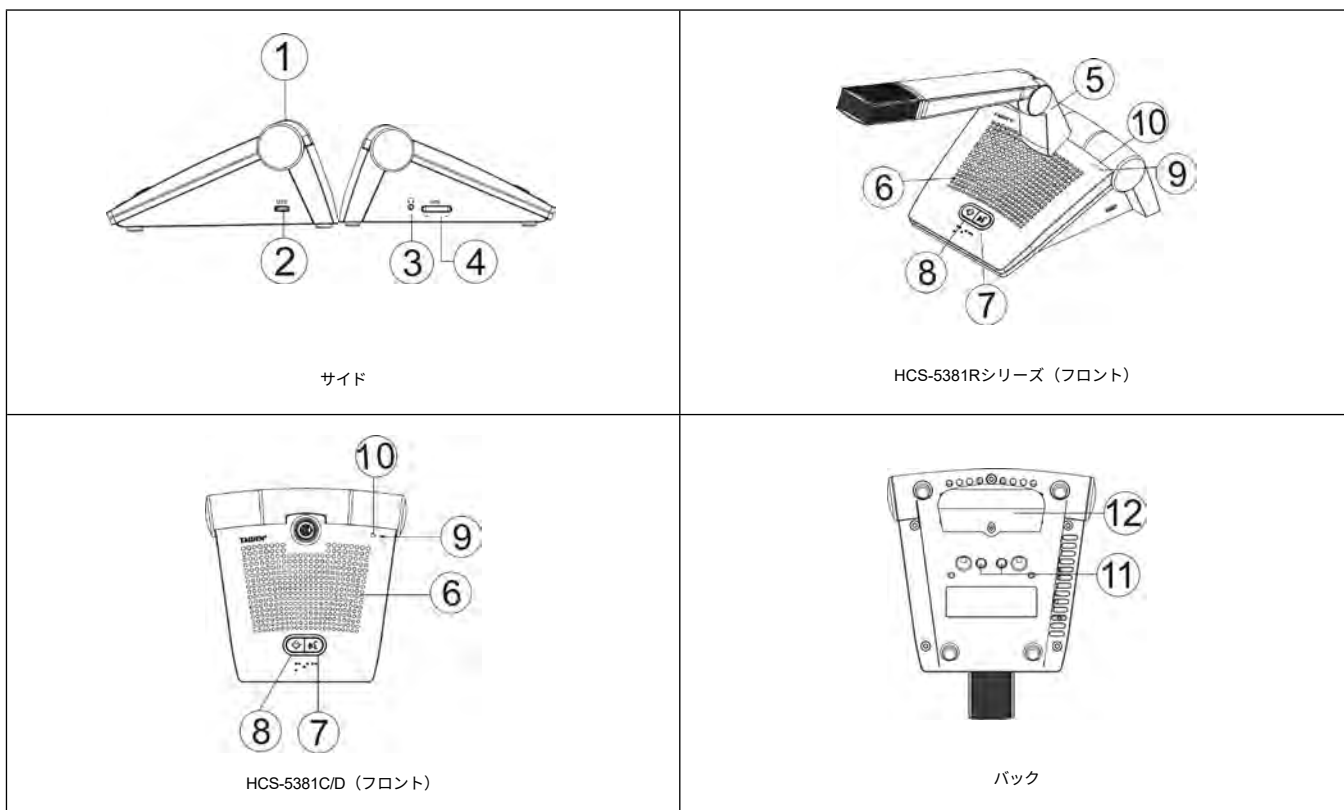


図 4.13 HCS-5381シリーズ デジタル赤外線ワイヤレス会議ユニット

1. 赤外線送受信ガラス - 赤外線信号を送受信するために会議ユニットの前面にあります。

注:

☞ 赤外線信号がガラスに届くのを遮るものがないようにしてください。

2. USBインターフェース

- アップグレード用
- 充電用アダプター接続用

3. イヤホンジャック - Ø 3.5 mmステレオイヤホンジャック

4. イヤホン音量ボタン

5. 角柱型メタルマイクロホン (HCS-5381Rシリーズ) 取外し可能なマイクロホンソケット (HCS-5381C/D)

6. 内蔵スピーカー - フロア音声を出力。音量はメインユニットまたはPCアプリケーション・ソフトウェアで調整。マイクのスイッチを入れると自動的にミュート。

7. マイクオン/オフボタン (周囲に表示ランプ付き)

- ボタンを押して電源オン、長押しで電源オフ。
- 議長ユニット: アクティブなマイクの数4本以下の場合、マイクのオン/オフを切り替える
- 参加者ユニット:
 - a. 「Override」モード: マイクのオン/オフ。
 - b. 「Open」モード: マイクのアクティブリミット数に達していない場合、マイクのオン/オフ。
 - c. 「Voice」モード: マイクが作動している場合、マイクをオフ。
 - d. 「APPLY」モード(WEBでサポート)または「REQUEST」モード(DCSソフトウェアでサポート): 発言要求/マイクオフ。

➤ **表示灯**（メインユニットから設定）：

オプション	状態	マイク	ボタン
マイクオン時：グリーン	発言中	グリーン	グリーン
	発言権要求中	レッド	レッド
	Voice（発言なし）	オフ	レッド
マイクオン時：レッド	発言中	レッド	レッド
	発言権要求中	グリーン	グリーン
	Voice（発言なし）	オフ	グリーン

8. 優先ボタン（議長ユニットのみ）

- 「All mute」に設定すると、優先ボタンが押されたとき、すべてのアクティブなマイクは一時的にミュートされ、ボタンを離すとミュートが解除されます。
- 「All off」に設定すると、優先ボタンが押された時、アクティブなマイクは全て自動的にオフになります；
- 議長ユニットのマイクがアクティブでない場合は、優先ボタンを押してアクティブにします；
- メインユニットで"Ring"モードが "On "に設定されている場合、このボタンを押すと着信音が鳴ります。

9. バッテリーインジケーター

10 .充電インジケーター

11. 充電接点

12. バッテリースロット

4.3.3 赤外線有効エリア

赤外線は指向性のある目に見えない光です。赤外線ワイヤレス会議ユニットは、直接トランシーバーに直面するとき、最高の感度を取得します。すべてのHCS-5381シリーズデジタル赤外線ワイヤレス会議ユニットは、最大受信角度を保证するために、その間口に赤外線ガラスが装備されています。

垂直方向の発光角度は125°、水平方向の発光角度は120°です。

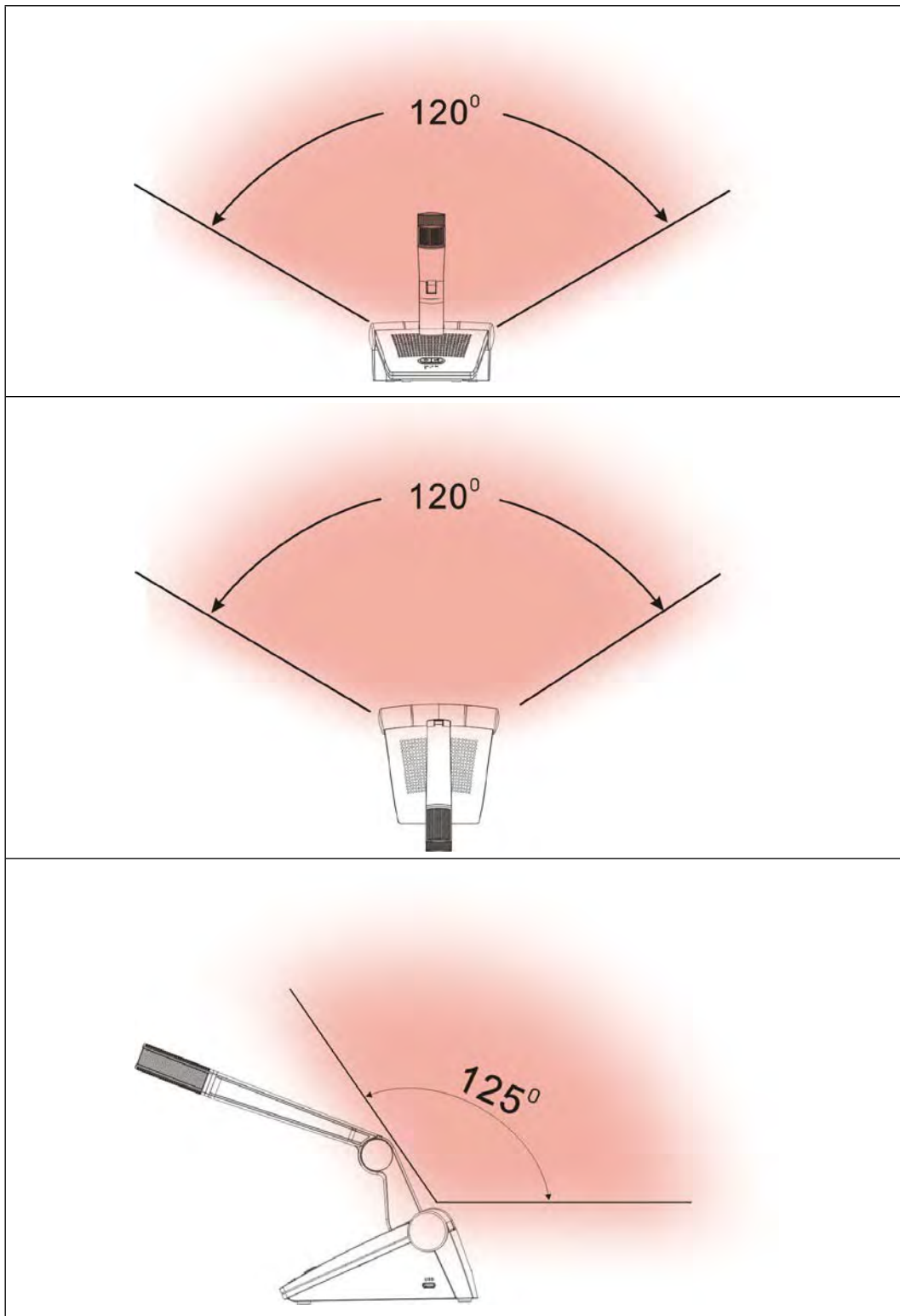


図 4.14 デジタル赤外線無線会議ユニットのカバーエリア

4.3.4 使用上の注意

- 直射日光が当たると信号が遮断されることがあります。

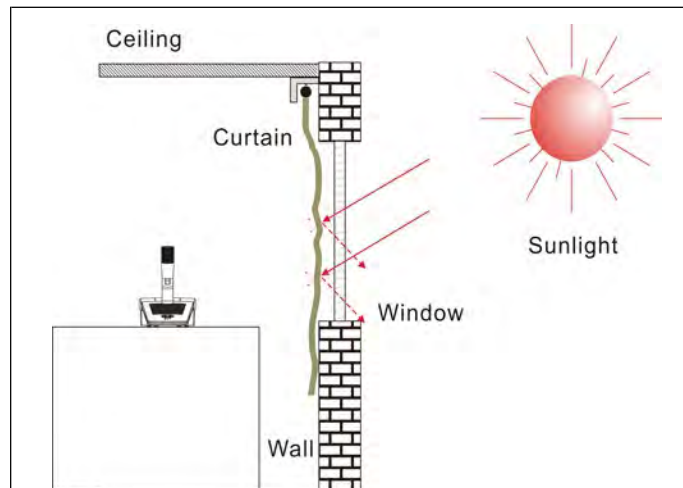


図 4.15 カーテンを閉めて直射日光を避ける

- 隣接する会議ユニット間の距離は0.5メートル以上、対向する会議ユニット間の距離は0.8メートル以上が必要です。

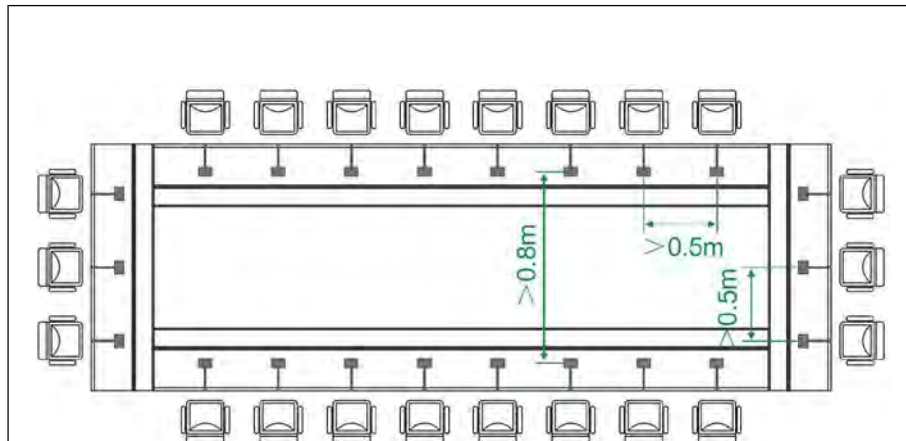


図 4.16 会議ユニット間の距離

- 会議ユニットと最寄りのトランシーバー間の距離は、少なくとも2メートル以上が必要です。

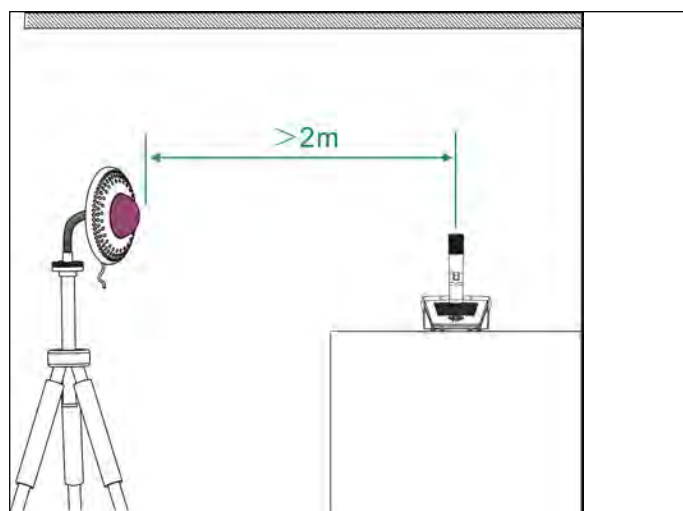


図 4.17 会議ユニットとトランシーバー間の距離

4.3.5 操作方法

議長ユニットと参加者ユニットの操作については、このセクションで詳しく紹介します。

4.3.5.1 参加者ユニットの操作方法

1. 電源オン/オフ

マイクのオン/オフボタンを押して電源をオンにし、長押しで電源をオフにします。

2. マイク・アクティブ・モード

Mic.アクティブモードはメインユニットから設定可能です。

■ 「オープン」

- ◇ マイクのアクティブ数が上限(1/2/3/4)に達していない場合、「Mic. On/Off」ボタンを押すとマイクがオンになります。
- ◇ マイクのアクティブ数が上限に達している場合、参加者のマイクをそれ以上アクティブにすることはできません。

■ 「オーバーライド」

- ◇ マイクのアクティブ数が上限(1/2/3/4)に達していない場合、「Mic. On/Off」ボタンを押すとマイクがオンになります。
- ◇ マイクのアクティブ数が上限に達している場合、最初にオンになった参加者のマイクは、別の参加者のマイクがアクティブになると、自動的にオフになります（ファーストイン/ファーストアウト）。システム内でアクティブなマイクの総数が4つ未満の場合、VIP/議長マイクロフォンは4つになるまでアクティブにすることができます、その後、別のVIP/議長マイクがアクティブになると、最初にオンになったユニットは自動的に最初にオフになります。（先に参加者ユニットがオフになり、次にVIP/議長ユニットがオフになります）。

■ 「ボイス」

- ◇ マイクのアクティブ数が上限(1/2/3/4)に達していない場合、参加者がマイクから近い距離で発言すると、マイクがアクティブになります。参加者が設定した時間内に発言しなかった場合、マイクは自動的に非アクティブになります。
- ◇ マイクのアクティブ数が上限に達している場合、アクティブなマイクの1つをOFFにしない限り、他のマイクをすべてアクティブにすることはできません。VIP/議長マイクは、システム内のアクティブマイクの総数が4本未満であれば、まだアクティブにすることができます。

注:

☞メインユニットの「マイクワンタッチターンオン」設定が有効の場合、マイク有効限界に達していなければ、「マイクオン/オフ」ボタンでもオンできます。この場合、「マイクON/OFF」ボタンでOFFにする必要があります。

■ 「APPLY」モード(WEBでサポート)または「REQUEST」モード(DCSソフトウェアでサポート)

- ◇ マイクリクエスト数上限(PCで設定)に達していない場合は、「Mic.On/Off」ボタンを押すことで、発言を要求することができます；
- ◇ マイク有効数が上限(1/2/3/4)に達している場合、他のすべてのリクエストは承認できません。VIP/議長ユニットは、システム内でアクティブなマイクの合計数が4未満である場合でもアクティブにすることができます。

起動したマイクにカメラが自動的にフォーカスを合わせることができます（アプリケーションソフトが必要）。スピーカーの大型スクリーンに出力可能。

3. 音量調節

- a) 参加者ユニットの内蔵スピーカは、メインユニットのスピーカーボリューム調整ノブで調整できます；
- b) イヤホンの音量は、参加者ユニット前面または側面にある音量調節ボタンで調節できます。

4. 充電

HCS-5381会議ユニットはTES-ADP5Vアダプターで充電するか、HCS-5380CHG/06充電ユニットで充電することができます。充電中は充電インジケータが点灯し、現在の電源状態とバッテリーの状態を表示します：

	充電インジケータ
充電	点滅
フル	オン

電源オン後、バッテリーの状態はバッテリーインジケータで表示されます：

	バッテリーインジケータ
充電	オン
フル	高速で点滅

4.3.5.2 議長ユニットの操作方法

議長ユニットは、参加者ユニットの機能に加え、優先機能があります：

- メインユニットで優先モードが「全ミュート」に設定されている場合、議長ユニットの優先ボタンを押すとアクティブな会議ユニットはすべてミュートされ、優先ボタンを離すとアクティブに戻ります；
- メインユニットで優先モードが「全オフ」に設定されている場合、議長ユニットの優先ボタンが押されると、すべてのアクティブな会議ユニットの電源が自動的にオフになります。

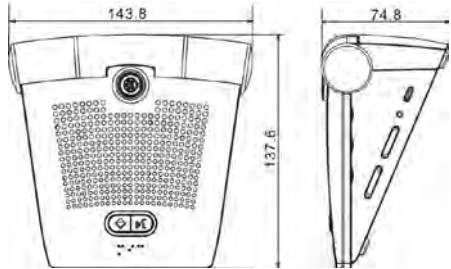
注：

☞システム内に複数の議長ユニットがあり、1人の議長が優先キーを押している場合、残りの議長ユニットの優先キーは一時的に操作できなくなります。

4.3.6 仕様表

タイプ		HCS-5381RC	HCS-5381RD
電圧		3.7V/5200mAh充電電池内蔵、5V、2A (TES-ADP5V電源アダプター)	
赤外線エミッターレシーバー	波長	870 nm (AM: 輝度変調)	
	変調方式	DQPSK	
	キャリア周波数	伝送: コントロール・チャンネル3.8 MHz オーディオ・チャンネル1: 4.3 MHz オーディオ・チャンネル2: 4.8 MHz オーディオ・チャンネル3: 5.8 MHz オーディオ・チャンネル4: 6.3 MHz 受信: フロア音声+ 通訳音声 (0-3)+ 制御信号: 2.333 MHz フロア音声 + 通訳音声 (4-7) + 制御信号: 1.666 MHz	
	受信/放出角度	垂直: 角度選択可能、範囲: 125°、水平: 120	
出力		内蔵スピーカー: 4Ω、1W; イヤホン: Ø 3.5 mm	
バッテリーの動作時間		マイクオン時: 約12時間 マイクオフ時: 約40時間	
バッテリーの充電時間		約4時間	
SNR		≥90 dB(A)	
周波数特性		50 Hz~20 kHz	
ダイナミック・レンジ		≥90 dB	
1kHzにおける全高調波歪み		≤0.05 %	
イヤホン負荷		≥16 Ω	
イヤホン音量		10 mW	
マイクゲイン調整範囲		-12 dB - +12 dB	
マイク高音/低音調整範囲		-15 dB - +15 dB	
マイクパラメーター	トランスデューサー	Ø14mm金メッキエレクトレットコンデンサー	
	極性パターン	ハイパーカーディオイド単一指向性	
	感度	37 dB (0 dB= 1 V/Pa)	
	周波数特性	20 Hz~20 kHz	
	指向性 0°/135	≥20 dB (@1 kHz)	
	指向性 0°/180	≥15 dB (@1 kHz)	
	SNR	74 dBA	
	等価雑音	20 dBA	
	最大SPL _L	139 dB@1kHz、THD<3	
寸法			
重量	1.2 kg		
カラー	チャコールグレー		

タイプ	HCS-5381C	HCS-5381D
-----	-----------	-----------

タイプ		HCS-5381C	HCS-5381D
電圧		3.7V/5200mAh充電電池内蔵、5V、2A (TES-ADP5V電源アダプター)	
赤外線エミッターレシーバー	波長	870 nm (AM: 輝度変調)	
	変調方式	DQPSK	
	キャリア周波数	伝送: コントロール・チャンネル3.8 MHz オーディオ・チャンネル1: 4.3 MHz オーディオ・チャンネル2: 4.8 MHz オーディオ・チャンネル3: 5.8 MHz オーディオ・チャンネル4: 6.3 MHz 受信: フロア音声+ 通訳音声 (0-3)+ 制御信号: 2.333 MHz フロア音声 + 通訳音声 (4-7) + 制御信号: 1.666 MHz	
	受け入れ/放出角度	垂直: 角度選択可能、範囲: 125°、水平: 120	
出力		内蔵スピーカー: 4 Ω、1 W; イヤホン: Ø 3.5 mm	
バッテリーの動作時間		マイクオン時: 約12時間 マイクオフ時: 約40時間	
バッテリーの充電時間		約4時間	
SNR		≥90 dB(A)	
周波数特性		50 Hz~20 kHz	
ダイナミック・レンジ		≥90 dB	
1kHzにおける全高調波歪み		≤0.05 %	
ステムマイクروفオン		MS5*およびMS**Eタイプのステムマイクロホンに適合します。	
イヤホン負荷		≥16 Ω	
イヤホン音量		10 mW	
マイクゲイン調整範囲		-12 dB - +12 dB	
マイク高音/低音調整範囲		-15 dB - +15 dB	
寸法			
重量		0.9kg (ステム含まず)	
カラー		シャンパン/チャコールグレー	

4.4 HCS-5390シリーズ

4.4.1 概要

HCS-5390シリーズは、TAIDENのユーザー中心主義を核に、参加者同士のコミュニケーションの架け橋となるような、本の形をイメージしたデザインとなっています。HCS-5390シリーズデジタル赤外線ワイヤレス会議ユニットは、参加者のための基本デバイスであり、参加者ユニットと優先機能を備えた議長ユニットに分かれています。使用する会議ユニットのタイプによって、さまざまな機能が利用できます。傍聴、発言、OLED表示、キープレスによるサインイン、投票、同時通訳などの機能があります。

タイプ：

HCS-5390CE

デジタルIRワイヤレス議長ユニット（ディスカッション、投票、1+7CH、点字、モダングレー、バッテリー別、ステムマイクは別途注文）

HCS-5390DE

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット（ディスカッション、投票、1+7CH、点字、モダングレー、電池別、ステムマイクは別途注文）

HCS-5390RCAE

デジタルIRワイヤレス議長ユニット（ディスカッション、投票、1+7CH、角柱型メタルマイク、金メッキ大口径高性能エレクトレットコンデンサーマイク、点字、モダングレー、バッテリー）

HCS-5390RDAE

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット討論、投票、1+7CH、角柱型メタルマイク、金メッキ大口径高性能エレクトレットコンデンサーマイク、点字、モダングレー、バッテリー別）

HCS-5391CE

デジタルIRワイヤレス議長ユニット（ディスカッション、点字、モダングレー、バッテリー別、ステムマイクは別途注文）

HCS-5391DE

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット（ディスカッション、点字、モダングレー、バッテリー別、ステムマイクは別途注文）

HCS-5391DDS

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット（ディスカッション、1+7CH、2チャンネルセレクター、デュアルプリセットポジション、モダングレー、バッテリー別、ステムマイクは別途注文）

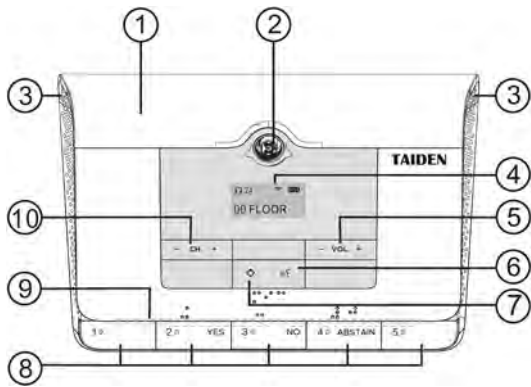
HCS-5391RCAE

デジタルIRワイヤレス議長ユニット（ディスカッション、角柱型メタルマイク、 \emptyset 金メッキ大口径高性能エレクトレットコンデンサーマイク、点字、モダングレー、バッテリー別）

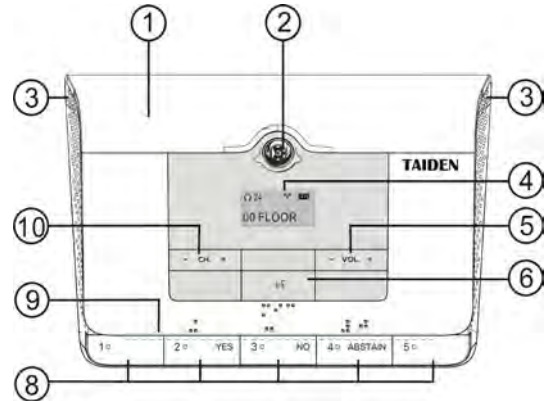
HCS-5391RDAE

デジタルIRワイヤレス参加者ユニット（ディスカッション、角柱型メタルマイクロホン、 \emptyset 金メッキ大口径高性能エレクトレットコンデンサーマイク、点字、モダングレー、電バッテリー別）

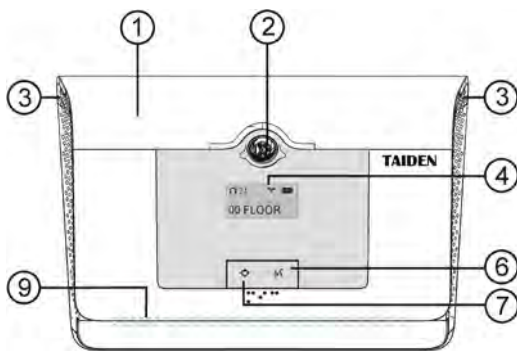
4.4.2 機能と表示



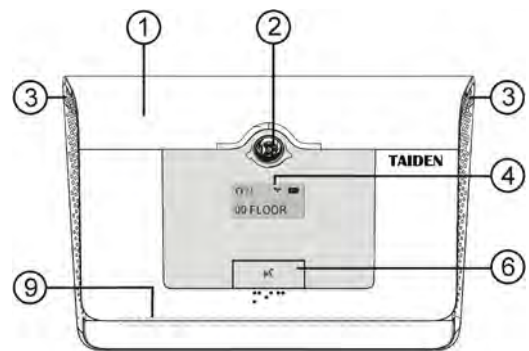
HCS-5390CE



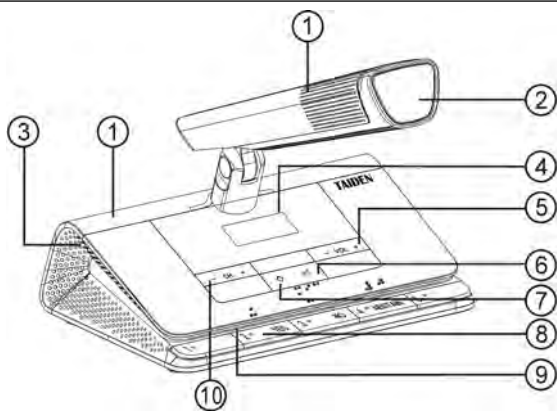
HCS-5390DE



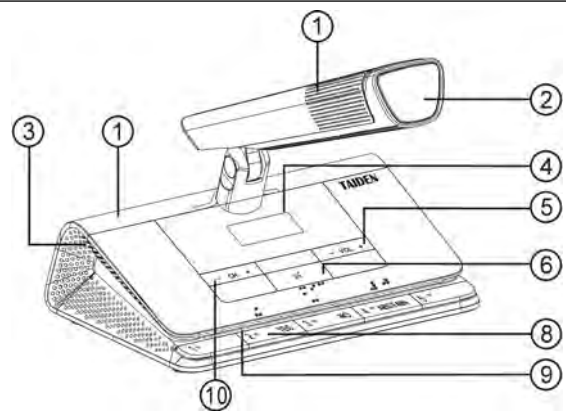
HCS-5391CE



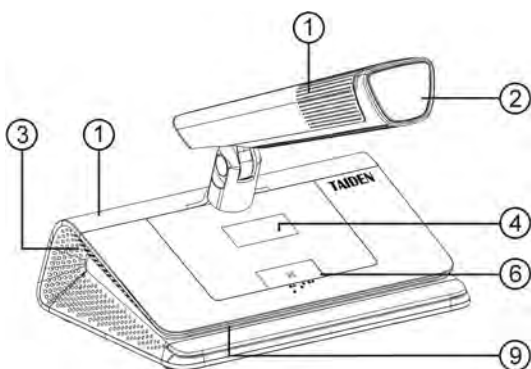
HCS-5391DE



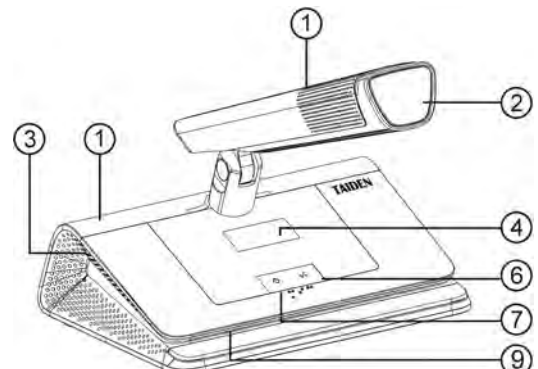
HCS-5390RCAE



HCS-5390RDAE



HCS-5391RCAE



HCS-5390RDAE

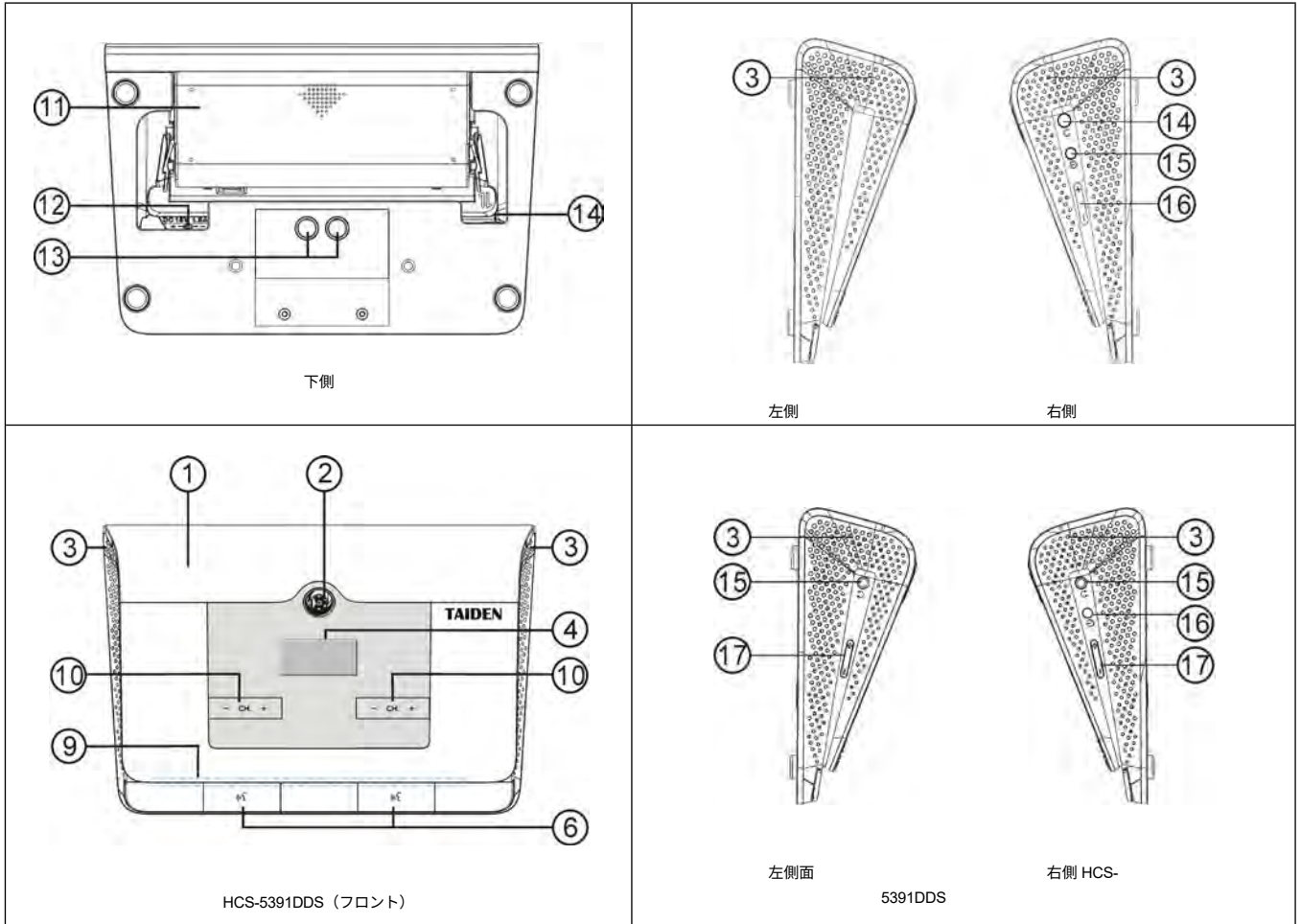



図 4.18 HCS-5390 シリーズ デジタル赤外線ワイヤレス会議ユニット

図4.18:

1. 赤外線透過/受光ガラス

- 会議ユニットの前面パネルに内蔵され、赤外線信号の送受信に使用されます。
- HCS-5390RAE / HCS-5391RAEシリーズは、角柱型マイクに赤外線信号受信部を内蔵しています。有効な場合、会議ユニットの有機EL信号アイコンは"  "と表示されます。

注:

☞ 赤外線信号がガラスに届くのを遮るものがないようにしてください。

2. マイク

- HCS-5390/5391: 5PIN着脱式マイクシステムポート;
- HCS-5390RAE/5391RAE: 金属製角柱マイクロホン;

3. 内蔵スピーカー - フロア音声を出力。音量はメインユニットまたはPCアプリケーション・ソフトウェアで調整。マイクのスイッチを入れると自動的にミュート。

4. OLEDスクリーン - 160 × 80、チャンネル番号、言語名、シグナルアイコン、バッテリー容量、イヤホンの音量を表示

5. イヤホン音量調節

6. マイクインジケータ付きオン/オフボタン

- 会長ユニット: アクティブなマイクの数4本以下の場合、マイクのオン/オフを切り替え。
- 代議員ユニット:
 - a. 「Override」モード: マイクのオン/オフ。
 - b. 「Open」モード: マイクのアクティブリミット数に達していない場合、マイクのオン/オフ。
 - c. 「Voice」モード: マイクが作動している場合、マイクをオフ。
 - d. 「APPLY」モード(WEBでサポート)または「REQUEST」モード(DCSソフトウェアでサポート): 発言要求/マイクオフ。

➤ **インジケータ**（メインユニットから設定）：

オプション	状態	マイク	ボタン
マイクオン時：グリーン	発言中	グリーン	グリーン
	発言権要求中	レッド	レッド
	Voice（発言なし）	オフ	レッド
マイクオン時：レッド	発言中	レッド	レッド
	応募する	グリーン	グリーン
	Voice（発言なし）	オフ	グリーン

7. 優先ボタン（議長ユニットのみ）

- 「All mute」に設定すると、優先ボタンが押されたとき、すべてのアクティブなマイクが一時的にミュートされ、ボタンが離されるとミュートが解除されます；
- 「All off」に設定すると、優先ボタンが押された時、アクティブなマイクは全て自動的にオフになります；
- 議長ユニットのマイクがアクティブでない場合は、優先ボタンを押してアクティブにします；
- メインユニットで"Ring"モードが"On"に設定されている場合、優先ボタンを押すと着信音が鳴ります。

8. 5つのインジケータ付き多機能ボタン

- **1: サインイン/候補者1/応答-（「ATTEND/1/-」）：**
 - a. サインイン・モードでは、サインイン指示ランプが点滅するので、このボタンを押してサインインしてください。
 - b. 投票状態では、投票指示ランプが点滅し、候補者1に投票するには、このボタンを押してください；
 - c. 投票の応答では、投票インジケータが点滅するため、「100」の「0」を応答するためにはこのボタンを押してください。（「-」）。
- **2: はい/候補者2/回答-（「YES/2/-」）：**
 - a. 投票賛成/反対状態では、投票指示ランプが点滅し、このボタンを押して「賛成」を選択する；（*ファームウェアバージョン1.00.01.01以上が**必要**）
 - b. 投票議会状態では、投票指示ランプが点滅し、承認するには、このボタンを押してください；
 - c. 投票意見投票状態では、投票指示ランプが点滅し、候補者2に投票するには、このボタンを押してください；
 - d. 投票の応答では、投票インジケータが点滅するため、「100」の「25」を応答するためにはこのボタンを押してください。（「-」）。
- **3: いいえ/候補者3/回答0（「NO/3/0」）：**
 - a. 投票賛成/反対状態では、投票指示ランプが点滅し、このボタンを押して「反対」を選択します；（*ファームウェアバージョン1.00.01.01以上が**必要です**）。
 - b. 投票議会の状態では、投票指示ランプが点滅し、反対するには、このボタンを押してください；
 - c. 投票意見投票状態では、投票指示ランプが点滅し、候補者3に投票するには、このボタンを押してください；
 - d. 投票の応答では、投票インジケータが点滅するため、「100」の「50」を応答するためにはこのボタンを押してください。（「0」）。
- **4: Abstain/ Candidate 4/Response+（「ABSTAIN/4/+」）：**
 - a. 投票議会の状態では、投票指示ランプが点滅し、棄権するには、このボタンを押してください；
 - b. 投票意見投票状態では、投票指示ランプが点滅し、候補者4に投票するには、このボタンを押してください；
 - c. 投票の応答では、投票インジケータが点滅するため、「100」の「75」を応答するためにはこのボタンを押してください。（「+」）。
- **5: 候補5/回答++（「5/++」）：**
 - a. 投票意見投票状態では、投票指示ランプが点滅し、候補者5に投票するには、このボタンを押してください；
 - b. 投票の応答では、投票インジケータが点滅するため、「100」の「100」を応答するためにはこのボタンを押してください。（「++」）；

9. モードインジケータ

- a. 通常使用時、モードインジケータの状態はマイクのオン/オフボタンインジケータと同じです。
- b. 充電中は赤色で、満充電になると緑色に変わります。



10. チャンネルセレクトター (注: イヤホン接続時のみ操作可能)

11. リチウム電池の設置位置

12. 電源アダプター・インターフェース

13. 充電接点

14. タイプC USB

➤両端がType-CインターフェースのCBLC20-01ケーブルで接続し、会議ユニットのペアリングに使用します。有機ELディスプレイにペアリング状態を「1」または「2」で表示します。

➤2台の会議ユニットが正常にペアリングされると、1つの通信チャンネルを共有します。1台が故障しても、もう1台は独立して動作します。

(注) HCS-5391DDSを除くHCS-5390、HCS-5391シリーズ全機種に適用されています。この機能はハードウェアのバージョン04以上でサポートされます。

15. イヤホンジャック - Ø 3.5 mmステレオイヤホンジャック

16. 電源スイッチ

17. イヤホン音量調節 (注意: ヘッドホンが接続されているときのみ使用可能)

4.4.3 赤外線有効エリア

赤外線は指向性のある目に見えない光です。赤外線ワイヤレス会議ユニットは、直接トランシーバーに直面するとき、最高の感度を取得します。すべてのHCS-5390シリーズデジタル赤外線ワイヤレス会議ユニットは、最大受信角度を保证するために、その前面に赤外線ガラスが装備されています。垂直方向は125°、水平方向は120°です。

図 4.19 HCS-5390 シリーズ会議ユニットのカバーエリア

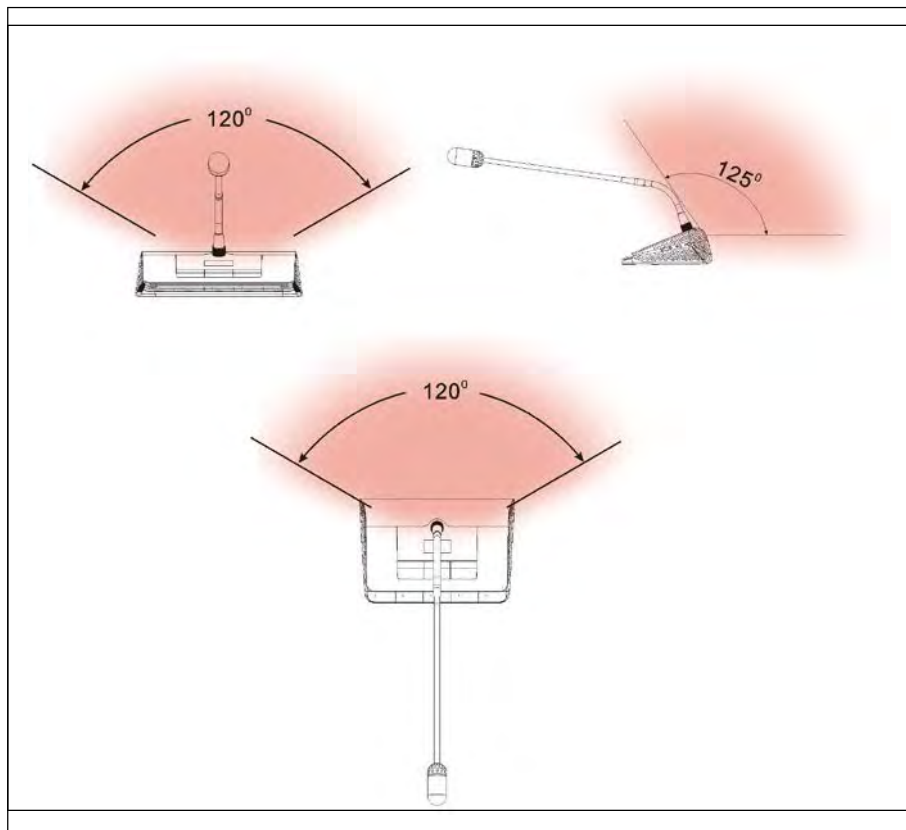
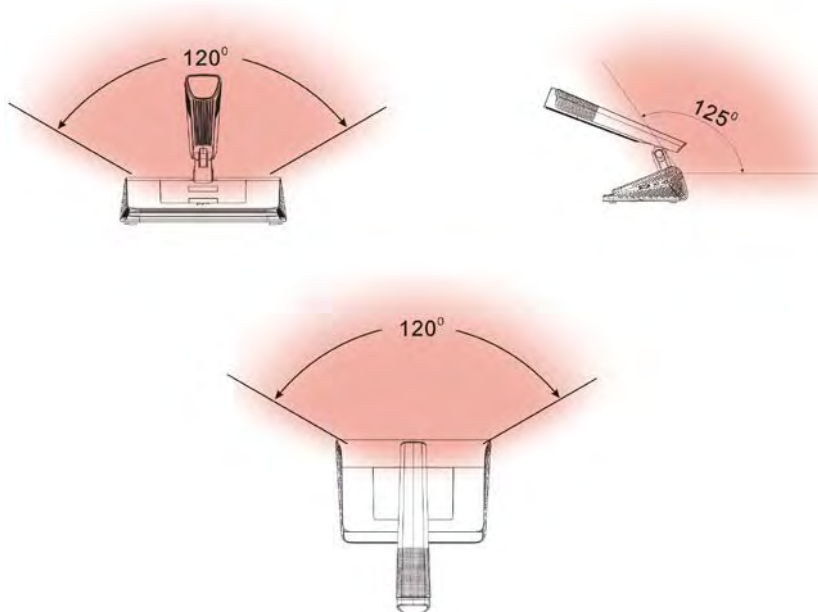


図 4.20 HCS-5390RA シリーズ会議ユニットのカバーエリア



4.4.4 使用上の注意

- 直射日光が当たると信号が遮断されることがあります。

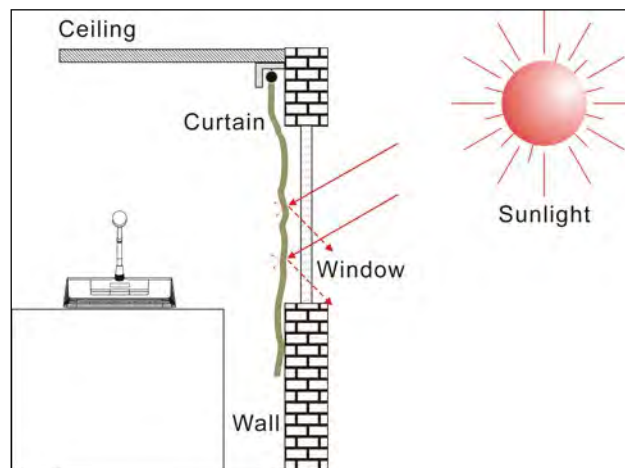


図 4.21 直射日光を避けるためにカーテンを開ける

- 隣接する会議ユニット間の距離は0.5メートル以上、対向する会議ユニット間の距離は0.8メートル以上ある必要があります。

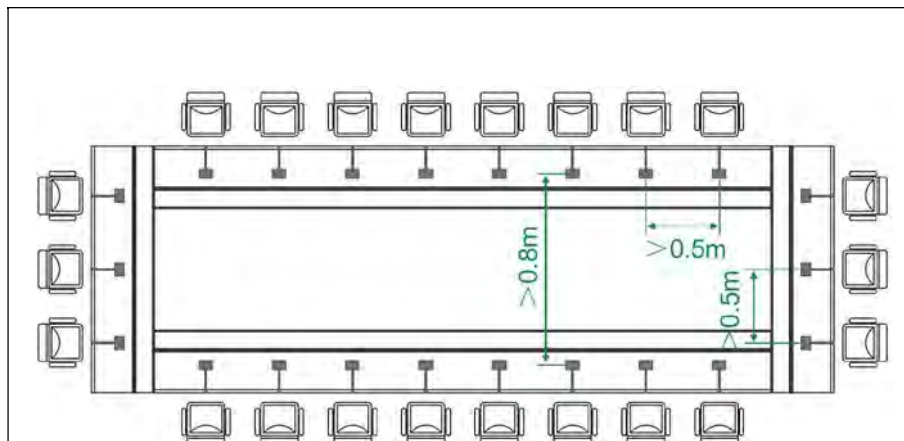


図 4.22 会議ユニット間の距離

- 会議ユニットと最寄りのトランシーバーとの距離は、少なくとも2メートル以上必要です。

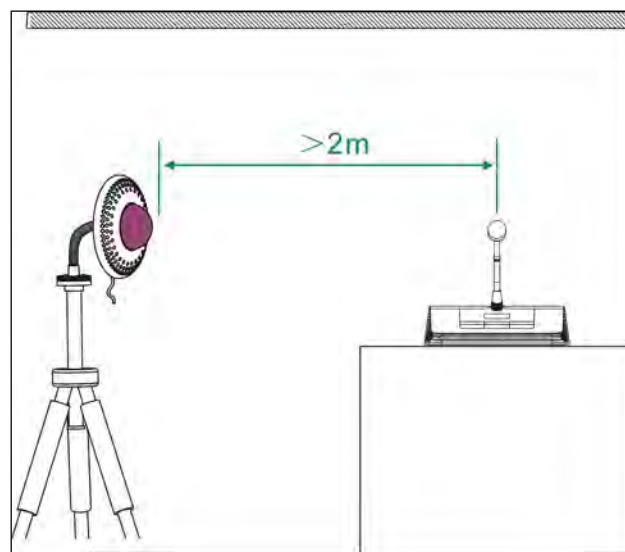


図 4.23 会議ユニットとトランシーバー間の距離

4.4.5 操作方法

議長ユニットと参加者ユニットの操作については、このセクションで詳しく紹介します。

4.4.5.1 参加者ユニットの運用

HCS-5390DEを参考に、デジタル赤外線ワイヤレス参加者ユニットの操作方法を紹介します。この参加者ユニットは、発言、投票、チャンネル選択、LEDチャンネル表示の機能を搭載しています。他のタイプのデリゲート・ユニットは、全部または一部の機能を備えている。代表ユニットはソフトウェア（TAIDENデジタル会議システム）によりVIPユニットとして設定することができる。



図4.24 HCS-5390シリーズ マイク付会議ユニット

1. マイク・アクティブ・モード

Mic.アクティブモードは**メインユニット**から設定可能。

■ 「オープン」

- ◇ マイクのアクティブ数が上限(1/2/3/4)に達していない場合、"Mic. On/Off"ボタンを押すとマイクがオンになります。
- ◇ マイクのアクティブ数が上限に達した場合、参加者のマイクをそれ以上アクティブにすることはできません。

■ 「オーバーライド」

- ◇ マイクのアクティブ数が上限 (1/2/3/4)に達していない場合、"Mic. On/Off"ボタンを押すとマイクがオンになります。
- ◇ マイクのアクティブ数が上限に達した場合、最初にオンになった参加者のマイクは、別の参加者のマイクがアクティブになると、自動的にオフになります（ファーストイン/ファーストアウト）。システム内でアクティブなマイクの総数が4つ未満の場合、VIP/議長マイクは4つになるまでアクティブにすることができ、その後、別のVIP/議長マイクがアクティブになると、最初にオンになったユニットが自動的に最初にオフになります（先に参加者ユニットがオフになり、次にVIP/議長ユニットがオフになります）。

■ 「ボイス」

- ◇ マイクのアクティブ数が上限(1/2/3/4)に達していない場合、参加者がマイクから近い距離で発言すると、マイクがアクティブになります。参加者が設定した時間内に発言しなかった場合、マイクは非アクティブになります。

自動的に

- ◇ マイクのアクティブ数が上限に達した場合、アクティブなマイクの1つをOFFにしない限り、他のマイクをアクティブにすることはできません。VIP/議長マイクは、システム内のアクティブマイクの総数が4本未満であれば、まだアクティブにすることができます。

■ "APPLY"モード(WEBでサポート)または"REQUEST"モード(DCSソフトウェアでサポート)

- ◇ マイクのアクティブ数が上限 (PCで設定) に達していない場合は、「Mic.On/Off」ボタンを押すことで、発言を要求することができます；
- ◇ マイクのアクティブ数が上限 (1/2/3/4) に達している場合、他のすべてのリクエストは承認できません。VIP/議長マイクは、システム内のアクティブマイクの総数が4本未満であれば、まだアクティブにすることができます。

起動したマイクにカメラが自動的にフォーカスを合わせることができます (アプリケーションソフトが必要)。発言者の映像を大型スクリーンに出力可能。

2. 投票 (アプリケーションソフトが必要)

HCS-5300アプリケーションソフトウェアはを使用することで投票を開始することができます。

- 参加者ユニットの投票ボタンインジケータが点滅を始め、参加者は投票ボタンを押して投票することができます
- 「最初に押したキーが有効」の場合、投票できるのは1回のみで、投はインジケータが消灯します
- 「最後に押したキーが有効」の場合、参加者は自分の投票を変更することができます。参加者が投票すると、投票したキーのインジケータが点灯し、他のすべてのインジケータは消灯します。約1秒後、すべての指示ランプが再び点滅し、参加者は投票を変更することができます。最後に投票したキーが有効票となります。

3. チャンネル選択

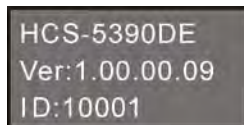
- メインユニットと通訳ユニットを接続した場合、または外部音声・同時通訳機能を実行した場合、チャンネル選択機能が働きます。チャンネル選択機能を使用するには、イヤホンに接続する必要があります。イヤホンを接続すると、チャンネルセレクターで通訳言語を選択することができます。
- イヤホンを抜くと、参加者ユニットは自動的にフロアオーディオチャンネルに切り替わります。

4. 有機ELディスプレイ

■ スタートアップインターフェース

起動時にOLEDに表示される起動インターフェースには、以下のようなものがある：

タイプバージョンID



■ チャンネル番号と言語名の表示インターフェース

起動表示後、フロアオーディオチャンネルが表示されます：

HCS-5390シリーズ投票ユニット	HCS-5391シリーズスピーキングユニット	HCS-5391DDS
IR信号アイコン	IR信号アイコン	IR信号アイコン
イヤホン音量	イヤホン音量	イヤホン音量
バッテリー容量	バッテリー容量	バッテリー容量
チャンネル番号	マイクの状態	チャンネル番号
言語名		言語名

同時通訳機能が動作し、イヤホンが接続されている場合は、パネルまたは会議ユニット右側面の音量調整ボタンでヘッドホンの音量を調整できます。有機 EL 画面にヘッドホン音量が表示されます。チャンネルセレクターで言語チャンネルを選択すると、対応するチャンネル番号と言語名がOLED画面に表示されます。

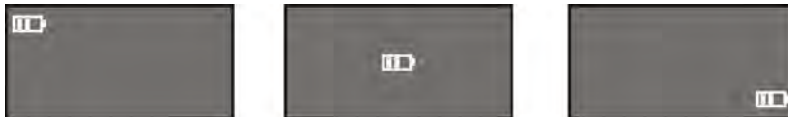
参加者ユニットが会議システムに接続されると、IR 信号アイコン  がリアルタイムで表示されます。

注:

☞ 通信の中断が2分間続くと、会議ユニットは自動的にシャットダウンします。

■ **スクリーンセーバー**

正常な通信状態で2分間操作がないと、自動的に画面が暗くなり、「スクリーンセーバー」が表示されます。いずれかのボタンを押すと**解除**されます。



5. キーレスサインイン (アプリケーションソフトが必要)

サインイン・モードでは、サインイン指示ランプが点滅します。Attend ("1") ボタンを押してサインインすると、インジケータは消灯します。

6. 音量調節

- a) 参加者ユニットの内蔵スピーカーは、メインユニットのスピーカ・ボリューム調整ノブで調整できます；
- b) イヤホンの音量は、ユニットの音量調節ボタンで調節できます。

7. 充電

HCS-5390およびHCS-5391シリーズの参加者ユニットは、HCS-ADP15Vアダプターで充電できます；または、参加者ユニットからリチウム電池を取り外して、HCS-5390CHG充電ユニットで充電します。充電状態はデリゲートユニットのOLEDスクリーンに表示されます。



スイッチを切った参加者ユニットがHCS-5390CHG充電ユニットで充電している場合、モードインジケータは、現在の電源状態とバッテリーの状態を表示するためのものです：

	モードインジケータ
充電	レッド
フル	グリーン

4.4.5.2 議長ユニット

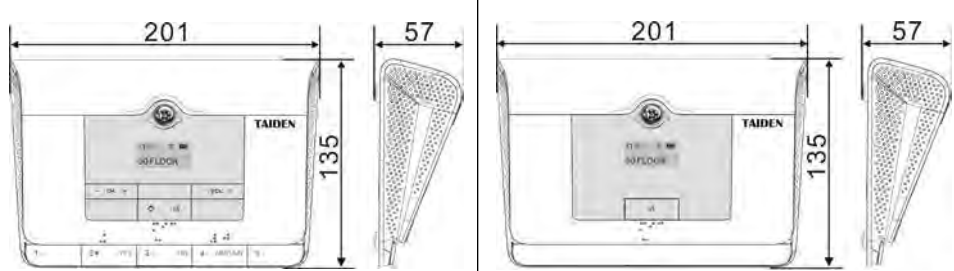
議長ユニットは、参加者ユニットの機能に加え、優先機能があります：

- メインユニットで優先モードが「全ミュート」に設定されている場合、議長ユニットの優先ボタンを押すとアクティブな会議ユニットはすべてミュートされ、議長ユニットの優先ボタンを離すと解除されます；
- メインユニットの設定で優先モードが「全オフ」に設定されている場合、議長ユニットの優先ボタンが押されると、すべてのアクティブな会議ユニットの電源が自動的にオフになります。

注:

☞ システム内に複数の議長ユニットがあり、1人の議長が優先キーを押している場合、残りの議長ユニットの優先キーは一時的に操作できなくなります。

4.4.6 仕様表

タイプ	HCS-5390CE	HCS-5390DE	HCS-5391CE	HCS-5391DE	HCS-5391DDS
ディスカッション	√	√	√	√	√
投票	5つの鍵	5つの鍵	-	-	-
同時通訳	1+7チャンネル	1+7チャンネル	-	-	-
優先キー	√	-	√	-	-
電圧	DC10.95V (HCS-5300BATバッテリー)、DC15V (HCS-ADP15V電源アダプター)				
消費電流	マイクオン時: 300mA、マイクオフ時: 75mA				
赤外線エミッター/レシーバー	波長	870 nm (AM: 輝度変調)			
	変調方式	DQPSK			
	キャリア周波数	送信: 制御チャンネル: 3.8MHz オーディオチャンネル1: 4.3 MHz オーディオチャンネル2: 4.8 MHz オーディオチャンネル3: 5.8 MHz オーディオチャンネル4: 6.3 MHz 受信: フロア音声+通訳音声 (0-3) + 制御信号: 2.333MHz フロア音声+通訳音声 (4-7) + 制御信号: 1.666MHz			
	受信/放出角度	垂直: 角度選択可能、範囲: 125°、水平: 120			
出力	大音量スピーカー内蔵: 4,1 W イヤホンφ 3.5 mm				
ディスプレイ	160×80 有機ELディスプレイ				
バッテリーの動作時間	マイクオン時: 約14マイクオフ時: 約45時間				
バッテリーの充電時間	HCS-ADP15V経由で約5時間 HCS-5390CHG経由で約4時間				
SNR	≥90 dB(A)				
周波数特性	50 Hz~20 kHz				
ダイナミック・レンジ	≥90 dB				
全高調波歪み @1 kHz	≤0.05 %				
クロストーク減衰 @1 kHz	≥80 dB				
ステムマイクロフォン	MS5*およびMS**Eタイプのステムマイクロホンに適合します。				
イヤホン負荷	≥16 Ω				
イヤホン音量	10 mW				
マイクゲイン調整範囲	-12 dB - +12 dB				
マイク高音/低音調整範囲	-12 dB - +12 dB				
寸法					
重量 (バッテリーを除く)	0.6 kg				
重量 (バッテリー含む)	0.9 kg				
カラー	モダングレー (PANTONE 410C)				

タイプ		HCS-5390RCAE	HCS-5390RDAE	HCS-5391RCAE	HCS-5391RDAE
ディスカッション		√	√	√	√
投票		5つの鍵	5つの鍵	-	-
同時通訳		1+7チャンネル	1+7チャンネル	-	-
優先キー		√	-	√	-
電圧		DC10.95V (HCS-5300BATバッテリー)、DC15V (HCS-ADP15V電源アダプター)			
消費電流		マイクオン時: 300mA、マイクオフ時: 65mA			
赤外線エミッター/レシーバー	波長	870 nm (AM: 輝度変調)			
	変調方式	DQPSK			
	キャリア周波数	送信: 制御チャンネル: 3.8 MHz 音声チャンネル 1/2/3/4: 4.3 MHz/ 4.8 MHz/ 5.8 MHz/ 6.3 MHz 受信: フロア音声+ 通訳音声 (0-3) + 制御信号: 2.333MHz フロア音声+ 通訳音声 (4-7) + 制御信号: 1.666MHz			
	受信/放出角度	垂直: 角度選択可能、範囲: 125°、水平: 120			
出力		大音量スピーカー内蔵: 4、1W; イヤホン: Ø 3.5 mm			
ディスプレイ		160×80 有機ELディスプレイ			
バッテリーの動作時間		マイクオン時: 約14時間、マイクオフ時: 約45時間			
バッテリーの充電時間		HCS-ADP15V経由で約5時間、HCS-5390CHG経由で約4時間			
SNR		≥90 dB(A)			
周波数特性		80-20000 Hz (-3 dB)			
ダイナミック・レンジ		≥90 dB			
THD @1 kHz		≤0.05 %			
クロストーク減衰 @1 kHz		≥80 dB			
イヤホン負荷		≥16 Ω			
イヤホン音量		10 mW			
マイクゲイン調整範囲		-12 dB - +12 dB			
マイク高音/低音調整範囲		-12 dB - +12 dB			
マイクパラメーター	トランスデューサー	Ø16mm金メッキエレクトレットコンデンサー			
	極性パターン	ハイパーカーディオイド単一指向性			
	感度	37 dB (0 dB= 1 V/Pa)			
	周波数特性	20 Hz~20 kHz			
	指向性 (0°/120)	≥28 dB (@1 kHz) ≥28 dB (@2 kHz) ≥26 dB (@4 kHz)			
	SNR	74 dBA			
	等価雑音	20 dBA			
	最大SPL。	132 dB@1 kHz、THD≤0.5			
寸法					
重量 (バッテリーを除く)		0.9 kg			
重量 (バッテリー含む)		1.2 kg			
カラー		モダングレー (PANTONE 410C)			

第5章 通訳ユニット

HCS-8300会議システムの同時通訳機能は、大規模な多言語国際会議の要件に合わせて設計されています。

HCS-8385N/50通訳ユニットは、6.8インチTFT LCD、64チャンネルセレクター、内蔵スピーカー、プラグ式マイク、ヘッドセット装備しています。LCDはチャンネル番号、言語名、入力言語、品質表示、ショートメッセージなどを表示できます。a)出力チャンネルの聴衆状況（有線言語配信システムから出力チャンネルを聴いている人数など）、b)出力チャンネルが赤外線言語配信システム（HCS-5100システム）でモニターされているかどうか、c)出力チャンネルが録音中であるかどうか、を表示できます。また、入力チャンネルの信号レベルをリアルタイムで表示できます。マルチ入出力言語チャンネルは、対応するショートカットキーでプリセットでき、通訳者の操作を簡単にします。通訳ユニットはトランクリンクに直接接続でき、既存のシステムに簡単に追加できます。

通訳ユニットは直接通訳とリレー通訳機能をサポートしています。直接通訳モードでは、通訳者はフロア言語からプリセット言語に直接翻訳します。通訳者がフロア言語を理解できない場合、リレー通訳モード（自動リレー機能付き）を使用し、他の通訳者の言語をソース言語として聞きながら、自分のターゲット言語への通訳を実行します。

製品タイプ

HCS-8385N/50

新世代フルデジタル会議システム通訳ユニット（64CH、6.8インチTFT LCD、マイク、スピーカー、ステムマイク（別途注文）

5.1 機能と表示

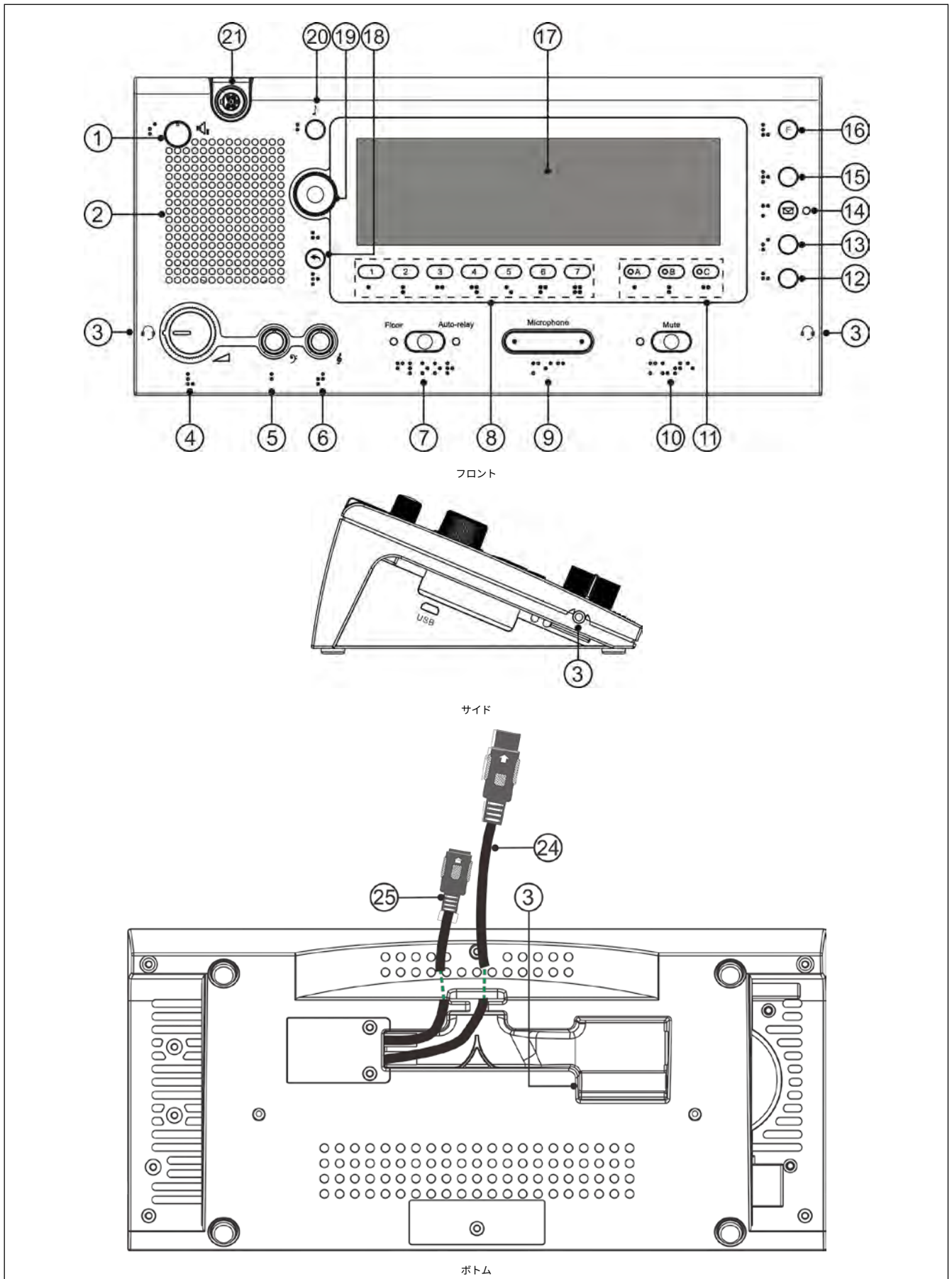


図 5.1 HCS-8385N/50 通訳ユニット

◇ 試験エリア

ラウドスピーカー/イヤホン・コントロール:

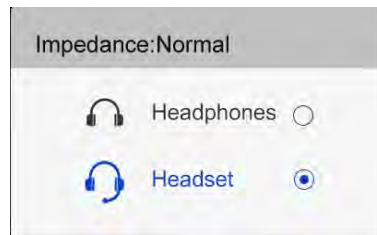
1. スピーカー音量調節ノブ

2. Hi-Fiスピーカー内蔵

- ◆ ブース内の全通訳ユニットのマイクを無効にすると、通訳ユニットのスピーカーを聞くことができます。ファンクションノブを押してフロアチャンネルに移動します。ノブを回して別のチャンネルを選択します。

3. イヤホン音量調節ノブ

- ◆ ヘッドホンをする、インピーダンスが自動的に認識され、それに応じてオーディオレベルが調整されます;
- ◆ ヘッドセットを接続すると、ポップアップ表示からヘッドセット機能またはヘッドホン機能を選択できます;



- ◆ ヘッドフォン・レベルがプリセット値を超えると、ウィンドウが作動して警告を發します。

5. イヤホン・ベース・コントロール・ノブ

6. イヤホン・トレブル・コントロール・ノブ

入力チャンネルのコントロール:

7. フロアチャンネルON/OFFスイッチ

- ◆ このボタンを押すとフロア言語にアクセスし、フロアを示すランプが点灯します。
- ◆ フロアチャンネルとオートリレーチャンネルの切り替え。

8. モニターチャンネル切替ボタン (1/2/3/4/5/6/7)

- ◆ 入力チャンネルをプリセットするためのスイッチ

18. 戻る (←) ボタン

- ◆ ボタンを押すと LCD メニューが起動し、5 秒間操作がなければメニューが終了します;
- ◆ もう一度ボタンを押すと、上位メニューに戻ります。

19. ファンクションノブ

- ◆ ファンクションノブを押してラウドスピーカーのフロアチャンネルに移動し、ファンクションノブを回して別のチャンネルを選択します;
- ◆ モニターチャンネルショートカット切替ボタン(1/2/3/4/5/6/7)を押し、ファンクションノブを押してチャンネル 1 に移動し、ファンクションノブを回して通訳チャンネルを選択します;
- ◆ 出力チャンネル B/C 切替ボタン(B C)押し、ファンクションノブを押してチャンネル 1 に移動し、ファンクションノブを回して出力チャンネルを選択します;
- ◆ LCD メニューを操作する場合は、ファンクションノブを押して確定します。

◇ スピーキング・エリア

9. マイクON/OFFスイッチ

- ◆ このボタンを押すとマイクがオンになり、赤色の指示ランプが点灯します。
- ◆ マイクがアクティブの場合、言語チャンネルを出力に設定した全ての通訳ユニットのLCDにマイクのブース番号が表示されます;
- ◆ 通訳ブースがオフの場合は、緑色の指示ランプが点灯します。

10. マイクミュートキー (MUTE)

- ◆ ミュートボタンを長押しすると、マイクが一時的に無効になり、ミュートランプが点灯します。タイマーは停止しません。音声復帰時はこのボタンを離します。

11. 出力チャンネルA/B/Cスイッチ (表示灯付き)

- ◆ 出力チャンネルのプリセット
- ◆ チャンネルが接続されると、表示灯が点灯します;
- ◆ マイクが作動しているときは、それ自体の表示灯が点灯します;
- ◆ 「マイクアクティブ時の出力チャンネル切り替え許可」は、アプリケーションソフト (コントロール - ブース管理 - パラメータ設定) で設定します。

12. ヘルプ

- ◆ アプリケーションソフトウェア (コントロール - ブース管理 - パラメータ設定) で "Allow Help" が選択されている場合、このキーを押すとオペレーターにヘルプを求めることができ、ヘルプ情報がアプリケーションソフトウェアのステータスバーに表示されます; 同時に、オペレーターユニットのLCDに「Booth: ** asks for help」と表示されます。

13. スローキー (SLOW)

- ◆ Allow Slow を選択し、アプリケーションソフトウェア (コントロール - ブース管理 - パラメータ設定) で必要な数を設定した場合、参加者が早口で話しているときに通訳者がこのボタンを押して、ゆっくり話すように促します。ディスカッションユニットにLCDが装備されている場合、「もっとゆっくり話してください!」というメッセージが表示されます (所定時間内に必要な数に達したときに作動します)。

14. メッセージキー (M)

- ◆ アプリケーションソフトウェア (コントロール - ブース管理 - パラメータ設定) で「Allow Send Message (メッセージの送信を許可)」を選択している場合、未読のメッセージがあるときのランプが点灯しますので、このボタンを押してメッセージを確認してください;
- ◆ 1分以内に同じボタンを押すと、再度メッセージを確認できます;
- ◆ 1分以内に到着した新しい着信メッセージは、前のものを置き換えます。

15. 入力チャンネル音声再生 (REP.)

- ◆ アプリケーションソフト (コントロール - ブース管理 - パラメータ設定) で「Allow Repeat」を選択し、リピート時間を設定した場合、REP.ボタンを押すと入力チャンネルの音声再生されます;
- ◆ もう一度REP.ボタンを押すと、再生がキャンセルされます。

16. 機能ボタン

- ◆ 予約

20. ビープボタン (B)

- ◆ ビープボタンを使って、通訳ユニットのビープ音を無効にしたり有効にしたりできます。ビープ音を有効にすると、ディスプレイに音符が表示されます。通訳ユニットは、ヘッドフォンで目の不自由な通訳者をサポートするために、特別なイベントを通知するビープ音を発生させることができます。

◇ ディスプレイ

17. 6.8インチTFT LCD

- ◆ ユニット設定情報、受信/送信チャンネル番号と言語名、スピーカー出力のチャンネル番号と言語名、受信言語品質表示、出力チャンネルのオーディオストリームステータス (IR受信、録音、ネットワークライブ)、出力チャンネルを聴いている人数、ショートメッセージなどを表示します。

特別な構成:

点字

- ◆ 視覚障害者のための機能を備えた人間工学に基づいたデザイン。

◇ インターフェース

3. TRRSジャック (Ø 3.5 mm)

21. ステムマイクロホンソケット

24. 標準プラグ付き1.5m 8P-DINケーブル (オス×1)

25. 標準プラグ付き0.6メートル8P-DINケーブル (メス×1)

5.2 接続

5.2.1 CMUへの接続

HCS-8385N/50通訳者ユニットには、標準オスコネクタの6P-DINケーブルが付属しています。HCS-5300、HCS-5100、HCS-4100、HCS-8300シリーズのメインユニットに接続する場合は、1台目のオスコネクタをメインユニットの出力に接続するだけです。

会議ユニットとCMU間の距離が長い場合は、CBL6PS延長ケーブルを使用することができます。片側は6P-DINオスコネクタ、反対側はメスコネクタになっています。ケーブルのメスコネクタを隣の会議ユニットに接続し、オスコネクタをメインユニットの出力に接続するだけです。

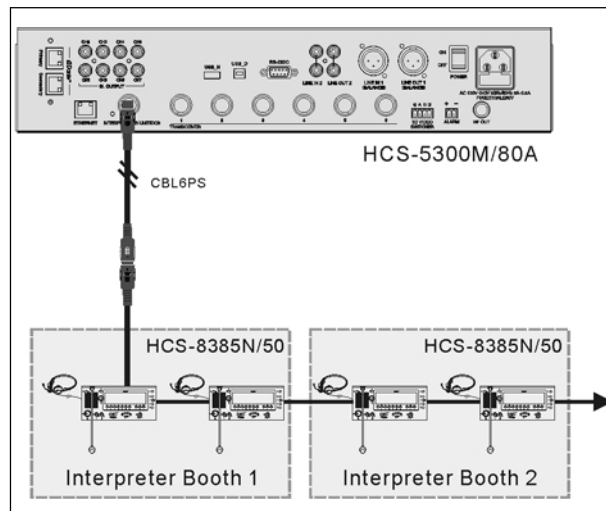


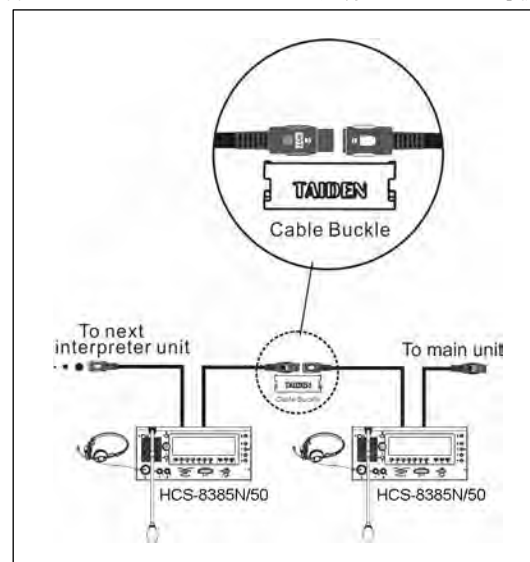
図 5.2 CMUに接続された HCS-8385N/50 通訳者ユニット

5.2.2 通訳ユニット間の接続

すべてのHCS-8385N/50ユニットは、専用の6ピンケーブルで簡単かつ便利にデジチェーン接続できます。

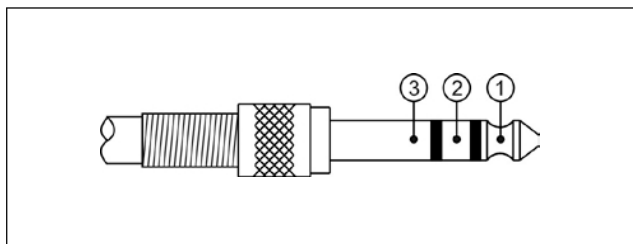
他のユニットに接続する場合は、ユニットのケーブルの6P-DIN標準メスコネクタと、隣のユニットのケーブルの6P-DIN標準オスコネクタを接続するだけです。

図 5.3 HCS-8385N/50 インタープリタ・ユニット間の「デジチェーン」接続



5.2.3 外部イヤホン

外部ヘッドホンは、通訳ユニットの側面にあるTRRSジャックに接続できます。ヘッドホンの音量は、イヤホンの音量調節ノブで調節できます。外部ヘッドホンのプラグは、下図に従って $\phi 3.5\text{ mm}$ とします：

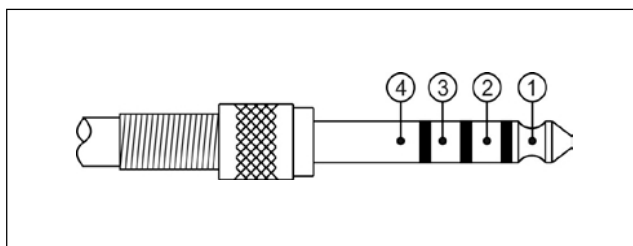


機能と表示：

- 1左ステレオチャンネル信号
- 2右ステレオチャンネル信号
- 3電源グラウンド/シールド

5.2.4 外部マイク

外部ヘッドセットは、通訳ユニット側面の TRRS ジャックに接続できます。外部ヘッドセットは、下図のように $\phi 3.5\text{ mm}$ のプラグを備えていなければなりません：



機能と表示：

- 1左ステレオチャンネル信号
- 2右ステレオチャンネル信号
- 3電源グラウンド/シールド
- 4外部マイク信号

5.3 セットアップ

同時通訳機能を実現するには、通訳ユニットを会議システムに組み込み、会議前にセットアップする必要があります。通訳ユニットの動作状況はLCDに表示され、設定はダイアログメニューとパネル上のボタンで行います。ここでは、通訳ユニットHCS-8385N/50の設定と操作について詳しく紹介します。

5.3.1 直接通訳、リレー通訳、自動リレー通訳

通訳ユニットをセットアップする前に、会議の実際の要件に応じてブースを配置する必要があります。すべての通訳チャンネルが正しく割り当てられていることを確認してください。

■直接通訳

通常、通訳者全員が話者の言語を理解できる場合は、フロア言語を聞くだけの同時通訳となります。通訳言語は、図5.3.1の各チャンネルに分配されます。これを直接通訳といいます。

■リレー通訳

通訳者がフロア言語に精通していない場合、直接通訳に進むことができません。図5.3.2に示すように、他の通訳者の訳を聞きながら、「又聞き」通訳をしなければならない。これをリレー通訳といいます。

■自動リレー通訳

リレー通訳が必要な場合、通訳者はモニターチャンネルのショートカット切替ボタン（1/2/3/4/5/6/7）とプライマリノブで言語を選択します。各ブースの出力言語があらかじめ決められているため、中継ブースは事前にセットアップしておく必要があります。通訳者が発言者の言語を理解できない場合、手動で入力言語を選択する必要はありません。通訳ユニットが自動的に使い慣れた言語に切り替えてくれます。これを自動リレー通訳といいます。

例：

ブース1は英語/中国語間の翻訳用。出力チャンネルAは英語、出力チャンネルBは中国語、出力チャンネルCは「なし」。

ブース2はフランス語/中国語間の翻訳用。出力チャンネルAはフランス語、出力チャンネルBは中国語、出力チャンネルCは「なし」。

ここで、1ブースを2ブースの中継ブースとして設定します。

発言者が中国語を話しているときは、1番ブースと2番ブースの通訳者が全員中国語に慣れていれば直接通訳ができます。（図5.4）

発言者が英語を話しているときは、ブース1の通訳者は通訳言語として出力チャンネルB（中国語）を設定します。第2ブースの通訳ユニットは中国語を入力チャンネルとします。ブース1のマイクON/OFFスイッチを押すと、ブース2のフロアチャンネル表示灯が消灯し、オートリレー表示灯が点灯します。オートリレー通訳機能が働いていることを示します。ブース2の通訳者はリレー通訳ができます。（図5.5）

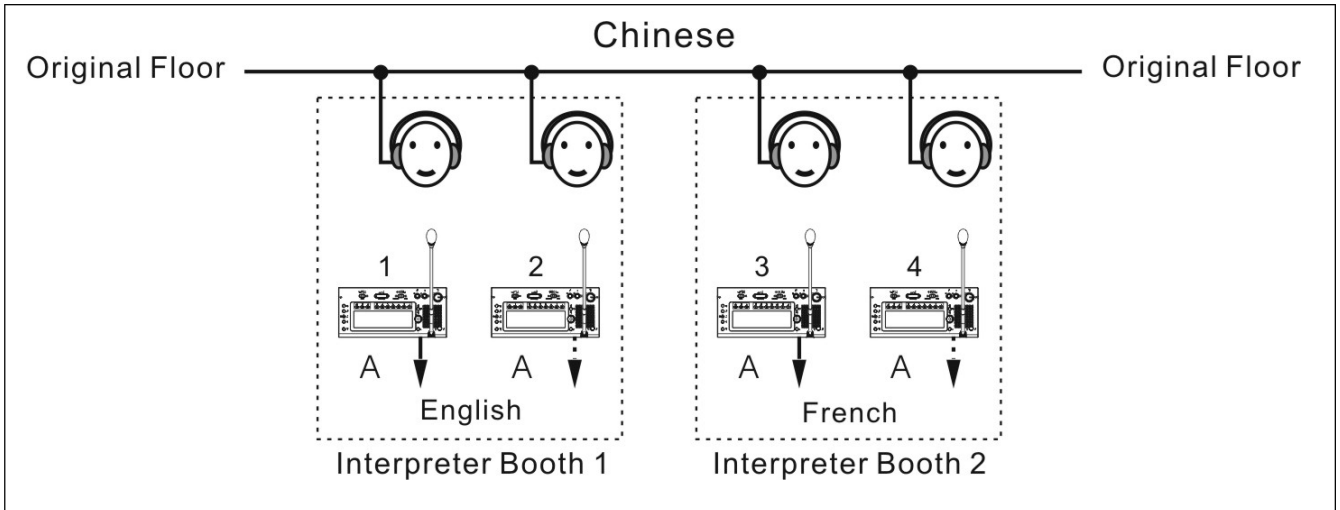


図 5.4 直接通訳

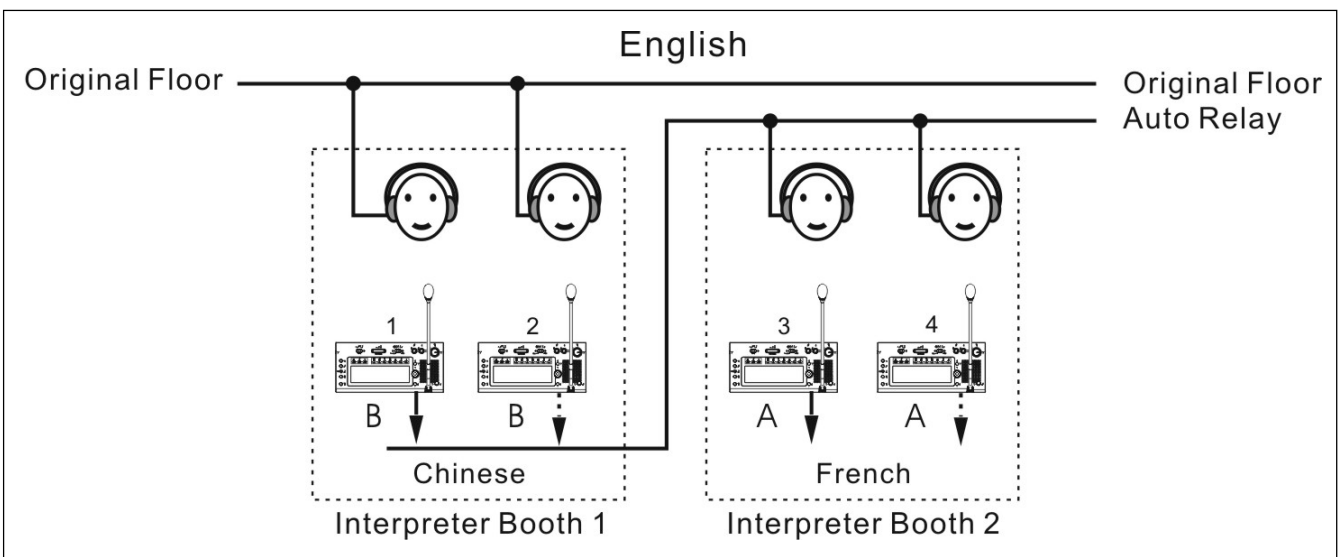


図 5.5 リレー通訳

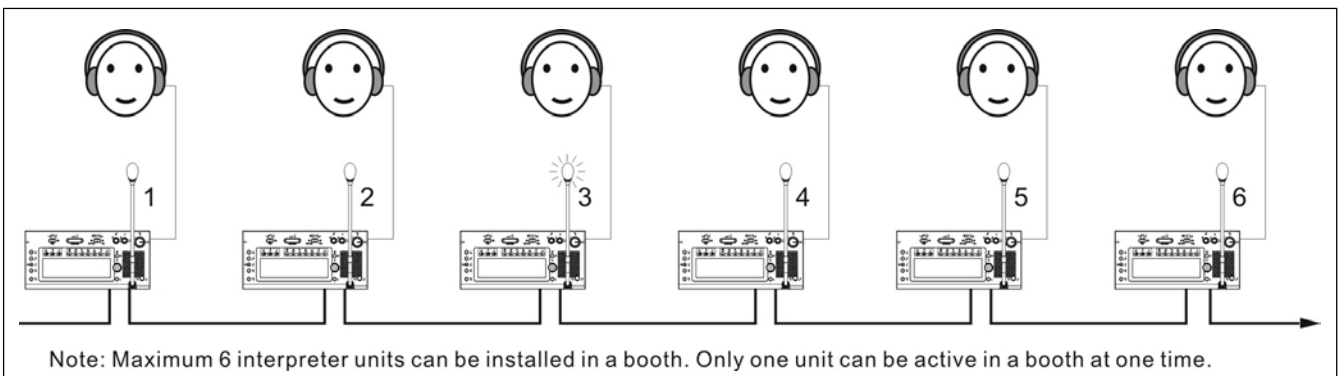


図 5.6 通訳ユニットの接続概略図

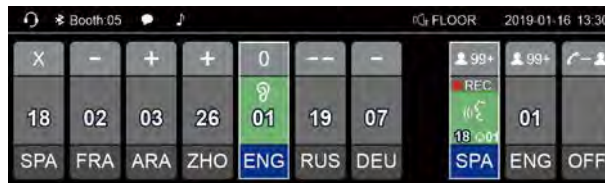
5.3.2 LCD設定メニュー

CMUで「通訳設定」を行った後、通訳ユニットの設定を行う必要があります：

- 通訳ユニットが設定されていない場合、LCDに「UNIT NOT INSTALLED」と表示されます；



- 通訳ユニットが設定されている場合、LCDはスタンバイ・インターフェースを表示します。



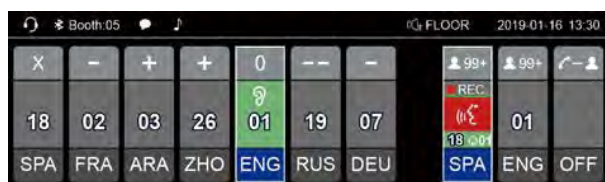
LCD上のアイコン：

アイコン	意味
	ヘッドセット接続済み
	ヘッドフォン接続済み
Booth: 05	ブルートゥース：オン
Booth: 05	ブルートゥース：接続済み
	メッセージ受信
	オーディオのフィードバックオン
REP:8s	リピート機能とリピート時間
00:00:05	講演時間
01:ENG	スピーカー・チャンネル
2016-01-21 09:00	システム現在時刻
06	出力チャンネルが通訳中
	オペレーターへ電話
99+	リスナー数
	オーディオ・ストリームが使用中
	モニターチャンネルがミュート中
	出力チャンネルがミュート中


A) メニューへのアクセス

通訳ユニットのメニュー操作で

- ユニットが取り付けられていない場合は、ファンクションノブを押して設定メニューに入ります；
- スタンバイ・インターフェイスの下で、戻る (←) ボタンを押して LCD メニューをアクティブにし、5 秒間操作がなければメニューは終了します。



以下の操作で:

- ◆ファンクションノブを回して LCD メニューを選択し、パラメータ値を調整します;
- ◆ファンクションノブを押して確定/サブメニューへ移動;
- ◆  ボタンを押して戻る/終了する。
- ◆他のボタンを押すと、メニューが終了してスタンバイ・インターフェースになる

B) メニュー構成

LCDメニューには以下が含まれる:



明るさ



ブルートゥース



設定




情報

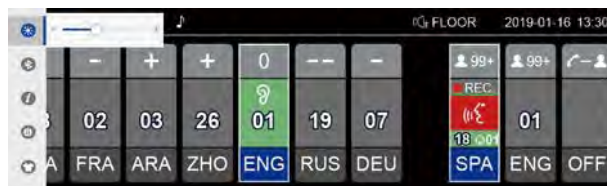


スキン




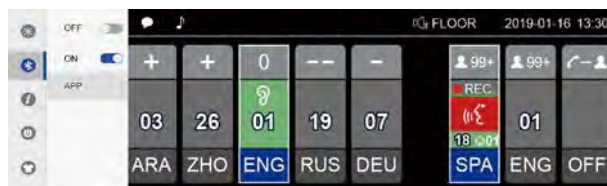
明るさ

ファンクションノブを回して画面の明るさを調整し、ファンクションノブを押して確定するか、""ボタンを押して戻ります。



ブルートゥース

ファンクションノブを回してOn、Off、Appから選択し、選択した項目がハイライト表示されたら、ファンクションノブを押して確定するか、""ボタンを押して戻ります。Bluetoothの初期状態は**オフ**です。Bluetoothがオンでも3分後に接続できなくなった場合は、自動的にオフになります。

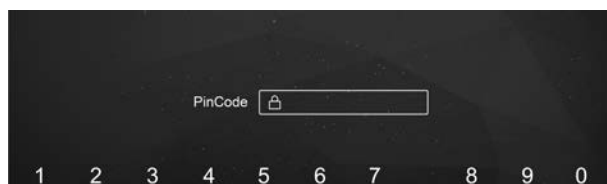


アプリを選択した場合、機能ボタンを押してQRコードインターフェースを開き、お使いの携帯電話またはパッドに従ってQRコードをスキャンして、Taiden SI toolアプリをダウンロードします。インストール後、Bluetoothで全ブースまたは一部のブースにメッセージを送信できます。




設定

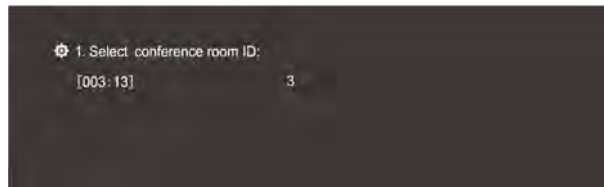
設定インターフェイスに入る前に、まずPINコードを入力し、システム管理者は通訳ユニット設定変更の認可のためにパスワードを設定し、ランダムな変更を避けるようにします。パスワードは**6666**で、数字の下のボタンを押して入力します。



◆ 会議室IDを選択

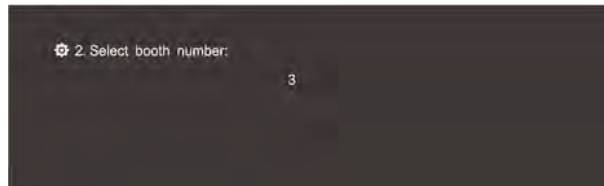
- 1). 会議室 ID をファンクションノブで選択します;


- 2). ファンクションノブを押して確定し、次のステップに進むか、"" ボタンで戻る。



◆ 小間番号を選択

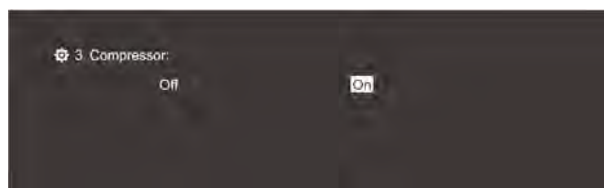
CMUの設定に従い、通信ユニットが設置されているブースの番号を設定。




- 1). ファンクションノブを回してブース番号を選択します。範囲はCMUの設定によって制限されます (2.1.4.2項参照) ;
- 2). ファンクションノブを押して確定し、次のステップに進むか、"" ボタンで戻る。

◆ コンプレッサー

コンプレッサーのオン/オフ。




- 1). ノブを回してOn/Offを選択します。デフォルトはOnで、強い信号が入力された場合に歪みがうまくコントロールされます ;
- 2). ファンクションノブを押して確定するか、"" ボタンで戻る。

◆ セーバー

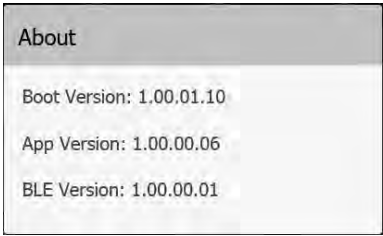
LCD スクリーンセーバー機能をオンまたはオフにします。




- 1). ファンクションノブを回してオン/オフを選択します。デフォルトはオンで、セーバー機能がオンの場合、LCDは一定時間操作なしでスクリーンセーバー状態になります ;
- 2). ファンクションノブを押して確定するか、"" ボタンで戻る。

情報

ファンクションノブを押すと、HCS-8385N/50 のバージョン (ブートバージョン、アプリバージョン、Bluetoothバージョン) が表示されます。



 **スキン (着せ替え)**

HCS-8385N/50インタープリターユニットには、2種類のスキンスタイル（グレー/ブルー）が内蔵されています。スキン切り替え後、ユニットを再起動すると反映されます。



グレー



ブルー



5.3.3 その他の設定

5.2.3.3.1 入力チャンネル設定

HCS-8385N/50は7つのプリセレクトボタン(1/2/3/4/5/6/7)を装備しています。モニタチャンネル切替ボタン(1/2/3/4/5/6/7)を押すと、ファンクションノブを押してチャンネル1に移動し、ファンクションノブを回して通訳チャンネルを選択します。

5.2.3.3.2 出力チャンネル設定

通訳言語を個別に分配するために、通訳ユニットにはA/B/Cチャンネルが用意されています。通訳ユニットのメニュー設定が完了したら、会議の前に、実際の要件に応じて、各通訳ユニットの出力チャンネルを設定する必要があります。

- 出力チャンネルAはCMUで設定され、その出力言語はブースの出力として固定されています；
- 出力チャンネルCは、従来とは異なる言語を出力するために使用します。出力チャンネルCは、CMUメニューの設定から "None" または "All" に設定できます。
 - ◆ 出力チャンネルCを "All" に設定した場合、通訳者は出力チャンネルCのスイッチを押しながらファンクションノブを回すことで、出力言語を選択することができます。出力チャンネルCをアクティブにすると、この通訳ユニットの出力は、このブースをオートリレーブースとして設定したすべてのブースに分配され、他の通訳者はリレー通訳を行うことができます。ここで、出力チャンネルBの出力言語は、CMUメニュー設定でブースの出力言語として固定されています；
 - ◆ 出力チャンネルCが "None" に設定されている場合、出力チャンネルBは非従来言語の出力に使用されます。出力チャンネルBはCMUメニュー設定から「None」または「All」に設定することができます。出力チャンネルBが "All" に設定されている場合、通訳者は出力チャンネルBのスイッチを押し、ファンクションノブを回すことで出力言語を選択することができます。出力チャンネルBをアクティブにするとこの通訳ユニットの出力は、このブースを自動中継ブースに設定したすべてのブースに分配され、他の通訳者はリレー通訳を行うことができます。

5.2.3.3.3 インターロック・モード

通訳モードはメニュー操作で設定できます：

ブース間インターロックモード：ブース間インターロックモード

- ◆ オーバーライド (Override)：通訳者が、同じ通訳チャンネルを供給している別の通訳ブース内の別の通訳者をオーバーライドできるようにする。
- ◆ OVERRIDE-BC：他のブースにいる通訳者のAチャンネルが、同じチャンネルを供給している他のブースのB/Cチャンネルをオーバーライドできるようにします。
- ◆ インターロック：他の通訳者が他の通訳ブースで同じチャンネルを使用するのを防ぎます。

ブース内のインターロック・モード：

- ◆ OVERRIDE (オーバーライド)：あるブースの通訳者が、同じブースの占有チャンネルをオーバーライドして、同じチャンネルを供給できるようにします
- ◆ インターロック：2人の通訳者が同じブースで同じチャンネルを使うことを防ぎます。

5.4 操作方法

5.4.1 リスニングエリアの操作

ユニットの左側にあるリスニングエリアは、フロアまたは通訳チャンネルをモニターするためのエリアです。このエリアには、内蔵スピーカー、ヘッドセット・ソケット、対応するコントロール・ボタンとノブがあります。この直感的なレイアウトは、通訳者が通訳ユニットに素早く慣れるのに役立ちます。

1. チャンネル言語とは、CMUの設定でチャンネルに配置されている言語のことです。例えば、10言語が設定されており、チャンネル1を中国語、チャンネル2を英語などと設定します。
この設定は、通訳者の作業を簡素化し、すべての参加者のために選択可能なすべての言語のラベルを作成するためです。
2. ブース内の各通訳ユニットのマイクを OFF にすると、内蔵スピーカー②から任意の言語をモニターすることができ、「スピーカー音量調整ノブ」①で音量を調整することができます。ブース内のマイクをアクティブにすると、ブース内の各通訳ユニットのスピーカーは自動的にミュートされます。通訳者はイヤホンで聞き、左下にある「イヤホン音量調節ノブ」④、「イヤホン低音調節ノブ」⑤、「イヤホン高音調節ノブ」⑥で音量、高音、低音を調節します。
3. 通訳者が他のチャンネル言語を聞きたい場合は、「モニターチャンネル切替ボタン（1/2/3/4/5/6/7）」でプリセットされているチャンネル言語を選択します。チャンネル言語がプリセットされていない場合は、ボタン(1/2/3/4/5/6/7)を押しながらファンクションノブ⑨を回してチャンネル言語を選択します。
4. 話し手が早口で、通訳者がついていけない場合、通訳者は「SLOW」ボタンを押すことができ、話し手にスピードを落とすよう促します。会議ユニットにLCDが装備されている場合、「もっとゆっくり話してください!」というメッセージが表示されます（所定時間内に必要な数に達すると作動します）。
5. 通訳者が発言者の言葉を聞き逃した場合、入力チャンネルの音声再生キー（REP）を押して聞き逃した言葉を再生することができ、LCDに REP:6S と表示されます。再生時間は2秒～8秒です。
6. 品質表示：ディスプレイの2行目には、通訳ユニットの事前選択ボタンに割り当てられているチャンネルの通訳の質が表示されます。このロゴは、直接通訳が可能な場合、リレー通訳を使用しないように通訳者に注意を促すために使用されます。

品質	説明
0	チャンネルにはフロアの言語が含まれている。
+	このチャンネルには、フロア言語の直接通訳が含まれている。
-	このチャンネルには、フロア言語の間接的な通訳が含まれている。
-	このチャンネルには、通訳言語の間接的な通訳が含まれている。
X	このチャンネルには、現在の通訳ユニットの出力通訳が含まれている。

ビープ音を有効にすると、選択したチャンネルにフロア言語の間接通訳が含まれている場合、通訳ユニットはビープ音を再生します。

5.4.2 スピーキングエリアの操作

ユニット右側にあるスピーキングエリアは、通訳言語を対応するチャンネルに振り分けるためのエリアです。機能ボタンやチャンネルセレクターなどがあります。

1. マイクの ON/OFF ボタンを押し、通訳言語を出力チャンネルに分配する。

1ブースに設置できる通訳ユニットは最大6台までです。マイクは1ブースに1本のみ有効です。ブース内のマイクが1本作動すると、ブース内のすべての通訳ユニットのスピーカーがミュートされます。

2. 出力チャンネル選択:

◆A、B、C ボタンで出力チャンネルを素早く切り替えます。自動リレー通訳が作動し、出力チャンネルB/Cが作動すると、このブースを自動リレーブースに設定した全ブースに自動的に出力が分配され、他の通訳者がリレー通訳を行うことができるようになります。

◆アプリケーションソフトウェア（コントロール - ブース管理 - パラメータ設定）で「マイクがアクティブなときに出力チャンネルの切り替えを許可する」を選択すると、通訳者は自由に出力チャンネルを切り替えることができます；

◆A、B、C ボタンにはそれぞれENGAGEDインジケータが付いています。選択した出力チャンネルがすでに他の通訳ユニットによってエンゲージされている場合、このインジケータが点灯します。

◆マイクがアクティブになると、ENGAGE ランプが点灯します。

3. MUTE ボタンを長押しすると、一時的にマイクを閉じることができ、「MUTE」インジケータが点灯します。ボタンを離すと自動的にマイクが起動します。

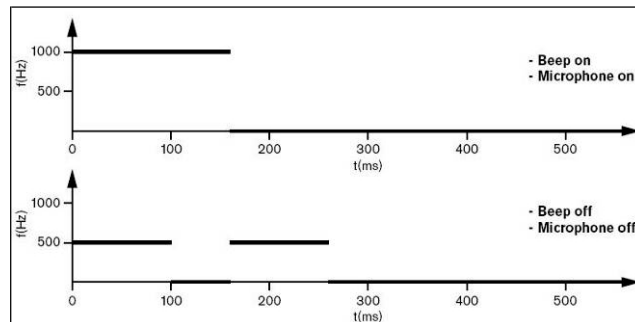
4. MESSAGE" ボタンは、ショートメッセージの確認に使用します。

5. インターカムボタン: 出力チャンネルCが「出力なし」で、アプリケーションソフトウェア（コントロール - ブース管理 - パラメータ設定）で「Allow Call（通話許可）」が選択されている場合、Cボタンを長押ししてオペレーターを呼び出します（PTTモード）。

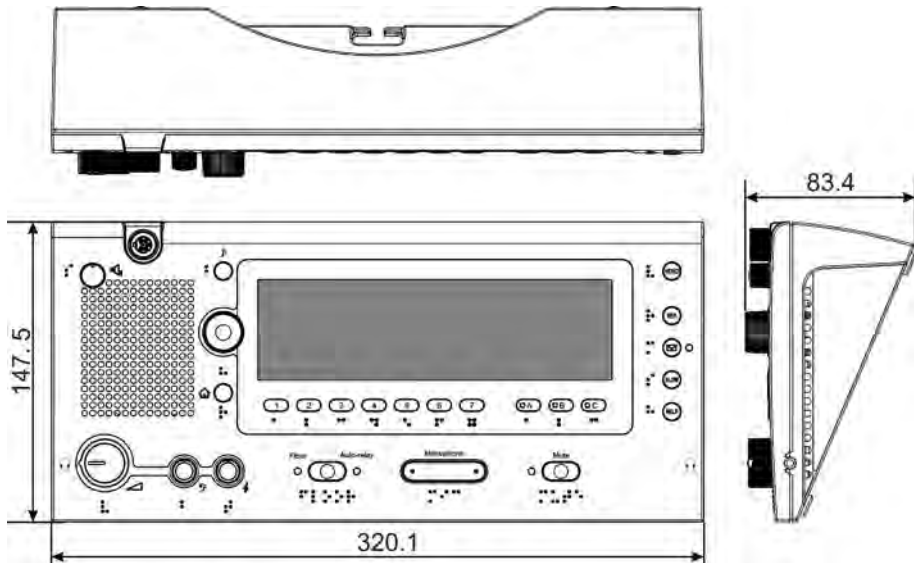
6. HELP ボタン: アプリケーションソフトウェア(コントロール - ブース管理 - パラメータ設定)で "Allow Help（ヘルプ許可）"が選択されている場合、通訳者がヘルプを要求するときに使用します。ヘルプ情報はアプリケーションソフトウェアのステータスバーに表示され、同時にオペレーターユニットのLCDに「Booth: xx asks for help」と表示されます。

7. ビープ音

オーディオビープは、Beepボタンでオン/オフを切り替えることができます。この機能が有効な場合、ディスプレイには音符が表示され、Mic.ON/OFFボタンでオン・オフを切り替えることもできます。ビープ音が有効になっている場合、選択したチャンネルにフロア言語の間接通訳が含まれていると、通訳ユニットはビープ音を再生します。



5.5 仕様表

タイプ	HCS-8385N/50
周波数特性	30 - 20000 Hz
イヤホン負荷インピーダンス	>16オーム
イヤホン出力	10 mW
ヘッドセット接続	Ø 3.5 mm TRRSジャック
最大消費電力	4.8 W
接続	バックル付6P-DIN専用ケーブル
インストール	卓上
寸法 (mm)	 <p>Technical drawing of the HCS-8385N/50 device showing top, front, and side views with dimensions. The front view shows a width of 320.1 mm and a height of 147.5 mm. The side view shows a depth of 83.4 mm.</p>
カラー	シャンパン (PANTONE 401 C)
重量	1.1 kg

第6章 アクセサリー

6.1 デジタルIR会議室スイッチャー

6.1.1 HCS-5300MX

6.1.1.1 機能と表示

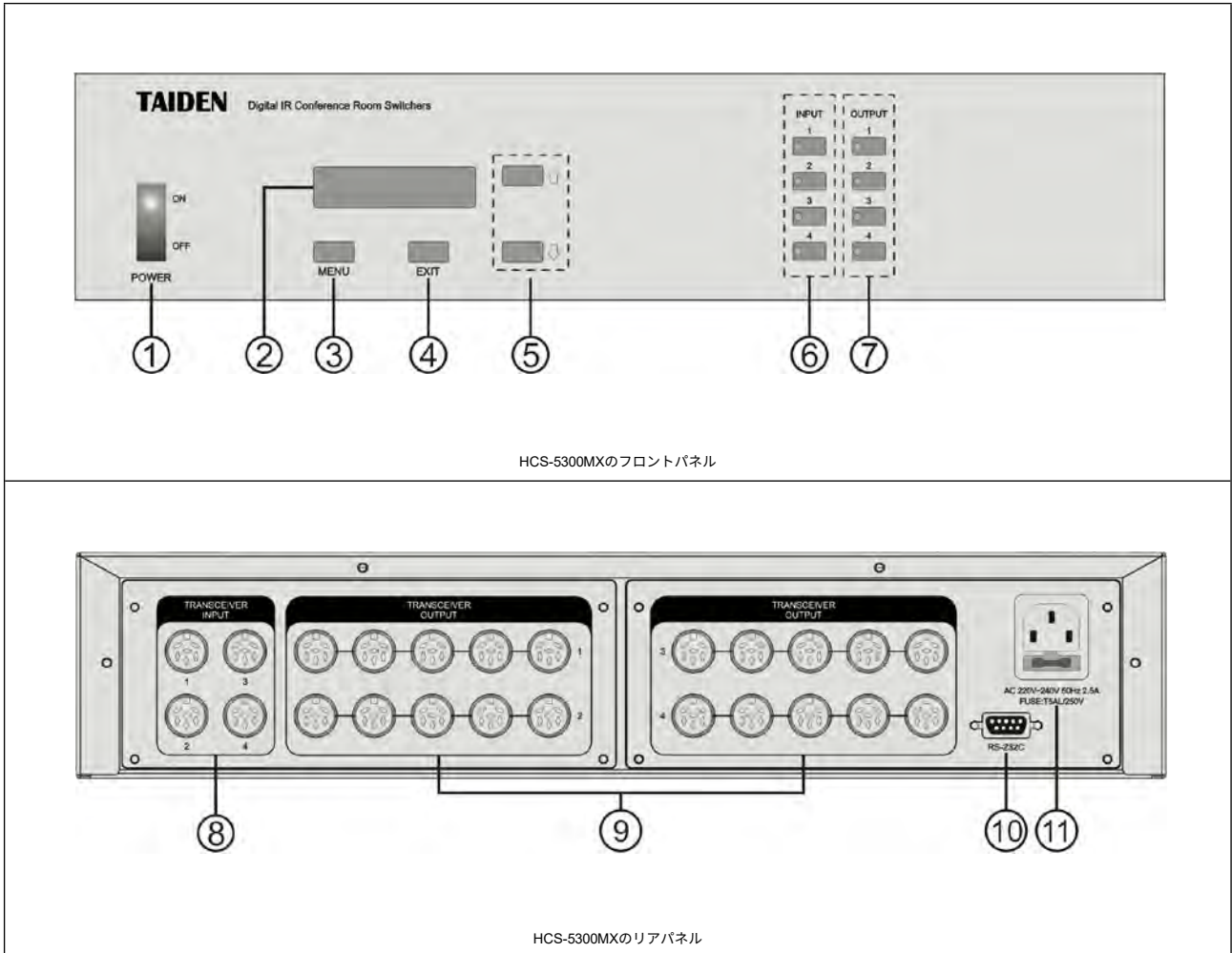


図 6.1 HCS-5300MX デジタル IR 会議室スイッチャー

1. 電源スイッチ

2. 16x2セグメントLCD

3. 「MENU」ボタン

- LCDにファームウェアバージョンの表示がされます。

4. 「EXIT」ボタン

- LCDは、入力チャンネルと出力グループの対応状態を表示します。

5. メニュー切り替えボタン: 上 (↑) / 下 (↓)

6. インジケータ付き入力チャンネルセレクター (1-4)

7. インジケータ付き出力グループセレクター (1~4)

8. 入力チャンネル (1-4)

- HCS-5300MデジタルIRワイヤレス会議システムメインユニットとの接続用。

9. 出力グループ (1~4グループ、1グループ5出力)

- トランシーバーは最大16台まで接続可能。

10. RS-232ポート

- COMポートは、中央制御用の中央制御システムに接続するために使用されません。

11. 電源

6.1.1.2 接続

会議室接続例1

デジタルIR会議室スイッチャーHCS-5300MXとCBL5300ケーブルで複数の会議室を自由に組み合わせることができます。1台のHCS-5300MXで最大4つの会議室を結合できます。

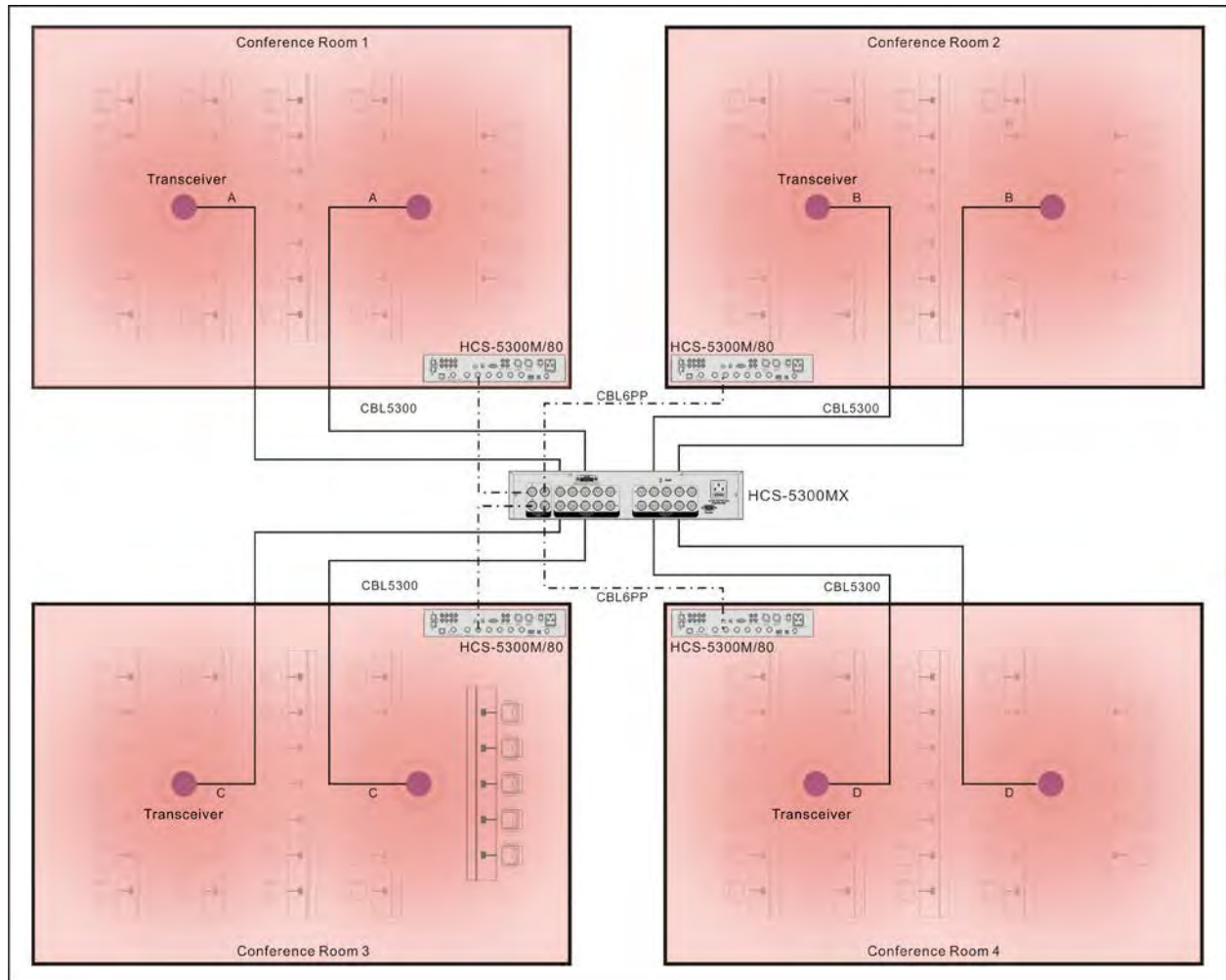


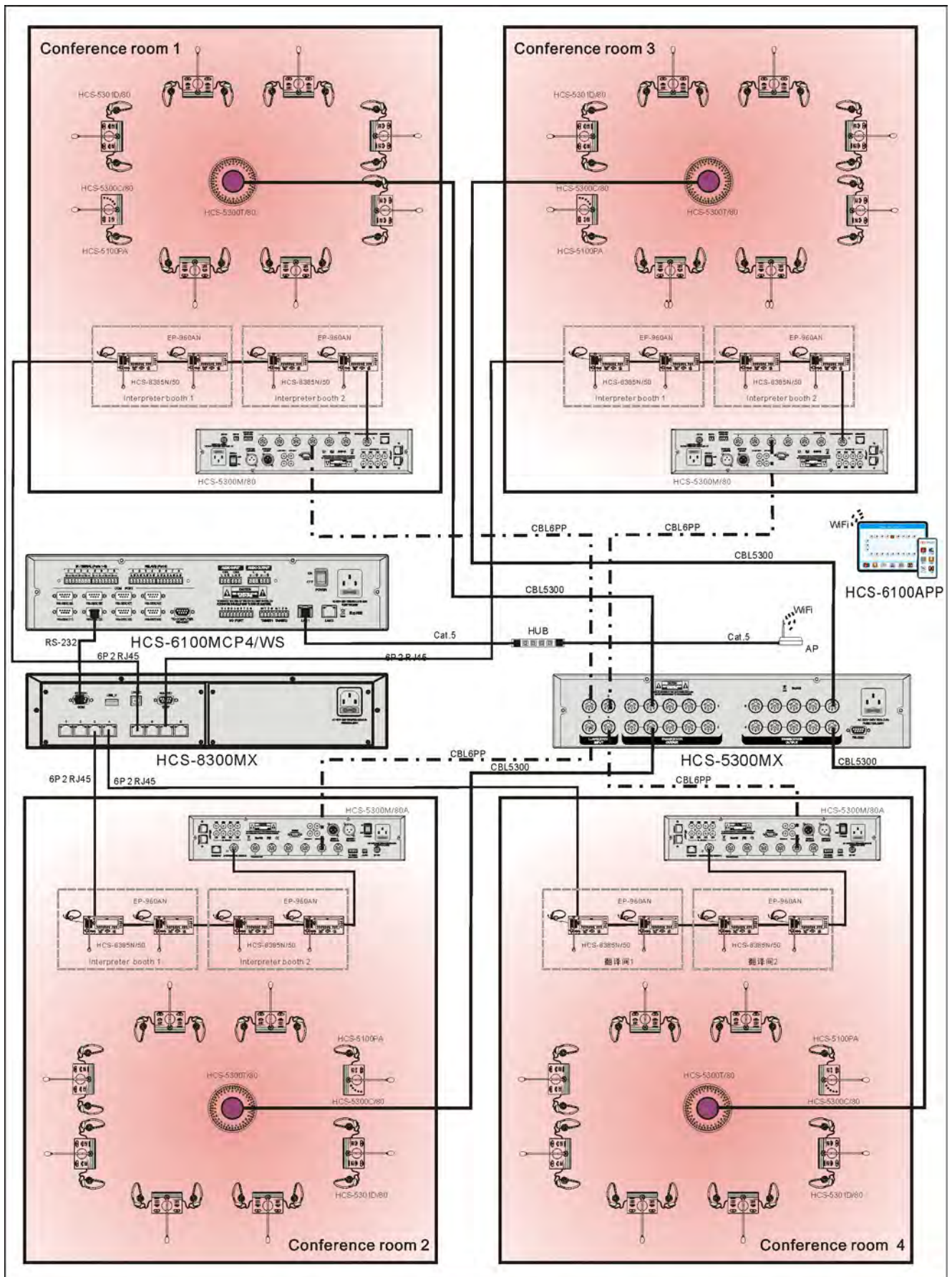
図6.2 部屋の結合

注:

- ☞ すべてのケーブルAの長さは等しくなければならない、すべてのケーブルBの長さは等しくなければならない、すべてのケーブルCの長さは等しくなければならない、すべてのケーブルDの長さは等しくなければならない;
- ☞ 複数の会議室を同じ会場に使用する場合、ケーブルの長さA、B、C、Dはすべて同じにする必要があります (A=B=C=D)。

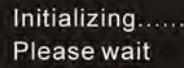
6.1.2.2 会議室接続例2

HCS-5300MXとCBL5300ケーブルでトランシーバーを接続し、HCS-8300MXと6PIN-RJ45ケーブルで通訳ユニットを接続することで、複数の会議室を自由に分割/結合することができます。最大4つの会議室を組み合わせ、ディスカッション、1+7CHs同時通訳、中央制御などを実現できます。



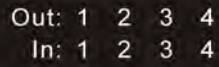
6.1.1.3 設定と操作

HCS-5300MXデジタルIR会議室スイッチャーの電源を入れると、初期化が始まります:



Initializing.....
Please wait

初期化が終了すると、対応する入力チャンネルと出力グループの状態がLCDに表示されます:

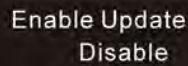


Out: 1 2 3 4
In: 1 2 3 4

フロントパネルのボタンを押して、次の操作に進みます:

■ Menu ボタンを押すと、「Enable Update」や「About」などのメインメニューが表示されます。

■ 「Enable Update (アップデートの有効化)」



Enable Update
Disable

- a). \uparrow/\downarrow ボタンを押して "Enable Update" に切り替え、"MENU" を押して次のステップに進みます;
- b). \uparrow/\downarrow ボタンを押して、"有効" または "無効" を選択します;
- c). MENU ボタンを押して保存し、"EXIT" ボタンを押して上位メニューに戻ります。

■ 「About (情報)」

\uparrow/\downarrow ボタンを押して "About" に切り替え、"MENU" ボタンを押すと、スイッチャーのファームウェアバージョンがLCDに表示されます。



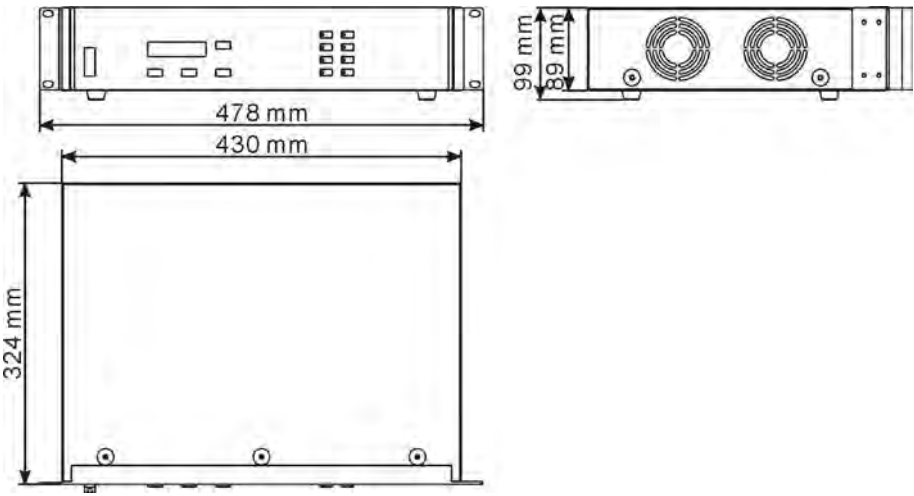
HCS-5300MX 1.02
11:55:26 Dec 6

■ チャンネル切り替え操作:

- 「INPUT 1...4」ボタンを押して入力チャンネルを選択すると、対応するインジケータが点灯します;
- 「OUTPUT 1...4」ボタンを押して出力グループを選択します。

ボタンを押すと、対応するインジケータが点灯し、選択された入力チャンネルの信号が選択された出力グループに切り替わります。選択した出力グループの選択を解除するには、選択した「OUTPUT 1...4」ボタンを再度押します。入力チャンネルに「X」が表示されている場合、出力グループはクローズされ、対応するインジケータは消灯します。

6.1.1.4 仕様表

タイプ	HCS-5300MX
主電圧	AC 100 V - 120 V 60 Hz または AC 220 V - 240 V 50 Hz
消費電力	15 W
最大消費電力	430 W
入力インターフェース	6P-DINソケット×4
出力インターフェース	20個の6P-DINソケット (4グループ、各グループ5ソケット)
負荷容量	10 HCS-5300TD / HCS-5300TH 6 HCS-5300TWN
寸法	 <p>The technical drawing illustrates the HCS-5300MX device from three perspectives: front, top, and side. The front view shows a width of 478 mm and a depth of 430 mm. The top view shows a height of 99 mm. The side view shows a height of 89 mm. The device is a rectangular unit with a white finish, featuring a front panel with a display and buttons, and a rear panel with two cooling fans and connection ports.</p>
重量	10.6 kg
カラー	ホワイト

6.1.2 HCS-5300MX/20

6.1.2.1 機能と表示

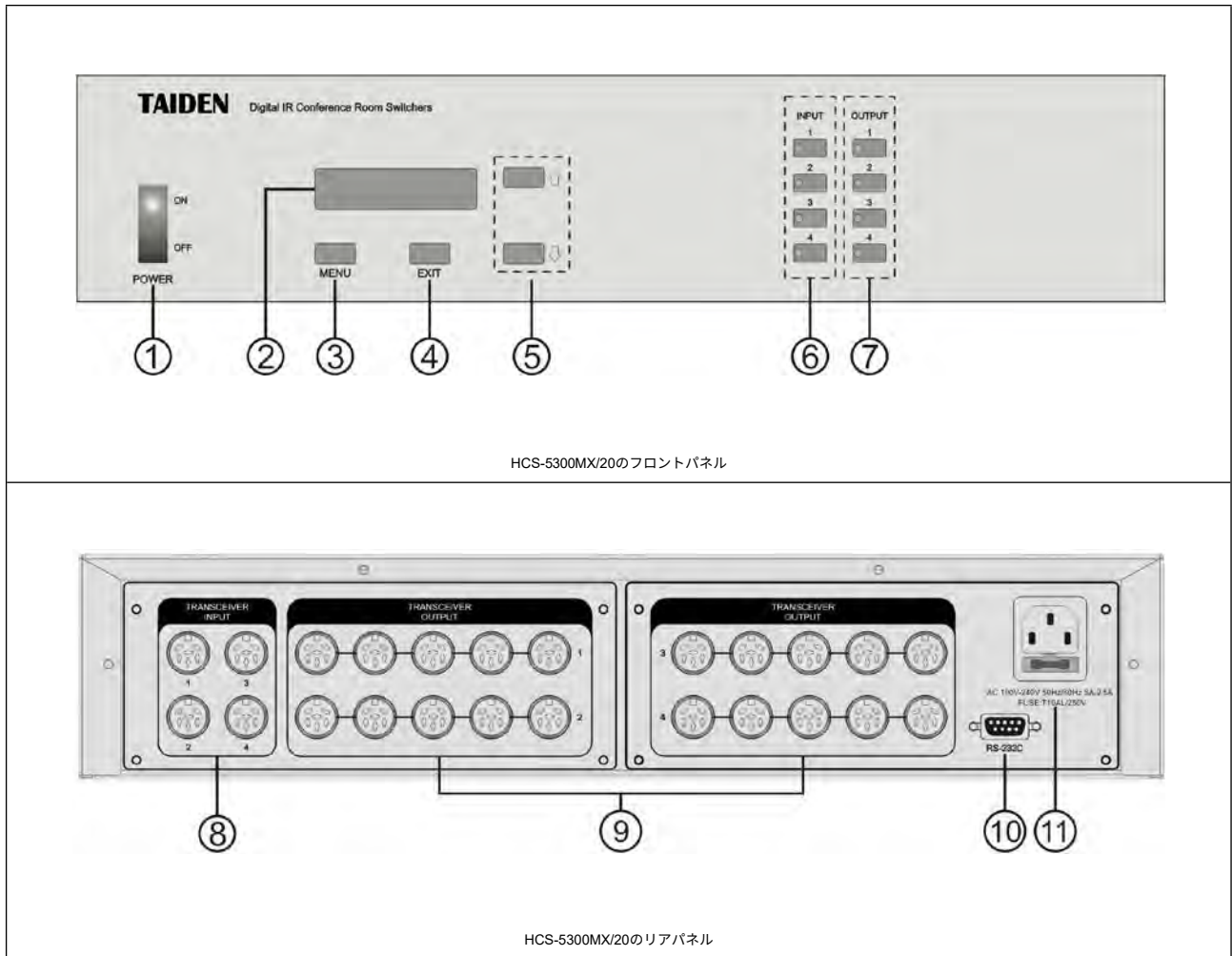


図 6.4 HCS-5300MX/20 デジタル IR 会議室スイッチャー

1. 電源スイッチ

2. 16x2セグメントLCD

3. 「MENU」ボタン

- LCDにファームウェアバージョンが表示されます。

4. 「EXIT」ボタン

- LCDは、入力チャンネルと出力グループの対応状態を表示します。

5. メニュー切り替えボタン: 上(↑)/下(↓)

6. インジケータ付き入力チャンネルセレクター (1-4)

7. インジケータ付き出力グループセレクター (1-4)

8. 入力チャンネル (1-4)

- HCS-5300MデジタルIRワイヤレス会議システムメインユニットとの接続用。

9. 出力グループ (1~4グループ、1グループ5出力)

- 最大20台のHCS-5300TD/80、HCS-5300TH/80または15台のHCS-5300TWN/80トランスシーバーを接続可能。

10. RS-232ポート

- 中央制御システムまたはTSW-5300MXルームスイッチャーツールとの接続用

11. 電源

6.1.2.2 接続

1. 会議室接続例1

デジタルIR会議室スイッチャーHCS-5300MX/20とCBL5300ケーブルで複数の会議室を自由に組み合わせることができます。1台のHCS-5300MX/20で最大4つの会議室を結合できます。

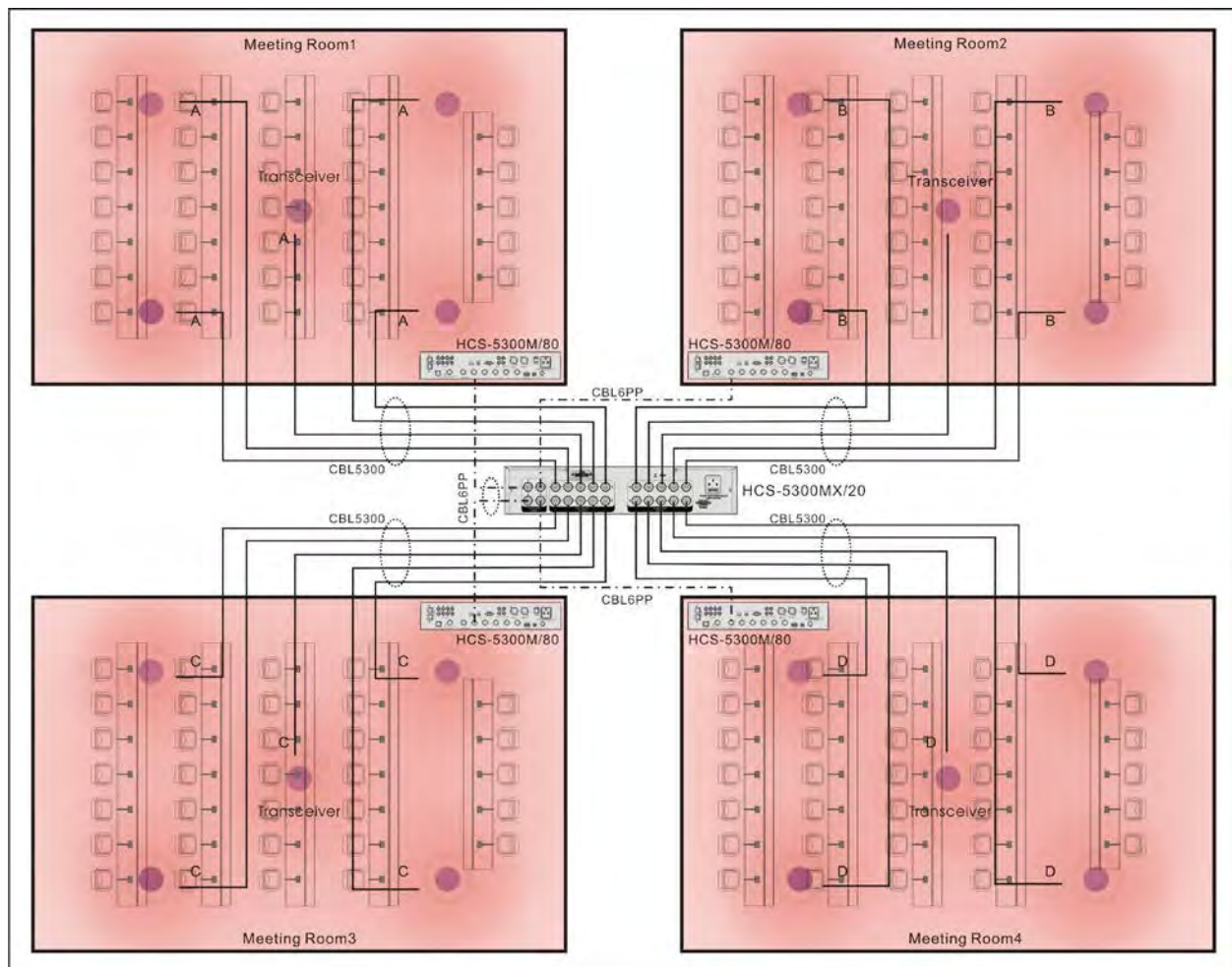


図6.5 部屋の接続例1

注:

- すべてのケーブルAの長さは等しくなければならない、すべてのケーブルBの長さは等しくなければならない、すべてのケーブルCの長さは等しくなければならない、すべてのケーブルDの長さは等しくなければならない;
- 複数の会議室を同じ会場に使用する場合、ケーブルの長さA、B、C、Dはすべて同じにする必要があります (A=B=C=D)。

2. 会議室接続例2

HCS-5300MX/20とCBL5300ケーブルでトランシーバーを接続し、HCS-8300MXと6PIN-RJ45ケーブルで通訳ユニットを接続することで、複数の会議室を自由に分割/結合することができます。最大4つの会議室を組み合わせ、ディスカッション、1+7CHs同時通訳、中央制御などを実現できます。

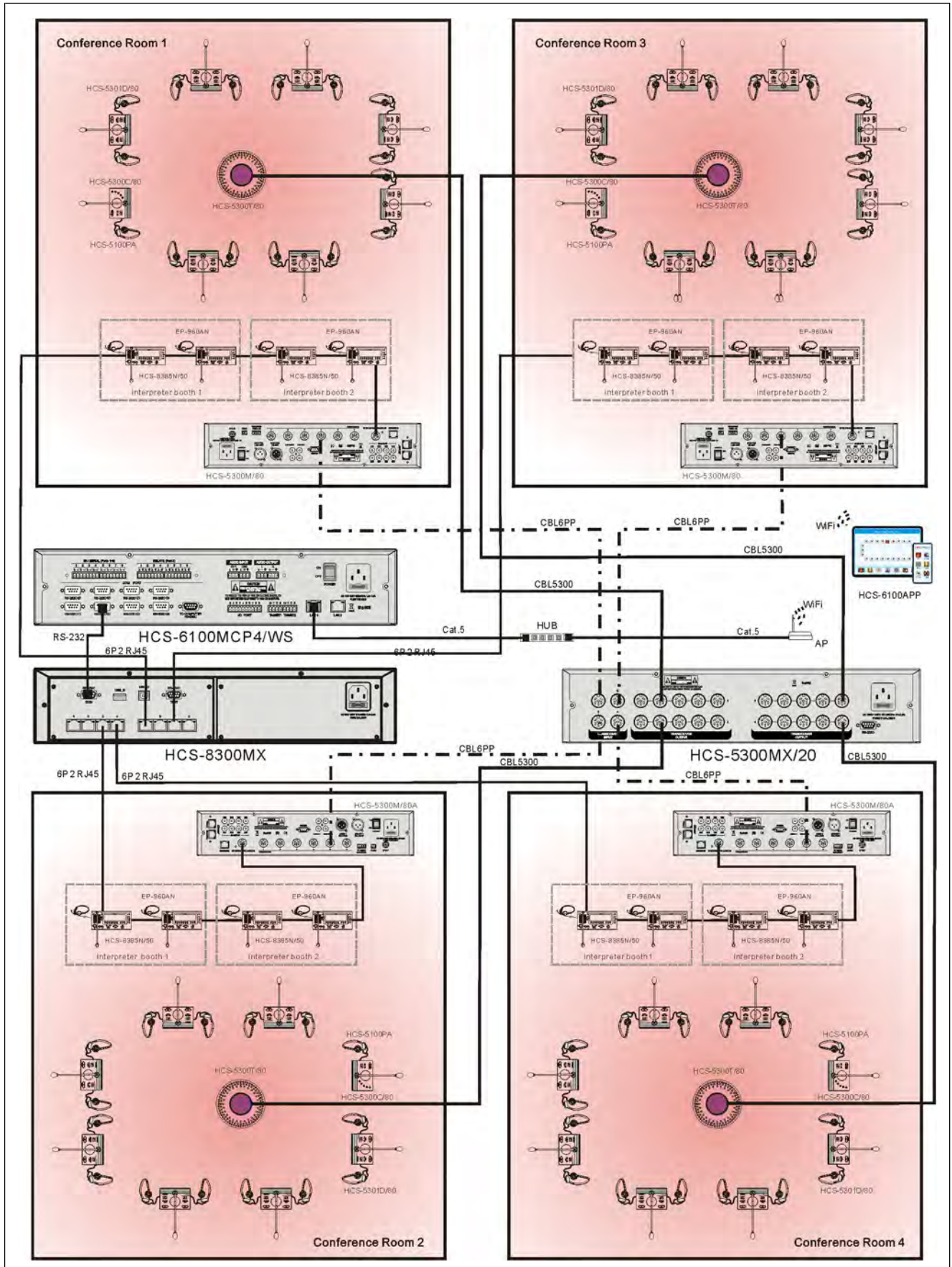
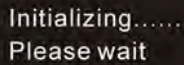


図6.6 会議室の接続例2


6.1.1.3 設定と操作

HCS-5300MX/20デジタルIR会議室スイッチャーの電源を入れると、初期化が始まります:

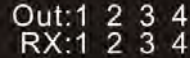


Initializing.....
Please wait

初期化が終了すると、TX (トランシーバーからメインユニットへのデジタルIR信号) の出力グループの対応する状態がLCDに表示され、" \uparrow/\downarrow " ボタンを押してRX (メインユニットからトランシーバーへのデジタルIR信号) の出力グループを確認します:



Out: 1 2 3 4
TX: 4 3 2 1

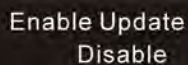


Out: 1 2 3 4
RX: 1 2 3 4

フロントパネルのボタンを押して、次の操作に進みます:

■ Menu ボタンを押すと、"Enable Update"、"TX RX Mode"、"About"などのメインメニューが表示されます。

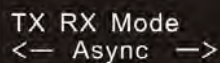
■ 「Enable Update (アップデートを有効化)」



Enable Update
Disable

- \uparrow/\downarrow ボタンを押して "Enable Update" に切り替え、"MENU" を押して次のステップに進みます;
- \uparrow/\downarrow ボタンを押して、"有効" または "無効" を選択します;
- MENU ボタンを押して保存し、"EXIT" ボタンを押して上位メニューに戻ります。

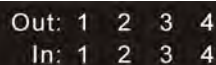
■ TX RXモード



TX RX Mode
<- Async ->

- \uparrow/\downarrow ボタンを押して 「TX RX Mode」 に切り替え、"MENU" を押して次のステップに進みます;
- \uparrow/\downarrow ボタンを押して、"Async" または "Sync" を選択します;
- MENU ボタンを押して保存し、EXIT ボタンを押して上位メニューに戻ります。

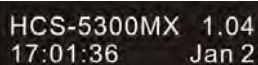
注: "Async" はRXとTXの出力が非同期であることを表し、"Sync" はRXとTXの出力が同期であることを表します。Sync に設定すると、LCDは次のように表示されます:



Out: 1 2 3 4
In: 1 2 3 4

■ 「About (情報)」

\uparrow/\downarrow ボタンを押して "About" に切り替え、"MENU" ボタンを押すと、スイッチャーのファームウェアバージョンがLCDに表示されます。

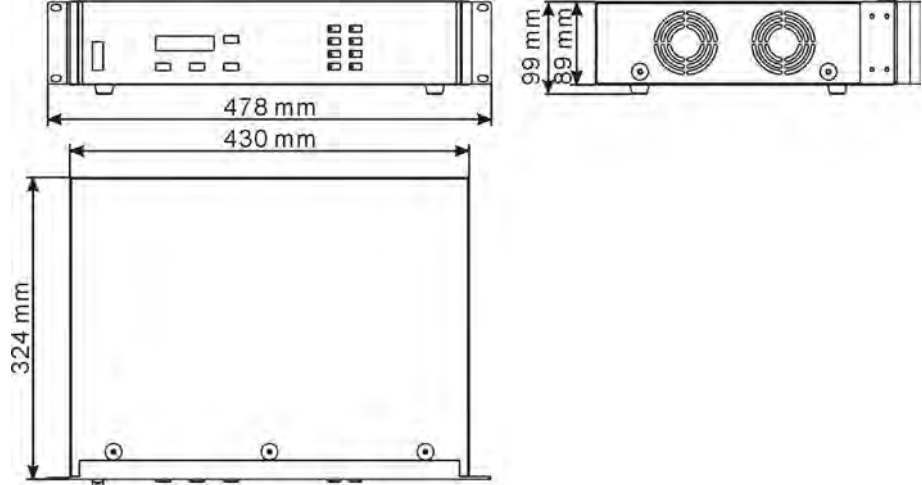


HCS-5300MX 1.04
17:01:36 Jan 2

■ チャンネル切り替え操作:

- 「INPUT 1...4」 ボタンを押して入力チャンネルを選択すると、対応するインジケータが点灯します;
- 「OUTPUT 1...4」 ボタンを押して出力グループを選択すると、対応するインジケータが点灯し、選択された入力チャンネルの信号が選択された出力グループに切り替わります。選択した 「OUTPUT 1...4」 ボタンをもう一度押すと、選択した出力グループの選択が解除されます。入力チャンネルに 「X」 が表示されている場合、出力グループはクローズされ、対応するインジケータは消灯します。

6.1.2.4 仕様表

タイプ	HCS-5300MX/20
主電圧	AC 100V-240V 50Hz/60Hz
消費電力	15 W
最大消費電力	500 W
入力インターフェース	6P-DINソケット×4
出力インターフェース	20個の6P-DINソケット（4グループ、各グループ5ソケット）
負荷容量	20 HCS-5300TD / HCS-5300TH 15 HCS-5300TWN
寸法	 <p>Technical drawing of the HCS-5300MX/20 device. The drawing shows a top view and a side view. The top view indicates a total width of 478 mm and a main body width of 430 mm. The side view indicates a height of 324 mm and a depth of 99 mm.</p>
重量	10.6 kg
カラー	ホワイト

6.2 リチウム電池

● HCS-5380BATリチウム充電電池パック

HCS-5380/5381シリーズは、専用のリチウム電池または電源アダプターで給電することができます。



図 6.4 HCS-5380BAT リチウム電池

■ 仕様	
公称電圧	3.7 V DC
公称容量	5200 mAh
寸法 (高さ×幅×奥行)	14× 67× 37 mm
重量	93 g
カラー	ブルー

● HCS-5300BATリチウム充電電池パック

HCS-5300/80およびHCS-5390シリーズは、専用のリチウム電池または電源アダプターで電源を供給できます。



図 6.5 HCS-5300BAT リチウム電池

■ 仕様	
公称電圧	10.95 V DC
公称容量	4400 mAh
寸法 (高さ×幅×奥行)	28×140× 58 mm
重量	0.3 kg
カラー	ブラック

■ 組み立ての手順

1. 左右にあるバックルがスロットに向くように、会議ユニット底面のスロットにバッテリーを組み込みます；
2. 会議ユニットの矢印の方向に従って、バッテリーをスロットにしっかりと押し込みます。

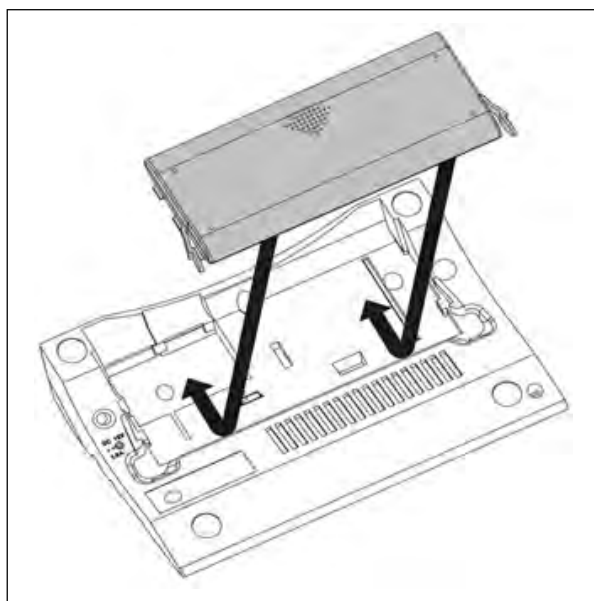


図 6.6 HCS-5300/80 シリーズ

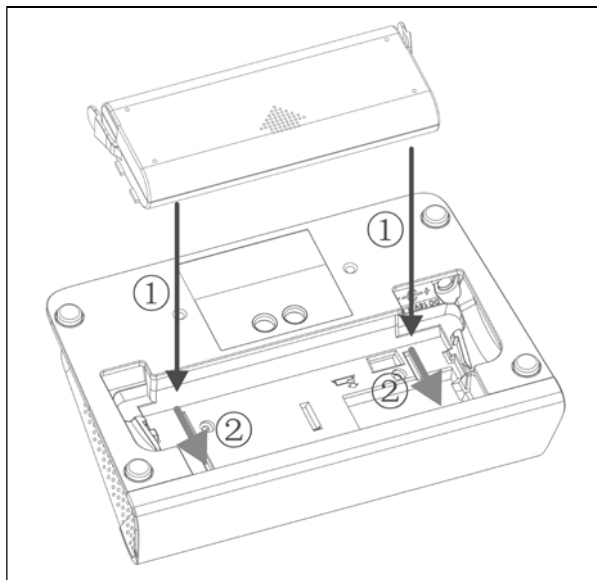


図 6.7 HCS-5390 シリーズ

■ 取り外し手順

1. バッテリーの左右にあるバックルを押します;
2. 矢印の方向に従ってプラグを抜いてください。

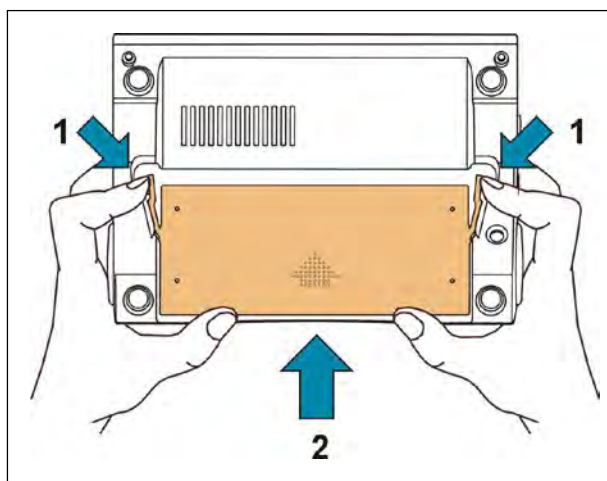


図 6.8 HCS-5300/80 シリーズ

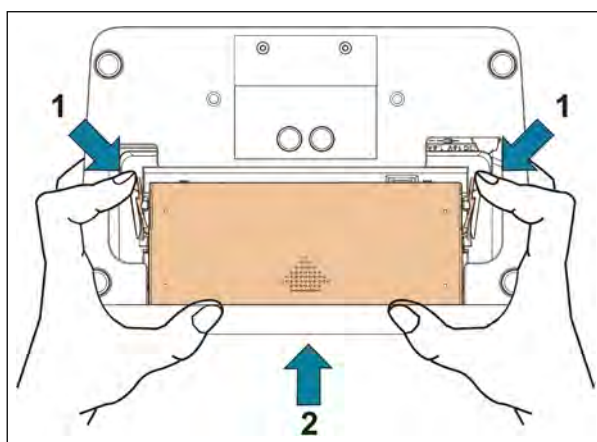


図 6.8 HCS-5390 シリーズ

6.3 充電器

6.3.1 HCS-5300CHG/08充電ユニット

充電ユニットは、自動電圧マッチング機能付きユニバーサル電源を使用し、一度に最大8個のHCS-5300BATバッテリーを充電することができます。充電ユニットには充電インジケータと満充電インジケータがあり、バッテリーの状態を表示します。充電回路は、バッテリーが接続されているかどうかを確認し、充電制御します。

■ 機能と表示

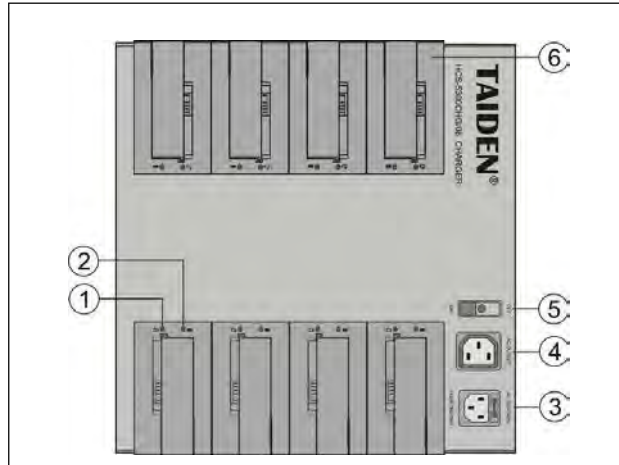


図 6.9 HCS-5300CHG/08 充電ユニット

図6.9:

- | | |
|------------|---|
| 1. 充電表示灯 | 4. 出力 |
| 2. フル充電表示灯 | 5. 電源スイッチ |
| 3. 電源入力 | 6. 充電格子 - 最大8個のHCS-5300BATバッテリーを一度に充電可能 |

■ 充電の手順

1. 電源コアを接続する;
2. スイッチを入れる;
3. 電池を入れる;
4. バッテリー充電インジケータが点灯します:

LEDステータス	充電状況
グリーン	フル充電
レッド	充電中
LED消灯	充電ユニットの電源オフ
緑/赤の点滅 @ 2 Hz	バッテリーが挿入されていない、充電時間 ≥ 20時間

注:

☞ 充電ユニットはHCS-5300BATの充電専用です。HCS-5300CHG/08で他の種類のバッテリーを充電したり、他の充電ユニットでHCS-5300BATを充電したりしないでください。

■ 仕様

主電圧	AC 100 V - 240 V 50/60 Hz
消費電力	最大200 W
充電時間	約4時間
充電容量	HCS-5300BATバッテリー8個
LEDインジケータ	電源インジケータ、充電状態
寸法	<p>Technical drawing of the TAIDEN device showing dimensions: 288 mm (width), 300 mm (height), 418 mm (total height), 107 mm (depth), 74 mm (depth), and 62 mm (depth).</p>
重量	4.5 kg
カラー	ホワイト

6.3.2 HCS-5300CHG/06充電ユニット

充電ユニットは、DC9V、6Aの電源アダプターを使用することで、一度に最大6台のHCS-5380/5381シリーズ会議ユニットを充電することができます。



図 6.10 HCS-5300CHG/06 充電ユニット

■ 仕様

主電圧	9V、6Aアダプター
消費電力	最大50 W
充電時間	約4時間
充電容量	HCS-5380/5381シリーズ6台(HCS-5300CHG/06) HCS-5380シリーズ6台(HCS-5300CHG/06A)
LEDインジケーター	-
寸法	
重量	0.4 kg
カラー	ブラック

6.3.3 HCS-5300CHG/06A充電ユニット

充電ユニットは、DC9V、6Aの電源アダプターを使用することで、一度に最大6台のHCS-5380シリーズ会議ユニットを充電することができます。

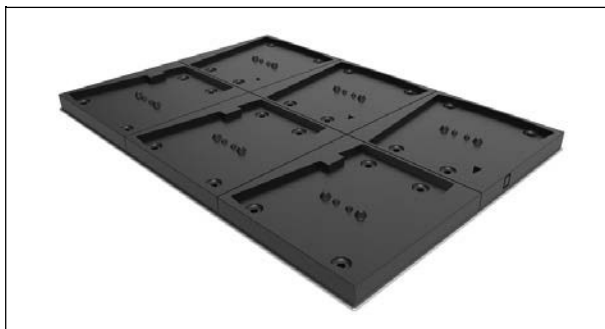


図 6.11 HCS-5300CHG/06A 充電ユニット

■ 仕様

主電圧	9V、6Aアダプター
消費電力	最大50 W
充電時間	約4時間
充電容量	HCS-5380/5381シリーズ6台(HCS-5300CHG/06) HCS-5380シリーズ6台(HCS-5300CHG/06A)
LEDインジケータ	-
寸法	
重量	0.4 kg
カラー	ブラック

6.3.4 HCS-5390CHG充電ユニット

充電ユニットは、自動電圧マッチング機能付きユニバーサル電源を使用することにより、最大2個のHCS-5300BATバッテリーと6個のHCS-5390/HCS-5391シリーズデジタル赤外線会議ユニットを一度に充電することができます。充電ユニットには充電インジケータと満充電インジケータがあり、バッテリーの状態を表示します。また、HCS-5390/HCS-5391シリーズデジタル赤外線会議ユニットは、有機EL画面とモードインジケータで充電状態を表示します（詳細は4.4.5項参照）。充電回路はバッテリーが接続されているかどうかを確認し、充電制御します。

■ 機能と表示

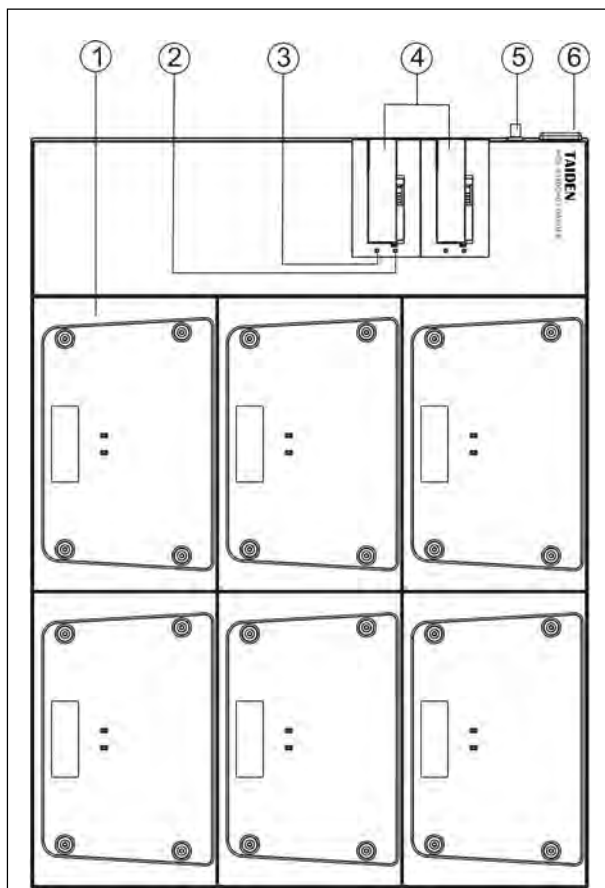


図 6.10 HCS-5390CHG 充電ユニット

図6.10:

1. 充電ユニット - HCS-5390/HCS-5391シリーズ会議ユニットを一度に6台まで充電可能
2. 充電表示灯
3. フル充電表示灯
4. 充電格子 - 最大2個のHCS-5300BATバッテリーを一度に充電可能
5. 電源入力
6. 電源スイッチ

■ 充電の手順

1. 電源コアを接続する;
2. スイッチを入れる;
3. HCS-5300BATバッテリーを挿入します。バッテリー充電インジケータが点灯し、バッテリーの状態を示します;

LEDステータス	充電状況
グリーン	フル充電
レッド	充電中
LED消灯	充電ユニットの電源オフ
緑/赤の点滅 @ 2 Hz	バッテリーが挿入されていない、充電時間 ≥ 20時間

4. HCS-5390/HCS-5391会議ユニットを充電ユニットの上に置くと、会議ユニットは有機EL画面とモードインジケータで充電状態を表示します（詳細は4.4.5項参照）。

注:

- ☞ 充電ユニットは、HCS-5300BATおよびHCS-5390 /HCS-5391会議ユニットの充電にのみ使用します。
- ☞ HCS-5390CHGで他の種類のバッテリーを充電しないでください。
- ☞ 他社の充電器でHCS-5300BATを充電しないでください。

■ 仕様

主電圧	AC 100 V - 240 V 50/60 Hz
消費電力	最大200 W
充電時間	約4時間
充電容量	6 hcs-5390/hcs-5391+ 2 hcs-5300bat
LEDインジケータ	電源インジケータ、充電状態
寸法	<p>The drawing shows a rectangular unit with a width of 622mm and a height of 455mm. The depth is 48mm. The front panel features a control panel on the left and six charging slots arranged in a 3x2 grid. Each slot contains a battery with a small display and indicator lights.</p>
重量	4.9 kg
カラー	ブラック

6.4 デジタル赤外線トランシーバー専用延長ケーブル

CBL5300専用ケーブルは、デジタル赤外線トランシーバーとデジタル赤外線ワイヤレス会議本体を接続するためのケーブルです。片端にオス6P-DINコネクタ、反対側にメス6P-DINコネクタを装備しています。長さは5m、10m、20m、30m、40m、50mがあります。



図 6.12 CBL5300 デジタル赤外線トランシーバー専用延長ケーブル

■ 仕様

HCS-5300TD/TDS/80専用延長ケーブル	
片端にオス6P-DINコネクタ1個、反対側にメス6P-DINコネクタ1個付き	
長さ	5、10、20、30、40、50メートル
直径	Ø 6 mm
カラー	ブラック

6.5 電源アダプター

● HCS-ADP15V電源アダプター

HCS-ADP15Vをデジタル赤外線ワイヤレス会議ユニットHCS-5300/80シリーズの底面にある電源アダプターインターフェースに接続します。



■ 仕様

主電圧	AC 100-240 V 50 Hz/60 Hz
出力	15 V DC、2.4 A
ケーブル長	3 m
寸法 (mm)	95 x 28 x 45
重量	0.3 kg
カラー	ブラック

● HCS-ADP24V電源アダプター

HCS-ADP24Vを5300TH/80デジタル赤外線トランスシーバーの上部にある電源アダプターインターフェースに接続します。



■ 仕様

主電圧	AC 100-240 V 50 Hz/60 Hz
出力	DC24V、1.5A
ケーブル長	3 m
寸法 (mm)	95 x 28 x 45
重量	0.3 kg
カラー	ブラック

● HCS-ADP24V2電源アダプター

HCS-ADP24V2をHCS-5300TWN/80デジタル赤外線トランスシーバーの底面にある電源アダプターインターフェースに接続します。



■ 仕様

主電圧	AC 100-240 V 50 Hz/60 Hz
出力	DC24V、1.5A
ケーブル長	3 m
寸法 (mm)	95 x 28 x 45
重量	0.3 kg
カラー	ブラック

● TES-ADP5V 電源アダプター

TES-ADP5Vをデジタル赤外線ワイヤレス会議ユニットHCS-5380の電源アダプターインターフェースに接続します。



■ 仕様

主電圧	AC 100-240 V 50 Hz/60 Hz
出力	5V、2A
ケーブル長	1 m
寸法 (mm)	39 x 27 x 43
重量	50g
カラー	ホワイト

6.6 HCS-5300TZJ2 トランシーバースタンド










HCS-5300TZJ2 トランシーバースタンドは、HCS-5300TD/80を設置するために使用され、その高さは1.1mから2.7mまで調整することができます。



■ 仕様

HCS-5300TDまたはHCS-5300TH/80の取り付けに使用します。	
最大高さ	2.7m
重量	3.9 kg
カラー	ブラック

6.7 MS**E型およびMS5*型ステムマイクロホン

タイプ	MSxxEGF1	MS33EGFSB	MSxxEGA1	MSxxEGB1	MSxxEGE1S	MSxxEGG1B	MSxxEGF2B	MSxxEHA1B	MSG-xxB
写真									
長さ (cm)	33/41/47	33	33/41/47	33/41/47	41	33/41/47	50/60/70	33/41	33/41/47
カラー	シャンパン /ブラック	ブラック	シルバーブラック	シャンパン /ブラック	シャンパン	ブラック	ブラック	ブラック	ブラック
ウィンドスクリーン	MIC-CAPM (ロック可能)	MIC-CAPM (ロック可能)	-	-	-	ロック可能 ウィンドスクリーン	MIC-CAPM (ロック可能)	MIC-CAPH_B	ウィンドスクリーン付き
インジケータ	バイカラー照明リング								
マイクタイプ	単一指向性エレクトレットコンデンサー							14 mm 単一指向性エレクトレット コンデンサー	Ø16 mm ハイパーカー ディオイド単一指向性 エレクトレットコンデ ンサー
感度	-46 dB (0dB=1V/Pa)							-37 dB (0dB=1V/Pa)	-37dB (0dB=1V/Pa)
周波数応答	50 Hz~20 kHz							20 Hz~20 kHz	
指向性	≥20 dB以上 (1 kHz, 0°/180°)							0°/120° : ≥28 dB (@1kHz) ≥28 dB (@2kHz) ≥28 dB (@4kHz)	
等価雑音	20 dBA							20 dBA	
最大 SPL	125 dB@1kHz、THD<3%)							139dB@1kHz、 (THD<3%)	132dB@1kHz、 THD≤ 0.5%

6.8 イヤホン

イヤホンはφ3.5mmステレोजackで会議ユニットに接続します。適合するイヤホンのタイプは以下の通りです:

● EP-820AS 片耳イヤホン



■ 仕様

受信機/会議ユニットと併用	
Hi-Fi 音質	
Ø 3.5 mmステレオプラグ	
32Ω (チップ&スリーブ、リング: NC)	
周波数特性	50 Hz~20 kHz
感度	≥102 dBA/1 mW以上
重量	20g

● EP-829 シングル・イヤホン



■ 仕様

受信機/会議ユニットと併用	
Hi-Fi 音質	
Ø 3.5 mmステレオプラグ	
32Ω (チップ&スリーブ、リング: NC)	
周波数特性	20 Hz~20 kHz
感度	≥108dBA/1mW
重量	35 g

● EP-830 片耳イヤホン



■ 仕様

受信機/会議ユニットと併用	
Hi-Fi 音質	
Ø 3.5 mmステレオプラグ (TRS)	
取り外し可能なシェル、ケーブル、イヤホンで構成。 シェルは取り外して別途クリーニングが可能です。 ケーブルは断線した場合、お客様にて別途交換が可能です。	
32オーム (チップとスリーブ、リング: NC)	
周波数特性	20 Hz~20 kHz
感度	≥108dBA/1mW
重量	25g

● HCS-5100PAヘッドホン



■ 仕様

受信機/会議ユニットと併用	
Hi-Fi 音質	
32Ω×2、φ3.5mmステレोजャック	
周波数特性	20 Hz～20 kHz
感度	≥108dB/1mW
重量	70 g

● EP-960BH ヘッドフォン



■ 仕様

受信機/会議ユニットと併用	
Hi-Fi 音質	
150Ω×2、φ3.5mmステレोजャック	
周波数特性	20 Hz～20 kHz
感度	≥108dB/1mW
片面ワイヤー	
重量	70 g

第7章 故障診断

この章ではいくつかの簡単なトラブルシューティングについて説明します。より深刻な故障が発生した場合は、資格のある技術者にご相談ください。

7.1 デジタル赤外線ワイヤレス会議ユニット

故障	分析	ソリューション
起動できない。	バッテリーが充電されていない（リチウムイオンバッテリー使用時）	工場出荷時にはバッテリーは充電されていませんので、ご使用前にフル充電してください。
	電源が接続されていない（電源アダプター使用時）。	電源を正しく接続し、DCソケットを確認してください。
スピーカーやイヤホンから音声が出力ない。	音量調整が不適切。	ボリュームを適切に調整する。
	イヤホンが正しくプラグインされていない。	イヤホンをしっかりと押し込んでください。
喋ることができない。	トランシーバー動作表示灯が消灯している。	トランシーバーとメインユニットを接続するI/Oケーブルを確認してください。
MIC.ON/OFFボタンが操作できない。	赤外線トランシーバーが日光の真下にある。	直射日光が当たらない場所に設置する。 スポットライトを浴びる。
	トランシーバーと会議ユニットの間に障害物がある。 トランシーバーのタイプと設置位置の高さが対応していない。 会議ユニットが通話エリア内でない。 (電源ランプとマイクアクティブランプが同時に点滅している場合は、会議ユニットがカバーエリア外にあることを示します。)	高さに応じて適切なトランシーバータイプを選択し、直視を妨げないように取り付ける。
	トランシーバーとメインユニットが接続されていない。	ケーブルを接続する。
	優先モードに設定されている。	優先モードが終了してから、このボタンを操作してください。
バッテリーの持続時間が短い。	フル充電されていない。	6時間の充電でフル充電が可能です。
	電池寿命（HCS-5300/80 & HCS-5390シリーズ）。	新しい電池（一式）を使用してください。 注: 新しいバッテリーは、約300回充電することができます。
	トランシーバーの設置不良	TAIDENサービスセンターまでご連絡ください。

7.2 デジタル赤外線ワイヤレスメインユニット

故障	分析	ソリューション
起動できない。	電源、または電源コードが接続されていない。	電源と電源コードを接続する。

7.3 充電ユニット

故障	分析	ソリューション
電源を入れても電源ランプが点灯しない。	電源コードがコンセントに差し込まれていない。	電源コードをコンセントに差し込み、充電器に電源を供給する。
	ヒューズが飛んでいる。	ヒューズを交換する。 お近くのTAIDENサービスセンターにお問い合わせください。
バッテリーが充電されているにもかかわらず、充電ラティスの充電指示ランプが点灯しない。	バッテリーが正しく接続されていない。	充電ラティスに正しく電源を接続する。
	充電接点に埃が付着している。	乾いた綿棒で充電接点を清掃してください。
バッテリーの稼働時間が短い。	リチウムイオンバッテリーが劣化している。	新しいリチウムイオンバッテリーHCS-5300BATに交換してください。

付録

表示言語リスト

中国語	英語	略称		中国語	英語	略称	
原声	Floor	FLO	---	吉尔吉斯语	Kirghiz	KIR	KY
阿尔巴尼亚	Albanian	SQI	SQ	老挝语	Lao	LAO	LO
阿拉伯语	Arabic	ARA	AR	蒙古语	Mongolian	MON	MN
保加利亚语	Bulgarian	BUL	BG	尼泊尔语	Nepali	NEP	NE
加泰罗尼亚	Catalan	CAT	CA	塔吉克语	Tajik	TGK	TG
汉语	Chinese	ZHO	ZH	泰语	Thai	THA	TH
捷克语	Czech	CES	CS	藏语	Tibetan	BOD	BO
丹麦语	Danish	DAN	DA	土库曼斯坦	Turkmen	TUK	TK
荷兰语	Dutch	NLD	NL	乌克兰语	Ukrainian	UKR	UK
英语	English	ENG	EN	越南语	Vietnamese	VIE	VI
芬兰语	Finnish	FIN	FI	粤语	Yue Chinese	YUE	---
法语	French	FRA	FR	克罗地亚语	Croatian	HRV	HR
德语	German	DEU	DE	斯洛伐克语	Slovak	SLK	SK
希腊语	Greek	ELL	EL	斯洛文尼亚	Slovenian	SLV	SL
希伯来语	Hebrew	HEB	HE	爱沙尼亚语	Estonian	EST	ET
匈牙利语	Hungarian	HUN	HU	拉脱维亚语	Latvian	LAV	LV
印度尼西亚	Indonesian	IND	ID	立陶宛语	Lithuanian	LIT	LT
意大利语	Italian	ITA	IT	乔治亚语	Georgian	GEO	GE
日语	Japanese	JPN	JA	冰岛语	Icelandic	ISL	IS
韩语	Korean	KOR	KO	音乐	Music	MUS	---
马来语	Malay	MSA	MS	未知语种	Unknown	---	---
挪威语	Norwegian	NOR	NO	阿萨姆语	Assamese	ASM	AS
波斯语	Persian	FAS	FA	巴斯克语	Basque	EUS	EU
波兰语	Polish	POL	PL	达里语	Dari	PRS	---
葡萄牙语	Portuguese	POR	PT	宗卡语	Dzongkha	DZO	DZ
罗马尼亚语	Romanian	RON	RO	菲律宾语	Filipino	FIL	---
俄语	Russian	RUS	RU	加利西亚语	Galician	GLG	GL
塞尔维亚语	Serbian	SRP	SR	古吉特语	Gujarati	GUJ	GU
西班牙语	Spanish	SPA	ES	夏威夷语	Hawaiian	HAW	---
瑞典语	Swedish	SWE	SV	坎那达语	Kannada	KAN	KN
土耳其语	Turkish	TUR	TR	克什米尔语	Kashmiri	KAS	KS
亚美利亚语	Armenian	HYE	HY	柬埔寨语	Central Khmer	KHM	---
阿塞拜疆语	Azerbaijani	AZE	AZ	库尔德语	Kurdish	KUR	KU
巴厘语	Balinese	BAN	---	马拉雅拉姆	Malayalam	MAL	ML
孟加拉国语	Bengali	BEN	BN	马拉地语	Marathi	MAR	MR
缅甸语	Burmese	MYA	MY	摩尔多瓦语	Moldovan	MLD	---
白俄罗斯语	Belarusian	BEL	BE	恩德贝勒语	North Ndebele	NDE	---
科西嘉语	Corsican	COS	CO	奥里亚语	Oriya	ORI	OR
爱尔兰语	Irish	GLE	GA	旁遮普语	Panjabi	PAN	PA
哈萨克语	Kazakh	KAZ	KK	罗曼什语	Romansh	ROH	---

中国語	英語	略称		中国語	英語	略称	
梵文	Sanskrit	SAN	SA	祖鲁语	Zulu	ZUL	ZU
信德语	Sindhi	SND	SD	壮族语	Zhuang	ZHA	ZA
僧加罗语	Sinhala	SIN	SI	傣族语	Dai	DIJ	---
梭托语	Southern Sotho	SOT	ST	维吾尔语	Uighur	UIG	UG
斯瓦西里语	Swahili	SWA	SW	文莱语	Brunei	KXD	---
泰米尔语	Tamil	TAM	TA	新加坡	Singapore	SLS	---
泰卢固语	Telugu	TEL	TE	印度语	Hindi	HIN	HI
茨瓦纳语	Tswana	TSN	TN	马其他语	Maltese	MLT	MT
乌尔都语	Urdu	URD	UR	乌兹别克语	Uzbek	UZB	UZ
威尔士语	Welsh	CYM	CY	乔治亚语	Georgian	KAT	KA
班图语	Bantu	BNT	---				

専用6ピン延長ケーブル

ケース1：S-UTPケーブルと6PINプラグ/ソケットのはんだ付け

1.(S-UTP)コア4×2×(7×0.203)、96分岐インターテックスチャージャー付き



2.6P DINオスカップ



3. 6P DINメスソケット (絶縁リング)

フロントビュー

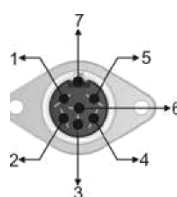


背面図

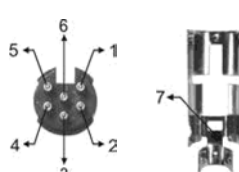


4. ハンダ付け

ソケット (背面図)



プラグ (背面図)



5. 専用6P DINプラグ/ソケットと(S-UTP)ケーブルのコア間のはんだ付け

プラグ/ソケット	対応 (S-UTP) コア
1	青/白
2	茶/白
3	茶
4	緑、緑/白
5	オレンジ、オレンジ/白
6	青
7	96枝 (16束) 織り

ケース2：S-UTP延長ケーブルのジョイント

1. 両方のケーブル・シースの絶縁被覆を 30 mm 剥く；
2. ワイヤーを広げ、編んだシールドをねじって束にし、不要な紙とマイヤー紙を切り取る；



3. 8本の電線の絶縁被覆を2mm剥き、撚り線と編組シールドに適切な予備錫メッキを施す；
4. 下図のように熱収縮チューブをあらかじめ組み立て、T2.0熱収縮チューブを8本のワイヤーにかぶせる、T4.0熱収縮チューブを編組シールドにかぶせ、T11.0熱収縮チューブをケーブル・シースにかぶせる；
5. 同じ色のワイヤーをはんだ付けする (8x)；
編組はんだ付けする；



6. 8本の電線と編組シールドのはんだ接合部を熱収縮チューブで覆い、電動熱風ブローアで収縮させる；




7. 8本の電線、編組シールド、ケースシースを覆っている熱収縮チューブを電動熱風ブローアで収縮させる。



Case 3: 6PIN cable to RJ45 connector

RJ45 Connector (Snap face down)	Connect the RJ45 connector and 6 PIN cable according to wire color
6	Blue + White
2	Brown + White
1	Brown
3	Blue

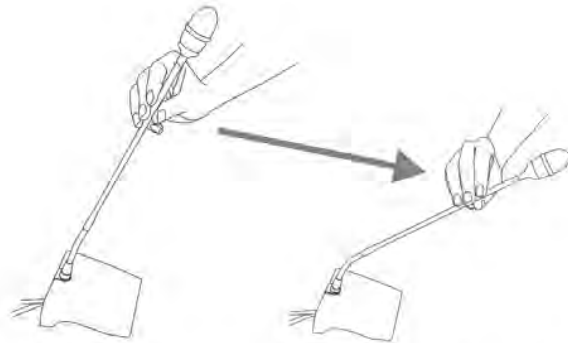
	<p>Blue + White → Blue →</p> <p>Green + White → Green →</p> <p>Brown + White → Brown →</p> <p>Orange + White → Orange →</p>	<p>Mylar paper</p> <p>Aluminium-foil paper</p> <p>96-branch (16bundles) intertexture net is divided into 2 groups: 78 branches (13 bundles) and 18 branches (3 bundles)</p>
---	---	---

Microphone Stem Precautions

1. Adjusting stem microphone angle



The stem microphone relies on a semi-rigid part to adjust the angle. The straight part should not be bent forcibly



Squeeze the straight part with one hand and adjust the microphone pole to the right angle. In order to ensure the service life of the stem microphone, it is recommended that the bending angle does not exceed 90 degrees.

2. Removal of the stem microphone



Unscrew the spiral component at the root of the microphone stem

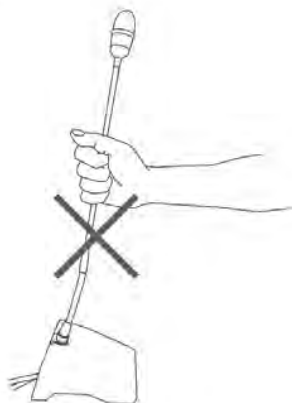


Squeeze the root of the microphone stick to pull out the microphone stick



Do not hold the microphone stem and pull it upward.

3. Mobile conference units



Do not hold the microphone stem to move the conference unit.



Please move the conference unit by holding the unit base

<http://www.taiden.com>

最終改訂日: 02/2025

Copyright© 2008-2025 タイデン工業.All Rights Reserved.